# 香淳皇后実録 巻十一

昭和五十五年(西暦一九八〇年) 七十七歳

#### — 月

の祝賀を天皇と共にお受けになる。 徳仁親王・文仁親王・清子内親王、 交使節団の長等の祝賀を順次お受けになる。なお、新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、 仁親王・容子内親王、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等及び各国外 妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・宜 日 火曜日 午前九時四十五分より、天皇と共に宮殿において新年祝賀の儀に臨まれ、皇太子・同 ○女官長日記、女官日誌、 元皇族・御縁故者等、 侍従日誌、 宮内庁長官始め部局長等及び側近奉仕者等 · 侍従職日誌、 内舎人日誌、 典式録、儀式録、宮

新年を迎えるに当たり、宮内庁より皇后の御様子について、 もないようにお見受けされること、宮殿には週に二、三日お出ましになっていること、 腰の具合の経過は順調であり、 腰痛が再発し 脚の痛み

殿行事録、東宮録、年末年始綴、宮内庁庁報、

官報

ないように引き続きコルセットを着用されていることなどが発表される。 ○年末年始綴、サンケイ、東京新聞

日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

二日 う。 午後五回の計八回 ○女官長日記、 水曜日 新年一般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃、 女官日誌、 長和殿ベランダにお出ましになり、 侍従日誌、 内舎人日誌、 典式録、 宮殿行事録、 宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜 年末年始綴、 正仁親王・ 東宮録、 同妃華子と共に、 宮内庁庁報、 官報、 午前三 ト部亮吾 回

三日 木曜日 午前、 元始祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 ○女官長日記、 女官日 誌 典式 録、 恒

例祭祀録、祭典録、年末年始綴、宮内庁庁報

侍従日記

午後、 天皇と共に吹上御所において、 この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。 ○女官長日記、 女

官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、贈賜録

七日 に続いてお言葉を賜う。 者代表・入賞校校長等の拝謁をお受けになる。 月曜日 午前、 天皇と共に宮殿北溜において、第二十三回日本学生科学賞会主催、読売新聞社後援 ○女官長日記、女官日誌、 侍従日誌、 読売新聞社副社長原四郎の挨拶をお受けになり、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 典式録、 拝謁録、 宮殿行事 天皇 入賞

表綴、

宮内庁庁報、

読売新聞

新年につき、午後、 をお受けになる。 国駐箚特命全権大使西宮信安及び同夫人、オーストリア国駐箚特命全権大使山戸徹及び同夫人の拝謁 天皇と共に正殿竹の間におい 女官長日記、 天皇と共に鳳凰の間において元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀を、 て、 女官日誌、 近く赴任のタイ国駐箚特命全権大使小木曽本雄及び同夫人、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 拝謁録、 宮殿行事録、 宮内庁庁報  $\vdash$ . ル コ

学友・御同級生七名の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、 ついで宮殿御車寄内において元女嬬等の祝賀をお受けになる。 その後お一方にて、 侍従職日誌、 花の間において御 内舎人日誌

宮殿行事録

八日 火曜日 腰痛のため、 午後より御仮床に就かれる。 以後、二月七日まで吹上御所におい

養になり、行事への御臨席等はお控えになる。○女官長日記、女官日誌

九日 水曜日 午前、 吹上御所において、皇后のお見舞いのために参殿した島津貴子・同子息禎久と

御対面になる。〇女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、入江相政日記

木曜日 午前、 歌会始の儀にお出ましにならず、 御歌をお寄せになる。 この年のお題は 桜

であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

ふだんざくらおほしまざくらも咲きそめて光あまねきけふのみそのふ

○女官長日記、女官日誌、 儀式録、宮殿行事録、 年末年始綴、宮内庁庁報、 官報、 ト部<br />
亮<br />
吾<br />
侍<br />
従<br />
日<br />
記、 昭和

この の際に痛みがあるため御仮床に就かれていること、 期になることが発表される。この腰痛に関して、今月八日の御起床時に腰部をひねり、 親王・清子内親王と御対面になる。 十一日 皇太子一家と御対面・御会食になる。 宮内庁より、 金曜日 吹上御所において、天皇との御夕餐御会食を終えた皇太子・同妃・徳仁親王・文仁 来る十七日から予定されていた須崎御用邸 以後、この年は概ね毎週金曜日に行われた定例の参殿を始め、 女官長日記、 侍医によればこの痛みは昭和五十二年に発症され 女官日誌、 侍従日誌、 への行啓が、 侍従職日誌、 皇后の 内舎人日誌、 腰痛のため御延 起居の御動作 随

た腰痛とは関係がなく、しばらく安静にされれば緩解する見込みであることなどが併せて発表される。

○侍従日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、皇族雑録、皇太后陛下御健康

なる。 吹上御所にて行われた御会食を始め、 十二日 また正仁親王・同妃よりお見舞いとして生花等が贈られる。 土曜日 吹上御所において、天皇との御夕餐御会食を終えた正仁親王・同妃華子と御対面に 随時、 正仁親王・同妃と御対面・御会食になる。 以後、 この年は、 月一、二回程度 ○女官長日記、

この日秩父宮家・高松宮家・三笠宮家より、 お見舞いとして花束が贈られる。 ○女官長日記、女官日誌、 吹

上御所殿部日誌、

吹上御所仕人日誌

官日誌、

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌

吹上御所において、 皇后より同妃へ花束・菓子を御贈進になる。 式部副長和智一夫を同空港に差し遣わされ、 太子ワチラロンコーンがこの日新東京国際空港にお立ち寄りになるにつき、天皇・皇后が御使として 金曜日 天皇との御夕餐御会食を終えた故雍仁親王妃勢津子、 夕刻、 病気治療のためタイ国より渡米する同国王妃シリキット及び付添の同 御快癒を願う旨のお言葉を伝達させられる。またその際 ○女官長日記、 外交雑録、 贈賜録、 入江相政日記 宣仁親王・同妃喜久子、崇 国皇

○女官長日記、 仁親王・同妃百合子と御対面になる。 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 以後、 内舎人日誌 この年も皇族・御親族と随時、 御対面・御会食になる。

#### 二月

四日 月曜日 宣仁親王・ 同妃喜久子がこの日結婚満五十年昭和五年二を迎えるに当たり、 天皇 皇后よ

お祝 いの品を御贈進になる。 また、 宣仁親王・同妃から天皇・皇后に記念の品が贈られる。 ○女官長

日記、

女官日誌、

贈賜録、

皇族雑録、

入江相政日記

女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、

内舎人供奉日誌、

幸啓録、

須崎御用邸行幸啓録、

入江相政日記

八日 金曜日 天皇と共に、 午後一 時十三分御出門になり、 兀 時 五十分須崎御用邸に行啓される。 0

十五日 れる。 ○女官長日記、 金曜日 天皇と共に、 女官日誌、 侍従日誌、 午後零時三十五分須崎御用邸を御出門になり、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 須崎御用邸行幸啓録、 四時二分皇居に還啓さ 宮内庁庁

芙 夫人を順次御引見になる。 ソト・モンテネグロ及び同夫人、 二十日 徳仁親王・文仁親王・清子内親王、 参殿の五方に御紋付銀製ボンボニエール岩梅撫を賜う。 宣仁親王・同妃及び故雍仁親王妃勢津子、崇仁親王・同妃百合子と御夕餐を御会食になる。 十九日 ルを賜う。 鷹司和子、 火曜日 水曜日 女官長日記、 島津久永・同夫人貴子に、二十五日には池田隆政・ 午後、 天皇と共に吹上御所において、宣仁親王・同妃喜久子結婚満五十年の内宴を催され 女官日誌、 正殿梅の間において、 ○女官長日記、 侍従日誌、 インド国特命全権大使ヴィシュヌ・カリアンダス・アフジャ及び同 正仁親王・同妃華子、 女官日誌、 侍従職日誌、 新任のグアテマラ国特命全権大使ホアキン・ダリオ・ 侍従日誌、 内舎人日誌 また翌二十日には天皇・皇后が皇太子・同妃 侍従職日誌、 寬仁親王・宜仁親王・容子内親王・憲仁親 贈賜録、 同夫人厚子にそれぞれボンボ 内舎人日誌、 昭和天皇最後の侍従日記、 謁見録、 宮殿行事録、 ボンボニエール その際 宮内庁庁

妃に謝恩の辞を述べた後、 臨まれる。 二十三日 0 加冠が行われた後、 午前、 土曜日 天皇と共に春秋の間において、 天皇と共に宮殿において、この日満二十歳の誕生日を迎えた徳仁親王の成年式に 天皇と共に同親王から謝恩の辞をお受けになる。 天皇と共に御退出になる。 徳仁親王成年式加冠の儀皇太子・に臨 ついで同親王が皇太子・ まれ る 同 親 同 王

恩の 午後、 同所にお出ましになり、 共に鳳凰の間において、 けになる。 辞をお受けになり、 天皇と共に正殿松の間において、 続いて天皇・皇后が御台盤に御箸をお立てになり、 皇太子・同妃・徳仁親王天経章を授与されるのお礼言上をお受けになる。 これに対しお言葉を賜う。 宮内庁長官始め総代の祝賀をお受けになる。 徳仁親王成年式朝見の儀に臨まれる。 ついで天皇・皇后が御盃を同親王にそれぞれ 同親王がこれに倣う。 一旦入御の後、 式中、 天皇と共に再び 終わって天皇と 徳仁親王 カコ お授 ?ら謝

徳仁親王殿下御成年式、 ぞれ贈られる。 万那料・金員を御贈進になる。 徳仁親王成年に当たり、 女官長日記、 重要雑録、 天皇・皇后より皇太子・同妃に鮮鯛代料を、 贈賜録、 女官日誌、 また天皇・皇后に皇太子・同妃より鮮鯛が、 卜部亮吾侍従日記 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 徳仁親王殿下成年式録、 徳仁親王に白羽二重・ 徳仁親王より鮮鯛がそれ 徳仁親王成年式関係 洋服 地

寺・善光寺に、 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・ 恒例により乾海苔料を賜う。 光照院 · 林丘寺 ○贈賜録 霊鑑 寺 円照 寺 • 中宮寺 • 法華寺 ・三時 知恩寺 長福

天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王と共に正殿梅の間において、 二十五日 月曜日 夕刻、 天皇と共に宮殿において、 徳仁親王成年式祝宴の晩餐県太子・に 正仁親王・同妃華子、 故雍仁親王妃勢 臨 ま れ る。

歓談の後、 祝詞言上をお受けになる。続いて連翠に移られ御会食になる。 女官長日記、 宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・寬仁親王・容子内親王、 徳仁親王成年式関係、 吹上御所に還御される。 女官日誌、 侍従日誌、 徳仁親王殿下御成年式、 侍従職日誌、 また、皇太子・同妃より天皇・皇后にボンボニエ 内舎人日誌、 東宮録、 宮内庁庁報、 吹上御所殿部日誌、 お食事を終えられ石橋の間において御 ボンボニエール 吹上御所仕人日誌 元皇族・御親族より 1 勤務日誌、 ル等が贈られ

## 三月

三日 女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、 キシコ国特命全権大使フランシスコ・ハビエル・アレホ・ロペス及び同夫人を順次御引見になる。 月曜日 午後、 正殿梅の間において、 内舎人日誌、 新任のセネガル国特命全権大使メドゥーヌ・ファル、 謁見録、 宮殿行事録、宮内庁庁報 メ

四日 記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、 及び同夫人、 火曜日 ナイジェリア国駐箚特命全権大使和智一夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 内舎人日誌、拝謁録、 宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記 近く赴任の米国駐箚特命全権大使大河原良雄 女官長日

五日 本赤十字社病院 日 水曜日 来る六日に満七十七歳のお誕生日を迎えられるに当たり、この日、 恩賜財団済生会病院救助収容患者に、合わせて手拭い七千本を賜う。 思召しをもって日 ○贈賜録

八日 木曜日 満七十七歳のお誕生日を迎えられる。

午前、 芳菊の間において宮内庁長官始め各部局長等、 続いて側近奉仕者の祝賀をお受けになる。 つい

縁故者 祝賀をお受けになる。 正殿梅の間において、 有島暁子、 元女官・元皇太后宮女官等の祝賀を、 いて宮内庁職員・皇宮警察本部職員の祝賀を、芳菊の間において元側近奉仕者、続いて元皇后宮女官 で花の間において、 の祝賀をお受けになる。 続いて御学友・ 参与宇佐美毅·森永貞一郎、 内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等及びその配偶者の 御同級生七名、 その後、 御車寄内において元女嬬等の祝賀を、 女官候所前廊下において女嬬・雑仕の祝賀を、 東久邇文子始め御親族の祝賀を順次お受けになる。 続いて皇太子・同妃始め皇族、 花の間において元御用掛 元皇族・ 御 車寄前 元王族、 正午、 にお 御

おい 生日綴、 贈られる。 会食になる。 午 崇仁親王・同妃百合子・宜仁親王・容子内親王、 て、 宮内庁庁報、 吹上御所において文仁親王・ 皇太子・ ○女官長日記、 なお、 入江相政日記 同 喜寿に当たり、 妃・徳仁親王、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従長始め側近奉仕者、 正仁親王・同妃華子、 清子内親王の祝賀をお受けになる。 侍従職日誌、 内舎人日誌、 鷹司和子、 故雍仁親王妃勢津子、 並びに宮内記者会会員よりお祝 典式録、 島津久永・同夫人貴子と御晩餐を御 儀式録、 夕刻、 宮殿行事録、 天皇と共に吹上 宣仁親王・ 東宮録、 同妃喜久 内廷皇族 0 品 所

などが発表される。 成長を嬉しくお思いであること、 お誕生日に当たり、 絵はスケッチのような簡単なも 宮内庁より皇后の御様子について、 〇内廷皇族誕生日綴、 腰の具合は良くなりつつあるが長時間座っていることができないた Ŏ 朝日新聞、 のみお描きになっていること、 サンケイ、 東京新聞、 去る二月に成年式を行った徳仁親王の立 日本経済新聞、 膝の具合は十年来良くないこと 毎日新聞、 読売新聞 一派な

七日

金曜日

天皇と共に吹上御所において、

皇太子・

· 同 妃

徳仁親王・文仁親王・清子内親王と御

夕餐を御会食になる。その際、 成年式後初参内した徳仁親王に天皇・皇后よりお品・万那料を御贈進

八日 になる。 土曜日 ○女官長日記、 祐子内親王の祥月命日及び故恒久王妃昌子内親王四十年式年祭につき、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 東宮録 吹上御所にて

静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、典式録、贈賜録、旧皇族録

十二日 ○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、 水曜日 天皇と共に、午後一時十二分御出門になり、 四時四十八分須崎御用邸に行啓される。 発表綴、宮内庁庁

十九日 十三日 日誌、 ばしば天皇と共に御用邸敷地内及びその周辺を御調査になる。 須崎御用邸行幸啓録 木曜日 水曜日 午前、 天皇と共に、 天皇と共に展望台道付近において植物を御調査になる。 午後零時三十五分須崎御用邸を御出門になり、 女官長日記、 女官日誌、 四時二分皇居に還啓さ 御用邸御 侍従日誌、 滞 内舎人供奉

れる。なお、この行啓において御覧になった水仙を題材として、 水仙のかをりゆたかにただよひて海辺の丘ははやも春めく この年、 次の御歌をお詠みになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 須崎御用邸行幸啓録、 年末年始行事、

表綴、宮内庁庁報

二十日 記、女官日誌、典式録、 木曜 Ħ 午前、 恒例祭祀録、 春季皇霊祭及び同神殿祭につき、 祭典録、 宮内庁庁報 吹上御所において御遙拝になる。 ○女官長日

二十一日 金曜日 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 パ ナマ国駐箚特命全権大使石井亨より同

国についての進講をお聴きになる。 女官長日記、女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 進講録、 宮殿行事

宮内庁庁報

問する崇仁親王ロルムロ含チも同行と御対面になる。 天皇と共に鳳凰の間において、 来る二十四日より四月十三日まで英国及びヨルダン国・シリア国を訪 ついで天皇と共に同所において、 随員長門保明報書

拝謁をお受けになる。〇女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、 宮内庁庁報

ヨ・サンチェス及び同夫人アデラ・マリア・ルイスと御会見になる。 月曜日 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 国賓パナマ国大統領アリスティデス・ その際、 相互儀礼叙勲があり、

天皇・皇后より大統領に九谷焼飾皿様、皿立て付きを、 皇后にラ・オルデン・デ・マヌエル・アマドール・ゲレロ大綬章が贈られる。 大統領夫人に七宝宝石箱県地緑井 またこの来訪に際し、 贈進になる。

大統領夫人から皇后にも御贈進の品があり、 皇后へはパステル画跡からの出土品ウアカを描く等 が贈られる。

なお大統領夫妻の入京に際し、 皇后より夫人に花束を御贈進になる。 ○女官長日記、 女官日誌、 侍従日誌、

従職日誌、 内舎人日誌、 幸啓録、 接待書類、 外賓参内録、 外交贈答録、 宮殿行事録、 恩賜録、 官報、 朝日新聞、 読売新聞

と共にヨルダン国・シリア国を訪問する同妃百合子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、 金曜日 午前、 吹上御所において、 来る四月一日から十三日まで崇仁親王出発、四月一日より合流 侍従日誌、 一日より合流

従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報、入江相政日記

トル 日 月曜日 コ国特命全権大使ナジフ・ジュフルク及び同夫人を順次御引見になる。 午後、 正 殿梅の間において、 新任のアルジェリア国特命全権大使 ムラド 〇女官長日記、

誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁帮

# 四月

三日 \_ ヌ・ド 人を順次御引見になる。 侍従職日誌 木曜日 水曜日 ラ・ 内舎人日誌、 午前、 シュヴァルリー及び同夫人、 午後、 神武天皇祭につき、 正殿梅の間において、 ○女官長日記、女官日誌、 典式録、 恒例祭祀録、 祭典録、 吹上御所において御遙拝になる。 侍従日誌、 イタリア国特命全権大使ボリス・ビアンケーリ及び 新任のフランス国特命全権大使グザヴィエ・ 宮内庁庁報 侍従職日誌、 内舎人日誌、 謁見録、宮殿行事録、 ○女官長日記、 女官日誌、 ドーフレー 宮内庁庁報 同夫

六日 者一 四日 紋付銀製スプーンを賜う。 る。 卒業生によるピアノ独奏、 でホー よる演奏会に御臨席になる。 ソプラノ独唱をお聴きになる。 独 同 唱 終わって御休所脇廊下において、 金曜日 日 0 ルに進まれ御着席になる。 曜日 お見送りを受け楽部玄関を御発、 桐朋学園大学卒業生によるヴァイオリン独奏をお聴きになる。 午後、 この日 「バザ 桃華楽堂にお出ましになり、 ○女官長日記、女官日誌、 東京芸術大学卒業生によるコントラバス独奏、 楽部玄関に御着後、 を開催する常磐会へ切り花を賜う。 故雍仁親王妃勢津子・容子内親王のほか、 東京芸術大学卒業生による筝曲、 各大学の学長・ 吹上御所に還御される。 侍従職日誌、 宮務課長の先導により御休所にお入りになり、 昭和五· 担当教員等の拝謁をお受けになる。 内舎人日誌、 十四年度東京都下五校の音楽大学卒業生に 女官長日記、 音楽大学卒業生演奏会、 なお、 国立音楽大学卒業生によるテノー 御少憩の後、 この日 元皇族· 上野学園大学卒業生による 0 出演者十 御縁故者が陪聴す 恩賜録、 武蔵野音楽大学 ついで出演 一名に御

八日 石川賢治及び同夫人の拝謁をお受けになる。 敏夫及び同夫人、 火曜日 午前、 ガーナ国駐箚特命全権大使檜垣正忠及び同夫人、 天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のエジプト国駐箚特命全権大使山崎 ○女官長日記、 女官日誌、侍従日誌、 ホ ンジ 侍従職日誌、 ュラス国 内舎人日誌、 [駐箚特命全権大使

宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

十日

木曜日

午前、

天皇と共に正殿竹の間におい

て、

スウェー

デン国駐箚特命全権大使滝川

正久よ

り同国に関する進講をお聴きになる。 宮内庁庁報 ○女官長日記、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、

午後、 職日誌、 特命全権大使クレオン・ 内舎人日誌、 正殿梅の 間において、 謁見録、 宮殿行事録、 G カトサンビス及び同夫人を順次御引見になる。 新任のザイー 宮内庁庁報 ル国特命全権大使ロンボ・ 口 • マン ○女官長日記、 ガマンガ、 女官日誌、 ギリシ 、 ヤ 国

内庁庁報 問 十四日 より帰国した崇仁親王・同妃と御対面になる。 月曜日 午後、 天皇と共に吹上御所において、 ○女官長日記、 昨十三日に英国及びヨルダン国 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 シリア国 訪

なお、 それぞれ御贈進になる。 天皇・皇后より国王・王妃に御贈進の と御会見になる。 天皇と共に正殿竹の間において、 国王・王妃の入京に際し、 その際、 国王・王妃からは天皇・ 相互儀礼叙勲があり、 国賓スウェーデン国国王カール十六世グスタフ及び王妃シルヴィア 皇后より王妃に花束を御贈進になる。○女官長日記、 品があり、 皇后にセラファン勲章が贈られる。この来訪に際し、 皇后に花卉文ガラス鉢バウエルデザイン 国王に七宝花瓶輔地を、 王妃に佐賀錦ハンドバッグを 女官日誌、 · 等 が 贈られる。

侍従職日誌、 内舎人日誌、 幸啓録、 接待書類、 外賓参内録、 外交贈答録、 宮殿行事録、 恩賜録、 宮内庁庁報、

十五日 火曜日 夕刻、 天皇と共に吹上御所において、 新任の侍医星川光正 の拝謁をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

この日、 入京に際し、 メキシコ国大統領夫人カルメン・ロマノ・デ・ロペス・ポルティーリョ来日ニロサムス式に来訪に 皇后より夫人に花束を御贈進になる。 後日、 夫人より天皇・皇后に礼電が寄せら

れる。〇外交贈答録

総裁から表彰された者の拝謁をお受けになるのは、 の拝謁をお受けになる。 内舎人日誌、 水曜日 拝謁録、 午後、 宮殿行事録、 代表の玉野市長杉本通雄の挨拶をお受けになり、 宮殿北溜において、 宮内庁庁報 財団法人結核予防会総裁表彰の市町村代表者等五十三名 この年が最後となる。 ○女官長日記、 お言葉を賜う。 女官日誌、 なお、 同会

命全権大使高橋展子の拝謁をお受けになる。 鈴木干夫及び同夫人、 金曜日 午前、 オーストラリア国駐箚特命全権大使黒田瑞夫及び同夫人、 天皇と共に正殿竹の間において、 ○女官長日記、 女官日誌、 近く赴任のパキスタン国駐箚特命全権大使 侍従日誌、 侍従職日誌、 デンマーク国駐箚特 内舎人日誌、

宮殿行事録、

宮内庁庁報

される。 寬仁親王の婚姻に関する件について、 ついてのお礼をお受けになる。 これを受け午後、 天皇と共に吹上御所において寬仁親王と御対面になり、 ○女官長日記、 皇室会議が開催され、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 同親王と麻生信子青の息女との 内舎人日誌、 皇室会議録、 同親王より婚姻に 婚 宮内庁庁報 姻 が 可 決

夕刻、 天皇と共に吹上御所において、 この日誕生日を迎えた清子内親王と御対面になる。 女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、宮内庁庁報

十九日 拶をお受けになり、 の愛育班員及び愛育班育成功労者等二十九名の拝謁をお受けになる。 土曜日 午前、 お言葉を賜う。 宮殿北溜において、 女官長日記、 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会総裁表彰又は会長表彰 女官日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 代表の飯田川 拝謁録、 . 町長淡路竜より挨 宮殿行事録、 宮内庁庁

報

午後、 行う。 廷皇族誕生日綴、 皇后に贈られる。 同夫人厚子、 ニエールを賜う。 親王の独唱等を楽しまれた後、吹上御所に還御される。 皇太子・ 天皇と共に花蔭亭にお出ましになり、皇太子・同妃主催の皇后喜寿奉祝の内宴に御臨席になる。 ついで午餐を御会食になり、 同妃始め皇族・元皇族等が出席する。 島津久永・同夫人貴子より御歌謹書なきころにすみしかの家」を大石隆子が謹書、料紙は安部栄四郎謹製が 発表綴、 また後日、喜寿を祝して皇太子・同妃、 ○女官長日記、女官日誌、 ボンボニエール 鷹司和子・池田厚子と共に唱歌 侍従日誌、 皇太子による祝詞言上の後、 侍従職日誌、 なお、 正仁親王・同妃華子、 内舎人日誌、 天皇・皇后より内宴の招待者にボンボ 旧皇族雑録、 「花」を合唱される。 宣仁親王が乾杯の発声を 恩賜録、 鷹司和子、 贈賜録、 さらに徳仁 池 東宮録、 旧隆政

従職日誌、 内庁御用掛の委嘱を解かれた加瀬寿始め三名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、 二十二日 内舎人日誌 火曜日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、 新任の侍医星川光正始め六名、 及び先般宮 侍従日誌、

正午過ぎ、 天皇と共に正殿竹の間において、 公賓オランダ国首相アンドリース・アントニウス・マリ

りクリスタルガラス製花瓶が献上される。 夫妻に御紋付銀製花瓶を賜う。また首相夫妻より天皇・皇后に献上の品があり、 ア・ファン・アフト及び同夫人ウージェニーを御引見になる。この来訪に際し、 女官長日記、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 天皇 皇后には首相夫人よ 内舎人日誌、 ・皇后より首相 典式録、

シリア国訪問の随員長門保明の拝謁をお受けになる。○女官長日記、 二十三日 水曜日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、崇仁親王・同妃百合子英国及びヨルダン国 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日

外交贈答録、

恩賜録、

宮殿行事録、

宮内庁庁報

同夫人幸子・ 二十四日 木曜日 同子息基成の拝謁をお受けになる。 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、 ○女官長日記、 この度英国アヒンシスセルに赴任する壬生基博療・ 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 旧

皇族雑録

○女官長日記、 下和夫貳部の拝謁をお受けになる。また、崇仁親王を通じ、 日より五月四日まで同国を訪問する崇仁親王・同妃百合子と御対面になる。 天皇と共に鳳凰の間において、オランダ国新女王ベアトリックスの即位式参列等のため、 を御贈進になる。 女官日誌、 侍従日誌、 これに対し後日、 侍従職日誌、内舎人日誌、外交贈答録、 天皇・皇后への謝意を伝える同女王の親書品はが寄せられる。 天皇・皇后より同女王に九谷焼花瓶欄手更紗 恩賜録、 外交雑録、 贈賜録、 ついで天皇と共に随員山 宮内庁庁報 来る二十七

始め女官等の祝賀をお受けになる。 二十九日 火曜日 天皇誕生日につき、 ついで正殿梅の間において、 午前、 花の間において、 皇太子・同妃始め皇族、 宮内庁長官以下総代、 続いて女官長 元皇族、

において、 0 縁 間において東久邇文子始め御親族の祝賀を順次お受けになる。 放者の祝賀をお受けになる。 元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀をお受けになる。 その後、 天皇と共に花の間前廊下において女嬬 さらに、 皇后お ○女官長日記、女官日誌、 雑仕の祝賀を、 一方にて再び花 鳳凰 間 侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録、東宮録、宮内庁庁報

からいつまでも元気で健康でいてほしいと思っている旨が発表される。 宮内庁より誕生日を迎えられた天皇の御感想について、 子と御夕餐を御会食になる。 天皇と共に吹上御所において、 記 兀 天皇誕生日 回 女官日誌、 長和殿ベランダにお出ましになり、 侍従日誌、 一般参賀につき、 侍従職日誌、内舎人日誌、 なお、 天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王、 皇太子・ 天皇誕生日に当たり、 同 妃 典式録、 宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。 儀式録、 徳仁親王・文仁親王・清子内親王、 宮殿行事録、 皇后が喜寿を迎えたことを嬉しく思い、これ 天皇にお祝いの品をお贈りになる。 宮内庁庁報、 正仁親王・同妃華子と共に、 ○女官長日記、女官日誌、 官報 正仁親王 侍従日誌 また、 午前· 同 妃華

# 五月

侍従職日誌、

内舎人日誌、

典式録、

東宮録、

内廷皇族誕生日綴

賜う。 ○発表綴 木曜 Ħ 宮内庁庁報 第二十五 回ユ ニセフ学校募金運動を実施する財団法人日本 ュ ニセフ協会に、 金一 封を

六日 王 同妃百合子と御対面になる。 火曜日 午前、 天皇と共に吹上御所において、 女官長日記、 女官日誌 侍従日誌、 昨四日にオランダ国 侍従職日誌、 内舎人日誌、 訪問 より帰国した崇仁親 宮内庁庁報

七日 水曜日 午前、 紅葉山御養蚕所にお出ましになり、 御養蚕始の儀を行われる。 ○女官長日記、

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、発表綴

午後、 功労者等の拝謁をお受けになる。 天皇と共に宮殿北溜において、厚生大臣から表彰された身体障害者の自立更生者及び更生 更生援護功労者佐山節の挨拶をお受けになり、 天皇に続いてお言葉

を賜う。 女官長日記、 女官日誌、侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 典式録、 拝謁録、 宮殿行事録、 宮内庁庁報

天皇と共に鳳凰の間において、崇仁親王・同妃百合子オランダ国訪問の随員山下和夫の拝謁をお受け

になる。

〇女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十一日 日曜 日 母の日につき、 皇太子妃より盛花雄が贈られる。 女官長日記、 吹上御所殿部日誌、 吹上御所

仕人日誌

十二日 月曜 自 午前、 紅葉山御養蚕所にお出ましになり、 蚕の成育状況を御覧になる。 また御給 桑

になる。
〇女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十六日 シライ・マラ及び同夫人ララを御引見になる。この来訪に際し、天皇・皇后より夫妻に御紋付銀製花 金曜日 正午過ぎ、 天皇と共に正殿竹の間において、公賓フィジー国首相カミセセ・ツイマ

瓶を賜う。 また同首相夫妻より天皇・皇后に献上の品があり、 皇后には黒珊瑚の装身具ステックレス及が

賜録、宮殿行事録、宮内庁庁報

上される。

女官長日記、

女官日誌、

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、

典式録、

外賓参内録、

外賓接待録、

外交贈答録、

十七日 土曜日 午前、貞明皇后例祭につき、

吹上御所において御遙拝になる。

○女官長日記、

女官日誌

2舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

昭

和五十五年五月

来る十九日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑において厚生省主催の拝礼式並びに納骨が行われるに当たり、天皇

皇后が同省に生花を賜う。○恩賜録、宮内庁庁報

十九日 月曜日 午前、 紅葉山御養蚕所にお出ましになり、 蚕の成育状況を御覧になる。 また御給桑

明治神宮会館において開催の昭和五十五年度全国赤十字大会へ、御名代として皇太子妃を差し遣わさ

女官長日記、

女官日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌

れ、次のお言葉を賜う。

派にその使命を果たしていることは、皆さんのご尽力によるものと心から満足に思います。 のために、 本日ここに、昭和五十五年度全国赤十字大会が盛大に開催されたことを大変うれしく思います。 大きな力となつておりますが、日本赤十字社が各国赤十字社と互いに手を携えて、 国際的な強い絆のもとに、人道的事業を推進し、広く世界の人々の平和と福祉増

正午過ぎ、 協力によつて、さらに業績をあげられるよう希望してやみません。 吹上御所において、 同大会への臨席を終えた皇太子妃より復命をお受けになる。〇女官長日

日本赤十字社の使命は、今後ますます重要さを加えることと思いますので、皆さんの一層のご

,女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、発表綴、宮内庁庁報、官報、事業年報(日本赤十字社

王に鮮鯛を、 仁親王・同妃百合子と御対面になり、 二十一日 水曜日 崇仁親王・同妃に三種交魚代料を賜う。 午後、 天皇と共に鳳凰の間において、この日納采の儀を終えた寛仁親王、 お礼をお受けになる。 ○女官長日記、 納采の儀に当たり、 女官日誌、 侍従日誌、 天 皇 ・ 侍従職日誌 皇后が寛仁親 及び崇

誌

贈賜録、

入江相政日記

ばら会展」に、 翌二十二日から二十七日まで日本橋高島屋において開催される財団法人日本ばら会主催の 吹上御所前庭で御栽培のバ ラの 切り花を御出品になる。 二十五日にも御出品になる。 春 Ō 日本

○女官長日記、贈賜録、発表綴

なり、 り、 地方行幸啓、宮内庁庁報、 てお聞きになる。 る。 宮御参拝及び地方事情御視察のため、 二十二日 御着後、 東京駅より賢島駅を経て、 御泊所へお戻りになる。 木曜日 御説明室において、 ついで御料車にて御泊所近くの景勝地である宝生の鼻に向かわれ、 官報、 天皇と共に三重県において開催される第三十一回全国植樹祭に御臨場、 行幸啓誌第三一回全国植樹祭、みえの天皇皇后両陛下、道をひらく、伊勢新聞 女官長日記、 午後二時二十二分志摩郡阿児町の御泊所志摩観光ホテルに御到着にな 三重県知事田川亮三より県勢概要の説明及び斎宮跡の保存等につい 同県に行啓される。 女官日誌、 侍従日誌、 天皇と共に、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 午前九時三十三分御出門にな 内舎人供奉日誌、 付 近を御散策に 併せて神

か になり、 司 みになり、 宮に御到着になる。 一条弼基・少宮司慶光院俊の拝謁、 二十三日 つて皇后がお手植えになったクロ 和子と共に御昼餐を御会食になる。 御拝礼になる。 御拝礼になる。 金曜日 外宮斎館御座所にて御潔斎になり、 天皇と共に、 終わって斎館御座所において神宮祭主の挨拶をお受けになり、 ついで皇大神宮宮に御移動になる。 午前九時五分御泊所の志摩観光ホテルを御出発になり、 神宮責任総代始め神宮関係者の拝謁をお受けになる。 7 ツ神宮如雪園にお手植えになったものの成長した写真等を御覧になる。ツ 大正十二年、御成婚前に神宮参拝の折の成長した写真等を御覧になる。 御潔斎になり、 天皇の御拝礼の後、 天皇の御拝礼の後、 内宮斎館御座所において、 正殿階下の御拝座にお進み 正殿階下の御拝座にお また同所で、 続いて大宮司 神宮祭主鷹 豊受大神宮 進

官日誌、 治 0 度の御 田 侍従日誌、 駅 :参拝に際 榊 原温 内舎人供奉日誌、 泉 П 駅を経 天皇・皇后が神宮両宮に幣帛料及び神饌料をそれぞれお供えになる。 幸啓録、 7 午後五時三分久居市の御 臨時祭祀録、 地方行幸啓、 宮内庁庁報、 泊所白雲荘に御到着になる。 官報、 みえの天皇皇后両陛下、 ○女官長日記、 神宮彙報、 その後字

官日誌、 みえの天皇皇后両陛下、 0 される。 齢者・みどりの少年隊による記念播種を御覧になりつつ林業展示会場に御移動になり、 0 県林業技術センター になった天皇と御昼餐の後、 送りになった後、 示会場で伊勢型紙の彫刻実演を非常に熱心に御覧になっていたことなどが発表される。 二十四日 御泊所グランドホ 介添えでケヤキの種子をお手播きになる。 侍従日誌、 終わって榊原温泉口駅より御乗車になり、 土曜日 内舎人供奉日誌、 御 国土緑化、 午前中 テル び林業展示会場に向かわれる。お手播き会場及に向かわれる。 泊 所の 向 はお出ましにならず、 .陽に御到着になる。 白雲荘においてお一方にてお過ごしになる。 緑と太陽豊かなくらし第三一回全国植樹祭記録誌、 午後一 幸啓録、 一時十六分天皇と共に御泊所を御出発になり、 地方行幸啓、 天皇はジングウスギの種子をお手播きになる。 宮内庁庁報、 御着後、 なお、 津市研究所及び津市役所を御視察〈御出 湯の山温泉駅を経て、 宮内庁よりこの日の皇后の御様子について、 官報、 お手播き床に進まれ、 津市役所所蔵資料、 伊勢新聞 正午過ぎ、 四時三十九分三重郡菰 行幸啓誌第三一回全国植樹祭 白山町婦人代表谷美也 発になる天皇をお見 御視察よりお 志郡白山 ○女官長日記、 展示等を巡覧 つい 町 の三重 野 · で高 展 町

天皇のお言葉・第三十一回全国植樹祭大会会長灘尾弘吉による答辞の後、 樹祭の会場である三重郡菰 日 曜日 天皇と共に、 野町 0 三重県民の森に向 午前十時三分御泊所のグランドホテル向陽を御出 かわ れる。 御着後 お野立 お手植え地に移られる。 一所に着席され、 発になり、 表彰 全国: 菰 植

行幸啓、 緑と太陽豊かなくらし第三一回全国植樹祭記録誌、 嬉しく思うと述べられる。 おける天皇の御感想について発表があり、 り東京駅を経て、 0 による植樹状況を御覧になる。 の介添えでヒノキ苗三本をお手植えになる。 野 可明婦 宮内庁庁報、 県内生息動植物に関する展示を御覧になる。 人代表高田ちえ・林業後継者代表山下俊子・みどりの少年隊代表西村則美・青年代表東出啓子 官報、 午後三時四十六分皇居に還啓される。 菰野町社会福祉センター所蔵資料、 ○女官長日記、女官日誌、 次に菰野町社会福祉センターを御訪問になる。 伊勢新聞 その中で皇后と一緒に行事を終えて無事帰ることができて 天皇もヒノキ苗三本をお手植えになる。 侍従日誌、 行幸啓誌第三一回全国植樹祭、 御少憩後、 侍従職日誌、 なお、 この日宮内庁より、 同所をお発ちになり、 内舎人日誌、 みえの天皇皇后両陛下、 内舎人供奉日誌、幸啓録、 御休所に この度の行幸啓に 終わって参加者 湯 0 おいて御昼 山温 国土緑化 泉駅よ

女官長日記、 二十七日 華総理より天皇・皇后に御贈進の品があり、 女官日誌、 火曜日 侍従日誌、 午後、 侍従職日誌、 天皇が国賓中華人民共和国国務院総理華国鋒を御引見になる。 内舎人日誌、 接待書類、 皇后には水墨画券及び丸鏡属製足台付が贈られる。 外賓参内録、 外交贈答録、 恩賜録、 宮内庁庁報、 この来訪に 朝日新聞 0

サンケイ、

日本経済新聞

拝謁をお受けになる。 午後、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のブルガリア国駐箚特命全権大使松原進及び同夫人、 パプアニュー 桑になり、 二十八日 その後、 水曜日 ・ギニア国駐箚特命全権大使仙石敬、 所内を御巡覧になる。 午前、 ○女官長日記、 紅葉山御養蚕所にお出ましになり、 女官日誌、 ○女官長日記、 侍従日誌、 モンゴ 侍従職日 女官日誌、 ル国駐箚特命全権大使秋保光孝及び同夫人の 誌 内舎人日誌、 侍従日誌、 蚕の成育状況を御覧になる。 侍従職日誌、 拝謁録、 宮殿行事録、 また御給

報

三十日 になる。 同夫人、 女官長日記、 金曜日 エクアドル国特命全権大使アンドレス・クレスポ・レエインベルグ及び同夫人を順次御引見 午後、 女官日誌、 正殿梅の間において、 侍従日誌、 侍従職日誌、 新任のハイチ国特命全権大使レーモン・マチュ 内舎人日誌、 謁見録、 宮殿行事録、 宮内庁庁報 ] · 及び

親王妃勢津子、 御晩餐を催される。崇仁親王・同妃のほか、 天皇と共に吹上御所において、 容子内親王が出席する。 去る四日オランダ国訪問より帰国した崇仁親王・同妃百合子のために ○女官長日記、 皇太子・ 女官日誌、 同 妃 • 徳仁親王、 侍従日誌、 侍従職日誌、 正仁親王・同妃華子、 内舎人日誌、東宮録、 故雍仁 宮内

# 六月

三日 テーヘリン及び同夫人を御引見になる。 斎藤誠治業務日誌 拝謁をお受けになる。 二日 月曜日 火曜日 午後、 午後、 ○女官長日記、女官日誌、 正殿梅の間において、 天皇と共に鳳凰 (D) 間において、 侍従日誌、 新任のスイス国特命全権大使フリッツ・ルドルフ・シュ 侍従職日誌、 新任の侍従斎藤誠治及び 内舎人日誌、 典式録、 恩賜録、 前任の侍従角田素文の 宮内庁庁報

○女官長日記、

女官日誌、

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、

五日 天皇と共に、 木曜日 同人及び女官長、 夕刻、天皇と共に吹上御所において、 上直の女官・侍従・ 侍医と御夕餐を御会食になる。 前侍従角田素文の拝謁をお受けになる。 女官長日記、 つい で

宮内庁庁報

誌 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 贈賜録、 御写真録

九日 月 曜 日 午 前 紅葉山御養蚕所にお出ましになり、 繭搔きを行われる。 女官長日記、 女官日 誌、

侍

従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌

寛仁親王の婚約に際し、 この日天皇・皇后が三笠宮に特別御内帑金を賜う。 ○贈賜録

房文書課長及びこの日同職の委嘱を解かれた井口武夫経領事館総領事外務省大臣官及びこの日同職の委嘱を解かれた井口武夫在ボストン日本国 木曜 Ė 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、 新たに宮内庁御用掛の委嘱を受けた太田 正 利

の拝謁をお受けになる。

〇女官長日記.

女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 典式録、 恩賜録

民主党合同葬儀記録 わされ、 この日、 遣わされ、 侍従職日誌、 果物を賜う。 内閣総理大臣大平正芳死去につき、 祭粢料 「故大平正芳」内閣 供 翌十三日には、 物 自由民主党合同葬儀関係。 生花を賜う。 天皇・皇后が賜物使・ また、 天皇・皇后が弔問使として侍従田中直を同人邸に差し遣 柩前 贈賜録、 0 宮内庁庁報、 拝礼を仰せ付けられる。 柩前使として侍従安楽定信を同人邸に差 斎藤誠治業務日誌、 故大平正芳内閣・自由 〇女官長日記、

#### 七月

В 火曜日 午前、 紅葉山御養蚕所にお出ましになり、 御 :養蚕納の儀を行われる。 ○女官長日記、

日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌 内舎人日誌、 発表綴

拝謁をお受けになる。 天皇と共に鳳凰 の間において、 ついで天皇と共に宮殿西車寄前において、 この度宮内庁御用掛の委嘱を解かれた太田博布国大使館参事官・ 紅葉山御養蚕所主任神戸礼二郎及び

助 多手四名 前 主任 名に御会釈を賜う。 女官長日記、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 典式録、 恩賜

録

人日誌、 箱根 二日 を御覧になる。 なお出ましとして行われる。 プリンスホテルに御到着になる。 内舎人供奉日誌、 水曜 日 午後四時三十八分御泊所にお戻りになる。 天皇と共に御旅行 幸啓録、 箱根方面行幸啓録、 午前九時四十七分御出門になり、 このため、 同所において御昼 発表綴、 神 奈川県足柄下郡 宮内庁庁報、 一餐の後 ○女官長日記、 官報、 箱根町に行啓される。 原宿駅より小 富田メモ 箱根樹木園 女官日誌、 に 田 向 原駅を経 侍従日誌、 かわれ この行 侍従職日誌、 7幸啓 袁 内 0 泊 は 私的 植 所 物

日御植樹等を御覧になる。四年四月四等を御覧になる。 奉日誌、 に向 三日 駅を経て、 物 で愛林日記念植樹式場跡地に御移動になり、 を御観察になる。 かわれる。 木曜日 幸啓録、 午後四時二分皇居に還啓される。 箱根方面行幸啓録、 御着後、 天皇と共に、 次に日本電信電話公社双子無線中継所に向かわれ、 天皇の御拝礼に続いて、 御 :泊所にお戻りになり御昼餐の後 神宮及神社諸件、 午前九時三十分御泊 発表綴、 ○女官長日記、 天皇・皇后がかつて同所にお手植えになったヒノキロ4年 宮内庁庁報、 上所の箱! 御拝座に進まれ、 女官日誌 根プリンスホテルを御 官報、 同所を御出発になり、 箱根神社所蔵資料、 侍従日誌 御 :拝礼になる。 同所の植 侍従職日誌 出 箱根神社、 物を御覧になる。 発にな 小 内舎人日誌 ついで神社内 田 原駅より ŋ 双子四十年のあ 箱 内舎人供 根 原宿 0 神 植  $\sim$ 社

楽長等 七日 と御対面になる。 0 お出 曜 Ħ 迎えをお受けになり、 午後、 演奏会では、ベートー 桃華楽堂にお出ましになり、 御 休所におい ヴェン作曲交響曲第八番などをお聴きになる。 て皇太子妃 楽部職! 「員の洋楽演奏会に御臨席になる。 正仁親 光王妃華 子 故 雍仁親王妃勢津子 演奏終了後 御着後、

ゆみ、

富田メモ

オ・オリヴァ及び同夫人を御引見になる。 お見送りを受けて御発、 御休所において楽長始め三名の拝謁をお受けになる。ついで皇太子妃・正仁親王妃・故雍仁親王 火曜日 午後、 正殿梅の間において、 吹上御所へ還御される。○女官長日記、女官日誌、 ○女官長日記、 新任のアルゼンチン国特命全権大使ガブリエル・ヌンシ 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 内舎人日誌、 元妃の

九日 青山学院大学教授貫達人より光明天皇の御事蹟についての進講をお聴きになる。 水曜日 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 来る八月三日の光明天皇六百年式年祭に先立 女官長日記、

殿行事録、

宮内庁庁報

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、

進講録、

宮殿行事録、

宮内庁庁報

午後、 后が生花をお供えになる。 后が葬場使として侍従卜部亮吾を同所に差し遣わされ、 「故大平正芳」内閣 ○女官長日記、 ・自由民主党合同葬儀が日本武道館において行われるに当たり、 侍従日誌、 侍従職日誌、 拝礼させられる。また葬儀に際し、 「故大平正芳」内閣・自由民主党合同葬儀関係、 天皇 天皇・皇 皇

宮内庁庁報、故大平正芳内閣・自由民主党合同葬儀記録

進の 十日 この来訪に際し、 品があり、 木曜日 皇后へは造花韻気製 午前、天皇が故内閣総理大臣大平正芳の葬儀に参列した外国首脳九名を御引見になる。 フィリピン国大統領夫人イメルダ・ロムアルデス・マルコスより天皇・皇后に御贈 が贈られる。 ○女官長日記、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、

午後、 び 同夫人・ 正 殿梅の間において、 息女を御引見になる。 新任の ○女官長日記、 コロンビア国特命全権大使グスタボ・メディナ・オルドニェ 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌 内舎人日誌、 謁見録、 宮殿行事録 ス及

贈答録、

発表綴、

宮内庁庁報

宮内庁庁報

十五日 誌 全権大使今井隆吉及び同夫人の拝謁をお受けになる。 使山口孝一郎及び同夫人、ザイール国駐箚特命全権大使大嶋鋭男及び同夫人、 拝謁録、 火曜 宮殿行事録、 Ħ 午前、 宮内庁庁報 天皇と共に正殿竹の間において、 ○女官長日記、 近く赴任のフィンランド国駐箚特命全権 女官日誌、 侍従日誌、 クウェート 侍従職日誌、 国駐箚特命 内舎人日 大

天皇と共に鳳凰の間において、 この日宮内庁御用掛の委嘱を解かれた西村元彦宮大使館参事官の 拝

謁をお受けになる。 土曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、 ○女官長日記、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 この日誕生日を迎えた正仁親王妃華子と御対 内舎人日誌、 典式録、 恩賜録

面になり、 二十三日 水曜日 お礼をお受けになる。 東久邇成子の祥月命日につき、 ○女官長日記、女官日誌、 吹上御所にて静かにお過ごしになる。 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 贈賜録 女官長日記、

三十日 水曜日 午前、 明治天皇例祭につき、 吹上御 所におい て御遙拝になる。 ○女官長日記、 女官日誌

内舎人日誌、

典式録、

恒例祭祀録、

祭典録、

宮内庁庁報

女官日誌、

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、

典式録

官日誌、 三十一日 去る十九日より開催中のオリンピックモスクワ大会に関する進講をお聴きになる。○女官長日記、 侍従日誌 木曜日 侍従職日誌、 午前、 内舎人日誌 天皇と共に芳菊の間において、 進講録 国際オリンピック委員会この委員竹田恒 徳よ

# 八月

三日 所にて静かにお過ごしになる。 日曜日 午前、 光明天皇六百年式年祭につき、 ○女官長日記、女官日誌、 内舎人日誌、 吹上御所において御遙拝になる。 典式録、 臨時祭祀録、 祭典録、 宮内庁庁報 終日、 吹上御

四日 月曜日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、この日宮内庁御用掛の委嘱を解かれた福田博作の

大使館参事官の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、カ合衆国日本国の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、 内舎人日誌、典式録、

天皇と共に鳳凰の間において、東宮侍従曽我剛汞る十一日より二十四日までニュージー

の拝謁をお受けになる。

0

女官長日記、女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 贈賜録、 宮内庁庁報

れる。 五日 ○女官長日記、 火曜日 天皇と共に、 女官日誌、 侍従日誌、 午前九時四十二分御出門になり、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、 午後零時三十九分那須御用邸に行啓さ 幸啓録、 那須御用邸行幸啓録、

邸管理事務所日誌、

那須御用邸管理事務所事務官日誌、

発表綴、

宮内庁庁報、

宮中門前学派

午後、 に植物を御調査になる。 天皇と共に御用邸内庭を散策され、 ○女官長日記、女官日誌、 植物を御調査になる。 侍従日誌、 内舎人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、 御用邸御滞在中、 しばしば天皇と共 那須御用邸管理事務

所日誌、 那須御用邸管理事務所事務官日誌、 宮中門前学派

六日

水曜日

広島原爆の日につき、

午前、

御用邸にて静かにお過ごしになる。

○女官長日記、

女官日誌

侍従日誌、 内舎人供奉日誌、 那須御用邸管理事務所日誌、 宮中門前学派

九日 内舎人供奉日誌、 土曜日 那須御用邸管理事務所日誌 長崎原爆の日につき、 午前、 お出ましをお控えになる。 ○女官長日記、 女官日誌 侍従日誌:

那須御用

啓される。 十四日 女官日誌、 日 木曜日 月曜 女官長日記、 侍従日誌、 日 北白川 天皇と共に、 内舎人供奉日誌、 女官日誌、 一房子の祥月命日につき、 午後零時五十三分那須御用邸を御出門になり、 侍従日誌、 那須御用邸行幸啓録、 侍従職日誌、 午前、 内舎人日誌、 那須御用邸管理事務所日誌、 御用邸にて静かにお過ごしになる。 内舎人供奉日誌、 那須御用邸管理事務所事務官日誌 幸啓録、 三時五十三分皇居に還 那須御用邸行幸啓録、 女官長日

須御用邸管理事務所日誌、

那須御用邸管理事務所事務官日誌、

発表綴、

宮内庁庁報

でお止 十五日 日誌、 斎藤誠治業務日誌、 生花を賜う。 るとのことが発表される。 に関して宮内庁より、 間 臨席のため日本武道館に行啓される。 黙禱される。 侍従職日誌 まりになり、 金曜日 皇后の全国戦没者追悼式 富田メモ、 内舎人日誌、 午後零時二十七分還啓される。 天皇と共に、 その場で黙禱され、 御起立がお遅れになったため天皇のお近くまでお進みになれなかったようであ 昭和天皇最後の侍従日記 幸啓録、 なお、 午前十一時四十八分御出門になり、 行幸啓録、 同追悼式が行われるに当たり、 御着後、 へ の 恩賜録、 天皇の 御臨席は、 天皇記者会見、 お言葉の後、 黙禱のため御自席から式壇中 式場に臨まれ、 この年が最後となる。 宮内庁庁報、 御自席にお戻りになる。 正午の時報に合わせて天皇と共に一分 去る十三日、 政府主催 官報、 入江相政日記、 ○女官長日記、 央に移動される際、 の全国戦没者追悼式 天皇・皇后が厚生省に 還啓後、 卜部亮吾侍従日記: 女官日誌、 中途 に御

十九日 事務所日誌、 される。 ○女官長日記、 火曜日 那須御用邸管理事務所事務官日誌、 天皇と共に、 女官日誌、 侍従日誌、 午前 九時四十二分御出門になり、 幸啓録、 侍従職日誌、 発表綴 内舎人日誌、 宮内庁庁報 内舎人供奉日誌、 午後零時三十九分那須御 那須御用邸行幸啓録 那須御用邸管理 用邸 行啓

二十日 水曜 Ė 去る十六日静岡市において発生したガス爆発事故により甚大な被害を受けた静岡県

天皇・皇后がお見舞金を賜う。○災害お見舞い、発表綴、宮内庁庁報

皇・皇后から弔意を同夫人エディスに伝えるよう御下命があり、 元連合国最高司令官総司令部外交局長ウィリアム・ジョセフ・シーボルト去る十日死去につき、天 この日、 侍従長より同夫人に弔電が

## 九月

○外交慶弔録

日 月曜日 関東大震災の日につき、 午前、 御用邸にて静かにお過ごしになる。 女官長日記、 女官日

侍従日誌、内舎人供奉日誌、 宮中門前学派

昭和四十四年に定められた信任状捧呈及び任命状提出後の謁見に関する内規が改正され、この日

施行される。 これにより、従来信任状捧呈式の後日に行われてきた本邦駐在外国特命全権大使の皇后

の 謁見は、 信任状捧呈式に引き続き行われることとされる。 ○例規録、 重要雑録

永久王四十年式年祭につき、午前、

御用邸にて静かにお過ごしになる。

○女官長日記、

官日誌、 侍従日誌、 那須御用邸行幸啓録、旧皇族録、 贈賜録、 宮中門前学派

四日

木曜日

五日 金曜日 天皇と共に、午前八時五十三分那須御用邸を御出門になり、 十一時四十八分皇居に還

須御用邸管理事務所日誌、 那須御用邸管理事務所事務官日誌、 発表綴、 宮内庁庁報、 宮中門前学派

啓される。

女官長日記、

女官日誌、

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、

内舎人供奉日誌、

幸啓録、

那須御用邸行幸啓録、

午後、 天皇と共に吹上御所において、 同所の改修工事が行われた箇所を御視察になる。〇女官長H記、 女

官日誌、 侍従日誌、 内舎人日誌、 特営各中

により

八日 日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、 新たに宮内庁御用掛の委嘱を受けた苅田吉夫外務

第一課長 柳井俊一 法眼健作外務省欧亚局 の拝謁をお受けになる。 女官長日記、 女官日誌、 侍従日誌、

従職日誌、 内舎人日誌、典式録

九日 火曜日 久邇俔子母の祥月命日につき、 午前、 吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、

女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 典式録

十日 水曜日 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、翌十一日の後水尾天皇三百年式年祭に先立ち、

侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、典式録、 進講録、 宮殿行事録、 宮内庁庁報

東京大学教授尾藤正英より後水尾天皇の御事蹟についての進講をお聴きになる。

女官長日記、

女官日誌

十一日 木曜 日 午前、 後水尾天皇三百年式年祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。

女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 臨時祭祀録、 祭典録、 宮内庁庁報

白

サンダー・ウィリアム・ヌスブガ・バーロウ及び同夫人、ラオス国特命全権大使サリー 十二日 金曜 午後、 正殿梅の 間において、 新任のウガンダ国特命全権大使ディヴィ カムシを順 ・アレ

次御引見になる。 ○女官長日記、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 謁見録、 宮殿行事録、 宮内庁庁報

土曜日 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 ザンビア国駐箚特命全権大使西宮 より同

国に関する進講をお聴きになる。 ○女官長日記、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌 内舎人日誌 進講録、 宮殿行事録

斎藤誠治業務日誌

十五日 月曜日 敬老の日につき、 皇太子妃より鉢植が贈られる。 ○女官長日記

○女官長日

ッド

施設各中、

斎藤誠治業務日誌

0 にはギニア国 ルダン国特命全権大使ズハイール 品があり、 火曜日 [特命全権大使を通じ、 皇后へは飾り額が贈られる。 午前、 正殿梅 の間において、 アル・ムフティ及び同夫人を順次御引見になる。 同国大統領アーメド・セクー・トゥーレより天皇・皇后に御贈 ○女官長日記、 新任のギニア国特命全権大使マンディウ・トゥレ、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 なお、 翌十七 進 日  $\Xi$ 

交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十七日 ۲ • 外賓参内録、 后より夫人に花束を御贈進になる。 があり、 花瓶クリーム、 カウンダ及び同夫人ベアトリスと御会見になる。この来訪に際し、 水曜日 皇后へは大統領夫人より銅製果器・銅製盆が贈られる。 外交贈答録、 同夫人に七宝宝石箱キホ素を御贈進になる。 午後、天皇と共に正殿竹の間において、国賓ザンビア国大統領ケネス・デェイヴィ 恩賜録、 宮殿行事録、 女官長日記、 官報、 斎藤誠治業務日誌 女官日誌、 また大統領夫妻より天皇・皇后に御贈進 侍従日誌、 侍従職日誌 なお、 天皇・皇后より大統領に七宝 大統領夫妻の入京に際し、 内舎人日誌、 幸啓録、 接待書類 0

十九日 謁録、 権大使中平立及び同夫人の拝謁をお受けになる。 沢泰及び同夫人、 宮殿行事録、 金曜日 宮内庁庁報、 スリラン 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 入江相政日記 力国駐箚特命全権大使千 ○女官長日記、 葉一 夫及び同夫人、 新任のアルジェリア国駐箚特命全権大使宮 女官日誌、 侍従日誌、 アラブ首長国 侍従職日誌、 連 邦 内舎人日誌、 駐箚特命全

夕刻、 改修及び家具等御下賜 天皇と共に吹上御所において鷹司和子と御対面になり、 0 お礼をお受けになる。 ○女官長日記、 この度行われた鷹司 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 15 声七十号建物 赤坂御用地内第 内舎人日誌 増

火曜日 午前、 秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。○女官長

日記、女官日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十四日 イスラエル国特命全権大使アムノン・ベン・ヨハナン及び同夫人を順次御引見になる。 水曜日 午後、正殿梅の間において、新任のビルマ国特命全権大使ソウ・トン及び同夫人、 女官長日記、女

官日誌、

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、

宮内庁庁報

化賞受賞者等十六名の拝謁をお受けになる。厚生事務次官八木哲夫の挨拶をお受けになり、 いてお言葉を賜う。 金曜日 午後、 ○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、 天皇と共に宮殿北溜において、厚生大臣から表彰された第三十二回保健文 侍従職日誌、 内舎人日誌、 典式録、 拝謁録、 宮殿行事録、 天皇に続 宮内庁庁

メド・エル・アミン・アブダラ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、 正殿梅の間において、新任の大韓民国特命全権大使崔慶禄及び同夫人、スーダン国特命全権大使モハ 内舎人日誌、 謁見録、 宮殿行事録、 宮内庁庁報 侍従日誌、

動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后が事業御奨励のため金一封を賜う。○社会事 二十九日 月曜日 来る十月一日より十二月三十一日まで昭和五十五年度国民たすけあ い共同募金運

、宮内庁庁報

三十日 人日誌、 イヒス・アン・デア・グロン及び同夫人を御引見になる。 謁見録、 火曜日 宮殿行事録 午前、 宮内庁庁報 正殿梅の間において、 新任のオーストリア国特命全権大使クレメンス・ヴァ 女官長日記、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、

始め随員・随行員をお召しになり、 天皇と共に連翠において、 勤務日誌、 典式録、 宮殿行事録 昭和四十六年の御訪欧及び昭和五十年の御訪米の首席随員福 お茶の席を設けられる。 ○女官長日記、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 田 赶夫

# 十月

三日 二日 サンタ・レスリー 寬仁親王・容子内親王が出席する。 のために御晩餐を催される。崇仁親王・同妃のほか、皇太子・同妃・徳仁親王、故雍仁親王妃勢津子、 天皇と共に吹上御所において、去る八月二十五日にカナダ国訪問より帰国した崇仁親王・同妃百合子 ○女官長日記、 ル・ジャフ及び同息女、タイ国特命全権大使ウィチアン・ワタナクン及び同夫人を順次御引見になる。 金曜日 木曜日 女官日誌、 午後、 午後、正殿梅の間において、新任のイラク国特命全権大使モハンメド・アミーン・ア ・デ・アルウィス及び同夫人・息女を御引見になる。 侍従職日誌、 正殿梅の間において、新任のスリランカ国特命全権大使ワッタンティリゲ・ス 内舎人日誌、謁見録、 ○女官長日記、 宮殿行事録、 女官日誌、 侍従日誌、 宮内庁庁報 侍従職日誌、 ○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌 内舎人日誌、 東宮録、 宮内庁庁報

及び В 同夫人を御引見になる。 土曜日 午前、正殿梅の間において、新任のシンガポール国特命全権大使ウィー ○女官長日記、女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 謁見録、 宮殿行事録 ・キム・ウィー

内舎人日誌、謁見録、

宮殿行事録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

九日 木曜 日 午後、 天皇がスリランカ国首相ラナシンハ・プレマダーサ及び同夫人へメールを御引

皇后に献上の品があり、 見になる。 この来訪に際し、 皇后には金製ブレ 天皇・皇后が同首相夫妻へ七宝花瓶青磁を賜う。 スレット
国付 壁飾りバティッ 献上される。 また首相夫妻より天皇 ○女官長日記、

官日誌、

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、

外賓参内録、

外交贈答録、

恩賜録、

宮内庁庁報

十 一 日 従日誌、 になる。 宇都宮市福祉の里老人福祉センターふれあい荘を御訪問になり、 御説明室において栃木県知事船田譲による県勢概要の説明をお聞きになる。同館において御昼餐の後 午前九時 侍従職日誌、 土曜日 午後二 四十分御出門になり、 時三十三分、 内舎人日誌、 天皇と共に地方事情の御視察及び那須御 内舎人供奉日誌、 御泊所の宇都宮ロイヤルホテルに御到着になる。 原宿駅・宇都宮駅を経て、 幸啓録、 栃木県下行幸啓、 栃木県公館に御到着になる。 用邸に御滞在のため、栃木県に行啓される。 地方行幸啓、 施設内で開催中の教養講座を御視察 宮内庁庁報、 ○女官長日記、 官報、 御着後 下野新聞 女官日誌、 拝謁 朝日新 侍

長日記、 那須御用邸管理事務所事務官日誌、 三十五回国民体育大会秋季大会開会式 十二日 黒磯駅を経て、 女官日誌、 日曜日 侍従日誌、 午前九時五十分お一方にて御泊所の宇都宮ロイヤルホテルを御出発になり、 + 侍従職日誌、 時 宮内庁庁報、 十五分那須 内舎人供奉日誌、 官報、 御用邸に御到着になる。 0 下野新聞 御臨場を終えられた後、 幸啓録、 朝日新聞、 栃木県下行幸啓、 読売新聞 天皇は宇都宮市文化会館 那須御用邸に御到着になる。 地方行幸啓、 那須御用邸管理事務所日誌 Ò 御視 宇都 ○女官

サンケイ、

毎日新聞、

読売新聞

され、 内舎人供奉日誌、 十五日 植 物 水曜 を 栃木県下行幸啓、 御調査になる。 Ħ 午前、 天皇と共に澄空亭にお出ましになり、 那須御用邸管理事務所日誌、 皇后は天皇より先に御用邸 那須御用邸管理事務所事務官日誌、宮内庁庁報、 へお戻りになる。 同亭におい ○女官長日記、 て御昼餐の後、 女官日誌、 官報、 付近を散策 侍従日誌 富田メモ

戦没者の碑竣工並びに追悼式が行われるにつき、天皇・皇后が同省に生花を賜う。 来る二十日、パプアニューギニア国東ニューブリテン州ラバウル市において、 厚生省主催の南太平洋 ○恩賜録、 発表綴、

啓される。 木曜日 天皇と共に、 午前八時五十三分那須御用邸を御出門になり、 + 時五十分皇居に還 内庁庁報

用邸管理事務所日誌、 那須御用邸管理事務所事務官日誌、 宮内庁庁報、 官報

女官長日記、

女官日誌、

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、

内舎人供奉日誌、

幸啓録、

栃木県下行幸啓

那須御

本ばら会展」 翌十七日から二十二日まで新宿小田急百貨店において開催される財団法人日本ばら会主催の へ、吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。二十日にも御出品になる。

○女官長日記、 贈賜録、 発表綴

十七日 女官日誌 内舎人日誌、 金曜日 午前、 恒例祭祀録、 神嘗祭につき、 祭典録、 宮内庁庁報 吹上御所において神宮及び賢所を御遙拝になる。 ○女官長日記

夫人、 女官長日記、女官日誌、 エ ルサルバ 土曜日 ドル国特命全権大使ギリェル 午前、 侍従日誌、 正殿梅の間において、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 謁見録、 (モ・パ 新任の英国特命全権大使ヒュー・コータッツィ及び同 宮殿行事録、 ス・ラリン及び同夫人を順次御引見になる。 宮内庁庁報

の祝賀をお受けになる。 月曜日 皇太子妃誕生日につき、 ついで天皇と共に同所において、 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、 皇太子妃と御対面になり、 宮内庁長官始め総代 お 礼をお受けに

なる。 女官長日記、 女官日誌、 侍従日誌、侍従職日誌、 内舎人日誌、 典式録、 贈賜録、 東宮録、 宮内庁庁報

この日ブラジル国大統領夫人ドゥルセ・マリア・デ・カストロ フィゲイレード来日二十日から二十五日

入京に際し、 皇后より夫人に花束を御贈進になる。 後日、 夫人より皇后に礼電が寄せられる。

○外交贈答録、宮内庁庁報

○女官長日記、

女官日誌、

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、

典式録、

宮殿行事録

二十二日 水曜日 午前、 天皇と共に松風の間において、 松栄会会員二十九名の拝謁をお受けになる。

二十三日 木曜日 午前、 天皇と共に正殿竹の間におい て、 近く赴任のビル 7 国駐箚特命全権 大使橘

女官長日記、

女官日誌、

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、

拝謁録、

行事録、 宮内庁庁報、 斎藤誠治業務日誌 正忠及び同夫人の拝謁をお受けになる。

0 天皇・皇后に御贈進の品があり、 妃に七宝宝石箱丸形クリームを、 世及び同王妃ソフィアと御会見になる。 同国に関する進講をお聴きになる。 ばら会九州支部展」へ、吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。 翌二十四日から二十六日まで山 二十八日 二十五日 入京に際し、 幸啓録、 接待書類、 土曜日 火曜日 皇后より王妃に花束を御贈進になる。 外賓参内録、外交贈答録、 午前、 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 天皇と共に正殿竹の間において、 また皇后より王妃に絹地産繭により織立を御贈進になる。 .口県宇部市において開催される財団法人日本ばら会主催 皇后には金製ネックレスシタント付きが贈られる。 女官長日記、 恩賜録、 この来訪に際し、 贈賜録、 女官日誌、 宮殿行事録、宮内庁庁報、 ○女官長日記、 侍従日誌、 天皇・皇后より国王に七宝花瓶緑地光を、 スペイン国駐箚特命全権大使横田弘よ 国賓スペイン国国王ホアン・ 侍従職日誌、 女官日誌、 官報、 侍従日誌、 内舎人日誌、 斎藤誠治業務日誌、 なお、 国王・ ○贈賜録、 侍従職日誌、 進講録、 0 王妃からも 国王・ カルロ 発表綴 砅 宮殿行事録 読売新聞 内舎人日 0 王妃 スー 日 王 本

誌

# 十一月

宮警察本部長松井三郎の拝謁をお受けになる。 日 土曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、 ○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、 新任の皇宮警察本部長藤巻清太郎及び前任の皇 侍従職日誌、 内舎人日誌、 典式

録

行事録、

宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

三日 表彰された健康優良学校代表等の拝謁をお受けになる。 天皇に続いてお言葉を賜う。 月曜日 午前、 天皇と共に宮殿北溜において、 ○女官長日記、女官日誌、 朝日新聞社主催の全日本健康優良学校表彰会で 侍従日誌、 同会会長渡辺誠毅朝田新聞の挨拶をお受けにな 侍従職日誌、 内舎人日誌、 典式録、 拝謁録、 宮殿

金三郎作を賜う。十三年森田 なり、 六日 また明治神宮鎮座六十年に当たり、 いて、明治神宮崇敬会ブラジル支部会員約二十名の奉迎にお応えになり、十時五十五分還啓される。 いて外拝殿西側において御修祓の後、 宮司高沢信 木曜日 明治神宮に行啓される。 なお本祭に当たり、 明治神宮鎮座六十年祭につき、天皇と共に御参拝のため、午前九時三十二分御出門に 一郎・名誉宮司伊達巽始め十一名の拝謁をお受けになる。 御着後、 これに先立つ十月二十二日、 昭憲皇太后をお偲びになり、 内拝殿の御拝座において御拝礼になる。 御休所饋において天皇が御参拝になるのをお待ちになり、 皇后が明治神宮に網戸付茶棚県後象嵌入 次の御歌をお詠みになる。 その後、 終わって御休所にお 南神門内東側にお

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、 世にひろく蚕飼のわざをすすめむとつとめましけるみ心を思ふ 侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、 行幸啓録、 贈賜録、 発表綴、 宮内庁庁報、 官報、

入江相政

日記、斎藤誠治業務日誌

も御 七日 崇仁親王に清酒並びに鮮鯛代料を、 同妃と御対面になる。この度の寬仁親王の結婚に当たり、天皇・皇后が同親王に特別御内帑金を賜い、 けになり、 式中の朝見の儀に臨まれる。 ○女官長日記、 盃をお授けになる。 お言葉を賜う。 Ė この 女官日誌、 日寛仁親王結婚につき、 終わって天皇と共に鳳凰の間において、 侍従日誌、 ついで天皇に続いて寬仁親王へ御盃をお授けになる。 式中、 侍従職日誌、 天皇に続いて、 寬仁親王に白羽二重並びにお品を、 内舎人日誌、 午後、 妃信子と共に参進の 天皇と共に正 臨時儀式録、 贈賜録、 崇仁親王・同妃百合子・寬仁親王・ 殿松 0 宮殿行事録、 三笠宮家にお品をそれぞれ賜 寛仁親王より謝恩の辞 間 に出御され、 同様の手順で同妃に 宮内庁庁報、 寬仁親 こをお受 王 結

なお、 十四四 女官長日記、 手植えになったもので、 内のお手植樹管理地におい 拝礼になる。 午前十時二分御出門になり、 相政日記 する永山公園遊歩道入口に移動され、 百 このヒノキは第一回東京都山の植樹祭森林愛護連盟及び全日本観光連盟の際に式場となった永山公園にお 下 斎藤誠治業務日誌 金曜日 . (7) 女官日誌、 同 . 市陸 御休所において御昼餐の後、 天皇と共に多摩陵皇陵及び多摩東陵原陵に御参拝、 上 侍従日誌、 一競技場に集まった市 東京新聞 鉄 て、 道公園建設に伴い昭和三十七年に同公園内に移植された。 侍従職日誌、 陵所に行啓される。 お手植え時に御使用になった道具やお手植えのヒノキを御覧になる。 内舎人日誌、 遊歩道を散策される。 民等の奉迎にお応えになる。 青梅市に向かわ 幸啓録、 御着後、 行幸啓録、 れ 天皇に続いて多摩陵、 青梅鉄道公園に御到着になる。 ついで展望台から市街地を御展望に 臨時祭祀録、 併せて青梅市を御訪 午後四時十三分還啓される。 発表綴、宮内庁庁報、 つい 御少憩の後、 で多摩東陵 問 官報、 のため、 同 東京都 公園 を御 近

庁所蔵資料、広報おうめ、えこう、読売新聞

同大公・同妃に祝電をお送りになる。 同国皇太子アンリの婚約を報じる親電が天皇・皇后に寄せられる。これに対し、 十五日 土曜日 去る八日、ルクセンブルク国大公ジャン及び同妃ジョセフィン・シャルロッテより、 十七日には大公より天皇に答電がある。 ○外交慶弔録、 この日天皇・皇后が 宮内庁庁報

į

十七日 同親王・同妃に万那料及び菓子をそれぞれ賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、 面になり、 月曜日 お礼をお受けになる。また天皇・皇后が同親王にお品を、 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、 結婚後初参内した寬仁親王・同妃信子と御対 同妃にお品及び洋服地養産所産 侍従職日誌、 内舎人日誌、 贈

御引見になる。〇女官長日記、 ジリザザ及び同夫人、ニカラグア国特命全権大使ホルへ・ウエソ・カストリーリョ及び同夫人を順次 十八日 火曜日 午前、 正殿梅の間において、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 新任のルワンダ国特命全権大使サンフォリアン・ンテ 内舎人日誌、 謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

になる。 使松岡康弘及び同夫人、バングラデシュ国駐箚特命全権大使大塚博比古及び同夫人の拝謁をお受けに 二十六日 出品になる。 ○女官長日記、 同展には日本画の御作品 水曜日 土曜日 女官長日記、 女官日誌、 午前、 午前、 女官日誌、 侍従日誌、 天皇と共に正殿竹の間において、 宮内庁庁舎講堂にお出ましになり、 侍従職日誌、 「高原初秋 侍従職日誌、 内舎人日誌、重要雑録、 ―たらのき」・「山麓の秋日―がまずみとつくばね」を御 内舎人日誌、 拝謁録、 近く赴任のニカラグア国駐箚特命全権大 発表綴、文化祭目録、香淳皇后のご生涯と作品 宮内庁職員組合文化祭の美術展を御覧 宮殿行事録、 宮内庁庁報

長日記、女官日誌、侍従職日誌、 お受けになる。 終了後、 例会では、 着後、同会会長三条実春の先導により御休所にお入りになり、 御休所脇廊下において同会会員十五名及び首席楽長東儀信太郎霧ヶ・楽長上近正県の拝 双調音取、 木曜日 その後、 午後、 入破、 同会会員等のお見送りを受け楽部玄関を御発、 内舎人日誌、 宮内庁楽部にお出ましになり、糸竹会例会へ御臨席になる。 鳥急、 糸竹会 胡飲酒破残寒、 武徳楽、 貞明皇后御歌の演奏をお聴きになる。 ついで鏡の間に進まれ御着席になる。 吹上御所に還御される。 楽部玄関に御 謁 演奏

なる。 〇女官長日記、 二十八日 金曜日 女官日誌、 午後、 侍従日誌、 天皇と共に鳳凰の間において、この日誕生日を迎えた正仁親王と御対面に 侍従職日誌、 内舎人日誌、 贈賜録

をお受けになる。 天皇と共に春秋の間において、 女官日誌、 侍従日誌、 代表の巽幸彦高等学校校長より挨拶をお受けになり、 侍従職日誌、 文部大臣から表彰された昭和五十五年度教育者表彰被表彰者等 内舎人日誌、 典式録、 拝謁録、 宮殿行事録、 天皇に続いてお言葉を賜う。 宮内庁庁報 Ò 拝謁

# 十二月

二日 ○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、 び同夫人を御引見になる。 日日 火曜日 月曜日 天皇と共に、 午後、正殿梅の間において、 ○女官長日記、女官日誌、 侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、 午後一時十二分御出門になり、 初代キプロス国特命全権大使ディノス・ムスフータス及 侍従職日誌、 内舎人日誌、 四時五十一分須崎御用邸に行啓される。 幸啓録、 謁見録、 須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報 宮殿行事録、 宮内庁庁報

三日 水曜日 寬仁親王妃信子の父麻生太賀吉昨二日死去につき、天皇・皇后が霊前に菓子を賜う。

○女官長日記、贈賜録、毎日新聞

四日 は天皇より先に御用邸へお戻りになる。 木曜 日 午前、 天皇と共にミカン園から展望台道付近を散策され、 御用邸御滞在中、 十日まで毎日、 天皇と共に御用邸敷地内及 植物を御調査になる。 皇后

びその周辺を御調査になる。 ○女官長日記、 女官日誌、 侍従日誌、 内舎人供奉日誌、 須崎御用邸行幸啓録

雍仁親王例祭につき、 午後、 御用邸にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、 女官日誌、 侍従日誌、

誌、内舎人日誌、贈賜録

十日 水曜日 歌道御奨励のため、向陽会に金一封を賜う。○恩賜録

○女官長日記、女官日誌、 木曜日 天皇と共に、午後零時三十五分須崎御用邸を御出門になり、 侍従日誌、 侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、 幸啓録、 須崎御用邸行幸啓録、 四時皇居に還啓される。 発表綴、 宮内庁庁

報

御風気のため、 この日より二十三日まで吹上御所外へのお出ましをお控えになり、 御静養になる。 0

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌

と御対面になる。 十三日 土曜日 女官長日記、 夕刻、 天皇と共に吹上御所において、去る十一月三十日に誕生日を迎えた文仁親 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 贈賜録 王

十五日 月曜日 この年の冷害により、 農作物に特に甚大な被害を受けた北海道 青森県 岩手県

宮城県 福島県に、 天皇・皇后がお見舞金を賜う。○災害お見舞い、発表綴、宮内庁庁報

十六日 火曜日 去る十一月三日の天皇及び共著者五名による御著書 『伊豆須崎の植 物 社刊 行につ

お茶の会はお取りやめになるに変更された。 お茶の会が予定されていたが、 正次始め四名nth四郎は欠席の拝謁をお受けになる。 午後、 天皇と共に吹上御所において、宮内庁長官富田朝彦、 天皇・皇后共に御風気のため、 女官長日記、 なお、 女官日誌、 当初は祝賀として林鳥亭において皇后主催 侍従日誌、 吹上御所における拝謁及び林鳥亭での 及び共著者の東京大学名誉教授本田 侍従職日誌、 内舎人日誌、 典式録、 入江相

政日記、斎藤誠治業務日誌、伊豆須崎の植物、北村四郎選集

十九日 れぞれ金一 金曜日 封を賜う。○社会事業、宮内庁庁報、事業年報 日本赤十字社に天皇・皇后が、 財団法人結核予防会に皇 (日本赤十字社 | 后が、 業御奨励 のためそ

内舎人日誌、 あったが、 皇太子と御対面になり、 二十三日 続いて女官長始め女官、 典式録、 火曜日 天皇・皇后の御風気のため、 贈賜録、 皇太子の誕生日につき、 東宮録、 お礼をお受けになる。なお、当初は宮殿において祝賀をお受けになる予定で 元女官等の祝賀を順次お受けになる。 宮内庁庁報 吹上御所で行われた。〇女官長日記、女官日誌、 午前、 天皇と共に吹上御所において、 ついで天皇と共に同所において、 侍従日誌、 宮内庁長官始め総 侍従職日誌

けになる。 二十四日 ○女官長日記、 水曜日 午前、 女官日誌、 天皇と共に鳳凰の間において、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 京都在住堂上会総代冷泉為安の拝謁をお受 典式録 贈賜録

正殿梅の ドミニカ共和国特命全権大使カルロス・ゴルドン・グスマンを順次御引見になる。 間において、 新任のパプアニューギニア国特命全権大使ジョゼフ・ カール・ノンブリ及び同 女官長日記

女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十五日 木曜日 午前、 大正天皇祭につき、吹上御所において御遙拝になる。 終日、 吹上御所にて

静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、 典式録、 恒例祭祀録、 祭典録、 宮内庁庁報

コゲを御引見になる。〇女官長日記、女官日誌、侍従日誌、 二十六日 金曜日 午前、 正殿梅の間において、新任のガボン国特命全権大使マルタン・ンズエ・ン

天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王妃喜久子と御対面になる。

侍従職日誌、

内舎人日誌、謁見録、

宮殿行事録、

宮内庁庁報

長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、 贈賜録

に先立ち、 二十七日 土曜日 国学院大学教授林陸朗より清和天皇の御事蹟についての進講をお聴きになる。 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 翌年一月十一日の清和天皇千百年式年祭 〇女官長日記:

女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 進講録、 宮殿行事録

祝詞言上をお受けになる。 官より歳末の祝詞言上をお受けになる。ついで皇太子・同妃始め皇族、元皇族、 ○女官長日記、女官日誌、 月曜日 午前、 侍従日誌、 終わって芳菊の間において、 天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官始め総代、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 典式録、東宮録、宮内庁庁報 文仁親王・清子内親王の祝詞言上をお受けに 続いて女官長始め女 御縁故者より歳末の

侍従八木貞二の拝謁をお受けになる。 王と御対面になる。続いて天皇と共に同所において、 三十日 火曜日 午前、 天皇と共に吹上御所において、 女官長日記、女官日誌、 同親王に随行した東宮職御用掛石井米雄・ 昨二十九日にタイ国訪問より帰国した徳仁親 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 宮内庁庁報 東宮

# 昭和五十六年(西曆一九八一年) 七十八歳

### 月

典式録、 妃 • 奉仕者等の祝賀を天皇と共にお受けになる。 いは各祝賀の間に、文仁親王・清子内親王、 判所長官等、 百合子・寬仁親王・宜仁親王・容子内親王、 日 徳仁親王、 宮殿行事録、 木曜日 各国外交使節団の長等の祝賀を順次お受けになる。 正仁親王・同妃華子、 午前九時四十五分より、 東宮録、 宮内庁庁報、官報、斎藤誠治業務日誌 故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃 天皇と共に宮殿において新年祝賀の儀に臨まれ、 ○女官長日記、 元皇族・御縁故者等、宮内庁長官始め部局長等及び側近 続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁 女官日誌、 侍従日誌、 なお、 新年祝賀の儀に先立ち、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 皇太子・同 ある

御会釈を賜う。 午前三回・午後四回 二日 チや小品だけ描かれていることなどが発表される。○年末年始行事、サンケイ、東京新聞、毎日新聞、 新年を迎えるに当たり、宮内庁より皇后の御様子について、 金曜日 ○女官長日記、 新年一般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王、 の計七回、 女官日誌、 長和殿ベランダにお出ましになり、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 腰の具合に変化はないこと、 典式録、 宮殿東庭に参集した一般参賀者に 宮殿行事録、 正仁親王・ 東宮録、 同妃華子と共に、 宮内庁庁報、 絵はスケッ 読売新聞

報、斎藤誠治業務日誌、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記

三日 土曜日 午前、 元始祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 ○女官長日記、 女官日誌、 内舎人日

典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

午後、 天皇と共に吹上御所において、 この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。 女官長日記、 女

官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、贈賜録、入江相政日記

にて、 七日 女官等の祝賀を、 花の間において御学友・御同級生七名の祝賀をお受けになる。 水曜日 新年につき、 ついで宮殿御車寄内において元女嬬等の祝賀をお受けになる。 午後、 天皇と共に鳳凰の間において元皇后宮女官・ ○女官長日記、 元女官・ その後、 女官日誌、 皇后お一方 元皇太后 侍従日誌、 宮

従職日誌、内舎人日誌、入江相政日記

九日 夕餐を御会食になる。 金曜日 天皇と共に吹上御所において、 以後、 この年は概ね毎週金曜日に行われた定例の参殿を始め、 皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・ 随時、 清子内親王と御

家と御対面 ・御会食になる。 女官長日記、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 東宮録

十日 になり、 者代表・入賞校校長等の拝謁をお受けになる。 土曜日 天皇に続いてお言葉を賜う。 午前、 天皇と共に宮殿北溜において、 ○女官長日記、 読売新聞社代表取締役副社長原四郎より挨拶をお受け 女官日誌、 第二十四回日本学生科学賞会主催、読売新聞社後援入賞 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 拝謁録、 典式録、

女官日誌 十一日 侍従日誌 日 曜 日 侍従職日誌、 午前、 清和天皇千百年式年祭につき、 内舎人日誌、 典式録、 臨時祭祀録、 祭典録、 吹上御所において御遙拝になる。 東宮録、 宮内庁庁報、 斎藤誠治業務日 ○女官長日記、

宮殿行事録、

宮内庁庁報、

読売新聞

火曜日 午前、 歌会始の儀が行われる。 皇后は御欠席になる。この年のお題は「音」であり、

皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

朝日岳の裾にひろごる笹原をさわさわわたる風の音をきく

○女官長日記、女官日誌、儀式録、典式録、年末年始行事、宮内庁庁報、官報、斎藤誠治業務日誌

十四日 この年は、月に一、二回程度吹上御所にて行われた御会食を始め、 水曜日 天皇と共に吹上御所において、正仁親王・同妃華子と御夕餐を御会食になる。以後、 随時、 正仁親王・同妃と御対面

御会食になる。 女官長日記、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 ト部亮吾侍従日記

二十日 裕美年の画部企画課企画官及び同職の委嘱を解かれた村田光平国大使館参事官の拝謁をお受けになる。 火曜日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、 この日新たに宮内庁御用掛を委嘱された佐藤 ○女官長日記

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恩賜録

麻生太賀吉死去サニカーエロに伴う喪明け期゚の挨拶をお受けになる。○女官長日記、 二十一日 水曜日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、 寛仁親王妃信子と御対面になり、 女官日誌、 侍従日誌、 同 妃の父

誌、内舎人日誌、御身位録

捧呈式録、

謁見録、宮内庁庁報

ボ 午 ・クワ 後、 ッサン・シャバーナ及び同夫人、 正殿梅の間において、 日 ムンジ及び同夫人を順次御引見になる。 新任のエジプト・アラブ共和国特命全権大使アブデル・ファッター ザンビア国特命全権大使ジョセファット・バー ○女官長日記、 女官日誌、 侍従日誌 ナード・ 侍従職日誌 アカヨン 内舎人日

昭和五十六年二月

天皇と共に芳菊の間において、この度米国の大学に入学する島津禎久天息を伴い参内した島津貴子と

御対面になる。〇女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

侍従職日誌 になる。 子、崇仁親王・同妃百合子と御対面になり、 二十二日 以後、 内舎人日誌 木曜日 この年も皇族・御親族と随時、 夕刻、 天皇と共に吹上御所において、 寒中の御機嫌伺いをお受けになった後、 御対面・御会食になる。〇女官長日記、女官日誌、 故雍仁親王妃勢津子、 宣仁親王・ 御夕餐を御会食 同妃喜久 侍従日誌

二十七日 火曜日 邦彦王輝の祥月命日につき、 吹上御所にて静かにお過ごしになる。 女官長日記、 女

官日誌

三十日 侍従日誌、 侍従職日誌、 金曜日 午前、 内舎人日誌、典式録、 孝明天皇例祭につき、 恒例祭祀録、 祭典録、 吹上御所において御遙拝になる。 宮内庁庁報、入江相政日記 ○女官長日記、 女官日誌

### 二月

侍従職日誌、 東京大学教授山中裕より高倉天皇の御事蹟に関する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、 火曜日 内舎人日誌、 午前、天皇と共に正殿竹の間において、来る六日の高倉天皇八百年式年祭に先立ち、 進講録、 宮殿行事録、 宮内庁庁報、 入江相政日記、 斎藤誠治業務日誌 侍従日誌

四日 記 本富三及び同夫人、 女官日誌、 水曜日 侍従日誌、侍従職日誌、 午前、 ケニア国駐箚特命全権大使小杉照夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。 天皇と共に正殿竹の間において、 内舎人日誌、拝謁録、 宮殿行事録、宮内庁庁報 近く赴任のノルウェー国駐箚特命全権大使有 ○女官長日

大聖寺 ・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・ 霊鑑寺 円照寺・ 中宮寺・ 法華寺・三時知恩寺 長福

寺・善光寺に、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

六日 所にて静かにお過ごしになる。 金曜日 午前、 高倉天皇八百年式年祭につき、 女官長日記、 女官日誌、 侍従日誌、 吹上御所において御遙拝になる。 侍従職日誌、 内舎人日誌、 典式録、 終日、 臨時祭祀録、 吹上御

録、東宮録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌、入江相政日記

九日 政雄及び同夫人、パラグアイ国駐箚特命全権大使大鷹正及び同夫人の拝謁をお受けになる。 女官日誌、 月曜日 侍従日誌、 午前、 侍従職日誌、 天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のキューバ国駐箚特命全権大使塚本 内舎人日誌、 拝謁録、 宮殿行事録、 宮内庁庁報、 入江相政日記 ○女官長日

十日 ○女官長日記、 火曜日 女官日誌、 天皇と共に、 侍従日誌、 侍従職日誌、 午後一 時十二分御出門になり、 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、 四時四十八分須崎御用邸に行啓され 幸啓録、 須崎御用邸行幸啓、 宮内庁庁報 る。

治業務日誌、

富田メモ

舎人供奉日誌、 用邸御滞在中、 木曜日 須崎御用邸行幸啓、 しばしば天皇と共に散策され、 午前、 天皇と共に御車寄からお出ましになり、 入江相政日記 植物を御調査になる。 三井浜まで植物を御調 ○女官長日記、 女官日誌、 査になる。 侍従日誌、 御

十四日 外交慶弔録、 び 同妃ジ 土曜日 ョセフ 宮内庁庁報、 イン ル 官報 クセンブルク国皇太子アンリこの日結婚につき、 シャ ル 口 ッテに祝電をお送りになる。 これに対し、二十一日に答電がある。 天皇・皇后が同国大公ジャン及

二十日 金曜日 天皇と共に、午後零時三十五分須崎御用邸を御出門になり、 四時皇居に還啓される。

○女官長日記、女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、幸啓録、 須崎御用邸行幸啓、 斎藤誠治業務日誌

二十一日 土曜日 午前、 仁孝天皇例祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 女官長日記、

誌 内舎人日誌、 典式録、 恒例祭祀録、祭典録、 宮内庁庁報

天皇と共に鳳凰の間において、 来る二十七日より三月七日までサウジアラビア国及びスリランカ国を

訪問する皇太子・ 同妃の首席随員鹿取泰衛及び随員九名の拝謁をお受けになる。 ○女官長日記、女官日誌

侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、 入江相政日記

二十三日 月曜日 午後、 正殿梅の間において、ポーランド国特命全権大使ズジスワフ・ルラシュ及

天皇と共に鳳凰の間において、この日誕生日を迎えた徳仁親王と御対面になる。 び同夫人を御引見になる。 ○女官長日記、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 捧呈式録、 謁見録、 宮内庁庁報

侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、贈賜録、 宮内庁庁報

二十六日 木曜日 午前、 花の間において、 日本赤十字社社長林敬三の拝謁をお受けになる。 ○女官長

女官日誌、 侍従職日誌 内舎人日誌

午後、 天皇と共に吹上御所において、 翌二十七日よりサウジアラビア国・ 

ち寄りする皇太子・同妃と御対面になる。国に立する皇太子・同妃と御対面になる。 ○女官長日記、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 空港行事録

外交雑録、 贈賜録、 東宮録、 宮内庁庁報、 斎藤誠治業務日誌

りになる。これに対し、三月三日に答電がある。 英国皇太子チャールズ去る二十四日婚約につき、 ○外交慶弔録、 天皇・皇后が同国女王エリザベス二世に祝電をお送 宮内庁庁報 官報、 読売新聞

○女官長日記、

女官日誌

## 三月

三日 使池部健 田泰三及び同夫人、チュニジア国駐箚特命全権大使滝口吉亮及び同夫人、 火曜 の拝謁をお受けになる。 Ħ 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 ○女官長日記、 女官日誌、 侍従日誌、侍従職日誌、 近く赴任のグアテマラ国駐箚特命全権大使浅 内舎人日誌、 フィジー国駐箚特命全権大 拝謁録、 宮殿行事録

三十二年から四十年、 元歌会始詠進歌選者松村英一去る二月二十五日死去につき、天皇・皇后が祭粢料を賜う。 四十三年から四十四年まで選者を務めた。 ○○思場最 贈賜録、宮内庁庁報 松村は昭和

宮内庁庁報

五日 赤十字社病院 木曜日 ・恩賜財団済生会病院の救助収容患者に合わせて手拭い七千二百九十一本を賜う。 翌六日に満七十八歳のお誕生日を迎えられるに当たり、 この É 思召しをもって日

事業年報(日本赤十字社

東久邇稔彦聡子の・ 付けられる。 東久邇聡子三年式年祭につき、 また、天皇・皇后が、 同信彦の孫に菓子を賜う。○女官長日記、 豊島岡墓地における霊舎祭及び墓所祭の御代拝を女官市 霊舎に菓子を、 墓所に榊をお供えになり、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 さらに、 内舎人日誌、 お尋ねとして 村菊重に仰 せ

六日 金曜日 満七十八歳のお誕生日を迎えられる。

賀をお受けになる。 いで花の間において、参与宇佐美毅・森永貞一郎、 下において女嬬・ 芳菊の間において、 その後、 雑仕の祝賀を、 宮内庁長官始め各部局長等、 御車寄前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員の祝賀を、 芳菊の間において元側近奉仕者、 続いて徳仁親王始め皇族、 続いて側近奉仕者の祝賀をお受けになる。 続いて元皇后宮女官・元女官 元皇族、 御縁故者の祝 女官候所前 0

において、 続いて御学友・御同級生七名、 元皇太后宮女官等の祝賀を、御車寄内において元女嬬等の祝賀を、花の間において元御用掛有島暁子、 内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等及びその配偶者の祝賀をお受 東久邇文子始め御親族の祝賀を順次お受けになる。 正午、 正殿梅の間

けになる。

午後、 女官長日記、 崇仁親王・同妃百合子・容子内親王、 に吹上御所において、徳仁親王、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、 富田メモ 天皇と共に吹上御所において、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 文仁親王・清子内親王の祝賀をお受けになる。 内舎人日誌、 鷹司和子、 典式録、 島津久永・同夫人貴子と御晩餐を御会食になる。 儀式録、 東宮録、 宮殿行事録、 宮内庁庁報、 夕刻、 斎藤誠治業務日 天皇と共

お誕生日に当たり、宮内庁より皇后の御様子について、 ことなどが発表される。 トを着用されていること、 室内では主に静物をスケッチされ、 〇内廷皇族誕生日綴、朝日新聞、 御散策では時々木の実を拾われるなどかなり御自由にお歩きになってい 色を塗らないデッサンのようなものをお描きになっている サンケイ、 痛められた腰の経過は順調であるがコルセ 東京新聞、 日本経済新聞、

七日 訪問から帰国した皇太子・同妃と御対面になる。 土曜日 御夕餐後、 天皇と共に吹上御所において、この日サウジアラビア国及びスリランカ国 ○女官長日記、女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、

賜録、

宮内庁庁報

力国 九日 |訪問における首席随員鹿取泰衛及び随員九名の拝謁をお受けになる。 月曜日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、 皇太子・同妃のサウジアラビア国及びスリラン ついで天皇と共に宮殿御車

宮内庁庁報

寄内において、 随行員九名の拝謁をお受けになる。 ○女官長日記、女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌

内舎人日誌、 る。 を、 十三日 女官長日記、 供えになる。 この日、 ン及び王族パヌ・ユガラと御会見になる。この来訪に際し、 これに対し、 王女に佐賀錦ハンドバッグション唐草模様を、王族パヌ・ユガラに七宝花瓶桃文様を御 十五日には王妃より皇后にバラの切り花の御贈進がある。 金曜日 侍従職御用 侍従日誌、 外賓参内録、 また別に天皇・ タイ国王妃より天皇・皇后に御贈進の品があり、 正午、天皇と共に正殿竹の間において、タイ国王妃シリキット、 恩賜録、 滑富山 外交贈答録、 宮内庁庁報、 郎死去につき、天皇・皇后が祭粢料を賜い、 皇后がお品を賜う。 恩賜録、 斎藤誠治業務日誌、 宮殿行事録、 東宮録、 富山は、 おほうなばら、 宮内庁庁報、 長年にわたり天皇の御研究に奉仕した。 天皇・皇后よりタイ国王妃に銀製宝石箱 ○女官長日記、 魚類学雑誌、 入江相政日記、 皇后には扇子が贈られる。 動物学雑誌、 女官日誌、 霊前に切り花・ 斎藤誠治業務日誌、 第三王女チュラポー 侍従日誌、 毎日新聞 押物等をお 侍従職日誌 贈 読売新聞 真崎秀樹英 進にな また別

十四日 「同国についての進講をお聴きになる。 土曜日 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 ○女官長日記、 女官日誌、 タンザニア国駐箚特命全権大使津 侍従日誌、 侍従職日誌 内舎人日誌、 進講録、 田 |天瑞よ

利雄及び同夫人の拝謁をお受けになる。 月曜日 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 〇女官長日記、 女官日誌、 近く赴任のシリア国駐箚特命全権大使多田 侍従日誌 侍従職日誌 内舎人日誌、 宮殿

行事録、

宮内庁庁報

行事録、

東宮録、

斎藤誠治業務日誌

文日記

バラゲ 花瓶赤透釉四を、 内舎人日誌、 大統領夫妻が入京した際に、 の品があり、 侍従日誌 対面になる。 侍従職日誌、 ニエレ 火曜日 水曜日 タンザニア国大統領閣下同夫人接待書類、 なお、 皇后にはウリ科の植物の実で作った壺及び人物像の版画質が贈られる。 同夫人に七宝宝石箱クリーム地を御贈進になる。 レ及び同夫人マリアと御会見になる。 午後、 午前、 内舎人日誌、 天皇・皇后より同親王に万那料及びお品料を御贈進になる。 天皇と共に正殿竹の間において、 天皇と共に吹上御所において、この日学習院中等科を卒業した文仁親王と御 贈賜録、 皇后より夫人に花束を贈られる。 皇族御身分録、 外賓参内録、 東宮録、 外交贈答録、 この来訪に際し、 宮内庁庁報、 国賓タンザニア国大統領ジュリアス・カン また大統領夫妻より天皇 ○女官長日記、 恩賜録、 斎藤誠治業務日誌、 宮内庁庁報、 天皇・皇后より大統領に七宝 女官日誌、 昭和天皇最後の侍従日記 官報、 女官長日記、 侍従日誌、 なお、 斎藤誠治業務日誌 ・皇后に御贈 侍従職日誌 昨 十七日

真崎秀樹英文日記、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞

催の 二十日 従職日誌、 玉 オ ービ 天皇と共に吹上御所において、 ーストリア国を旅行する寬仁親王・同妃信子と御対面になる。 内舎人日誌、 金曜日 ルマ平和記念碑竣工並びに追悼式」が行われるにつき、 来る二十八日、 寛仁親王同妃両殿下カナダ・ノールウェー・英国・オーストリア御旅行関係記録、 ビルマ国ラングーン市のチャンドウ日本人墓地において、 来る二十七日より四月十六日までカナダ国 天皇・皇后が生花を賜う。 ○女官長日記、 ・ノルウェー 贈賜録、 女官日誌、 宮内庁庁報 侍従日誌、 厚生省主 ○恩賜録 · • 英

日記、 二十一日 女官日誌、 土 侍従日誌、 雇日 午 侍従職日誌、 前 春季皇霊祭及び同神殿祭につき、 内舎人日誌、 典式録、 恒例祭祀録、 祭典録、 吹上御所において御遙拝になる。 東宮録、 宮内庁庁報、 斎藤誠治業務日誌

発表綴

ディン・ビン・ハジ・アブ・バカール及び同夫人を御引見になる。 月曜日 午前、 正殿梅の間において、新任のマレーシア国特命全権大使ダトウ・ジャマル 女官長日記、 女官日誌、 侍従日誌 侍従職

日誌、内舎人日誌、捧呈式録、謁見録、宮内庁庁報

侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、東宮録、 崇仁親王・同妃百合子・容子内親王、鷹司和子と御晩餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌 吹上御所において、徳仁親王、正仁親王・同妃華子、 去る七日にサウジアラビア国及びスリランカ国訪問より帰国した皇太子・同妃のために、天皇と共に 斎藤誠治業務日誌 故雍仁親王妃勢津子、 宣仁親王・同妃喜久子、

二十四日 女官長日記、 火曜日 女官日誌、 天皇と共に、 侍従日誌、 侍従職日誌、 午後一時十二分御出門になり、 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、 四時四十八分須崎御用邸に行啓され 幸啓録、 須崎御用邸行幸啓、 宮内庁庁報

斎藤誠治業務日誌

物を御調査になる。 二十六日 女官日誌、 木曜日 侍従日誌、 内舎人供奉日誌 御用邸御滞在中、 午後、 三井浜にお出ましになり、先着された天皇と合流の上、 須崎御用邸行幸啓、入江相政日記 しばしば天皇と共に散策され、 植物を御調査になる。○女官長日 附属邸付近まで植

る。 三十一日 卜部亮吾侍従日記、 女官長日記、 火曜日 斎藤誠治業務日誌 女官日誌、 天皇と共に、 侍従日誌 午後零時三十五分須崎御用邸を御出門になり、 侍従職日誌 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 須崎御用邸行幸啓、宮内庁庁報 四時皇居に還啓され

### 四月

表彰された結核予防事業功労者の拝謁はお取りやめになる。 日日 木曜日 御風気につき御仮床に就かれ、 この日予定されていた、 十四日より平常に復される。 財団法人結核予防会総裁から 女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、拝謁録、発表綴、皇太后陛下御健康

四日 土曜日 この日バザーを開催する常磐会に切り花を賜う。 ○贈賜録

七日 火曜日 この度学習院中等科を卒業し高等科へ進学する文仁親王に、 天皇・皇后が万那料 お

十日 品料を賜う。 金曜日 また、皇太子・同妃に五種交魚代料を賜う。 桃華楽堂においてこの日行われた昭和五十五年度音楽大学卒業生演奏会の出演者十二 女官長日記、 贈賜録、 皇族御身分録

音楽大学卒業生演奏会、発表綴

名に、

御紋付銀製スプーンを賜う。

なお、

皇后は御風気により御臨席をお取りやめになる。

○恩賜録

弔問使として侍従田中直を静岡県熱海市の朝香邸に差し遣わされ、 月曜日 霊前に盛花をお供えになる。 天 皇 · 皇后が また

十五日には、 別に皇后が果物をお供えになる。これより先、七日には、病気お尋ねとして天皇・皇后が果物を賜う。 天皇・皇后が賜物使・柩前使として侍従卜部亮吾を本通夜が行われる白金迎賓館本館四朝

七日には、 皇后が葬場使として侍従小林忍を豊島岡墓地に差し遣わされる。

朝香孚彦鳰慮のに祭資を賜い、また霊前に白羽二重・榊・菓子をお供えになる。

+

邸に差し遣わされ、

朝香鳩彦は、 朝彦親王の第八王子として明治二十年に誕生、三十九年に朝香宮の称号を下賜され、 兀

将となる。 十三年に明治天皇第八皇女允子内親王と結婚する。 二十二年に皇族の身分を離れ、 朝香姓を名乗る。 近衛師団長などの諸職を経て昭和十四年に陸軍大 享年九十三。 ○女官長日記、 女官日誌、 侍従日誌

侍従職日誌、贈賜録、大勲位朝香鳩彦殿葬儀録、墓誌銘録、発表綴、斎藤誠治業務日誌

なお、 天皇・ 誌、侍従日誌、 皇后より大公に有田焼花瓶度鍋島帯を、 正午前、 去る十一日に大公・同妃が入京した際に、 皇后に御贈進の品があり、 天皇がモナコ国大公レーニエ三世及び同妃グレースと御会見になる。この来訪に際し、 侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、 皇后には押し花の絵入り書籍、 同妃に七宝宝石箱カクリーム地を御贈進になる。 外交贈答録、 皇后より同妃に花束を贈られる。 恩賜録、宮内庁庁報 ハンドバッグ、スカーフが贈られる。 また大公・ 〇女官長日記、 同 記起より 天皇・ 女官日

十六日 人日誌、 上の品があり、 ドゥー 外賓参内録、 ン及び同夫人セアを御引見になる。この来訪に際し、 木曜日 皇后には手織りのショールが献上される。 外交贈答録、宮殿行事録、 午前、 天皇が外務省賓客ニュージーランド国首相ロバート・デイヴィッド 宮内庁庁報、 真崎秀樹英文日記 ○女官長日記、 同国首相及び同夫人より天皇 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 皇后に献 · 内舎

十七日 行事録、 「同国についての進講をお聴きになる。 宮内庁庁報、 金曜日 入江相政日記、 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 斎藤誠治業務日誌 女官長日記、 女官日誌、 デンマーク国駐箚特命全権大使高橋 侍従日誌、 侍従職日誌 内舎人日誌、 進講録、 展子よ

官日誌、 リムソル、 二十日 侍従日誌 月曜日 ベトナム国特命全権大使グエン・ティエン及び同夫人を順次御引見になる。 侍従職日誌、 午前、 正殿梅の間において、 内舎人日誌、 捧呈式録、 謁見録、 新任のオーストラリア国特命全権大使ジ 宮殿行事録、 宮内庁庁報 ○女官長日記、 エームス・プ

日誌、 午後、 天皇と共に吹上御所において、 御引見になる。 面 がこの日になったのは、 侍従日誌、 正 殿梅の間において、 侍従職日誌、 ○女官長日記、 · 内舎人日誌、 朝香鳩彦死去に伴い皇后が七日間服喪されたことによる。 女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、 新任のドイツ連邦共和国特命全権大使クラウス・ブレッヒ及び同夫人を 去る十八日に誕生日を迎えた清子内親王と御対面になる。 贈賜録、 宮内庁庁報 内舎人日誌、捧呈式録、 謁見録、 宮殿行事録、 ○女官長日記、 なお、 宮内庁庁報 御対

二十一日 火曜日 午後、 天皇と共に正殿竹の間において、 国賓デンマーク国女王マルグレ ・テニ世

と即を質が贈られる。 三年に同章が贈られる。 及び王配ヘンリックと御会見になる。 この来訪に際し、 その際、 天皇・皇后より女王に九谷焼飾壺塩寒色吉野を、 相互儀礼叙勲があり、 皇后には白象勲章、天皇は大正十皇后には白象勲章がフィーク国の最高 王配に 有田焼飾

天皇・ た際に、 皇后に御贈進の品があり、 皇后より女王に花束を贈られる。 皇后にはミンクのストールが贈られる。 ○女官長日記、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 なお、 内舎人日誌、 女王・王配が入京し 外賓参内録

皿
露草文を御贈進になる。さらに皇后より女王に絹地
東山御養蚕所産を御贈進になる。
血色鍋鳥を御贈進になる。

接待書類、 外交贈答録、 恩賜録、 贈賜録、 国公賓綴、宮内庁庁報、官報、 入江相政日記、斎藤誠治業務日誌

受けになる。 ○女官長日記、 女官日誌、 侍従日誌 侍従職日誌、 内舎人日誌、 典式録、 入江相政日記

二十二日

水曜日

午前、

天皇と共に鳳凰の間において、

新任の皇宮警察本部長橋本佑三

一の拝謁をお

ŋ 育班員及び愛育班育成功労者等十九名の拝謁をお受けになる。 二十三日 お言葉を賜う。 木曜日 午前、 なお、 同会総裁又は会長から表彰された者の拝謁をお受けになるのは、 波の間において、 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会総裁又は会長表彰の愛 代表の金子忠子より挨拶をお受けにな この年が

また女王・王配

より

最後となる。 女官長日記、 女官日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 拝謁録、 宮殿行事録、発表綴、 宮内庁庁報

午後、 旅行より帰国した寬仁親王・同妃信子と御対面になり、 天皇と共に吹上御所におい て、 去る十六日にカナダ国 挨拶をお受けになる。 ・ノルウェー国 ○女官長日記、女官日誌、 英国・オーストリア国

日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

官・ おいて東久邇文子始め御親族の祝賀を順次お受けになる。 故者の祝賀をお受けになる。 側近奉仕者の祝賀をお受けになる。 二十九日 典式録、恩賜録、 元皇太后宮女官等の祝賀をお受けになる。 水曜日 宮殿行事録、天皇陛下満八十歳祝賀行事関係、天皇陛下八十歳記念行事、東宮録、 天皇誕生日につき、 その後、 ついで正殿梅の間において皇太子・同妃始め皇族・元皇族 天皇と共に花の間前において女嬬・雑仕の祝賀を、 午前、 ○女官長日記、 天皇と共に芳菊の間において、 さらに同所において、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 侍従長及び女官長始 宮内庁庁報、 元皇后宮女官・元女 内舎人日誌、 入江相政日記. 鳳凰の ※ 御縁 間に

兀 天皇誕生日 回 女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、 長和殿ベランダにお出ましになり、 般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王、 宮殿東庭に参集した 宮内庁庁報、 官報 般参賀者に御会釈を賜う。 正仁親王・同妃華子と共に、 ○女官長日 午前中

斎藤誠治業務日誌、

真崎秀樹英文日記

記 0 天皇と共に吹上御所において、 御夕餐を御会食になる。 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 なお、 内舎人日誌、 皇太子・同妃・徳仁親王・清子内親王、 天皇誕生日に当たり、 典式録、 内廷皇族誕生日天皇陛下 天皇にお祝い の品をお贈りになる。 正仁親王・同妃華子とお祝い ○女官長日

日

太郎及び同夫人、 金曜日 午前、 大韓民国駐箚特命全権大使前田利一及び同夫人、 天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のイラン国駐箚特命全権大使高 モロッコ国駐箚特命全権大使内田

橋

正

園生及び同夫人の拝謁をお受けになる。 女官長日記、 女官日誌、侍従日誌、 侍従職日誌 内舎人日誌、

行事録、 宮内庁庁報

この日より十月三十一日まで第二十六回ユニセフ学校募金運動を実施する財団法人日本ユニセフ協会

封を賜う。 ○社会事業、 発表綴、宮内庁庁報

六日 水曜日 午前、 紅葉山御養蚕所にお出ましになり、 御養蚕始の儀を行われる。

日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 発表綴、 斎藤誠治業務日誌

七日 木曜日 天皇と共に、 午前十時二分御出門になり、 多摩陵皇陵及び多摩東陵后陵に 行 啓

れる。 に、 御休所において御昼餐の後、 天皇の御拝礼が終わった後、 午後二時七分還啓される。 続いて皇后が多摩陵、 ついで多摩東陵を御拝礼になる。 ○女官長日記、女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 天皇と共

舎人日誌、 幸啓録、 行幸啓録 臨時祭祀録、 典式録、 宮内庁庁報、 入江相政日記、 斎藤誠治業務日誌

紅葉山御養蚕所にお出ましになり、

御給桑になる。

○女官長日記、

女官日誌、

日誌、侍従職日誌、 内舎人日誌、 斎藤誠治業務日誌

月曜日

午 前

火曜日 ドイツ連邦共和国元大統領夫人ヴィルヘルミーネ・リュプケ去る三日死去につき、

天皇・皇后から弔意を遺族に伝えるよう御下命があり、 この日、 宮内庁長官より外務大臣にこの旨が

昭 和五十六年五月 通知される。

○外交慶弔録

さ

女官長日記、

十三日 前田は、 水曜日 過日米寿を迎えた際に、 午後、 花の間において前田する。故前田青邨夫人、 皇后より賜りがあったことへのお礼のため参内した。 ・平山郁夫の拝謁をお受けになる。 女官長日記、 なお

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

庁庁報 十六日 の拝謁をお受けになる。 土曜日 午前、 ○女官長日記、女官日誌、 天皇と共に鳳凰の間において、 侍従日誌、 侍従職日誌、 去る十四日に退職した前皇室経済主管中 内舎人日誌、 典式録、 恩賜録、 御写真録、 -野晟

十七日 日曜 日 貞明皇后三十年式年祭につき、午前、 吹上御所において御遙拝になる。 〇女官長日記

女官日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

故雍仁親王妃勢津子、 貞明皇后三十年式年祭に当たり、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃、 宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子、 鷹司和子、 正仁親王・同妃華子、 池田厚子、 島津久

宮録、斎藤誠治業務日誌

永 •

同夫人貴子と御晩餐を御会食になる。 〇女官長日記、

女官日誌、

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、

侍従職日誌、 十八日 なお、 月曜日 内舎人日誌、 皇后の外国賓客との御会見・御引見は、 正午前、 外賓参内録、 天皇と共に正殿竹の間において、 外賓接待録、 皇族雑録、宮殿行事録、 これが最後となる。 宮内庁庁報、 ベルギー国王弟アルベールと御会見にな 真崎秀樹英文日記 女官長日記、 女官日誌、

午後、 紅葉山御養蚕所にお出ましになり、 四齢の蚕を御覧になる。〇女官長日記、女官日誌、 侍従職日誌、 内舎

人日誌

二十日 水曜日 この日、 翌二十一日より二十六日まで日本橋高島屋において開催される財団法人日

本ばら会主催の 「春の日本ばら会展」に、 吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。

二十三日にも御出品になる。〇女官長日記、女官日誌、 贈賜録、 発表綴

淳治より同国に関する進講をお聴きになる。○女官長日記、 木曜日 午前、 天皇と共に正殿竹の 間において、 女官日誌、 ドイツ民主共和国駐箚特命全権大使山 侍従日誌、 侍従職日誌 内舎人日誌 田

宮殿行事録、宮内庁庁報、 入江相政日記、 斎藤誠治業務日誌

午後、 デ・ヴェラスコ及び同夫人を御引見になる。 正殿梅の間において、新任のスペイン国特命全権大使エドゥアルド・イバニェス・イ 女官長日記、 女官日誌、 侍従職日誌、 ガルシ

内舎人日誌、

見録、 宮殿行事録 発表綴 宮内庁庁報

皇・皇后が同省に生花を賜う。 来る二十五日、 千鳥ヶ淵戦没者墓苑において厚生省主催の拝礼式並びに納骨が行われるに当たり、 ○恩賜録、宮内庁庁報 天

畝傍陵墓監区事務所所蔵資料 ○女官長日記、女官日誌、 いてお聞きになる。 御泊所竹林院群芳園に御到着になる。 き御拝礼になる。 視察のため、 東京駅より京都駅を経て近鉄橿原神宮前駅に御到着になる。 金曜日 天皇と共に奈良県及び兵庫県に行啓される。 終わって近鉄橿原神宮前駅より近鉄吉野駅を経て、 その後、 侍従日誌、 奈良県において開催される第三十二回全国植樹祭に御臨場、 地方行幸啓、 天皇と共に竹林院群芳園園主福井良盈の案内により庭園を御散策になる。 侍従職日誌、 宮内庁庁報、 御少憩後、 内舎人日誌、 官報、 内舎人供奉日誌、 入江相政日記、 奈良県知事上田繁潔より天皇と共に県勢の概要につ 天皇と共に、 斎藤誠治業務日誌、 幸啓録、 それより神武天皇陵戦時世を天皇に続 奈良県・兵庫県下行幸啓綴、 午後四時十九分吉野郡吉野町 午前九時三十三分御出門にな 第三二回全国植樹祭 併せて地方事情を御 臨時祭祀録

庁庁報、 テルにお戻りになる。 を終えた大仏殿内に進まれ、 テルに御到着になる。 組合連合会の木材展示場を御視察になる。 お受けになる。 二十三日 る春日山原始林内を御散策になる。 官報、 土曜日 吉野町役場所蔵資料、 女官長日記、 天皇と共に、 その後、 御昼餐の後、 女官日誌、 東大寺所蔵資料、 盧舎那仏の お一方にて円照寺門跡の山 午前九時十五分御泊所竹林院群芳園 侍従日誌、 天皇と共に春日奥山に向かわれ、 蓮華台前 ついで東大寺に御着になり、 入江相政日記、 終わって近鉄 内舎人供奉日誌、 までお登りになる。 第三二回全国植樹祭 吉野駅より近鉄奈良駅を経て、 幸啓録、 本静山 奈良県・兵庫県下行幸啓綴 中宮寺門跡 午後四時三十七分御泊所奈良 御 国の特別天然記念物に指定され を御出発になり、 少憩後、 0 日 昨五十五年に大修理 野 西 吉野木 地方行幸啓、 光尊の拝謁 御泊所奈 材協 良 同

なる。 観音立像等を御覧になる。 続いてお手播き床に進まれ、 により、 ま 着席され、 お席におい 火野に御到着になる。 二十四日 ñ る。 アホテル 天皇は吉野スギの種子をお手播きになる。 イチイガシの苗木一本をお手植えになる。 奈良県婦 表彰 て鹿寄せを御覧になる。 日 曜日 に御到着になる。 天皇の 人代表小 天皇と共に、 明治四十一 お言葉・第三十二回全国植樹祭大会会長福田一 出縫 終わって近鉄奈良駅より新神戸駅を経て、 奈良県婦人代表増田清子の介添えによりヤマザクラの種子をお手播きに 御 年陸軍特別大演習時の明治天皇玉座跡を御覧になった後、 昼餐後 午前九時十五分御泊所奈良ホテルを御出発になり、 林業後継者代表小林千代香・みどりの 次に全国植樹祭会場である平城宮跡に御 拝謁室に 次に法華寺を御訪問 天皇もイチイガシの苗木一本をお手植えになる。 お ľ て兵庫県知事坂井時忠より 午後零時 になり、 少年団: の答辞の後、 臨場になり、 本堂の 1代表川 五十分御泊 小県勢 国宝木造 奈良公園 口美帆の お手植え地に (T) お野立 概要につ 所神戸ポ 天幕内 介添え 内 0 疵

宮内庁庁報、 ルにお戻りになる。 続いて兵庫県館に移られ、御着後、 てお聞きになる。ついで神戸ポートアイランド博覧会場のテーマ館に臨まれ、 官報、 奈良県庁所蔵資料、春日大社所蔵資料、 ○女官長日記、女官日誌、 天皇とお別れになり、 侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、 法華寺所蔵資料、 先にお一方にて御泊所神戸ポートピアホテ 入江相政日記、 奈良県・兵庫県下行幸啓綴、 神戸ポートアイランド博覧会公式記録 各展示等を御覧になる。 地方行幸啓

第三二回全国植樹祭天皇皇后両陛下来県写真集、 春日、奈良県民だより、 奈良市民だより、第三二回全国植樹祭

奉日誌、 神戸ポートピアホテルにお戻りになる。午後一時六分御泊所を御出発になり、 博覧会会場 新交通ポ 二十五日 幸啓録、 午後五時二十一分皇居に還啓される。○女官長日記、 ートアイランド線の市民広場駅に向かわれる。 月曜日 奈良県・兵庫県下行幸啓綴、 神戸港・神戸市街を御覧になり、 天皇と共に、 午前九時二十分御泊所神戸ポートピアホテルを御出発になり、 地方行幸啓、 宮内庁庁報、 中公園駅に御到着になる。 官報、 女官日誌、侍従日誌、 同駅よりポートライナーに御乗車、 入江相政日記 侍従職日誌、 それよりお一方にて御泊所 新神戸駅で天皇と合流 内舎人日誌、 車中 内舎人供 から 神戸

更生者及び更生援護功労者等の拝謁をお受けになる。 をお受けになるのは、 二十六日 天皇に続いてお言葉を賜う。 宮殿行事録、 火曜日 宮内庁庁報、 午後、 この年が最後となる。 天皇と共に春秋の間において、 入江相政日記 なお、 皇后が身体障害者の自立更生者及び更生援護功労者等の拝謁 女官長日記、 更生援護功労者石井春教より挨拶をお受けにな 女官日誌、 厚生大臣から表彰された身体障害者の 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 自立

になる。 この来訪に際し、 水曜日 午前、 天皇 天皇が国賓ドイツ民主共和国国家評議会議長エーリヒ・ホネカー 皇后より同議長夫人に図録 『宮殿』 版を御贈進になる。 また同 と御会見

主共和国国家評議会議長閣下接待書類、外賓参内録、外交贈答録、恩賜録、 同 より天皇・皇后に御贈進の品があり、 議長夫人に 『桃苑画 集 を御贈進になる。 皇后にはマイセンのオウムの置物が贈られる。 ○女官長日記、 女官日誌 贈賜録、 宮内庁庁報 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 また、皇后より ドイツ民

明治神宮会館において開催の昭和五十六年度全国赤十字大会に、 御名代として皇太子妃を差し遣わさ

れ、

次の

お言葉を賜う。

増進のために大きな力となつておりますが、 使命を果たしていることは、皆さんの尽力によるものと心から満足に思います。 赤十字は、 本日ここに、昭和五十六年度全国赤十字大会が盛大に開かれたことを大変うれしく思います。 国際的な強いきずなのもとに、人道的事業を推進し、広く世界の人々の平和と福祉 日本赤十字社が国際赤十字の一員として、立派にそ

いに力を合わせて、 日本赤十字社の役割は、これからますます大きくなつていくものと思いますので、 一層力強い活動を進められるよう希望してやみません。 皆さんが互

正午過ぎ、 女官日誌、 吹上御所において、 幸啓録、 発表綴、 宮内庁庁報、 同大会への臨席を終えた皇太子妃より復命をお受けになる。○女官長日 事業年報(日本赤十字社)

る。 昼餐を御会食になる。 お出ましになる。 三十日 ○女官長日記、 土曜日 女官日誌、 天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王始め皇族・元皇族等と御 皇太子・同妃が主催する天皇の傘寿の奉祝会に御臨席のため、 御食後、 侍従日誌、 東京アマチュア・マジシャンズ・クラブ会員等による手品を御覧にな 侍従職日誌、 内舎人日誌 贈賜録、 東宮録、 発表綴、 宮内庁庁報、 天皇と共に花蔭亭に 斎藤誠治業務日誌

TAMC五〇年のあゆみ

三十一日 日曜日 故朝香鳩彦五十日祭に当たり、 午後、 吹上御所にて静かにお過ごしになる。

### 六月

長日記、

女官日

れる。 三日 録 御 天皇がお一 た旧御料地の模範林内に、 望になり、 を経て、 泊所木暮旅館にお戻りになる。 群馬県行幸啓録、 御休所様において群馬県知事清水一 水曜 伊香保町の御泊所木暮旅館に御到着になる。 方にて園内を御巡覧の 日 ついで榛名山沼ノ原に移られ植物を観察される。 天皇と共に、 地方行幸啓、 宮内庁庁報、 去る昭和五十四年に完成した同公園の概要についてお聞きになる。 午前九時五十分御出門になり、 ○女官長日記、 間 官報、 皇后は御休所において休憩される。 群馬県庁所蔵資料、 郎より、 女官日誌、 大正十三年の御成婚を記念して群馬県に下賜され 御昼餐後、 侍従日誌、 入江相政日記、斎藤誠治業務日誌、 それより群馬県立伊香保森林公園に 群馬県に行啓される。 侍従職日誌、 榛名湖畔に向かわれ湖の景色を御 内舎人日誌、 天皇と共に午後五時九分、 原宿駅より渋川 内舎人供奉日誌、 昭和 幸啓 展 駅

地 校に菓子を賜う。 名養護学校を訪問され、 四 ついで同村の群馬県椎茸農業協同組合長清水次郎宅の温室を訪問され、 В  $\overline{\mathcal{O}}$ 御視察に向かわれる天皇をお見送りになる。 木曜日 午後三時五十三分、 天皇と共に、 御泊所に戻られ御昼餐の後、 校内を御視察になる。 午前十時二十九分御泊所木暮旅館を御出発になり、 再び御泊所木暮旅館 なお、 北群馬郡榛東村の 夕刻、 にお戻りになり、 この度の御視察につき、 御泊所にお戻りの天皇と共に、 群馬県林業試験場を御視察になる。 御少憩後、 シイタケ等の栽培状況を御覧 天皇・皇后が同養護学 引き続き旧伊香保御料 渋川 市 玄関前 0 群馬県立 0 野鳥

ぐんま、

林業試験場三十年のあゆみ、林業ぐんま

官報、 舎を御覧になる。 群馬県庁所蔵資料、 女官長日記、 群馬県林業試験場所蔵資料、 女官日誌、 侍従日誌、 入江相政日記、 内舎人供奉日誌、 群馬県立榛名養護学校行幸啓記念誌、 幸啓録、 群馬県行幸啓録、 地方行幸啓、 榛養PTA会報、 宮内庁庁報、

五日 群馬県行幸啓録、 午後三時五十三分皇居に還啓される。 になったクロ 聞きになる。 士見村中央公民館を訪問され、 金曜日 幸啓録、宮内庁庁報、 御昼餐の後、 マツ等を御覧になり、 天皇と共に、 緑の週間記念植樹式跡地の植樹行事の会場跡にお着きになり、 午前十時二十九分御泊所木暮旅館を御出発になり、 官報、 下仁田町立西中学校校長里見哲夫より赤城山の植 群馬県庁所蔵資料、 ク ○女官長日記、 口 マツ林を御散策になる。 女官日誌、 入江相政日記、 侍従日誌、 斎藤誠治業務日誌 終わって前橋駅より 侍従職日誌、 内舎人日誌、 勢多郡富士見村 生に関 か 原宿駅を経 内舎人供奉日誌 つてお手植え する説明をお 0 富

職日誌 六日 土曜 日 午前、 紅葉山御養蚕所にお出ましになり、 繭搔きをされる。 ○女官長日記、 女官日 誌 侍従

なる。 八日 誌 餐を催される。 十二日 信之及び同夫人、 女官日誌、 典式録、 月曜日 ついで連翠南においてお茶の席を設けられる。 金曜日 菊栄親睦会録. 侍従日誌、 席上、 午前、 カタール国駐箚特命全権大使野草茂基及び同夫人の拝謁をお受けになる。 天皇と共に連翠北において、 侍従職日誌、 宮殿行事録、 同親睦会より天皇の八十歳、 天皇と共に正殿竹の間において、 内舎人日誌、 東宮録、 宮内庁庁報、 拝謁録、 皇太子・ 宮殿行事録、 入江相政日記 皇后の七十七歳のお祝い 女官長日記、 同妃始め菊栄親睦会会員をお招きになり、 近く赴任のオランダ国駐箚特命全権大使中島 宮内庁庁報、 女官日誌 斎藤誠治業務日誌 侍従日誌 . の 献上品目録をお受けに 侍従職日誌、 ○女官長日 内舎人日 午

天皇と共に鳳凰の間において、 ○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、 使大和田渉及び同夫人、ジンバブエ国駐箚特命全権大使佐々木正賢及び同夫人の拝謁をお受けになる。 火曜日 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のスウェーデン国駐箚特命全権大 新任の皇室経済主管宮尾盤始め三名の拝謁をお受けになる。○女官長日 官報、入江相政日記

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、 内舎人日誌、典式録、 例規録、 宮内庁庁報、 官報

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、 十七日 水曜日 天皇と共に、午後一時十二分御出門になり、四時四十八分須崎御用邸に行啓される。 侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、 幸啓録、 須崎御用邸行幸啓録、 宮内庁庁報、

しばしば天皇と共に散策され、 木曜日 午後、天皇と共にお成道付近を散策され、 植物を御調査になる。○女官長日記、 植物を御調査になる。 女官日誌、 侍従日誌、 御用邸御滞 内舎人供奉日誌、 在中、 須崎

御用邸行幸啓録、

斎藤誠治業務日誌

誠治業務日誌

元国立松山病院総看護婦長梅本勝子、元国立大分病院総看護婦長津末ミスエ病院看護婦の三名にナイチ 章授与式に、御名代として皇太子妃を差し遣わされる。元日本赤十字社熊本支部救護看護婦長松守敏 ンゲール章記及び記章を授与され、次のお言葉を賜う。 火曜日 東京プリンスホテルにおいて開催の第二十八回フローレンス・ナイチンゲール記

本日ここに、第二十八回フローレンス・ナイチンゲール記章の授与式が行われますことを、大

変うれしく思います。

このたび、松守敏、 梅本勝子、 津末ミスエの三名の方々が、 赤十字国際委員会から看護婦とし

身的努力のたまものであり、 であります。 て最高の名誉であるフローレンス・ナイチンゲール記章を贈られましたことは、長年にわたる献 本人の栄誉はもとより、 我が国にとりましても、 誠に喜ばしいこと

に後進の指導に当たり、広く内外の人々に信頼され、感謝されることとなるよう切に希望いたし 受章された方々は、今後も健康に注意され、博愛と人道のため、 看護の道に力を尽くすととも

○幸啓録、発表綴、宮内庁庁報、事業年報(日本赤十字社)、日本赤十字社社史稿

二十五日 ○女官長日記、女官日誌、 木曜日 天皇と共に、 侍従日誌、 侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、 午後零時三十五分須崎御用邸を御出門になり、 幸啓録、 須崎御用邸行幸啓録、 四時皇居に還啓され 宮内庁庁報

斎藤誠治業務日誌

### 七月

日 水曜日 元正倉院懇談会会員岡田譲去る六月二十六日死去につき、天皇・皇后が祭粢料を賜う。

○恩賜録、宮内庁庁報

日誌、 二日 侍従日誌、 木曜日 発表綴、 午前、 斎藤誠治業務日誌、 紅葉山御養蚕所にお出ましになり、 紅葉山御養蚕所八十年記念誌 御養蚕納の儀を行われる。 女官長日記、

三日 名に御会釈を賜う。○女官長日記、 金曜日 午前、 天皇と共に宮殿西車寄前において、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 紅葉山御養蚕所主任神戸礼二郎及び助 内舎人日誌、 紅葉山御養蚕所八十年記念誌 手四

なる。 九日 り御休所にお入りになり、 会には、 斎藤誠治業務日誌 出演者 御休所において指揮者甲斐正雄 木曜日 演奏会では、ベートーヴェン作曲弦楽三重奏曲 故雍仁親王妃勢津子・鷹司和子が出席する。 同のお見送りを受けて御発、 午後、 桃華楽堂にお出ましになり、 御休所において鷹司和子と御対面になる。 ・首席楽長東儀信太郎・楽長上近正の拝謁をお受けになる。 吹上御所に還御される。〇女官長日記、 楽部職員による洋楽演奏会に御臨席になる。 楽部玄関に御着後、 「セレナード」などをお聴きになる。 ついでホー 式部副長松平潔の先導によ 女官日誌、 ルに進まれ御着席に 内舎人日誌、 その 演奏

十五日 十四日 十日 される。 ウス・ 見になる。〇女官長日記、 同夫人、初代イエメン・アラブ共和国特命全権大使アハメッド・カーイッド・ 金曜日 口 女官長日記、 火曜日 水曜日 ネウスを御引見になる。 午後、 午後、 天皇と共に、 女官日誌、 女官日誌、 正殿梅の間において、 正殿梅 侍従日誌、 午前九時四十二分御出門になり、 侍従日誌、 0 ○女官長日記、 間において、 侍従職日誌、 侍従職日誌、 初代フィジー国特命全権大使ジョ 女官日誌、 新任のスウェーデン国特命全権大使グンナー・ニコラ 内舎人日誌、 内舎人日誌、 侍従職日誌、 内舎人供奉日誌、 捧呈式録、 内舎人日誌、 午後零時三十九分那須御用邸に行啓 謁見録、 幸啓録、 謁見録、 宮殿行事録、 ージ バラカー 那須御用邸行幸啓、 宮殿行事録、 ・コトバ 宮内庁庁報 トを順次御引 ラヴ及び 宮内庁庁報 那須御用

十六日 行幸啓、 しば天皇と共に散策され、 那須御用邸管理事務所日誌 木曜 自 午前、 天皇と共に御内庭を散策され、 植物を御調査になる。 那須御用邸管理事務所事務官日誌、 ○女官長日記、 入江相政日記 植物を御調査になる。 女官日誌、 侍従日誌、 内舎人供奉日誌、 御 用 邸 御 滞 在 那須御用邸 しば

邸管理事務所日誌,

那須御用邸管理事務所事務官日誌、

宮内庁庁報、

斎藤誠治業務日誌

○侍従職日誌、

贈賜録、

彬子女王殿下御誕生記録

日曜日 寬仁親王妃信子の内着帯につき、 天皇・皇后が寬仁親王・同妃信子に万那代料を賜

二十日 月曜日 故朝香鳩彦百日祭に当たり、 終日、 御用邸にて静かにお過ごしになる。 女官長日記、

女官日誌、 侍従日誌、 内舎人供奉日誌、 那須御用邸行幸啓、 那須御用邸管理事務所日誌、 那須御用邸管理事務所事務官日誌、

朝香鳩彦殿葬儀録、贈賜録、入江相政日記

那須御用邸管理事務所日誌、 に還啓される。 水曜日 女官長日記、 天皇と共に、 那須御用邸管理事務所事務官日誌、 女官日誌、 午前八時五十三分那須御用邸を御出門になり、 侍従日誌、 侍従職日誌、内舎人日誌、 斎藤誠治業務日誌 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 + 時四十七分皇居 那須御用邸行幸啓

なる。 皇后が東久邇成子の霊舎豊島岡に菓子・榊を、 になり、 二十三日 なお行幸啓に先立ち、東久邇成子二十年式年祭霊舎祭の儀及び墓所祭の儀が執り行われ、天皇・ 終わって天皇と共に東久邇信彦・同夫人吉子のお礼言上をお受けになり、三時五十七分還啓さ 侍従職日誌、 豊島岡墓地に行啓される。 木曜日 内舎人日誌、 東久邇成子没後二十年の祥月命日につき、天皇と共に、午後三時二十九分御出門 幸啓録、 行幸啓録、 御着後、 贈賜録、 東久邇家墓所前の御拝座において、 同墓所に果物・ 宮内庁庁報、 榊をお供えになる。 入江相政日記、 斎藤誠治業務日誌 ○女官長日記、 天皇に続き御拝礼に 女官日誌

なる。 天皇と共に吹上御所において、 中川融及び随員五名の拝謁をお受けになる。 二十四日 皇太子・同妃は、 金曜日 午前、 英国皇太子チャールズの結婚式 ニャに参列のため、来る二十六日より八月二日 天皇と共に鳳凰の間において、 皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王と御夕餐を御会食に 女官長日記、 女官日誌、 皇太子・ 侍従日誌、 同妃の英国訪問における首席随員 侍従職日誌、 内舎人日誌

まで同国を訪問する。 ○女官長日記、女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 贈賜録、 臨時祭祀録、 東宮録、 宮内庁

使角谷清及び同夫人、 二十八日 火曜日 午前、 ザンビア国駐箚特命全権大使関栄次及び同夫人の拝謁をお受けになる。 天皇と共に正殿竹の間において、 近く赴任のハンガリー 国 <u>|</u>駐箚特命全権

女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、

拝謁録、宮殿行事録、

宮内庁庁報

井上吉三郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。 使浅羽満夫及び同夫人、ボリビア国駐箚特命全権大使吉水通及び同夫人、ガボン国駐箚特命全権大使 二十九日 宮殿行事録、 水曜日 宮内庁庁報 午前、 入江相政日記 天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のタンザニア国駐箚特命全権大 ○女官長日記、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、

午後、 十七年から行われている本土と沖縄の小中学生の 下において出演者等の拝謁をお受けになり、 にお出ましになる。 その記念として行われた。〇女官長日記、女官日誌、 卜部亮吾侍従日記、 沖縄県の児童・生徒による「沖縄の民謡・舞踊の催し」に御臨席のため、 昭和天皇をお偲びして、昭和 琉球舞踊· 沖縄民謡等を御鑑賞になった後、 天皇に続きお言葉を賜う。 「豆記者交歓会」がこの年二十年目を迎えるに当た 侍従日誌、 侍従職日誌、 天皇と共に式部職楽部御休 内舎人日誌、 なお、 この度の催しは昭 恩賜録、 天皇と共に桃華楽堂 発表綴、 .所横 入江相政 和三  $\mathcal{O}$ 

去る二十七日、 女王エリザベス二世へ祝電をお送りになる。これに対し八月一日に答電がある。 英国皇太子チャールズがダイアナ・フランセス・スペンサーと結婚するに当たり、 天皇 ・皇后よりチャールズ皇太子へ九谷焼飾皿☆襌専花弁を、 式に参列の皇太子・ なお結婚式に際し、 天皇 皇后が同国 同妃に

託され御贈進になる。これに対し後日チャールズ皇太子より天皇に礼状氏れが寄せられる。 〇外交慶弔

、外交贈答録、外交雑録、恩賜録、発表綴、宮内庁庁報、官報、斎藤誠治業務日誌

三十日 侍従日誌、 侍従職日誌、 木曜日 午前、 内舎人日誌、 明治天皇例祭につき、 恒例祭祀録、祭典録、 宮内庁庁報、 吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、 入江相政日記、斎藤誠治業務日誌 女官日誌

啓される。 御用邸管理事務所日誌、 三十一日 ○女官長日記、 金曜日 那須御用邸管理事務所事務官日誌、 天皇と共に、 女官日誌、 侍従日誌、 午前九時四十七分御出門になり、 侍従職日誌、 宮内庁庁報、 内舎人日誌、 入江相政日記、 内舎人供奉日誌、 午後零時三十九分那須御用邸に行 卜部亮吾侍従日記、 幸啓録、 那須御用邸行幸啓、 斎藤誠治業務日誌

### 八月

十日 ば天皇と共に散策され、 那須御用邸管理事務所日誌、 月曜日 午前、 天皇と共に御内庭を散策され、 植物を御調査になる。 那須御用邸管理事務所事務官日誌、 ○女官長日記、 斎藤誠治業務日誌 植物を御調査になる。 女官日誌、 侍従日誌、 内舎人供奉日誌、 御 用邸 <u>-</u> 御 滞 在 那須御用邸行 しばし

午後、 障害を再発され、 全国戦没者追悼式には御臨席にならず、引き続き那須御用邸において御静養になること、 病名は脊椎の一部が潰れるキュンメル氏病であり、 女官日誌、 宮内庁より、 火曜日 那須御用邸管理事務所日誌、 昭和五十二年に痛められた腰椎とは別の箇所である、 北白川房子の祥月命日につき、 皇后は腰が十分に良い状態ではない 斎藤誠治業務日誌 午前中、 原因は骨の老化によること、 上に御風気気味でもあるため、 御用邸にて静かにお過ごしになる。 腰に近い胸椎を痛められたこ 御静養の期間 来る十五 皇后は脊椎 ○女官長 日の

なお、 誌、宮内庁庁報、入江相政日記、 人供奉日誌、 、二箇月間となる見込みであることなどが発表される。なお、全国戦没者追悼式には、この年以降 腰あるいは膝に御負担の掛かる御行動を避けていただくために御臨席にならないこととされる。 二十日に再び那須御用邸に行幸される。○女官長日記、女官日誌、 天皇は全国戦没者追悼式に御臨席になるため、十三日にお一方にて那須御用邸から皇居に還幸 那須御用邸行幸啓、発表綴、 斎藤誠治業務日誌、昭和天皇最後の侍従日記、朝日新聞、 皇太后陛下御健康、 那須御用邸管理事務所日誌、 侍従日誌、 毎日新聞、 侍従職日誌、 那須御用邸管理事務所事務官日 読売新聞 内舎人日誌、

日誌、 当たり、 十五日 幸啓録、 昨十四日、 土曜日 恩賜録、 全国戦没者追悼式のテレビ中継を御覧になり、 宮内庁庁報、 天皇・皇后が厚生省に生花を賜う。 官報、 入江相政日記、斎藤誠治業務日誌、 ○女官長日記、 昭和天皇最後の侍従日記 黙禱される。 女官日誌、 侍従日誌、 同追悼式が行われるに 侍従職日誌

二十一日 天皇・皇后がお見舞金を賜う。 金曜日 去る三日から六日にかけて発生した豪雨により甚大な被害を受けた北海道に対 ○災害お見舞い、宮内庁庁報、読売新聞

#### 九月

日 火曜 日 関東大震災の日につき、 お出ましをお控えになる。 ○女官長日記、 女官日誌、 侍従日誌

用邸行幸啓、那須御用邸管理事務所日誌

二日 とは良いとしているので、 質問にお答えになる。その際に、 水曜日 午前、 天皇が嚶鳴亭前において宮内記者会会員二十一名とお会いになり、 時間の 許す範囲において御運動をされており、その時には歩行等について 皇后の御健康についての質問をお受けになり、 適当な運動をするこ 記者からの

御 注意になっている旨をお答えになる。 ○女官長日記、女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人供奉日誌、 那須御用

邸行幸啓、 那須御用邸管理事務所日誌、 天皇記者会見、 昭和天皇と私達

九日 水曜日 久邇俔子母の祥月命日につき、 終日、 御用邸にて静かにお過ごしになる。 ○女官日誌、 侍

従日誌、 内舎人供奉日誌、 那須御用邸行幸啓、 那須御用邸管理事務所日誌、 卜部亮吾侍従日記

十日 啓される。 木曜日 なお、 天皇と共に、 今夏の那須御用邸御滞在について、 午前八時五十二分那須御用邸を御出門になり、 この年、 次の歌をお詠みになる。 十一時四十六分皇居に還

しのぎよき那須の成宮夏ごとにあつさのがれて幾年もきぬ

○女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 那須御用邸行幸啓、 那須御用邸管理事務所日誌、

来る十六日、 パプアニュー ギニア国東セピック州ウエワクにおいて、 厚生省主催 0 = ユ ギニア戦 没

天皇・皇后が同省に生花を賜う。

○恩賜録、

宮内庁庁報

者の

一神竣工並びに追悼式が行われるに当たり、

御用邸管理事務所事務官日誌

年末年始行事、

宮内庁庁報、

斎藤誠治業務日誌

十一日 五. 同妃の首席随員中川融及び随員五名の拝謁を、 名の拝謁をお受けになる。 金曜日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、 夕刻、 天皇と共に吹上御所において皇太子・ 続いて天皇と共に宮殿御車寄内広間において、 去る八月二日英国訪問より帰国した皇太子・ 同妃より 帰国 の挨拶をお受 随行員

けになる。 ○女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌 内舎人日誌、 宮内庁庁報、 斎藤誠治業務日誌

天皇と共に鳳凰の間において、

所において首席随員斉藤鎮男<sup>寶内庁</sup>の拝謁をお受けになる。 日より二十四日まで米国を訪問する正仁親王・同妃華子と御対面になる。 これより先、 天皇と共に同

女官日誌、

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、

ニューヨーク日本協会創立七十五周年記念式典に出席のため、

翌十二

那

須

親王同妃両殿下アメリカ合衆国御訪問関係記録、 正仁親王同妃両殿下アメリカ合衆国御訪問、宮内庁庁報

十四四 屋永吉及び同夫人の拝謁をお受けになる。 月曜日 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 女官日誌、 侍従日誌、 近く赴任のスペイン国駐箚特命全権大使林 侍従職日誌、 内舎人日誌、 拝謁録、 宮殿行事録、

天皇と共に鳳凰の間において、この日宮内庁御用掛の委嘱を解かれた法眼健作の拝謁をお受けになる。

内庁庁報

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恩賜録

憲仁親王と御対面になる。 天皇と共に鳳凰の間において、 女官日誌、 留学先のカナダ国より欧州諸国訪問を経て去る八月三十日に帰国した 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 憲仁親王殿下カナダ御留学関係記録

王殿下カナダ御留学終了、宮内庁庁報

十六日 沢憲一 侍従日誌、侍従職日誌、 郎及び同夫人、スーダン国駐箚特命全権大使栗山明及び同夫人の拝謁をお受けになる。 水曜日 午前、 内舎人日誌、 天皇と共に正殿竹の間において、 拝謁録、 宮殿行事録、宮内庁庁報、 近く赴任のネパール国駐箚特命全権大使西 斎藤誠治業務日誌

十七日 宮内庁庁報、入江相政日記 賀陽治憲及び同夫人の拝謁をお受けになる。 木曜日 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 ○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、 近く赴任のイスラエ 内舎人日誌、 ル国駐箚特命全権大使 拝謁録、 宮殿行事録

ン及び同夫人を順次御引見になる。○女官日誌 エル・バルタザル・モイタ及び同夫人、インド国特命全権大使キザケ・パラート・シャンカラ・メノ 金曜日 午後、 正殿梅の間において、 侍従日誌、 新任のポ 侍従職日誌、 ルトガル国特命全権大使フランシスコ・マヌ 内舎人日誌、 捧呈式録、 謁見録、 宮殿行事録

宮内庁庁報

二十三日 、侍従日誌、侍従職日誌、 水曜日 午前、 内舎人日誌、 秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、 恒例祭祀録、祭典録、 東宮録、 宮内庁庁報、 吹上御所において御遙拝になる。 入江相政日記、 卜部亮吾侍従日記、 〇女官日

業務日誌

日誌、 葉を賜う。 化賞受賞者等の拝謁をお受けになる。 二十五日 侍従日誌、 なお、 金曜日 侍従職日誌、 皇后が保健文化賞受賞者等の拝謁をお受けになるのは、この年が最後となる。 午後、 内舎人日誌、 天皇と共に宮殿北溜において、 拝謁録、典式録、 厚生大臣村山達雄より挨拶をお受けになり、 宮殿行事録、 宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌 厚生大臣から表彰された第三十三回 天皇に続いてお言 [保健文

同妃華子の首席随員斉藤鎮男の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、 親王・同妃華子と御対面になる。また、二十九日午前には、天皇と共に鳳凰の間において、 二十六日 土曜日 午後、 天皇と共に吹上御所において、 去る二十四日に米国訪問から帰国した正仁 侍従職日誌、 内舎人日誌、 正 仁親王・ 正仁親王

同妃両殿下アメリカ合衆国御訪問、

宮内庁庁報

動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后が事業御奨励のため金一封を賜う。 二十八日 宮内庁庁報 月曜日 来る十月一日より十二月三十一日まで昭和五十六年度国民たすけあ V 共同募金運

三十日 拝謁をお受けになる。 御訪欧及び昭和五十年の御 水曜日 昭和四十六年の御訪欧から十周年に当たり、 両度の 防米の 御 訪問 節 の随員 の節の随員宇佐美毅より挨拶をお受けになる。 随行員 訪問国の赴任大使・公使、 午後、 天皇と共に正殿竹の間において、 御 ついで正殿梅の間 通訳等六十余名の

日誌、 において、 天皇と共に連翠において、 記録映画 宮殿行事録 「天皇皇后両陛下ヨーロッパご訪問の旅」 真崎秀樹英文日記 お茶の席を設けられ御歓談になる。 女官日誌、 を一同と共に御覧になる。 侍従日誌 侍従職日誌 内舎人 その

#### 十月

日 木曜日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、 新たに宮内庁御用掛を委嘱された林安秀始め三

名の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

二日 侍従日誌、 及び同夫人、 金曜日 侍従職日誌、 中華人民共和国駐箚特命全権大使鹿取泰衛及び同夫人の拝謁をお受けになる。 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のインド国駐箚特命全権大使原栄吉 内舎人日誌、 拝謁録、 宮殿行事録、 宮内庁庁報、 官報、 入江相政日記 ○女官日誌

贈賜録、 九日 雍仁親王妃勢津子の首席随員吉川重国の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、 雍仁親王妃勢津子殿下英国及びスイス御訪問関係記録、 金曜日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、来る十七日より二十八日まで英国を訪問する故 雍仁親王妃勢津子殿下英国御訪問、 宮内庁庁報、 侍従職日誌、 入江相政日記 内舎人日誌

十五分御出門になり、 分御泊所琵琶湖ホテルに御到着になる。 滋賀県知事武村正義等の拝謁をお受けになり、 月曜日 天皇と共に地方事情を御視察のため、 東京駅より京都駅を経て、 それより同ホテル新館の物産展示会場瑠璃において、 大津市の滋賀県庁に御到着になる。 同知事より県勢の概要をお聞きになる。 滋賀県及び京都府に行啓される。 御休所室におい 午前九時三 午後二時 天皇と

奉日誌、 0 共に滋賀県の物産等の展示を、 遺墨などを展示した「杉浦 幸啓録、 発表綴、 地方行幸啓、 重剛展」 また一 宮内庁庁報、 階ギャラリーにおいて、 を御覧になる。 官報、 滋賀県庁所蔵資料、 ○女官日誌、 入江相政日記、 杉浦重剛れ、同七年良子女王り参すみこのでは付けられています。 侍従日誌 侍従職日誌、 卜部亮吾侍従日記、 内舎人日誌、 行幸啓誌、 内舎人供

湖ホテル五○年のあゆみ、

湖国と文化

になる。 十四四 際、 御 の物産陳列室にお出ましになり、 侍従日誌、 皇が御臨場になる第三十六回国民体育大会秋季大会開会式のテレビ中継放送を御覧になる。 スケッチをされる。 十三日 出発になり、 百 御座所のある十三階にてお出迎えになる。 内舎人供奉日誌、 水曜日 火曜日 同二十八分御泊所ホテルレークビワに御到着になる。 この日も天皇の御視察に同行されず御静養になる。 天皇の御視察に同行されず御静養になる。 午前の御視察を終えて一旦御泊所にお戻りの天皇と御昼餐を共にされ、 幸啓録、発表綴、 信楽焼の狸を御写生になる。 地方行幸啓、 宮内庁庁報、 なお、 滋賀県行啓に寄せて、 官報、行幸啓誌、 午前は御泊所琵琶湖ホテルにおいて湖 午後一 時、 夕刻、 御朝餐後、 琵琶湖ホテル五〇年のあゆみ お一方にて琵琶湖ホ この年、 天皇が御泊 御泊所琵琶湖 次 (T) 所に御到 歌をお詠み 女官日誌 テルを ジホテル 着

○女官日誌、 秋の日は比叡のかなたへ落ちゆきて琵琶湖大橋に灯のともる見ゆ 侍従日誌、 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 発表綴、 地方行幸啓、 年末年始行事、 宮内庁庁報、 官報、 ホ テルレークビワ所蔵

卜部亮吾侍従日記、

行幸啓誌

会主催の この日、 来る十六日より十九日まで福岡県福岡市玉屋デパートにおいて開催される財団法人日本ばら 「秋の日本ばら会展」に、吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。 ○贈賜録

十五日 て東伏見慈治簿・同夫人保子、九条成子、渋谷有教・同夫人笑子の拝謁をお受けになる。 て御会釈を賜う。 御着の後、 泊所である京都大宮御所に向かわれる。 木曜 御車寄内において旧華族及び門跡寺院・尼門跡寺院・御由緒神社の関係者に、二回に分け 白 続いて同所において元奉仕者に二回に分けて御会釈を賜う。 天皇と共に、 午前九時十九分御泊所ホテルレークビワを御出発になり、 途中、 車中から久邇宮邸跡地を御覧になる。 終わって謁見室に 京都大宮御 この日 お 所に 0 御

午後、 相政日記、 舎人供奉日誌、 都大宮御所にお戻りになった後、 の茶会が行われる。 京都御所内の新御車寄において、 卜部亮吾侍従日記、 幸啓録、 京都茶会、 皇后は御静養のため御臨席にならず、天皇お一方にてお出ましになる。天皇が京 行幸啓誌、 発表綴、 済寧 御一緒に仙洞御所を御散策になる。 地方行幸啓、 近畿在住の行幸啓関係尽力者等を招かれ、 宮内庁庁報、 官報、 滋賀県庁所蔵資料、 ○女官日誌、侍従日誌、 ホテルレークビワ所蔵資料、 天皇・皇后御 侍従職日誌、 主催 入江

せられる。 トへ祝電をお送りになる。これに対し二十七日、 タイ国王女チュラポーン婚約につき、 ○外交慶弔録、宮内庁庁報、 官報 天皇・皇后より同国国王ラーマ九世ンヤデート チュラポーン及び婚約者より天皇・皇后へ礼電が寄 王妃シリキッ

れる。 内舎人日誌、 ついで京都駅より東京駅を経て、 天皇の御拝礼後 金曜日 内舎人供奉日誌、 天皇と共に、 幸啓録、 御休所前においてお一方にて明治天皇陵及び昭憲皇太后陵を御遙拝になる。 臨時祭祀録、発表綴、 午前十時二十分御泊所大宮御所を御出発になり、 午後三時五十七分皇居に還啓される。 地方行幸啓、宮内庁庁報、 官報、卜部亮吾侍従日記、 ○女官日誌、 桃山陵墓地 侍従日誌、 斎藤誠治業務日 侍従職日誌 向 かわ

昭和五十六年十月

誌

会の主催により南太平洋戦没者慰霊塔の除幕並びに追悼式が行われるにつき、 来る二十五日、 ソロモン国ガダルカナル島ホニアラ市郊外において、 財団法人南太平洋戦没者慰霊協 天皇・皇后が同協会に

生花を賜う。○恩賜録、宮内庁庁報

二十日 内舎人日誌、 侍従日誌、 土曜 火曜日 吹上御所殿部日誌、 侍従職日誌、 日 午前、 午前、 内舎人日誌、 神嘗祭につき、 吹上御所において、この日誕生日を迎えた皇太子妃と御対面になる。 典式録、 典式録、宮内庁庁報 恒例祭祀録、 吹上御所において御遙拝になる。 祭典録、 宮内庁庁報、 入江相政日記、 卜部亮吾侍従日記、 ○女官日誌、 侍従日誌、

二十三日 金曜日 夕刻、 御風気気味のため吹上御所にて御静養になる。 ○女官日誌

ラポー らは皇后にランの花束が贈られる。 寄りになるにつき、天皇・皇后が御使として式部副長山下和夫を同空港に差し遣わされ、 二十五日 ンの婚約に対する祝意を伝達させられる。 日曜日 この日夕刻、 タイ国王妃シリキットが米国訪問の途次に新東京国際空港にお立ち ○外交雑録、外交贈答録、 その際、 贈賜録 皇后から王妃に菊の花束を贈られ 同国王女チュ 王妃か

官日誌、 及び同夫人、 二十六日 侍従日誌 月曜日 チュニジア国特命全権大使モンセフ・ジャファー及び同夫人を順次御引見になる。 侍従職日誌、 午前、 内舎人日誌、 正殿梅の間において、新任のセネガル国特命全権大使ケバ・ビラン・シセ 謁見録、 宮殿行事録、 宮内庁庁報

ダ国特命全権大使バリー 殿梅 の間において、 ・コネル・スティアース及び同夫人を順次御引見になる。 新任のガーナ国特命全権大使アルフレッド・ゲイジー及び同夫人、 女官日誌、侍従日誌

侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

勢津子と御対面になる。 三十日 金曜日 午後、 女官日誌、 天皇と共に吹上御所において、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 去る二十八日英国から帰国した故雍仁親王妃 雍仁親王妃勢津子殿下英国及びスイス御訪問関

# 十一月

宮内庁庁報、

斎藤誠治業務日誌

内庁庁報 部厚彦及び同夫人の拝謁をお受けになる。 二日 月曜日 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 女官日誌、 侍従日誌、 近く赴任のベトナム国駐箚特命全権大使矢田 侍従職日誌、 内舎人日誌、 拝謁録、 宮殿行事録、

三日 ○女官日誌、侍従日誌、 をお受けになる。 表彰された健康優良学校代表等五十名の拝謁をお受けになる。 火曜日 午前、 なお、皇后が健康優良学校代表等の拝謁をお受けになるのは、この年が最後となる。 侍従職日誌、 天皇と共に宮殿北溜において、 内舎人日誌、 拝謁録、 典式録、 宮殿行事録、 朝日新聞社主催の全日本健康優良学校表彰会で 同表彰会会長渡辺誠毅朝日新聞より挨拶 宮内庁庁報、 入江相政日記

日誌、 五日 正午過ぎ、 員吉川重国の拝謁をお受けになる。 来訪に際し、 内舎人日誌、 木曜日 天皇が正殿竹の間において、 外賓参内録 午前、 同首相より天皇・皇后に貝の標本、 天皇と共に鳳凰の間において、 典式録、 外交贈答録、 女官日誌、 公賓タイ国首相プレム・ティンスラノンを御引見になる。こ 恩賜録、 侍従日誌、 宮殿行事録、 古代の海草の化石が献上される。 故雍仁親王妃勢津子の英国訪問における首席随 侍従職日誌、 宮内庁庁報、 内舎人日誌、 入江相政日記 雍仁親王妃勢津子殿下英国御訪問 ○侍従日誌、 侍従職

米国 六日 される。 訪問 罐日 徳仁親王、 より帰国 英国訪問 0) 寬仁親王、 正仁親王 東宮録 より帰国 鷹司和子、 同 . 妃華子をお招きになり、 [の皇太子・同妃、 島津久永・同夫人貴子も出席する。 同じく英国訪問より帰国の故雍仁親王妃勢津子、 天皇と共に吹上御所におい ○女官日誌、 侍従日誌、 御晩餐を催

内舎人日誌、

典式録

十日 后が大公・ 后が大公・ ラを御引見になる。 第一王女アストリッドの婚約を報じる親電が天皇・皇后に寄せられる。これに対しこの 火曜日 金曜日 同妃に祝電をお送りになる。 同妃に祝電をお送りになる。 午前、 去る九日、ルクセンブルク国大公ジャン及び同妃ジョセフィン・シャルロッテより、 女官日誌、 正殿梅の間において、 侍従日誌、 侍従職日誌、 また、 これに対し同月十一日、 新任のホンジュラス国特命全権大使アルフレ 翌五十七年二月六日には同王女結婚につき、 内舎人日誌、 捧呈式録、 答電がある。 謁見録、 宮殿行事録、 ○外交慶弔録、 宮内庁庁報 月 ド 宮内庁庁報 天皇・ 天皇・ IJ ý 工

月曜日 寬仁親王妃信子この日着帯につき、 天皇・皇后より寛仁親王・ 同妃 へ万那料を御贈

進になる。

○贈賜録、

彬子女王殿下御誕生記録

皇・皇后が大公に祝電をお送りになる。 大公の孫ギヨー 水曜日 去る十二日、 · ム皇太子アンの誕生を報じる親電が天皇・皇后に寄せられる。 ルクセンブルク国大公ジャン及び同妃ジョセフィン・シャルロ ○外交慶弔録、 外賓参内録、宮内庁庁報、 官報 これに対しこの É ッテよ 天

拝謁をお受けになる。 二十日 金曜日 午前、 女官日誌、 天皇と共に鳳凰の間において、 侍従日誌、 侍従職日誌 内舎人日誌 ブラジル国より帰国の 東作興· 同夫人優子の

えるよう御下命があり、この日、 ル 、ギー国王妃ファビオラの実母去る十六日死去につき、 宮内庁長官より外務大臣にその旨が通知される。 天皇・皇后から弔意を同国国王・王妃に伝 これに対し翌月、

同国王・王妃より天皇・皇后に謝辞が伝えられる。○外交慶弔録

巫清尚及び同夫人、 二十五日 水曜日 ギリシャ国駐箚特命全権大使吉田長雄及び同夫人の拝謁をお受けになる。 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 近く赴任のカナダ国駐箚特命全権 ○女官日 大使御

誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、 う。 侍従日誌、 0 拝謁をお受けになる。 なお、 天皇と共に春秋の間において、 侍従職日誌、 皇后が教育者表彰被表彰者等の拝謁をお受けになるのは、 内舎人日誌、 同代表の荒川潤專京都立両国より挨拶をお受けになり、 拝謁録、 典式録、 文部大臣から表彰された昭和五十六年度教育者表彰被表彰者等 宮殿行事録、 宮内庁庁報 この年が最後となる。 天皇に続いて お言葉を賜 ○女官日誌

天皇 皇后の御使として侍従小林忍を山本邸に差し遣わされ、 侍従山本岩雄<sup>務主管</sup> 昨二十四日死去につき、 ・皇后が霊前に菓子・切り花を賜う。 ○侍従日誌、 天皇・皇后が霊前に果物を賜う。翌二十六日には、 侍従職日誌、 祭粢料を賜う。 贈賜録、 恩賜録、 二十八日の葬儀に際しては、 発表綴、 宮内庁庁報、 天皇

る。 全権大使杉谷好 二十六日 ○女官日誌、 木曜日 侍従日誌、 一及び同夫人、 午前、 侍従職日誌、 天皇と共に正殿竹の リベリア国駐箚特命全権大使室野邦彦及び同夫人の拝謁をお受けにな 内舎人日誌、 拝謁録、 間において、 宮殿行事録、 宮内庁庁報 近く赴任 のコー -トジボ アー ル 玉 駐

部亮吾侍従日記

午前、 正殿梅の間において、 新任のカタール国特命全権大使ムハンマド・アリ・アル・アンサーリ及

び同夫人、 ベルギー国特命全権大使ジャン・ヴェルヴィルゲン及び同夫人を順次御引見になる。 〇女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、捧呈式録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

になる。同展には日本画の御作品「伊豆の海」「さかりに咲く」を御出品になる。 二十八日 土曜日 午前、 宮内庁庁舎講堂にお出ましになり、宮内庁職員総合文化祭の美術展を御覧 ○侍従日誌、 侍従職日誌

内舎人日誌、吹上御所殿部日誌、発表綴、文化祭目録

午後、 天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた正仁親王と御対面になる。 女官日誌、

日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

の邸内各室を御巡覧になる。 締役社長大林芳郎・同常務取締役岡田幾太郎・同工事事務所長中山滋雄に御会釈を賜う。 邸に御到着になる。 今般落成した葉山御用邸に行啓のため、 天皇と共に玄関内ホールにおいて、この度の工事を請け負った株式会社大林組取 女官日誌、 侍従日誌、 天皇と共に、 侍従職日誌、 午後二時十五分御出門になり、 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、幸啓録、 三時四十三分同 葉山行幸啓録 ついで新造

山町が催す海上での新葉山御用邸落成祝賀の花火大会を御覧になる。 てお応えになる。また満艦飾にて海上を回航する漁船三隻を御覧になる。その後、 御夕餐後、天皇と共に二階の御展望室及びバルコニーにおいて、葉山町民による提灯行列に提灯を振っ ○女官日誌、 侍従日誌、 同所において、 内舎人供奉日誌 葉

る初めての写真撮影をお受けになる。 二十九日 日曜日 午前、 天皇と共に御展望室及びバルコニーにおいて、 ついで御用邸前庭において同様に写真撮影をお受けになる。 新築後の葉山御用邸におけ

幸啓録、

葉山行幸啓録、

卜部亮吾侍従日記、

斎藤誠治業務日誌

行幸啓綴、

宮内庁庁報、

葉山物語、

入江相政日記、

卜部亮吾侍従日記

女官日誌、 侍従日誌、 内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記

午後、 天皇と共に、葉山御用邸再建後の周辺の状況を御覧になるため、 下山川・ 南邸お庭等を散策さ

れる。

女官日誌、

侍従日誌、

三十日 される。 女官日誌、 月曜日 天皇と共に、午後一時四十七分葉山御用邸を御出門になり、三時十五分皇居に還啓 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 葉山行幸啓録、 入江相政日記、 斎藤誠治業務日誌

内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記

# 十二月

二日 なる。 午後、 舎人日誌、 所脇廊下において、糸竹会会員十六名及び首席楽長東儀信太郎轟・楽長上近正ロの拝謁をお受けに 調音取、 条実春の御先導により御休所にお入りになり、ついで鏡の間に進まれ御着席になる。 侍従日誌、 年祭に先立ち、 になる。 日日 火曜日 その後、 宮内庁楽部にお出ましになり、糸竹会例会に御臨席になる。楽部玄関に御着後、 水曜日 吹上御所殿部日誌、 侍従職日誌、内舎人日誌、 ○女官日誌、侍従日誌、 鳥急、 糸竹会会員等のお見送りを受け楽部玄関を御発、 拾翠楽、 午前、 東京大学教授土田直鎮より光仁天皇の御事蹟に関する進講をお聴きになる。○女官日誌 午前、天皇と共に鳳凰の間において、 天皇と共に正殿竹の間において、翌五十七年一月十五日の光仁天皇千二百年式 糸竹会 越殿楽光寒、 侍従職日誌、 進講録、 宮殿行事録、宮内庁庁報、 千秋楽、 内舎人日誌、 貞明皇后御歌の演奏をお聴きになる。 典式録、 本日付で退職する侍医富家崇雄の拝謁をお受け 贈賜録、 斎藤誠治業務日誌 恩賜録、 吹上御所に還御される。 宮内庁庁報、 卜部亮吾侍従日記 演奏終了後 例会では、 糸竹会会長三 女官日誌、 黄鐘 御休

内

三日 清明及び同夫人、ペルー国駐箚特命全権大使野田英二郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。 木曜日 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のメキシコ国駐箚特命全権大使菊地 〇女官日誌:

侍従日誌、 侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、 宮殿行事録、宮内庁庁報

信• 入江相政日記、卜部亮吾侍従日記 田 四 [博孝 百 前鷹司家経済顧問 金曜日 同栄木忠常・ 午後、 舟山正吉の拝謁をお受けになる。 天皇と共に鳳凰の間において、 池田家経済顧問野津克己· 島津家経済顧問 常陸宮家経済顧問中谷一 女官日誌、 侍従日誌、 小笠原光雄· 侍従職日誌、 雄・久邇家経済 鷹司家経済顧問三谷 内舎人日誌、典式録 顧問密

侍医• 夕刻、 七日 月曜日 女官二名と御夕餐を御会食になる。 天皇と共に吹上御所において、 久邇朝 融別の祥月命日につき、 去る一日に退職した元侍医富家崇雄及び女官長、 女官日誌 終日、 侍従日誌、 吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌 侍従職日誌、 内舎人日誌、 贈賜録、 上直の侍従 宮内庁庁報、

なる。 八日 女官日誌、 火曜日 午前、 侍従日誌、 天皇と共に鳳凰の間において、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 典式録、 贈賜録、 京都在住堂上会総代大宮司季の拝謁をお受けに 入江相政日記

部亮吾侍従日記

十日 御対面になる。 木曜日 午前、 天皇と共に吹上御所において、 去る十一月三十日に誕生日を迎えた文仁親王と

○女官日誌、

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌

贈賜録

この 天皇と共に、 侍従職日誌、 Ħ 向陽会に歌道御奨励のため金一 午後一時十二分御出門になり、 内舎人日誌 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 封を賜う。 須崎御用邸行幸啓録、 四時四十六分須崎御用邸に行啓される。 ○恩賜録 宮内庁庁報、 入江相政日記、 斎藤誠治業務日誌 ○女官日誌、 侍従日

用邸御滞在中、 土曜日 しばしば天皇と共に散策され、 午前、 天皇と共にミカン園・移植地・お成道を散策され、 植物を御調査になる。 女官日誌、 植物を御調査になる。 侍従日誌、 内舎人供奉日誌、 御

須崎御用邸行幸啓録、斎藤誠治業務日誌

十四日 第二王女マルガレータの婚約を報じる親電が天皇・皇后に寄せられる。 月曜日 去る八日、ルクセンブルク国大公ジャン及び同妃ジョセフィン・シャルロッテより、 これに対しこの日、 天 皇 ・ 阜

妃に祝電をお送りになる。これに対し同月二十六日に答電がある。 ○外交慶弔録、 宮内庁庁報、

后が大公に祝電をお送りになる。また翌年三月二十日には同王女結婚につき、天皇・皇后が大公・

同

十七日 女官日誌、 木曜日 侍従日誌、 天皇と共に、午後零時三十四分須崎御用邸を御出門になり、 侍従職日誌、内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 須崎御用邸行幸啓録、 斎藤誠治業務日誌 四時皇居に還啓される。

れぞれ金一 十八日 金曜日 封を賜う。 日本赤十字社に天皇・皇后が、 ○社会事業、 発表綴、 宮内庁庁報、 事業年報 財団法人結核予防会に皇后が、 (日本赤十字社) 事業御奨励のためそ

彬子女王に鮮鯛代料を御贈進になる。 ぞれ三種交魚代料を、また寬仁親王・同妃に三種交魚代料を御贈進になる。 二十六日に彬子と命名される。 日曜日 寬仁親王妃信子第一王女出産につき、 命名の儀当日に、 ○侍従日誌、 贈賜録、 天皇・皇后より寛仁親王・同妃に鮮鯛代料を、また 彬子女王殿下御誕生記録、 天皇・皇后より崇仁親王・同妃百合子にそれ 宮内庁庁報、 この日誕生した王女は

御対面になる。 続いて女官長始め女官、 水曜日 女官日誌 皇太子の誕生日につき、 元女官等の祝賀をお受けになる。 侍従日誌 侍従職日誌 午前、 内舎人日誌、 天皇と共に鳳凰の間において宮内庁長官始め総代 典式録、 ついで天皇と共に同所において、 東宮録、 宮内庁庁報 皇太子と

ペウア及び同夫人を御引見になる。 二十四日 木曜日 午前、 正殿梅の間において、新任の中央アフリカ国特命全権大使ジョゼ・マリア・ 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌 捧呈式録、 謁見録、 宮殿行事録

二十五日 金曜日 午前、 大正天皇祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 女官日誌、 内舎人日誌

典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

宮内庁庁報

植物誌続編

天皇の那須御用邸御滞在中における植物採集の案内役を務めた。 管理部技術補佐員秋元末吉昨二十四日死去につき、天皇・皇后が祭粢料を賜う。 ○贈賜録、 宮内庁庁報、 秋元は長年にわたり 那須の植物誌 那須の

久子と御対面になる。 二十六日 土曜日 午後、 また天皇・皇后が同妃にお品料・鮮鯛代料・洋服地養養所製等を賜う。 天皇と共に吹上御所において、この日古希の誕生日を迎えた宣仁親王妃喜 〇女官日誌:

侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

式録、 文仁親王・清子内親王より歳末の祝詞言上をお受けになる。 官等より歳末の祝詞言上をお受けになる。 二十九日 東宮録 火曜日 宮内庁庁報、 午前、 入江相政日記、 天皇と共に鳳凰の間において、 卜部亮吾侍従日記、 ついで皇太子・同妃始め皇族、 斎藤誠治業務日誌 宮内庁長官始め総代、 ○女官日誌、 侍従日誌、 元皇族、 侍従職日誌、 続いて女官長始め女 御縁故者、 内舎人日誌、 さらに

#### 月

奉仕者等の祝賀を天皇と共にお受けになる。 1 判所長官等、 百合子・寬仁親王・容子内親王・憲仁親王、 妃・徳仁親王、 は各祝賀の間に、文仁親王・清子内親王、 H 宮内庁庁報、官報、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記、斎藤誠治業務日誌、サンケイ、毎日新聞 金曜日 各国外交使節団の長等の祝賀を順次お受けになる。 正仁親王・同妃華子、 午前九時四十五分より、 故雍仁親王妃勢津子、 天皇と共に宮殿において新年祝賀の儀に臨まれ、 女官日誌、 続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁 元皇族・御縁故者等、 侍従日誌、 宣仁親王・同妃喜久子、 侍従職日誌、内舎人日誌、 なお、 宮内庁長官始め 新年祝賀の儀に先立ち、 部局長等及び 典式録、 崇仁親王・同妃 皇太子・ 側近 ある 東宮 同

ることなどが発表される。〇年末年始行事、サンケイ、読売新聞 に御散策になっていること、 新年を迎えるに当たり、 宮内庁より皇后の御様子について、 吹上御所内では平常どおり生活されているが、 腰のために日曜日に一時間程度天皇と共 絵を描く頻度は減ってい

御会釈を賜う。 午前三回・ 二日 土曜日 午後四回 〇女官日誌: 新年一般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王、 凹の計七 侍従日誌、 回 長和殿ベランダにお出ましになり、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 東宮録、 宮内庁庁報、 宮殿東庭に参集した 官報、 正仁親王・ 卜部亮吾侍従日記、 同妃華子と共に、 一般参賀者に

務日誌

三日 日 曜日 午前、 元始祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 女官日誌、 内舎人日誌 典式録、 恒

例祭祀録、 祭典録、 宮内庁庁報

午後、 天皇と共に吹上御所において、 この日喜寿の誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になり、 お品 料

等を賜う。 女官日誌、 侍従日誌、 内舎人日誌、 贈賜録

七日 いて御学友・ ついで宮殿御車寄内において元女嬬等の祝賀をお受けになる。 木曜日 御同級生七名の祝賀をお受けになる。 新年につき、 午後、天皇と共に鳳凰の間において元女官・ ○女官日誌、 侍従日誌、 その後、 侍従職日誌、 皇后お一方にて、 元皇太后宮女官等の 内舎人日誌、 花の間にお 典式録、 祝賀を、 卜部

亮吾侍従日記、

斎藤誠治業務日誌

本雄を通じて王女に祝意を伝達される。 よりお祝いとして同王女に七宝宝石箱セクリームを御贈進になり、 シリキットに祝電をお送りになる。 イ国王女チュラポーンこの日結婚につき、 これに対し二月一 天皇・皇后が同国国王ラー 日 答電がある。 また、 タ イ国駐箚特命全権大使小木曽 なお、 マ九世ンヤデート 十二日には天皇 及び 同 皇后 妃

八日 家と御対面・御会食になる。 夕餐を御会食になる。 金曜日 天皇と共に吹上御所において、 以後、 ○女官日誌、 この年は概ね毎週金曜日に行われた定例の参殿を始め、 侍従日誌、 皇太子・同妃・ 侍従職日誌、 内舎人日誌、 徳仁親王・文仁親王・清子内親王と御 東宮録 随時 皇太子

○外交慶弔録、

外交贈答録、

宮内庁庁報、

官報

九日 者代表・入賞校校長等の拝謁をお受けになる。 雇日 午前、 天皇と共に宮殿北溜において、 読売新聞社代表取締役社長小林与三次より挨拶をお受 第二十五回日本学生科学賞会主催、読売新聞社後援入賞

謁をお受けになるのは、この年が最後となる。 けになり、 天皇に続いてお言葉を賜う。 なお、 ○女官日誌、 皇后が日本学生科学賞入賞者代表・入賞校校長等の拝 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 典式録、

宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記、読売新聞

火曜日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、 新任の侍医加藤健三の拝謁をお受けになる。

○女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、典式録、 宮内庁庁報、 入江相政日記、 斎藤誠治業務日誌

水曜日 この年のお題は 午前、 歌会始の儀にお出ましにならず、 「橋」であり、 皇后宮御歌は次のとおり。 吹上御所においてそのテレビ中継放送を御

皇后宮御歌

Щ (のほとりにいでてながめやる荒神橋はなつかしきかも

○女官日誌、 儀式録、 年末年始行事、宮内庁庁報、官報、卜部亮吾侍従日記、斎藤誠治業務日誌

女官日誌、 祭典録、 宮内庁庁報

吹上御所にて静かにお過ごしになる。 典式録、 臨時祭祀録、

天皇と共に吹上御所において、正仁親王・同妃華子と御夕餐を御会食になる。

以後、

十六日

土曜日

十五日

金曜日

午前、

光仁天皇千二百年式年祭につき、

吹上御所において御遙拝になる。

午前

御会食になる。 この年は、月に一、二回程度吹上御所にて行われた御会食を始め、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、内舎人日誌 随時、 正仁親王・同妃と御対面

る。 崇仁親王・同妃百合子と御対面になり、 以後、 月曜日 この年も皇族 夕刻、天皇と共に吹上御所において、 御親族と随時 寒中の御機嫌伺いをお受けになった後、 御対面・御会食になる。 故雍仁親王妃勢津子、 女官日誌、 侍従日誌、 宣仁親王 御夕餐を御会食にな 侍従職日誌、 同妃喜久子、

討誌

十九日 ルセン・フレイホーヴ及び同夫人を御引見になる。〇女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、 火曜日 午前、 正殿梅の間において、 新任のノルウェー国特命全権大使ホーコン・ヴェ 謁見録、 クセ

行事録、宮内庁庁報

○女官日誌、侍従日誌、 権大使天羽民雄及び同夫人、ラオス国駐箚特命全権大使小高文直及び同夫人の拝謁をお受けになる。 二十一日 木曜日 侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のユーゴスラビア国駐箚特命全 宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

金曜日 午前、 正殿梅の間におい て、 新任の初代赤道ギニア国特命全権大使サルバドル・

○女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、

謁見録、

宮内庁庁報

エラ・ンゼング・アベグエを御引見になる。

二十六日 女官日誌、 内田宏及び同夫人、ルーマニア国駐箚特命全権大使長谷川孝昭及び同夫人の拝謁をお受けになる。 侍従日誌、 火曜日 侍従職日誌、 午前、 内舎人日誌、 天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のフランス国駐箚特命全権大使 拝謁録、 宮殿行事録、 宮内庁庁報

午後、 卜部亮吾侍従日記、 天皇と共に吹上御所において、東宮大夫安嶋弥始め二名の拝謁をお受けになる。○女官日誌、 斎藤誠治業務日誌 侍従

及び同夫人の拝謁をお受けになる。 水曜日 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 近く赴任の英国駐箚特命全権大使平原毅 内舎人日誌、 拝謁録、 宮殿行事録、

入江相政日記

卜部亮吾侍従日記

る。○女官日誌、 二十八日 木曜日 侍従日誌、 天皇と共に、午後一時十二分御出門になり、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 須崎御用邸行幸啓、宮内庁庁報、斎藤誠治業務 四時四十四分須崎御用邸に行啓され

三十日 土曜日 午前、 孝明天皇例祭につき、 御用邸にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、 典式録、

恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

日誌、

富田メモ

午後、 天皇と共に散策され、 天皇と共に植栽地前 植物を御調査になる。〇女官日誌、 車庫前等を散策され、 植物を御調査になる。 侍従日誌、 内舎人供奉日誌、 御用邸御滞在中、 須崎御用邸行幸啓、 しばしば 斎藤誠治業

## 二月

日誌、

典式録

誠治業務日誌

日 月曜日 東久邇盛厚の祥月命日につき、 終日御用邸にて静かにお過ごしになる。 女官日誌、

十日 ○女官日誌、侍従日誌、 水曜日 天皇と共に、 侍従職日誌、 内舎人日誌、内舎人供奉日誌、 午後零時三十六分須崎御用邸を御出門になり、 幸啓録、 須崎御用邸行幸啓、 宮内庁庁報、 四時皇居に還啓される。 入江相政日記、

十九日 宮内庁庁報、入江相政日記 使武田実及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、 金曜日 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 近く赴任のアイルランド国駐箚特命全権大 宮殿行事録

ド国へ旅行する寬仁親王と御対面になる。 天皇と共に鳳凰の間において、来る二十二日より三月三日までスキー大会に参加するためフィンラン 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌 贈賜録、宮内庁庁報

恒例

二十一日 日曜日 仁孝天皇例祭につき、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、典式録、

祭祀録、 祭典録、 宮内庁庁報

交魚代料を、 二十二日 月曜日 また彬子女王に三種交魚代料及び御台人形代料を御贈進になる。 来る三月三日彬子女王初節句につき、 天皇・皇后より寛仁親王・ ○贈賜録 同妃信子に三

なる。 〇女官日誌、 二十三日 火曜日 侍従日誌、 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた徳仁親王と御対面に 侍従職日誌、 内舎人日誌、 贈賜録、 宮内庁庁報

ナーに出席するため米国ハワイ州へ旅行する正仁親王・同妃華子と御対面になる。 木曜日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、来る二十七日より三月五日まで日米癌セミ ○女官日誌、侍従日誌

二十六日 侍従職日誌、 その際 同所において、 メキシコ国特命全権大使プラシド・ガルシア・レイノソ及び同夫人を順次御引見になる。また午 花の間において、寬仁親王妃信子と御対面になり、 女官日誌、 内舎人日誌、 金曜日 同妃に白縮緬及び万那料を賜う。 侍従日誌、 ペルー 午前、 贈賜録、 侍従職日誌、 宮内庁庁報 正殿梅の間において、新任のビルマ国特命全権大使チー・マウン及び同夫 国特命全権大使マヌエル・アウグスト・ 内舎人日誌、 捧呈式録、 ○女官日誌、 謁見録、 侍従職日誌、 彬子女王誕生につきお礼言上をお受けにな 宮殿行事録、 内舎人日誌、 口 カ・セラ及び同夫人を御引見に 宮内庁庁報 彬子女王殿下御誕生記録 斎藤誠治業務日誌

大聖寺

宝鏡寺・

曇華院

·光照院

・林丘寺

円照寺

中宮寺・法華寺・三時知恩寺

長福寺・

善光

寺 霊鑑寺に、 恒例により乾海苔料を賜う。 ○贈賜録

### 三月

本赤十 日 月曜日 字社病院 来る六日に満七十九歳のお誕生日を迎えられるに当たり、この日、 恩賜財団済生会病院の救助収容患者に合わせて手拭い七千二百九十一本を賜う。 思召しをもって日

贈賜録、 事業年報 (日本赤十字社

二日 をお受けになる。 部特命全権大使手島泠志及び同夫人、サウジアラビア国駐箚特命全権大使武藤利昭及び同夫人の拝謁 火曜日 水曜日 午前、 午後、 女官日誌、 天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任の経済協力開発機構CE日本政府代表 花の間において、 侍従日誌、 侍従職日誌、内舎人日誌、 日本赤十字社社長林敬三の拝謁をお受けになる。 拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報 誌

六日 土曜日 満七十九歳のお誕生日を迎えられる。 三日

従職日誌、

内舎人日誌、

贈賜録

午前、 始 0 宮殿御車寄前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員の祝賀を、 をお受けになる。 いで花の間において、 め 祝賀を、 御親族 芳菊の間において、 0 御車寄内において元女嬬等の祝賀を、 祝賀を順次お受けになる。 その後、 参与宇佐美毅·森永貞一郎、 芳菊の間において元侍従長始め元側近奉仕者、元皇后宮女官等の祝賀を、 宮内庁長官始め各部局長等、 正午、 正殿梅の 花の間 皇太子・同妃始め皇族、 続いて側近奉仕者の祝賀をお受けになる。 間におい において御学友・御同級生七名、 女官候所前廊下において女嬬・雑仕 て、 内閣総理 元皇族、 大臣・ 衆議院議長・参 御縁故者の祝賀 東久邇文子 0

○女官日

侍

議院議長・最高裁判所長官等及び以上の者の配偶者の祝賀をお受けになる。

午後、 ○女官日誌、 親王妃喜久子、 共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王、 天皇と共に吹上御所において、 侍従日誌、 崇仁親王・同妃百合子・容子内親王・ 侍従職日誌、 内舎人日誌、 文仁親王・清子内親王の祝賀をお受けになる。 典式録、 儀式録、 正仁親王・同妃華子、 宮殿行事録、 憲仁親王、 東宮録、 鷹司和子と御晩餐を御会食になる。 宮内庁庁報、 故雍仁親王妃勢津子、宣仁 入江相政日記、 その後、 斎藤誠治業 天皇と

御 :晩餐に先立ち、 天皇と共に吹上御所において、 昨五日米国ハワイ州訪問を終え帰国した正仁親王・

J

同

妃より、

帰国の挨拶をお受けになる。

女官日誌、

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌

贈賜録、

重要雑録

宮内庁

務日誌、

富田メモ

本経済新聞、 持ちになって一時間程度されることなどが発表される。 以外はすこぶる御健康であること、 お誕生日に当たり、 毎日新聞、 読売新聞 宮内庁より皇后の御様子について、 腰にはコルセットをいつも着用されていること、 ○内廷皇族誕生日綴、 腰は痛みがなく落ち着いた状態であり、 朝日新聞、 サンケイ、東京新聞、 御散策は杖をお それ

十八日 八日 御対面になる。 月曜日 木曜日 なお、 祐子内親王の祥月命日につき、 夕刻、 天皇・皇后より同内親王に万那料及びお品料を御贈進になる。 天皇と共に吹上御所において、 午前、 吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌 この日学習院初等科を卒業した清子内親王と ○女官日誌 侍従日

十九日 金曜日 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 近く赴任のソビエト連邦駐箚特命全権大使

侍従職日誌、

内舎人日誌、

贈賜録、

東宮録

高島益郎、 ドイツ連邦共和国駐箚特命全権大使宮崎弘道及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌

侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

前日に行われた天皇御主催の宮中午餐への招待のお礼として、皇后にランの花束が贈られる。 この日、マレーシア国特命全権大使ダトゥ・ジャマルディン・ビン・ハジ・アブ・バカール夫人より、 侍従職日誌、内舎人日誌、 謁見録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十日 職日誌、 読売新聞 進になる。 面になる。 内舎人日誌、 土曜日 また、 なお、 贈賜録、 夕刻、 同親王は来る四月八日より皇族で初めて大学院に進学する。 天皇・皇后より同親王に万那料及びお品料を、皇太子・同妃に五種交魚代料を御贈 東宮録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記、朝日新聞、サンケイ、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞 天皇と共に吹上御所において、この日学習院大学を卒業した徳仁親王と御対 ○女官日誌、 侍従日誌、

日曜日 午前、 春季皇霊祭及び同神殿祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 ○女官日

内舎人日誌、

恒例祭祀録、

祭典録、

宮内庁庁報

木良三及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、 二十四日 水曜日 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 近く赴任のパナマ国駐箚特命全権大使茂 宮殿行事録、

正殿梅の間において、 侍従日誌、 侍従職日誌、内舎人日誌、 新任の中華人民共和国特命全権大使宋之光及び同夫人を御引見になる。 捧呈式録、 謁見録、 宮殿行事録、 宮内庁庁報 〇女官日

内庁庁報、

入江相政日記

二十五日 木曜日 天皇と共に、 午後一時十二分御出門になり、 四時四十四分須崎御用邸に行啓され

る。 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、幸啓録、 須崎御用邸行幸啓、 宮内庁庁報、 入江相政日記、

卜部亮吾侍従日記、斎藤誠治業務日誌

御滯在中、 二十六日 二十九日・三十日にも天皇と共に散策され、 金曜日 午後、 天皇と共にミカン園 移植地等を散策され、 植物を御調査になる。 植物を御調 ○女官日誌、 査になる。 侍従日誌、 御 |用邸

人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓、斎藤誠治業務日誌

る。 三十一日 ○女官日誌、 水曜日 侍従日誌、 天皇と共に、 侍従職日誌、 内舎人日誌、内舎人供奉日誌、 午後零時三十四分須崎御用邸を御出門になり、 幸啓録、 須崎御用邸行幸啓、 宮内庁庁報、 兀 時皇居に還啓され 入江相政日記,

## 四月

斎藤誠治業務日誌

る。 В ○女官日誌、 木曜日 侍従日誌、 午前、 天皇と共に鳳凰 侍従職日誌、 内舎人日誌、 の 間において、 典式録、 宮内庁庁報、 新任の侍従森猛始め十三名の拝謁をお受けにな

二日 る皇后への拝謁がこの年以後お取りやめとなり、 から表彰された者に対し、 金曜日 この日、 財団法人結核予防会総裁及び社会福祉法人恩賜財団母子愛育会総裁又は会長 御紋付紙巻たばこ・菊焼残月を賜う。 賜品のみ従前どおり行われることが決定される。 なおこれより先、 両会の表彰者によ

製スプーンを賜う。 桃華楽堂においてこの日行われた昭和五十六年度音楽大学卒業生演奏会の出演者十二名に、 ○恩賜録、 宮内庁庁報、 斎藤誠治業務日誌 御紋付銀

恩賜録

録

三日 土曜日 午前、 神武天皇祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 ○女官日誌、 典式録、 恒例祭祀

祭典録、宮内庁庁報

四 日 日曜日 来る十二日にバザーを開催する常磐会に切り花を賜う。 ○贈賜録

八日 木曜日 

事故の犠牲者合同葬が執行されるに当たり、社タ張新炭鉱合同葬が執行されるに当たり、 天 皇 ・ 皇后が通商産業省を通じ生花を賜う。 ○災害お見舞い

土曜日 清子内親王が学習院中等科へ進学するに当たり、 天皇・皇后より同内親王に万那料及

びお品料を、 皇太子・同妃に五種交魚代料を御贈進になる。 ○贈賜録、 宮内庁庁報

火曜日 午前、 正殿梅の 間において、 新任のソビエト連邦特命全権大使ウラジミール・ヤコ

ヴレェヴィチ・パブロフ及び同夫人を御引見になる。 ○女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 捧呈式録

謁見録、 宮殿行事録、 宮内庁庁報

ているため今回勲章の御贈進はないオン・ドヌール大綬章をお受けになっo 御会見になる。 十五日 木曜日 その際 午前、 相 天皇が国賓フランス国大統領フランソワ・ミッテラン及び同夫人ダニエ 互儀礼叙勲があり、 この来訪に際し、 天皇・皇后より大統領夫妻に御贈進の 皇后に国家功績勲章大十字型章が贈られる同国名誉勲章レジ 品があり、 皇后よ ルと

り大統領夫人に洋服生地産繭により織立を御贈進になる。 また大統領より天皇・皇后に御贈進の品があり、

皇后にはレース製ハンカチの入ったガラスの置物が贈られる。 なお、 昨十四日に大統領夫妻が入京し

た際に、 フランス国大統領閣下同夫人接待書類 皇后より大統領夫人に花束を御贈進になる。 外交贈答録 恩賜録、 贈賜録、 ○女官日誌、 宮内庁庁報、 侍従日誌 官報、 侍従職日誌、 朝日新聞 東京新聞、 内舎人日誌、 毎日新聞、 外賓参内 読

**欠新**聞

日曜日 午後、 天皇と共に吹上御所において、 この日誕生日を迎えた清子内親 王と御対 河面に

なる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、宮内庁庁報

敬一及び同夫人、 十九日 月曜日 午前、 エチオピア国駐箚特命全権大使榎本助太郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。 天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のヨルダン国駐箚特命全権大使橘

日誌、

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、

拝謁録、

宮殿行事録、宮内庁庁報

庁次長となり、

四十九年まで同職を務めた。

○侍従日誌、

侍従職日誌、

恩賜録、

贈賜録、

宮内庁庁報

日谷会堂に差し遣わされ、 元宮内庁次長瓜生順良去る十七日死去につき、天皇・皇后が御使として侍従森猛を葬儀が行われる千 祭粢料を賜う。また、 菓子及び切り花を賜う。 瓜生は昭和二十八年に宮内

二十日 と御対面になる。 火曜日 午前、 初参内に際し、 天皇と共に鳳凰の間において、 天皇・皇后より寬仁親王・同妃に三種交魚代料を、 この日初参内の彬子女王及び寬仁親王妃信子 彬子女王に万那

料・和服地権を御贈進になる。〇女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

二十二日 木曜日 非公式で来日中のトンガ国王妃ハラエバル・マタアホに花束を御贈進になる。 0

外交贈答録

女官日誌、

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、

拝謁録、

宮殿行事録、

宮内庁庁報、

入江相政日記

使橋爪三男及び同夫人、 二十三日 金曜日 午前、 エジプト国駐箚特命全権大使中江要介及び同夫人の拝謁をお受けになる。 天皇と共に正殿竹の間において、 近く赴任のコスタリカ国駐箚特命全権

正 一殿梅 0 間において、 新任のチリ国特命全権大使エドゥアルド・ブラーボ・ウッドハウス及び同夫人

を御引見になる。 女官日誌、侍徒日誌、 侍従職日誌、内舎人日誌、 捧呈式録、謁見録、 宮殿行事録、

及び同夫人バーバラを御引見になる。 二十四日 土曜日 この日、 天皇が公賓米国副大統領ジョージ・ハーバ この来訪に際し、 副大統領夫人より皇后に陶製モッキンバード ート・ウォーカー・ブッシュ

水曜日 午前、 正殿梅の間において、 新任の初代ジンバブエ国特命全権大使ハ ーバ ŀ

ニャマヤロ・カテッザ及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、捧呈式録、

謁

が献上される。

女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、

外賓参内録、

外交贈答録、

宮内庁庁報

克姆 宫殿行事每 宫内厅户帮

間において東久邇文子始め御親族の祝賀を順次お受けになる。さらに、 故者の祝賀をお受けになる。その後、 始め女官の祝賀をお受けになる。 元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀をお受けになる。 木曜日 典式録、儀式録、 天皇誕生日につき、 宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記、 ついで正殿梅の間において、皇太子・同妃始め皇族、 天皇と共に花の間前廊下において女嬬・雑仕の祝賀を、 午前、 花の間において、 朝日新聞、サンケイ、毎日新聞、読売新聞 宮内庁長官始め総代、 皇后お一方にて再び花 女官日誌、 元皇族 続いて女官長 鳳凰 侍従職

天皇誕生日一 長和殿ベランダにお出ましになり、 般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王、 宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。 正仁親王・同妃華子と共に、 午前·

侍従日誌、 内舎人日誌、典式録、 儀式録、 宮内庁庁報、 官報、 斎藤誠治業務日誌

お祝 天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王、 の御夕餐を御会食になる。 なお、 天皇誕生日に当たり、 天皇にお祝いの品を贈られる。 正仁親王・

誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

# 五月

本ユニセフ協会に、 В 土曜日 この日より十月三十一日まで第二十七回ユニセフ学校募金運動を実施する財団法人日 金一封を賜う。 ○社会事業、宮内庁庁報

は昭和二十六年に女官に任命され、 元女官小川梅子死去につき、 天皇・皇后が祭粢料を賜い、また、 同四十二年から四十四年にかけて女官長事務代理を務めるなど、 霊前に菓子及び切り花を賜う。 同人

約二十年にわたり側近に奉仕した。

○贈賜録、

恩賜録、

宮内庁庁報

四日 女官日誌、 Ш - 崎 一敏夫及び同夫人、 火曜日 侍従日誌、 午前、 侍従職日誌、 ウルグアイ国駐箚特命全権大使平野文夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。 天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のインドネシア国駐箚特命全権大使 内舎人日誌、 拝謁録、 宮殿行事録、 宮内庁庁報、 斎藤誠治業務日誌

六日 奏「海」をお聴きになる。 御着後、 木曜日 天皇と共に御車寄前において、 天皇と共に、午前十時三十分御出門になり、十一時五十一分葉山御用邸に行啓される。 ○女官日誌、侍従日誌、 葉山町住民十数名で構成された葉山太鼓保存会による太鼓演 侍従職日誌、 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、幸啓録、 葉山行幸啓録、

幸啓綴、

宮内庁庁報、

入江相政日記、

斎藤誠治業務日誌

七日 展望になる。 にある観音崎ビーチホテルに向かわれる。 金曜日 ついで園内の案内板前において、 天皇と共に、 午前九時四十六分葉山御用邸を御出門になり、 御着後、 神奈川県横須賀土木事務所長芳尾常善より公園 御休所一〇一 の室外から東京湾・ 神奈川県立観音崎 房総半島方面 公園内 (T) 概要 を御

戦 没船 ついての説明をお聞きになる。 皇后が財団法人日本殉職船員顕彰会に生花を賜う。 員 の 碑 ・め、昭和四十六年三月完成. 戦没船員約六万人の慰霊のた に 続いて園内の植物を御観察になる。 向 か われ、 同 1碑に黙禱される。 ついで園内の東京湾海上交通センター なお、 終わって、 同碑お立ち寄りにつき、 園内の丘の上にある の大型船

・、1 レト 5 個分を御訪問になり、 舶交通をレーダーでコを御訪問になり、 御休所室において、 第三管区海上保安本部長植村香苗より同施設に

終わって午後零時二十六分御帰邸になる。

○女官日誌、

侍従日誌、

内舎人供奉

日誌、 幸啓録、 葉山行幸啓録 恩賜録、 行幸啓綴、 神奈川県立観音崎公園所蔵資料、 斎藤誠治業務日誌

ての説明をお聞きになる。

八日 される。 土曜日 女官日誌、 天皇と共に、 侍従日誌、 侍従職日誌、 午前十時三十分葉山御用邸を御出門になり、 内舎人日誌、内舎人供奉日誌、 幸啓録、葉山行幸啓録、 <u>+</u> 時五十一分皇居に還啓 宮内庁庁報、 入江相政日記,

十日 月曜日 午前、 紅葉山御養蚕所にお出ましになり、 御養蚕始の儀を行われる。 女官日誌、 侍従日

誌 侍従職日誌、 内舎人日誌 発表綴 斎藤誠治業務日誌

十五日 況につい てお聞きになり、 土曜 白 午前、 紅葉山御養蚕所にお出ましになる。 御給桑になる。 その後天蚕・柞蚕を御覧になる。 御養蚕所主任神戸 〇女官日誌: 礼 一郎より蚕の生育状 侍従職日誌、

十七日 月曜 日 午前、 貞明皇后例祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 ○女官日誌、 典式録、 恒例

祭祀録、 祭典録、 宮内庁庁報 人日誌

島津季子
東宮女官長松村淑子母去る十五日死去につき、 天皇・皇后が霊前に菓子を賜う。 ○侍従職日誌、 恩賜録、

贈賜録

ばら会主催の 二十四日にも御出品になる。 水曜 白 春の この 日本ばら会展」に、 Ħ 翌二十日より二十五日まで日本橋高島屋におい ○吹上御所殿部日誌、 吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り 吹上御所仕人日誌、 贈賜録 て開催される財団法人日 花を御出品になる。 本

時が懐かしいとの感想を述べられる。 テルに御到着になる。 天皇をお待ちになる。 御巡覧になる。 王寺に移られ、 御視察になる。 勢の概要についてお聞きになる。 日光市の 二十一日 御泊所日光金谷ホテルに御到着になる。 天皇と共に同県に行啓される。 金曜 三仏堂を御覧になる。 それより日光二荒山神社に向かわれ、 終わって社務所二階御休所において、 日 栃木県において開催の第三十三回全国植樹祭に御臨場、 なお、 天皇が日光東照宮に戻られた後、 皇后は侍従を通じて、 終わって旧日光田母沢御用邸明光博を御訪問になり、 ○女官日誌、 ついで日光東照宮に御着になり、 午前九時四十六分御出門になり、 侍従日誌、 同所において御昼餐の後、 旧日光田母沢御用邸について、 お一方にて社務所北神苑の植 銅灯籠・大国殿等を御覧になる。 午後五時十五分天皇と共に御泊所日光金谷ホ 侍従職日誌 内舎人日誌、 陽明門· 原宿駅より日光駅を経て、 栃木県知事船田譲より県 併せて地方事情を御 内舎人供奉日誌、 眠り猫 利用されていた当 生地に向かわ 屋内及び庭園 の彫刻 次に日光山 などを れた 視察 地方

 $\mathcal{O}$ てお過ごしになる。 お手播き会場である宇都宮市 土曜日 午前、 御泊所に戻られた天皇と共に御昼餐の後、 日光霧降高原に向かわれる天皇をお見送りの後、  $\mathcal{O}$ 栃木県林業センター に向かわ れる。 天皇と共に御出発になり、 御着後、 御泊所日光金谷ホテルに お手播き床に進まれ 全国植樹祭

行幸啓、

宮内庁庁報、

官報、

入江相政日記、

斎藤誠治業務日誌、

下野新聞

栃木新聞

三分那

須

御

用邸に御到着になる。

夕刻、

侍従より皇后の膝

0

痛みについ

て、

昨

日から

痛みを訴えられ

皇と共に 覧になる。 る記念播種 をお手播きになる。 林業後継 者地 ホ グテル 終わって午後三時二十四分御泊所宇都宮グランドホテルに御到着になる。 の模様を御覧になる。 元婦人代表柴田マサ子・みどりの の庭園を御散策になる。 天皇はトチ・ 続いて展示館において、 スギの種子をお手播きになる。 女官日誌、 少年団代表清水宏美の介添えにてトチ・ヒ 侍従日誌、 益子焼 侍従職日誌、 ついで高齢者・みどりの 結城紬 内舎人供奉日誌、 ・日光彫などの 幸啓録、 御少憩の後、 展示品 少年団 ノキの 宮内庁庁報 を御 種

入江相政日記、

斎藤誠治業務日誌、

下野新聞、栃木新聞、

毎日新聞

年団 その後 視察をお取りやめになり、お一方にて宮川渓谷やセンター内の視察に向かわれた天皇をお待ちになる。 設けられた放鳥箱 天皇は栃木県知事船田 産大臣賞受賞者山県睦・栃木県林業振興協会婦人代表加藤竹子・林業後継者代表阿久津洋子・緑の少 立所のお席に臨まれ、 り矢板駅を経て、 二十三日 丰 |代表阿久津香の介添えにて、 苗 向 お戻りになった天皇と共に矢板公民館に向かわれ、 本、 日曜日 われ スギの苗二本をお手植えになる。 る。 第三十三回全国植樹祭の会場である矢板市の県民の森に向 の紐をお引きになり、 午前 御休所にて御昼餐の後、 [譲の介添えにて、 国土緑化功労者への表彰等を御覧になる。 九 7時四十 トチノキの苗一 ·四分天皇と共に御泊所宇都宮グランドホテル ヤマドリ約二百羽を放たれる。 皇后は同県議会議長平山正二の介添えにて、 皇后は昨二十二日から訴えられた膝の痛みのため、 本、 植樹祭参加者による植樹の模様を御覧になった後、 ヒノキの苗二本をお手植えになる。 同所において御少憩の後、 続いてお手植え地に移られ、 終わって県民の森総合管理セ かわ を御出発、 れ る お野立所の前に 御着後 午後三時五十 天皇は、 宇都 農林水 宮 トチ お 野

理事務所事務官日誌、 ていたことなどが発表される。なお、皇后の全国植樹祭への御臨場は、この年が最後となる。 侍従日誌、 、侍従職日誌、 宮内庁庁報、官報、入江相政日記、 内舎人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓、 斎藤誠治業務日誌、 地方行幸啓、 下野新聞、栃木新聞、 那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管 読売新聞 〇女官目

太子妃を差し遣わされ 水曜日 明治神宮会館において開催の昭和五十七年度全国赤十字大会に、御名代として皇 次のお言葉を賜う。

増進のために大きな力となつておりますが、日本赤十字社が国際赤十字の一員として、立派にそ |使命を果たしていることは、皆さんの尽力によるものと心から満足に思います。 赤十字は、国際的な強いきずなのもとに、人道的事業を推進し、広く世界の人々の平和と福祉 本日ここに、昭和五十七年度全国赤十字大会が盛大に開かれたことを大変うれしく思います。

いに力を合わせて、一層力強い活動を進められるよう希望してやみません。 重要雑録、宮内庁庁報、 官報、事業年報(日本赤十字社)、赤十字新聞

日本赤十字社の役割は、これからますます大きくなつていくものと思いますので、皆さんが互

理事務所日誌、 に還啓される。 木曜日 那須御用邸管理事務所事務官日誌、宮内庁庁報、官報、 女官日誌、侍従日誌、 天皇と共に、 午前八時五十三分那須御用邸を御出門になり、 侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、 卜部亮吾侍従日記、 幸啓録、 斎藤誠治業務日誌 那須御用邸行幸啓、那須御用邸管 十一時四十七分皇居

われるに当たり、 金曜日 天皇・皇后が同省に生花を賜う。 来る三十一日、 千鳥ヶ淵戦没者墓苑において厚生省主催の拝礼式並びに納骨が行 ○恩賜録、宮内庁庁報

### 六月

しは翌二日に延期となったが、 日 火曜日 足の痛みのため、 足の痛みのため再びお取りやめになる。 紅葉山御養蚕所へのお出ましをお取りやめになる。 ○侍従職日誌、 斎藤誠治業務日誌 同 所への お出ま

七日 月曜日 この日宮内庁より、 去る五日からの御風気が快方に向かわれているものの、 御用心の

来る九日に開催される菊栄親睦会を御欠席になることが発表される。

○発表綴、卜部亮吾侍従日記

ためお休みになっていること、

宮内庁楽部において開催される糸竹会例会へのお出ましをお取りやめになる。 なお、 糸竹会会員に菓

子を賜う。○贈賜録、糸竹会

十四日 月曜日 紅葉山御養蚕所へのお出ましをお取りやめになる。 ○侍従職日誌

スウェーデン国王妃シルヴィア去る十日第二王女出産につき、 十一旦、 同国国王カール十六世グスタ

フより 天皇に親電が寄せられ、 この日、 天皇・皇后が同国王に祝電をお送りになる。これに対し翌十

五日、答電がある。〇外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

この 月 タイ国特命全権大使ウィチアン・ワタナクンより、 天皇・皇后にドリアンが献上される。 0

外交贈答録

る。 る。 十六日 御着後、 御休所に 水曜日 おいて御昼餐の後、 天皇に続いて多摩陵を御拝礼になり、 この度より天皇・皇后共に両陵大階段の下に設置された御拝舎において御拝礼にな 午前十時二分天皇と共に御出門になり、 午後二時七分還啓される。 ついで多摩東陵を御拝礼になる。 多摩陵皇陵並びに多摩東陵后陵に ○女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 なお、 皇后の 行 啓され

録、行幸啓録、臨時祭祀録、宮内庁庁報、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記、斎藤誠治業務日誌

皇族関係録、外交雑録、 に至り、 大使の御引見はお取りやめとされ、宮殿での記帳をもって代替することとなるが、 ク・ドナルド・ワーモンド及び同夫人、ウルグアイ国特命全権大使フリオ・ラカルテ・ムロ及び 人を順次御引見になる。なお、新任外国大使の皇后御引見は、これが最後となる。これ以降当分の間 その旨が宮内庁の内規において定められる。 木曜日 午前、 例規録、 宮殿行事録、 正殿梅の間において、 宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記、斎藤誠治業務日誌 新任のアルゼンチン国特命全権大使ジェームス・マッ ○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、 昭和六十一年一月 捧呈式録、 同夫

二十二日 一世に祝電をお送りになる。 火曜日 英国皇太子チャールズの第一王子誕生につき、天皇・皇后が同国女王エ これに対し七月二十一日、 答電がある。 ○外交慶弔録、 宮内庁庁報 リザベス

職日誌、 二十三日 水曜日 午前、 紅葉山御養蚕所にお出ましになり、 蚕の様子を御覧になる。 女官日誌、

亮吾侍従日記

二十六日 土曜日 去る二十一日より済生会中央病院に入院中の宣仁親王妃喜久子に、 果物を賜う。

#### 七月

贈賜録、

発表綴、

宣仁親王略御年譜

に宮殿御車寄前において、 火曜日 午前、 紅葉山御養蚕所にお出ましになり、 紅葉山御養蚕所主任神戸礼二郎及び助手四名に御会釈を賜う。 御養蚕納の儀を行われる。その後天皇と共 女官日誌、

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、賜与録、発表綴

七日 昭之及び同夫人の拝謁をお受けになる。 水曜日 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 女官日誌、 侍従日誌、 近く赴任のレバ 侍従職日誌、 内舎人日誌、 ノン国駐箚特命全権大使沢井 拝謁録、 宮殿行事録、

相政日記

らの は、 八日 正等の拝謁をお受けになり楽部玄関を御発、 に進まれる。 席する。 誘拐」 皇太子妃・正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子、 木曜日 宮内庁楽部に御着後、 序曲などをお聴きになる。 演奏会では、 午後、 桃華楽堂にお出ましになり、 ブル 皇太子妃・正仁親王妃・故雍仁親王妃と御対面になり、 ッフ作曲ヴァイオリン協奏曲第一番、 演奏終了後、 吹上御所に還御される。 指揮者甲斐正雄 楽部職員の洋楽演奏会に御臨席になる。 及び鷹司和子始め元皇族 ○女官日誌、 首席楽長東儀信太郎 モーツァ ルト作曲歌劇 侍従職日誌、 ・御縁故者五名が出 ついでホ 内舎人日誌 楽長上近 演奏会に 「後宮

発表綴、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

十四日 日誌、 れる。 那須御用邸管理事務所事務官日誌、 ○女官日誌、 水曜 白 侍従日誌、 天皇と共に、 侍従職日誌、 午前九時三十九分御出門になり、 宮内庁庁報、 内舎人日誌、 入江相政日記、 内舎人供奉日誌、 斎藤誠治業務日誌 幸啓録、 午後零時十四分那須御用邸に行啓さ 那須御用邸行幸啓録、 那須御用邸管理事務

十五日 須御用邸管理事務所日誌、 しば天皇と共に散策され、 木曜日 午前、 那須御用邸管理事務所事務官日誌 天皇と共に御内庭を散策され、 植物を御調査になる。 ○女官日誌、 植物を御調査になる。 侍従日誌、 内舎人供奉日誌、 御用邸御 那須御用邸行幸啓録、 滞在中、 しば

金曜日 東久邇成子の祥月命日につき、 お出ましをお控えになる。 ○女官日誌、 侍従日誌

職日誌、 内舎人供奉日誌、 那須御用邸行幸啓録、 典式録、 那須御用邸管理事務所日誌

二十六日 月曜日 去る二十三日から二十四日にかけての豪雨により甚大な被害を受けた長崎県及び

熊本県に、 天皇・皇后がお見舞金を賜う。 ○災害お見舞い、宮内庁庁報

三十日 金曜日 明治天皇例祭につき、 終日御用邸にて静かにお過ごしになる。 女官日誌、

祭祀録、 祭典録、 宮内庁庁報

### 八月

三日 員によりヤマドリ三十羽・キジ二十羽の放鳥が行われる。 等の介添えにてヤマドリとキジを雌雄一羽ずつ放たれる。 火曜日 午前、天皇と共に謁見所前のベランダ鳴亭から変更にお出ましになり、 なお、 女官日誌、 これと同時に、 侍従日誌、 内舎人供奉日誌、 嚶鳴亭では栃木県職 栃木県知事 那須御用邸行 船 田 譲

五日 木曜日 この度の台風十号並びに引き続いての大雨のため甚大な被害を受けた大阪府 ・奈良 幸啓録、

那須御用邸管理事務所日誌

県・三重県に、 天皇・皇后がお見舞金を賜う。 ○災害お見舞い、 宮内庁庁報

那須御用邸行幸啓録、 金曜日 広島原爆の日につき、 那須御用邸管理事務所日誌 午前中、 御用邸にて静かにお過ごしになる。 女官日誌、

入江相政日記、斎藤誠治業務日誌

須御用邸管理事務所日誌、 那須御用邸管理事務所事務官日誌、 九日

月曜日

長崎原爆の日につき、

終日、

御用邸にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、

侍従日誌、

那

侍従日誌

+ 水曜日 北白川房子の祥月命日につき、 御用邸にて静かにお過ごしになる。 女官日誌、 侍従日

誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、斎藤誠治業務日誌

十五日 日曜日 この日全国戦没者追悼式が行われるに当たり、 去る十三日、 天皇・ 皇后が厚生省に

生花を賜う。○恩賜録、宮内庁庁報

陶器飾鉢が献上される。○女官□誌、 ヤルを御引見になる。この来訪に際し、 典式録、 水曜日 外賓参内録、 午後、 外交贈答録、 天皇が謁見所において公賓国際連合事務総長ハビエル・ペ 入江相政日記、 侍従日誌、 事務総長より天皇・皇后に献上の品があり、 侍従職日誌、 斎藤誠治業務日誌 内舎人供奉日誌、 那須御用邸行幸啓録、 那須御用邸管理事務 レス・デ・クエ 后には英国製

### 九 月

日 水曜日 関東大震災の日に当たり、 終日、 御用邸にて静かにお過ごしになる。 女官日誌、

誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌

七日 侍従職日誌、 の御健康状態に関しては、 質問にお答えになる。その際に、 火曜日 内舎人供奉日誌、 午前、 天皇が嚶鳴亭において宮内記者会会員二十二名とお会いになり、各記者からの 那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、 腰の痛みも平常のように戻っている旨をお答えになる。○女官□誌、侍従□誌、 天皇・皇后の御健康状態などについての質問をお受けになる。 天皇記者会見、

ム夫人より、 水曜日 絵画が献上される。 非公式に来日中のエジプト国家評議会議長モハメッド・アブデル・カーデル・ハーテ ○外交贈答録、 外務省公表集

入江相政日記、

昭和天皇と私達

九日 木曜 日 久邇俔子母の祥月命日につき、 終日、 御用邸にて静かにお過ごしになる。 〇女官日誌、 侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、典式録

十日 される。 罐日 ○女官日誌、 天皇と共に、 侍従日誌、 侍従職日誌、 午前九時二十四分那須御用邸を御出門になり、 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 那須御用邸行幸啓録 午後零時二分皇居に 那須御用邸管理事務 |還啓

所日誌、

那須御用邸管理事務所事務官日誌、

宮内庁庁報、

斎藤誠治業務日誌

梁井新 十六日 女官日誌、 侍従日誌、 及び同夫人、 木曜日 侍従職日誌、 午前、 シンガポ 天皇と共に正殿竹の間において、 内舎人日誌、 Ì ル国駐箚特命全権大使深田宏及び同夫人の拝謁をお受けになる。 拝謁録、 宮殿行事録、 宮内庁庁報 近く赴任のパ キスタン国駐箚特命全権大使

十七日 松井以都子の拝謁をお受けになる。 二十一日 昭 和三十一 金曜 年より 火曜日 Ħ 四十三年まで、 山口玉糸去る八日死去につき、 午後、 天皇と共に鳳凰 長年皇后の絵画 ついで皇后が両名を花の間にお召しになり、 の間におい の指導に当たってい 霊前に菓子を賜う。 て、 この度退職の宮内庁御用 た。 Щ 口 ○贈賜録、 は 日本画家として知られ、 お茶の席を設けられ 没後八○年跡見玉枝 掛須山節子及び同

二十三日 木曜日 午前、 秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 ○女官日

相政日記、

斎藤誠治業務日誌

内舎人日誌、

典式録、

恒例祭祀録

祭典録、

宮内庁庁報

る。

また皇后が両名に絹地養養所産等を賜う。

女官日誌、

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、

典式録、

贈賜録、

入江

訪米に同行した元首席随員福田赳夫始め元随員・元随行員の拝謁をお受けになる。 二十七日 月曜 日 午後、 天皇と共に正殿竹の 間におい て、 昭 和 四十六年の御訪欧及び ○女官日誌、 同 Ŧī. 侍従日誌 + 年の 御

侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、入江相政日記、真崎秀樹英文日記

訪問する徳仁親王の首席随員竹内春海顧問の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人 二十八日 火曜日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、来る十月三日より十八日までブラジル国を

日誌、贈賜録、宮内庁庁報、入江相政日記

実施する社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后が事業御奨励のため金一封を賜う。 三十日 木曜日 翌十月一日より十二月三十一日まで昭和五十七年度国民たすけあい共同募金運動を ○社会事業、

### 十月

内庁庁報

庁報、

宮内庁要覧、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記

る。

○幸啓録、卜部亮吾侍従日記

ル国を訪問する徳仁親王と御対面になる。 日 金曜日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、 女官日誌、 侍従日誌、 来る三日より十八日まで国際親善のためブラジ 侍従職日誌、 内舎人日誌、 贈賜録、 東宮録、

この 現在も最善を尽くしており、 「第一腰椎変形」であること、この病気は完全治癒はありえず、病状の悪化を防止するほかないこと、 Ħ 皇后の腰の容態について神社新報社から寄せられた質問に対し、 充分な治療は確実になされていると確信を持っていることなどを回答す 総務課長手島堅次が病名は

七日 及び同夫人、 木曜日 ドイツ民主共和国駐箚特命全権大使村上謙の拝謁をお受けになる。 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のトルコ国駐箚特命全権大使杉原真 ○女官日誌、 侍従日誌

侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

際し、 八日 天皇・皇后が御使として式部副長山下和夫を同空港に差し遣わされ、 金曜日 この日タイ国皇太子ワチラロンコーンが米国訪問の途次新東京国際空港に立ち寄るに お言葉をお伝えになる。

○外交雑録、卜部亮吾侍従日記、斎藤誠治業務日誌

舎人日誌、

恒例祭祀録、

祭典録、

宮内庁庁報

十七日 日曜 日 午前、 神嘗祭につき、 吹上御所において神宮及び賢所を御遙拝になる。 ○女官日誌、 内

十八日 敬三及び同夫人、 月曜日 モンゴ 午前、 ル国駐箚特命全権大使小崎昌業及び同夫人の拝謁をお受けになる。 天皇と共に正殿竹の間において、 近く赴任のイラク国駐箚特命全権大使木村 女官日誌

侍従日誌

侍従職日誌、

内舎人日誌、

拝謁録、

宮殿行事録、

宮内庁庁報、

入江相政日記

十九日 首席随員斉藤鎮男會內方 リア国及びニュージーランド国を訪問する宜仁親王と御対面になる。ついで天皇と共に同所において、 火曜日 午前、 の拝謁をお受けになる。〇女官日誌、 天皇と共に鳳凰の間において、来る二十五日より十一月七日までオーストラ 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 贈賜録、 宮内庁庁

夕刻、 女官日誌 天皇と共に吹上御所において、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 東宮録、 昨十八日ブラジル国から帰国した徳仁親王と御対面になる。 贈賜録、 宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌 0

斎藤誠治業務日誌

日誌、 二十日 代の祝賀をお受けになる。 侍従職日誌、 水曜日 内舎人日誌、 皇太子妃の誕生日につき、 典式録、 ついで天皇と共に同所において、 贈賜録、 東宮録、 午前、天皇と共に鳳凰の間において、 宮内庁庁報、 入江相政日記 皇太子妃と御対面になる。 宮内庁長官始め総 女官日誌、

催される財団法人日本ばら会主催の 金曜日 この日、 翌二十三日より二十四日まで福岡県田川市田川文化センターにおいて開 「秋の日本ばら会展」に、 吹上御所前庭にて御栽培のバラの

二十五日 月曜日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、 先般の徳仁親王のブラジル国訪問における

花を御出品になる。

○贈賜録

首席随員竹内春海の拝謁をお受けになる。 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 宮内庁庁報、 入江相政日

記

女官日誌、

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、

典式録、

宮殿行事録、

入江相政日記

二十六日 火曜日 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 松栄会会員二十八名の拝謁をお受けにな

団法人日本ばら会主催の 二十八日 木曜日 この日、 「秋の日本ばら会展」に、 翌二十九日より十一月三日まで大阪市阪急百貨店において開催される財 吹上御所前庭にて御栽培のバラの 切り花を御出品

# 十一月

になる。

○贈賜録

十日 大使中野直樹及び同夫人の拝謁をお受けになる。 大使秋山光路及び同夫人、リビア国駐箚特命全権大使高須日出夫及び同夫人、 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、 女官日誌、 近く赴任のニュージーランド国駐箚特命全権 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 ガー ナ 国駐箚特命全権 拝謁録、 宮殿行

十 一 日 木曜日 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 近く赴任のオーストラリア国特命全権大使 事録、

宮内庁庁報

日誌、 柳 ||谷謙介及び同夫人、スーダン国駐箚特命全権大使山野勝由及び同夫人の拝謁をお受けになる。 侍従日誌、 侍従職日誌 内舎人日誌、 拝謁録、 宮殿行事録、 宮内庁庁報、 入江相政日記、 卜部亮吾侍従日記

仁親王と御対面になる。 天皇と共に鳳凰の間において、 ついで天皇と共に同所において、 去る七日にオーストラリア国及びニュージーランド国から帰国した宜 首席随員斉藤鎮男の拝謁をお受けになる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記

参加するにつき、 来る十九日からインド国デリー市などにおいて開催される第九回アジア競技大会に日本代表選手団が この日、 天皇・皇后が御奨励のため財団法人日本体育協会に金一封を賜う。 ○恩賜.

宮内庁庁報

になる。 鈴木貫太郎筆等を御覧になりつつ館内に進まれ、当時侍従長の等を御覧になりつつ館内に進まれ、 十五日 うちの黄八丈染元において、 次に八丈島歴史民俗資料館昭和四年当時 る。 御出発、 御出門になり、 しになり、 御着後、 正午過ぎ、 十時五十五分八丈島空港に御到着になる。それより八丈町にある東京都八丈支庁に向かわれ 月曜 皇后は御泊所展望台において八丈富士等を御覧になりスケッチされる。 東京都知事鈴木俊一より、 Ė 天皇と共に同地 私的な御旅行として東京都八丈島及び三宅島を御訪問になるため、 御泊所の八丈島太洋第一ホテルにおいて御昼餐の後、 昭和二十七年五月に皇后が下賜された小石丸至所の蚕から黄八丈が二反織 へ行啓される。 の旧八丈支庁復元門前に御着になり、 八丈島、 黄八丈の絹織物の反物等の歴史文化関係の展 九時五十分、 青ヶ島等の島勢概要についての説明をお聞きになる。 東京国際空港より全日本空輸特別機にて 天皇は島内御視察にお出 昭 和 远年 なお、 -の行幸記念碑四年 午前九時十五分 示品を御覧 御視察地

都庁所蔵資料、 の実演を御覧になる。 ルにおいて、 5 は、 られたこと、そのうちの一反が皇后に献上として当地にて保存されたことを天皇がお聞きになる。この下賜 果たせぬまま崩御されたことを承けたものである。 和二十五年に貞明皇后が黄八丈をお知りになり、 入江相政日記、 東京都無形民俗文化財に指定の郷土芸能樫立踊り及び盆踊歌ショメ節、 女官日誌、 斎藤誠治業務日誌、 侍従日誌、 天皇陛下・皇后陛下八丈島行幸啓の記録、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 夕刻、 小石丸を下賜されることを望んでおられなが 内舎人供奉日誌 お戻りになった天皇と共に御泊所ホー 八丈支庁事業概要、 幸啓録、 宮内庁庁報、 また八丈太鼓等 広報はちじょう、 官報、

昭和、

東京七島新聞、

南海タイムス、読売新聞

日誌、 東京都無形民俗 を御覧になる。 皇后陛下八丈島行幸啓の記録、 火の山峠に向かわれる天皇をお見送りになり、 概要についての説明をお聞きになる。 になる。 Ш よりお召し船に御乗船になり、 十六日 Lの噴火で造山展望台に向かわれる。 L昭和三十七年展望台に向かわれる。 侍従日誌、 次に東京都三宅支庁に御着になり、 火曜日 水曜日 内舎人供奉日誌、 午前九時二十六分御泊所八丈島太洋第一ホテルを天皇と共に御出発、 午前中、 昭和、 終わって二時二十三分御泊所三宅島観光ホテルに御到着になる。その後: 天皇はお一方にて三宅島島内を御視察になり、 幸啓録、 朝日新聞、 三宅島に向かわれる。 御着後、 宮内庁庁報、 サンケイ、 御少憩の後、 昭和三十七年のひょうたん山噴火で造山の 官報、 御座所出納事において東京都知事鈴木俊一より、 東京新聞、 夕刻、 東京都庁所蔵資料、 玄関の御席に着かれ、 午後一 御泊所にお戻りの天皇をお出迎えになる。 東京七島新聞、 時三宅島の三池港に御到着になり、 入江相政日記、 南海タイムス、 郷土芸能 皇后は御泊所三宅島観光ホ 斎藤誠治業務日誌、 日本経済新聞 「伊ヶ谷の獅子舞」 噴火の跡を御展望 八丈島神湊港 三宅島の 天皇陛下・ 〇女官

所蔵資料、 られる。 をうれしく思う、島の風景や伝統的郷土芸能を楽しく見ることができたとの感想を侍従を通じて述べ 三時三十三分天皇と共に皇居に還啓される。なお、本行啓の感想として、初めて南の島を訪れたこと テルにおいてお過ごしになる。正午過ぎ、お戻りになった天皇と共に同所において御昼餐の後、 一時五十六分御出発、三宅島空港より全日本空輸特別機に御搭乗になり、東京国際空港に向かわれる。 東京都三宅支庁所蔵資料、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 卜部亮吾侍従日記、 内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、 斎藤誠治業務日誌、朝日新聞、サンケイ、東京七島新聞、 地方行幸啓、 宮内庁庁報、 毎日新聞、 官報、東京都庁 午後

新聞

十九日 金曜日 午後、 吹上御所において、 この度叙勲を受けた内掌典三上下枝の拝謁をお受けにな

る。

〇女官日誌、内舎人日誌、官報

なる。 誌、文化祭目録、 二十日 同展には日本画の御作品「秋めく」「葉山初冬」を御出品になる。 土曜日 重要雑録、 午前、 発表綴、卜部亮吾侍従日記、サンケイ 宮内庁庁舎講堂にお出ましになり、宮内庁職員組合文化祭の美術展を御覧に ○女官日誌、侍従職日誌、 内舎人日

なる。 ○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、 二十八日 日曜日 午後、 天皇と共に吹上御所において、 この日誕生日を迎えた正仁親王と御対面に

# 工月

糸竹会会長三条実春の先導により御休所にお入りになり、 二日 木曜日 午後、宮内庁楽部にお出ましになり、糸竹会例会に御臨席になる。楽部玄関に御着後、 ついで鏡の間に進まれ御着席になる。 例会

従職日誌、

内舎人日誌、

発表綴、

宮内庁庁報、

入江相政日記、

卜部亮吾侍従日記!

済寧

了後、 では、 お受けになる。 平調音取、 その後、 三台塩急、 糸竹会会員等のお見送りを受け楽部玄関を御発、 林歌、 越殿楽秀楽、 老君子、 貞明皇后御歌の演奏をお聴きになる。 吹上御所に還御される。 楽長上近正点の拝謁 演奏終 0

六日 拝謁をお受けになる。 月曜日 午前、 なお、 天皇と共に鳳凰の間において、 西川はこの度新たに宮内庁御用掛となる。 新任の侍医伊東貞三及び前任の侍医西川 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌 郎  $\mathcal{O}$ 

内舎人日誌、典式録、

恩賜録、

官報

女官日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、

糸竹会

なる。 九日 邦美及び同夫人、 女官日誌、 木曜日 午前、 侍従日誌、 欧州共同体で日本政府代表部特命全権大使加賀美秀夫及び同夫人の拝謁 天皇と共に正殿竹の間において、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 拝謁録、 宮殿行事録、 近く赴任のブラジル国駐箚特命全権大使伊達 宮内庁庁報、 入江相政日記 をお受けに

指揮者の音楽隊楽長原茂基・前楽長佐藤光三・常任講師甲斐正雄の拝謁をお受けになる。 序曲「祝典」始め五曲をお聴きになる。演奏終了後、 太子妃、 誌 天皇と共に鳳凰の間において、 侍従日誌、侍従職日誌、 桃華楽堂にお出ましになり、 正仁親王妃華子、 内舎人日誌、 故雍仁親王妃勢津子が陪席する。 去る十一月三十日に誕生日を迎えた文仁親王と御対面になる。 贈賜録、東宮録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記、富田メモ 皇宮警察本部音楽隊創設三十周年記念演奏会に御臨席になる。 御休所前廊下において皇宮警察本部長橋本佑三、 演奏会では、 フランク・ エリクソン作曲 女官日誌、 〇女官日 皇

年の 内省御用掛、 元宮内府御用掛諸橋轍次rmmmを買、すり日死去につき、天皇・皇后が祭粢料を賜う。 を御会食になる。 天皇と共に吹上御所において、 講書始で漢学を進講した。 宮内府御用掛を歴任し、二十四年より書陵部委員を務めた。 その際、 天皇・皇后が西川にお品を賜う。 また二十年から二十三年にかけて皇后宮職御用掛、 先般退職した元侍医西川一郎及び侍従・侍医・女官長・女官と御夕餐 〇女官日誌、 侍従日誌、 ○恩賜録、 贈賜録、 宮内庁庁報 東宮職御用 諸橋は昭和 斎藤誠治業務日誌 掛 宮

十四日 けになる。 火曜日 女官日誌、 午前、 侍従日誌、 天皇と共に鳳凰の間において、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 典式録、 京都在住堂上会総代西洞院愛信の拝謁をお受 贈賜録、 入江相政日記

十五日 水曜日 夕刻、 賢所御神楽につき、吹上御所において御遙拝になる。 女官日誌、 典式録、 恒例祭

祀録、

祭典録、宮内庁庁報

誠治業務日誌

十六日 ○女官日誌、 木曜日 侍従日誌 天皇と共に、午後一時十二分御出門になり、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌 幸啓録、 須崎御用邸行幸啓、 四時四十四分須崎御用 宮内庁庁報 邸に行啓され

十八日 れぞれ金一封を賜う。また向陽会に皇后が、 十日に 事業年報 も天皇と共に散策され、 月曜 土曜 (日本赤十字社) Ė Ħ 午前、 日本赤十字社に天皇 天皇と共にミカン園から展望台への道を散策され、 植物を御調 皇后が、 査になる。 歌道御奨励のため金一封を賜う。 財団法· ○女官日誌、 人結核予防会に皇后が、 侍従日誌 内舎人供奉日誌、 植物を御調査になる。 ○恩賜録、 事業御奨励のためそ 社会事業、 須崎御用邸行幸啓

水曜日 天皇と共に、 午後零時三十四分須崎御用邸を御出門になり、 四時皇居に還啓され

る。 ○女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓、宮内庁庁報、 入江相政日記,

斎藤誠治業務日誌

二十三日 皇太子と御対面になる。 続いて女官長始め女官、 木曜日 皇太子の誕生日につき、 女官日誌、 元皇子傅育官の祝賀を順次お受けになる。 侍従日誌、 午前、 侍従職日誌、 天皇と共に鳳凰の間において、 内舎人日誌、 典式録、 ついで天皇と共に同所にお 贈賜録、 東宮録、 宮内庁長官始め総 宮内庁庁報、入

江相政日記、斎藤誠治業務日誌

二十五日 土曜日 午前、 大正天皇祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 女官日誌、

典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

命全権大使今井隆吉及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録 月曜日 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任の軍縮委員会日本政府代表部特

宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

内親王より歳末の祝詞言上をお受けになる。 官より歳末の祝詞言上を、 宮内庁庁報、 水曜日 入江相政日記、 午前、 富田メモ ついで皇太子・同妃始め皇族、 天皇と共に鳳凰の間において、 ○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、贈賜録、 宮内庁長官始め総代、 元皇族、 御縁故者、 さらに文仁親王・清子 続いて女官長始め女

# 昭和五十八年(西暦一九八三年) 八十歳

### 月

親王・ 事録、 仕者等の祝賀を天皇と共にお受けになる。 は各祝賀の間に、文仁親王・清子内親王、 所長官等、 妃・徳仁親王、 日 東宮録、宮内庁庁報、官報 土曜日 同妃信子・容子内親王・憲仁親王、 各国外交使節団の長等の祝賀を順次お受けになる。 正仁親王・同妃華子、 午前九時四十五分より、 故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王、崇仁親王・同妃百合子・寛仁 天皇と共に宮殿において新年祝賀の儀に臨まれ、 続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判 ○女官日誌、 元皇族・御縁故者等、 侍従日誌、 侍従職日誌、 なお、 宮内庁長官始め部局長等及び側近奉 新年祝賀の儀に先立ち、 内舎人日誌、 典式録、 儀式録 皇太子・同 あるい 宮殿行

〇年末年始行事、サンケイ、 と、最近は吹上御所において短い時間ではあるが積極的に御散策になっていることなどが発表される。 新年を迎えるに当たり、宮内庁より皇后の御様子について、 東京新聞、 日本経済新聞、 毎日新聞、読売新聞 腰の状態は大変順調で落ち着いているこ

二日 三回・ 曜日 午後四回 新年一般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王、正仁親王・ (T) 計七回、 長和殿ベランダにお出ましになり、 宮殿東庭に参集した一般参賀者に 同妃華子と共に、

御会釈を賜う。 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、 東宮録、 宮内庁庁報、 官報、 斎藤誠治

業務日誌、 入江相政日記、 卜部亮吾侍従日記

三日 月曜日 午前、 元始祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 女官日誌、 内舎人日誌、

恒

例祭祀録、 祭典録、 宮内庁庁報

天皇と共に吹上御所において、 この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。 女官日誌、 侍従

日誌、

四日 舎祭に、 火曜日 侍従森猛を豊島岡墓地における墓所祭に差し遣わされる。 雍仁親王三十年式年祭につき、皇后宮使として、侍従斎藤誠治を秩父宮邸における霊 また、 天皇・皇后が、

勢津子に菓子を賜う。 ○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、皇親録、 写真に切り花及び果物をお供えになり、さらに、 贈賜録、 発表綴、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

及び榊を、

墓所に榊を、

五日 われた雍仁親王三十年式年祭についてのお礼言上をお受けになる。 水曜日 午前、 天皇と共に吹上御所において、 故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌 昨四日行 内舎人

六日 木曜日 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 近く赴任のフィリピン国駐箚特命全権大使大

○女官日誌、

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、

拝謁録、

日誌

内庁庁報、 斎藤誠治業務日誌

美雄及び同夫人の拝謁をお受けになる。

七日 ついで宮殿御車寄内において元女嬬等の祝賀をお受けになる。 金曜日 新年につき、午後、天皇と共に鳳凰の間において元女官・元皇太后宮女官等の祝賀を、 その後、 皇后お一方にて、 花の間にお

お尋ねとして故雍仁親王妃

この年は概ね毎週金曜日に行われた定例の参殿を始め、 天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・文仁親王・清子内親王と御夕餐を御会食になる。 以後、 いて御学友・御同級生七名の祝賀をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、 随時、 皇太子一家と御対面・御会食になる。 侍従職日誌、 内舎人日誌、

覧になる。この年のお題は「島」であり、 金曜日 午前、 歌会始の儀にお出ましにならず、 皇后宮御歌は次のとおり。 吹上御所においてそのテレビ中継放送を御

皇后宮御歌

○女官日誌、

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、発表綴、東宮録

**岡人のたつき支へし黄八丈の染めの草木をけふ見つるかな** 

○女官日誌、儀式録、宮内庁庁報、官報、斎藤誠治業務日誌

瓶を賜い、 二十一日 また、 金曜日 霊前に菓子及び切り花を賜う。 東宮侍従長黒木従達去る十九日死去につき、 ○恩賜録、 贈賜録、 宮内庁庁報、 天皇・皇后が祭粢料及び御紋付銀花 官報、 斎藤誠治業務日誌、 入江相

政日記、

卜部亮吾侍従日記

この年も皇族・御親族と随時、 同妃百合子と御対面になり、 二十二日 土曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、故雍仁親王妃勢津子、 寒中の御機嫌伺いをお受けになった後、 御対面・御会食になる。〇女官日誌、侍従日誌、 御夕餐を御会食になる。 侍従職日誌、内舎人日誌 宣仁親王、崇仁親王・ 以後、

より皇后に献上の品があり、

皇后には銀製宝石箱及び帯ばスカス模様が献上される。

ティ・ハスマーを御引見になり、

宮中午餐を催される。

この来訪に際し、

同首相より天皇に、

同夫人

○女官日誌、侍従日誌、

火曜日

正午過ぎ、

天皇が公賓マレーシア国首相マハティール・モハマッド及び同夫人シ

124

従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報

全権大使黒田瑞夫及び同夫人、 二十六日 水曜日 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 バチカン国駐箚特命全権大使中村輝彦及び同夫人の拝謁をお受けにな 近く赴任の国際連合日本政府代表部特命

女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 拝謁録、 宮殿行事録、 宮内庁庁報、 斎藤誠治業務日誌

天皇と共に吹上御所において、 一、二回程度吹上御所にて行われた御会食を始め、 正仁親王・同妃華子と御夕餐を御会食になる。 随時、 正仁親王・同妃と御対面・御会食になる。 以後、 この年は、 月に

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十七日 木曜日 邦彦王舜の祥月命日につき、 吹上御所にて静かにお過ごしになる。 ○女官日

て静かにお過ごしになる。〇女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

三十日

日曜日

午前、

孝明天皇例祭につき、

吹上御所において御遙拝になる。

午前中、

吹上御所に

大使加藤淳平の拝謁をお受けになる。 使木内昭胤及び同夫人、スリランカ国駐箚特命全権大使大鷹弘及び同夫人、 三十一日 月曜日 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 近く赴任のマレーシア国駐箚特命全権大 内舎人日誌、 オマー 拝謁録、 ン国駐箚特命全権 宮殿行事録、

卜部亮吾侍従日記

午後、 親王殿邸新築工事式典録、庁規例規朝儀諸綴、 転につき、 成素坂綱についてのお礼言上をお受けになる。 天皇と共に吹上御所において寬仁親王・同妃信子と御対面になり、 二月十五日に天皇 ・皇后がお品を賜う。 なお、 去る二十八日の仮寓所番町宮内庁分室から新邸へ ○女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 昨五十七年十二月の新邸落 内舎人日誌、 の移

## 二月

発表綴、 二日 を御出発、 皇后がお供えになる。 所には菓子及び野菜を、 日に三十年式年祭を終えた雍仁親王墓を御拝礼になった後、 いて祐子内親王墓を御拝礼になり、 宮内庁庁報、 水曜日 十一時二十五分還啓される。 天皇と共に、 入江相政日記、 御拝礼後、 祐子内親王墓所と東久邇盛厚・ 卜部亮吾侍従日記、 午前十時三十九分御出門になり、 天皇と共に東久邇信彦・同夫人吉子より挨拶をお受けになり、 ついで東久邇盛厚・ 女官日誌、 朝日新聞、 侍従日誌、 東京新聞、 同 同夫人成子の墓を御拝礼になる。 侍従職日誌、 .夫人成子の墓所には菓子及び色花を天皇 同妃勢津子より挨拶をお受けになる。 毎日新聞、 豊島岡墓地に行啓される。 内舎人日誌、 読売新聞 行幸啓録、 幸啓録、 雍仁親王墓 去る一月四 同所

午後、 転びになり、 勤労奉仕者に御会釈を賜うため宮殿中庭口へ向かわれる途中、 天皇お一 方にてお出ましになる。 ○女官日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 豊明殿脇の 斎藤誠治業務日誌 工 スカレーター 入江相政 でお

日記、

卜部亮吾侍従日記

日誌、 なお、 三日 亮吾侍従日記、 された。 内舎人日誌、 昨二日 木曜日 御用 邸御滯在中 の転倒により右膝の 内舎人供奉日誌、 天皇と共に、 は 午後一 幸啓録、 御散策をなさらず足の手当てをお受けになる。 痛みを訴えられたが、 須崎御用邸行幸啓録、 時十二分御出門になり、 発表綴、 この日午前の拝診を経て、 宮内庁庁報、 四時四十六分須崎御用邸に行啓される。 斎藤誠治業務日誌、 ○女官日誌、 予定どおりに行啓 入江相政日記、 侍従日誌、 侍従職 ト部

七日 月曜日 善光寺 大聖寺・ 霊鑑寺に、 宝鏡寺 恒例により乾海苔料を賜う。 曇華院 光照院・林丘寺・ ○贈賜録 円照寺 中 宇宙寺 法華寺・ 時知恩寺

十五日 ○女官日誌、 火曜日 侍従日誌、 侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、 天皇と共に、午後零時三十一分須崎御用邸を御出門になり、 幸啓録、 ,須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌: 四時皇居に還啓される。

二十一日 月曜日 仁孝天皇例祭につき、午前中、 吹上御所にて静かにお過ごしになる。 女官日誌、

式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

富田メモ

日誌、 ル国駐箚特命全権大使小宅庸夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。 代表部特命全権大使千葉一夫及び同夫人、クウェート国駐箚特命全権大使愛甲次郎及び同夫人、ザイー 二十二日 火曜日 宮殿行事録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のジュネーブ国際機関日本政府 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、

二十三日 女官日誌、 水曜日 侍従日誌、 夕刻、 内舎人日誌、 天皇と共に吹上御所において、 贈賜録、 この日誕生日を迎えた徳仁親王と御対面に

### 三月

三日 赤十字社病院・恩賜財団済生会病院の救助収容患者に合わせて手拭い七千三百六十八本を賜う。 木曜日 来る六日に満八十歳のお誕生日を迎えられるに当たり、この日、 思召しをもって日本

事業年報(日本赤十字社

四日 励のため、 金曜日 障害者リハビリテーション振興基金た天皇から厚生大臣に下賜された金員を基に設立に加えるよう、 来る六日に満八十歳のお誕生日を迎えられるに当たり、この日、 障害者福祉事業御奨 厚生

基に設立に加えるよう、た金員をに加えるよう、 封を賜う。 日本赤十字社を通じ、 また、 赤十字の平時救護事業御奨励のため、 昭憲皇太后基金管理合同委員会シュネードに金一封を賜う。 昭憲皇太后基金から国際赤十字に下賜され

○恩賜録、 宮内庁庁報、 事業年報 (日本赤十字社

五日 賜録 お尋ねとして東久邇稔彦聡子の 市 村菊重に仰せ付けられる。 同夫人吉子と御対面になり、 土曜日 東久邇聡子五年式年祭につき、 また、天皇・皇后が、 • 同信彦の孫に菓子を賜う。 お礼言上をお受けになる。 豊島岡墓地における霊舎祭及び墓所祭の御代拝を女官 霊舎に菓子を、 夕刻、 女官日誌、 天皇と共に吹上御所において東久邇信 墓所に榊をお供えになり、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 さらに、

六日 日 曜 日 満八十歳のお誕生日を迎えられる。

1

友 · 午前、 けになる。 女官・元皇太后宮女官等の祝賀を、 御縁故者の祝賀をお受けになる。 おい · で 花 所 前 て、 同 廊下において女嬬 0 芳菊の間におい 間に .級生二十二名、 なお、 内閣総理大臣 おいて、 去る三日、 参与宇佐美毅 て、 続いて東久邇文子始 衆議院議長 雑仕の祝賀を、 宮内庁長官始め各部局長等、 宮内庁職員の有志から満八十歳のお誕生日のお祝いとして内藤四 その後、 御車寄前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員の祝賀を、 ·森永貞一郎、 参議院議長・ 御車 芳菊の間において元側近奉仕者、 め御親族の祝賀を順次お受けになる。 寄 内にお 続いて皇太子・ 最高裁判所長官等及びその配偶者 続いて側近奉仕者の祝賀をお受けになる。 V て元女嬬等の祝賀を、 同 妃始め皇族、 続いて元皇后宮女官・元 花の 元皇族 正午、 間において御学 0 祝賀をお受 正殿梅の ・元王族、 別 正倉院 女官 間

に

九日

水曜

日

夕刻

天皇と共に吹上御所において、

翌日よりザンビア国・タンザニア国・ケニア国

文化財保持者作の銀筆筒様が献上される。会員、重要無形作の銀筆筒様文が献上される。

同夫人貴子と御晩餐を御会食になる。 に吹上御所において、 崇仁親王・同妃百合子・容子内親王・憲仁親王、鷹司和子、 宮殿行事録、 天皇と共に吹上御所において、文仁親王・清子内親王の祝賀をお受けになる。 東宮録、 皇太子・同妃・徳仁親王、 宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌、 女官日誌、 入江相政日記、 侍従日誌、 正仁親王・同妃華子、 侍従職日誌、 卜部亮吾侍従日記 池田隆政・同夫人厚子、 内舎人日誌、 故雍仁親王妃勢津子、 典式録、 重要雑録、 夕刻、 島津久永・ 天皇と共 恩賜録、 宣仁親

される。 行されていること、皇太子一家及び正仁親王・同妃華子との御夕餐を交えての御団欒を楽しみにされ まること、 それ以外は至って御健康であること、絵に関しては腰への配慮から最近は簡単なスケッチ程度にとど お誕生日に当たり、宮内庁より皇后の御様子について、骨の老化による膝の疾患が時々生じるもの ていること、来る十六日に桃華楽堂において楽部による八十賀奉祝演奏会が催されることなどが発表 内廷皇族誕生日綴、 昨秋から吹上御所の庭において膝のために毎日約三十分間の御散策を女官・侍医と共に励 発表綴、新聞切抜、朝日新聞、サンケイ、東京新聞、 日本経済新聞、 毎日新聞、 読売新聞

七日 ザンビア国・タンザニア国・ケニア国を訪問する皇太子、 月曜日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、来る十日より二十五日まで天皇の御名代として 及び同妃の首席随員須之部量三片祭覧祭と記

及び随員九名の拝謁をお受けになる。 火曜日 祐子内親王の祥月命日につき、 ○女官日誌、 終日、 侍従職日誌、 吹上御所にて静かにお過ごしになる。 内舎人日誌、 宮内庁庁報、 官報、 入江相政日記 女官日誌

を訪問する皇太子・同妃と御対面になる。 を、 タンザニア国大統領及び同夫人に飾皿奏文をそれぞれ御贈進になる。 なお、 皇太子輝名代を通じて、天皇・皇后よりザンビア国大

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外交贈答録、恩賜録、東宮録、宮内庁庁報

春」作曲者,奉祝曲「早, 読売新聞 る。 揮者甲斐正雄、樂部技術指導員、 れたメドレー の昭和三十一年歌会始の御歌に想を得て作られた奉祝曲 安倍勲の先導により御休所にお入りになり、 になる。 ○女官日誌、侍従日誌、 に御会釈を賜う。 演奏会には、 水曜日 日本の歌」 午後、 宮内庁職員及び皇宮警察本部職員が招待される。 侍従職日誌、 天皇と共に桃華楽堂にお出ましになり、 その後、 などをお聴きになる。 首席楽長上近正・ 内舎人日誌、 出演者一同のお見送りを受け楽部玄関を御発、 幸啓録、 ついでホールに進まれ御着席になる。 楽長東儀博・楽長補東儀俊美の歌』編曲者・楽師芝祐靖 演奏終了後、 典式録、斎藤誠治業務日誌、 「早春」、この演奏会のために新たに編曲さ 天皇と共に御休所前廊下において、 皇后陛下八十賀奉祝演奏会に御 入江相政日記、 楽部玄関に御着後、 吹上御所に還御され 演奏会では、 朝日新聞、 毎日新聞 式部官長 臨席 皇后 指

吹上御所にて静かにお過ごしになる。 二十一日 月曜日 午前、 春季皇霊祭及び同神殿祭につき、 女官日誌、 典式録、 恒例祭祀録、 吹上御所において御遙拝になる。 祭典録、 宮内庁庁報 終日、

二十四日 ○女官日誌、 木曜日 侍従日誌 天皇と共に、 侍従職日誌、 内舎人日誌 午後一時十二分御出門になり、 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 須崎御用邸行幸啓録、 四時四十七分須崎御用 宮内庁庁報、 邸に行啓され

入江相政日記

御滞在中、 二十六日 二十八日にも天皇と共に散策され、 土曜日 午後、 天皇と共に御車寄から移植地まで散策され、 植物を御調査になる。〇女官日誌、 植物を御調査になる。 侍従日誌、 内舎人供奉日誌、 御用邸

須崎御用邸行幸啓録

になる。 からの質問にお答えになる。 ○侍従日誌、 火曜日 須崎御用邸行幸啓録、天皇記者会見、 午後、 天皇が御車寄内において宮内記者会会員二十二名とお会いになり、 その際に、 皇后の御健康や、 入江相政日記、 皇后との日常の御会話などについてお話し 昭和天皇最後の侍従日記 各記者

斎藤誠治業務日誌 に還啓される。 三十日 水曜日 女官日誌、 天皇と共に、 侍従日誌、 午前十時五十三分須崎御用邸を御出門になり、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 須崎御用邸行幸啓録、 午後二時二十二分皇居 宮内庁庁報

午後、 の挨拶を天皇と共にお受けになる。 雉子の間において、 帰国した皇太子・同 天皇と共に鳳凰の間において、 随行員九名の拝謁をお受けになる。 .妃の首席随員須之部量三及び随員八名の拝謁をお受けになる。 女官日誌、 去る二十五日にザンビア国・タンザニア国・ケニア国訪問から 侍従日誌、 侍従職日誌 吹上御所に還御の後、 内舎人日誌、 東宮録、宮内庁庁報、 皇太子・同妃より帰国 ついで天皇と共に 斎藤誠治業

名の 三十一日 拝謁をお受けになる。 木曜日 午前、 ○女官日誌、 天皇と共に鳳凰の間において、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 本日付で退職の管理部長小幡祥 典式録、 恩賜録、 宮内庁庁報、 斎藤誠治業務 郎始め六

正午より、 天皇がマレー シア国国王アハマ ツド・ シャー及び同王妃ハジャー アフザンと御会見にな

日誌

務日誌

り、 后には銀製宝石箱ケースが贈られる。 妃に七宝宝石箱文、落とし付きを御 宮中午餐を催される。この来訪に際し、 .贈進になる。 これに対し後日、 国王より天皇に、 ○女官日誌、 天皇・皇后より国王に有 侍従日誌、 王妃より皇后に御贈進の品があり、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 田焼花 1瓶緑地金襴手 外賓参内録 王 皇

### 四月

答録

恩賜録、

宮内庁庁報

名の В 拝謁をお受けになる。 金曜日 午前、 天皇と共に鳳凰 ○女官日誌、 侍従日誌、 (T) 間において、 侍従職日誌、 新 内舎人日誌、 任の管理部長福留守・ 典式録、 宮内庁庁報 書陵 部 長宮尾盤始 め Ŧ.

三日 午後、 にお過ごしになる。 及び同夫人の拝謁をお受けになる。 ナイジェリア国駐箚特命全権大使宮川渉及び同夫人、 天皇と共に正殿竹の間において、 日 曜 日 午 前 女官日誌、 神 武天皇祭につき、 典式録、 ○女官日誌、 恒例祭祀録、 近く赴任のスイス国駐箚特命全権大使西田 吹上御 侍従日誌、 祭典録、 所において御遙拝になる。 パプアニューギニア国駐箚特命全権大使谷口誠 宮内庁庁報 侍従職日誌、 内舎人日誌、 拝謁録、 終日、 宮殿行事録、 吹上御所にて静 誠哉及び同夫人、 宮内庁庁報

四日 に、 御紋付銀製スプーンを賜う。 月曜日 桃華楽堂においてこの日行われた昭和五十七年度音楽大学卒業生演奏会の出演者九名 ○恩賜録、 宮内庁庁報

宮沢 五日 宮内庁御用掛木俣修昨四日死去につき、 (泰の拝謁をお受けになる。 火曜日 午後、 天皇と共に正殿竹の間において、 ○女官日誌、 天皇・皇后が祭粢料及び金員・御紋付銀盃を賜い、また、 侍従日誌、 侍従職日誌、 近く赴任のオーストリア国駐箚特命全権大使 内舎人日誌、 拝謁録、 宮殿行事録、 霊

0 皇 前 御製・ に切り花及び菓子を賜う。 皇 后の 御歌集 御製 『あけ 御歌の拝見を仰せ付かり、 ぼの集』 木俣は、 の編纂に尽力した。 昭和三十五年に侍従職御用掛、 同四十九年に刊行された天皇・皇后御結婚満五十年記念 ○恩賜録、 贈賜録、 宮内庁庁報、 翌年に宮内庁御用掛となって天 あけぼの集、 朝日新聞 読売新

聞

六日 誌 妻が入京した際に、 これに対し、 ザンと御会見になる。 外賓参内録、 天皇・皇后より大統領に九谷焼飾皿平に変小紋を、 水曜 日 大統領夫妻より天皇・皇后に絹製カーペットの御贈進がある。 外交贈答録 午前、 皇后より大統領夫人に花束を御贈進になる。 その際、 天皇が国賓エジプト国 恩賜録、 宮内庁庁報、 相互儀礼叙勲があり、 官報 大統領モハメッド 同夫人に佐賀錦ハンドバ 皇后にはアル・カマル勲章特等が贈られる。 ○女官日誌、 ホスニィ • 侍従日誌、 なお、 ッグ素を御贈進になる。 ムバラク及び同夫人ス 昨五日に大統領夫 侍従職日誌、 内舎人日 ] ま

につき、 八日 容子内親王、 皇太子・同妃・徳仁親王・宜仁親王のほか、 国及びニュージーランド国訪問サナ「トエロピからの帰国の内宴を兼ね、 金 曜日 昨 :五十七年の徳仁親王のブラジル国訪問サナメロト からの帰国、 鷹司和子、 この度の皇太子・ 島津久永・同夫人貴子と御晩餐を御会食になる。 同妃のザンビア国・タンザニア国・ケニア国訪問 三月十日よからの 故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王、 天皇と共に吹上御所におい 及び宜仁親王の 女官日誌、 崇仁親王・同妃百合子・ 侍従日誌、 ンオー ・ストラリア 侍従職日誌 て、 帰 国

十日 日 曜 日  $\bar{\mathcal{O}}$ 日 「バザ を開催する常磐会に切り花ン三百本 を賜う。 ○贈賜録、 常磐会創立百年年表

内舎人日誌、

贈賜録、

東宮録、

宮内庁庁報、

斎藤誠治業務日誌

+ 日 月 曜 日 昭憲皇太后の祥月命日につき、 吹上御所にて静かにお過ごしになる。 女官日誌、 侍従

日誌

十四日 れる身体障害者のスキー競技会 び英国を旅行する寛仁親 木曜 Ħ 午前、 王と御対面になる。 天皇と共に鳳凰の間におい 「国際冬季スポ 同 ーツ週間」 .親王はノルウェー国ベイトストーレンにおいて開 て、 来る十七日より二十九日までノル に出席し、 併せて英国を旅行する。 ウェ ○女官日 1 国 及

十七日 侍従日誌 日曜日 侍従職日誌、 正午頃、 内舎人日誌、 天皇と共に花蔭亭にお出ましになり、 贈賜録、 宮内庁庁報、 卜部亮吾侍従日記 皇太子・同妃主催による皇后陛下八

+

・歳の賀奉祝御内宴に御臨席になる。

皇太子・

同 妃 •

徳仁親王・

文仁親王・

清子内親王、

正仁親王

子、 同妃華子、 東久邇信彦 故 雍仁親王妃勢津子、 同 夫人吉子・同子息征彦、 宣仁親王、 同文子、 鷹司和子、 同真彦・ 池田隆政・ 同夫人賀鶴子・同子息照彦 同夫人厚子、 島津久永 同睦彦、 同夫人貴

杯の より御昼餐の 東作興・同夫人優子、 <sup>´</sup>れる。 発声があ なお、 ŋ お席に進まれ、 御内宴の招待者に、 御会食になる。 久邇邦昭の子息・ 皇太子の祝詞をお受けになって御着席になる。 その後、 天皇・皇后がボンボニエールを賜う。 同夫人正子が出席する。 歌などの余興や記念撮影が行われ、 花蔭亭に御着後、 女官日誌、 ついで宣仁親王による乾 天 皇 ・ 侍従日誌、 正仁親 皇后に花束が贈 王 の先導に

内舎人日誌、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

なる。 女官日誌 月 曜 自 内舎人日誌、 午後、 天皇と共に吹上御所におい 贈賜録、 宮内庁庁報 て、 この日誕生日を迎えた清子内親王と御 対 面

水曜 自 夕刻、 天皇と共に吹上御所において、 侍従長入江相政始め側近奉仕者による皇后陛

る鰻の御夕餐を一同と共にされる。 下八十賀のお祝いの席に臨まれる。 女官日誌、 余興としてくじ引きを楽しまれた後、 侍従日誌、 侍従職日誌 内舎人日誌、 側近奉仕者からの献上によ 重要雑録、 斎藤誠治業務日誌、

江相政日記

会見になり、 二十六日 火曜日 宮中午餐を催される。 正午過ぎ、天皇が英国王女アンスニ世の第一王女及び同夫君マーク・フィリップスと御 この来訪に際し、 王女及び同夫君より天皇・皇后に、

を御贈進になる。 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、内舎人日誌、 外賓参内録、 外交贈答録、 恩賜録、宮内庁庁報

天皇・皇后より王女及び同夫君に有田焼花瓶濁弄花鳥文、十三代

午前、天皇と共に鳳凰の間において、来る五月一日より十一日までデンマーク国

関する書籍の御贈進がある。これに対し、

水曜日

と共に吹上御所において、 スウェーデン国を訪問する正仁親王・同妃華子の随員山下和夫式の拝謁をお受けになる。 正仁親王・同妃より出発の挨拶をお受けになり、 引き続き御夕餐を御会食 天皇

になる。〇女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

日誌 おい 間において東久邇文子始め御親族の祝賀を順次お受けになる。 故者の祝賀をお受けになる。 始め女官の祝賀をお受けになる。 二十九日 て、 内舎人日誌 元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀をお受けになる。 金曜日 典式録、 天皇誕生日につき、午前、 儀式録、 東宮録、 その後、 ついで正殿梅の間において、 宮内庁庁報、 天皇と共に拝謁者控室前において女嬬・雑仕の祝賀を、 卜部亮吾侍従日記 花の間において、宮内庁長官始め総代、 さらに、皇后お一方にて再び花 皇太子・同妃始め皇族、 女官日誌、 侍従日誌 元皇族、 続いて女官長 鳳凰の の間に 侍従職

式録、 も無事で、 口 兀 天皇誕生日 [目のお出ましの際、 回 儀式録、 長和殿ベランダにお出ましになり、 少年はその場で皇宮護衛官に取り押さえられる。 宮内庁庁報、 般参賀につき、 官報、 十四四 皇宮警察史、 一歳の少年が天皇めがけて金槌を投げつける事件があったが、 天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王、 斎藤誠治業務日誌、 宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。 卜部亮吾侍従日記、 女官日誌、 正仁親王・同妃華子と共に、 朝日新聞、 侍従日誌、 サンケイ、 侍従職日誌、 読売新聞 天皇・皇后と 内舎人日誌、 なお、 午前

女官日誌 子とお祝いの御夕餐を御会食になる。 天皇と共に吹上御所において、 侍従日誌 侍従職日誌、 内舎人日誌、 皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王、 儀式録、 なお、 内廷皇族誕生日綴、 天皇誕生日に当たり、 東宮録、 宮内庁庁報 天皇にお祝いの品を贈られる。 正仁親王・ 同妃: 0

法人日本ユニセ 土曜日 フ協会に、 翌五月一 金一 日より十月三十一日まで第二十八回ユニセフ学校募金運動を実施する財 封を賜う。 ○社会事業、 宮内庁庁報

### 五月

お受けになる。 二日 月 曜 日 女官日誌、 午前、 天皇と共に鳳凰 侍従日誌、 侍従職日誌、 0 間 におい 内舎人日誌、 て、 新 典式録、 任の宮内庁: 恩賜録 御用 掛岡野弘彦始め 八名の 拝 謁

四日 鎮彦及び同夫人、 権大使中曽根悟郎及び同 水曜日 午前、 アルジ 天皇と共に正殿竹の間において、 夫人の エ リア国 拝謁をお受けになる。 |駐箚特命全権大使伊達宗起及び同夫人、 〇女官日誌: 近く赴任のベルギー 侍従日誌 侍従職日誌 ホ ンジ 国駐箚特命全権大使 ユ ラス国 内舎人日誌 駐 命全 山

宮殿行事録、

宮内庁庁報

寸

去る四月二十七日岩手県三陸海岸において発生した山林火災により大きな被害を受けた同県に、 天

皇・皇后がお見舞金を賜う。 ○災害お見舞い、宮内庁庁報

六日 にお迷いになる。 金曜日 午前、 ○女官日誌、 紅葉山御養蚕所にお出ましになり、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 御養蚕録、 御養蚕始の儀を行われる。 卜部亮吾侍従日記 その 際 御所作

午後、 千政之との婚約内定の報告をお受けになる。同内親王は十月十四日に結婚する。 天皇と共に吹上御所において、 崇仁親王妃百合子・容子内親王と御対面になり、 女官日誌、 容子内親王と 侍従日誌、

従職日誌、 内舎人日誌、 宮内庁庁報、 官報、 入江相政日記、 卜部亮吾侍従日記、 朝日新聞、 毎日新聞、 読売新聞

日記 七日 ○女官日誌、 土曜日 侍従日誌、 天皇と共に、 侍従職日誌、 午前十時三十分御出門になり、十一 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、 行幸啓綴、 幸啓録、 時五十一分葉山御用邸に行啓される。 宮内庁庁報、 斎藤誠治業務日誌 入江相政

八日 査になる。 日 曜 女官日誌、 日 午前、 侍従日誌 天皇と共に二子山方面へお出ましになり、 内舎人供奉日誌、 行幸啓綴 森戸川渓谷を散策され、 植物を御調

九日 ○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、 月曜日 天皇と共に、 内舎人日誌、内舎人供奉日誌、 午後二時葉山御用邸を御出門になり、三時二十一分皇居に還啓される。 行幸啓綴、幸啓録、宮内庁庁報

から帰国した正仁親王・同妃華子の随員山下和夫の拝謁をお受けになる。 木曜日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、 昨十一日デンマーク国・スウェーデン国訪問 女官日誌、 侍従日誌、

内舎人日誌、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

夕刻、 天皇と共に吹上御所において、 正仁親王・同妃より帰国の挨拶をお受けになる。 〇女官日誌、

日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十六日 曜日 午前、 花の間におい て、 常磐会より が献上の 傘寿のお祝品ペンダントを持参した同会会長

賀陽敏子 0 拝謁をお受けになる。 女官日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 常磐会創立百年年表

十七日 火曜日 午前、 貞明皇后例祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 終日、 吹上御 所にて

静かにお過ごしになる。 ○女官日誌、典式録、 恒例祭祀録、 祭典録、 宮内庁庁報

十八日 園英子始め三名の拝謁をお受けになる。 水曜日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、 ○女官日誌、 侍従日誌、 新任の女官安藤桃子始め三名、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 典式録、 恩賜録、 前任の女官松

この の日本ばら会展」 月 翌十九日より二十四日まで日本橋高島屋において開催される財団法人日本ばら会主催の に、 吹上 御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。 二十一日にも御 出品

二十三日 月曜日 寬仁親王妃信子昨二十二日内着帯につき、 天皇・皇后より寛仁親王 同妃に万那

代料を御贈進になる。

○贈賜録、卜部亮吾侍従日記

になる。

○贈賜録

入江相政日記、

ト部亮吾侍従日記

王は六月二十日に英国へ出発する。 御昼餐を御会食になり、 の英国オックスフォード大学マートン・コレッジ修学に当たり、 二十五日 水曜日 天皇と共に、 ついで御一緒に庭を御散策になる。二時二十三分還啓される。 午後零時二十三分御出門になり、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 天皇及び皇太子・同妃 東宮御所に行啓される。 行幸啓録、 幸啓録、宮内庁庁報 なお、 徳仁親王と 徳仁親王 徳仁親

斎藤誠治業務日誌、

入江相政日記

明治神宮会館において開催の昭和五十八年度全国赤十字大会に、御名代として皇太子妃を差し遣わさ

れ

次のお言葉を賜う。

赤十字は、 本日ここに、 国際的な強いきずなのもとに、 昭和五十八年度全国赤十字大会が盛大に開かれたことを大変うれしく思います。 人道的事業を推進し、広く世界の人々の平和 と福:

増進のために大きな力となっておりますが、 日本赤十字社が国際赤十字の一員として、 国 内外

において立派にその使命を果たしていることは、皆さんの尽力によるものと心から満足に思いま

す。

いに力を合わせて、 日本赤十字社の役割は、これからますます重要になっていくものと思いますので、 一層の力強い活動を進められるよう希望してやみません。 皆さんが互

○幸啓録、宮内庁庁報、官報、事業年報(日本赤十字社)

二十七日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官日誌、「一十七日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官日誌、

昨二十六日に発生した日本海中部地震により甚大な被害を受けた秋田県及び青森県に、 天皇 皇后が

侍従職日誌、

内舎人日誌

お見舞金を賜う。○災害お見舞い、宮内庁庁報、一九八三年日本海中部地震被害調査報告書

二十八日 土曜日 元日本赤十字社社長東竜太郎売乗京去る二十六日死去につき、天皇・皇后が霊前に

菓子を賜う。○贈賜録

天皇・皇后が同省に生花を賜う。 三十日 月曜日 千鳥ヶ淵戦没者墓苑において厚生省主催の拝礼式並びに納骨が行われるに当たり、 ○恩賜録、 発表綴、 宮内庁庁報

## 六月

に対し二十八日、 四 ン一世より天皇 В 土曜日 ルギー 答電がある。 皇后に親電が寄せられ、 ・国王族シャル ○上奏モノ控簿、 レ同国主の叔父 この日、 外交慶弔録、 去る一 天皇・皇后が同国王に弔電をお送りになる。 宮内庁庁報 日薨去につき、 官報 昨三日、 同 玉 国 王 1 ・ドワ

賜録、 七日 容子内親王の納采の儀がこの日午前に終了した旨の報告をお受けになる。 に三種交魚代料を、 官報、卜部亮吾侍従日記 火曜日 午後、天皇と共に鳳凰の間において、崇仁親王妃百合子・容子内親王と御対面になり、 容子内親王に鮮鯛を天皇・皇后が賜う。 ○女官日誌、 侍従日誌、 納采の儀に当たり、 侍従職日誌、 内舎人日誌、

八日 水曜 日 午前、 紅葉山御養蚕所にお出ましになり、 繭搔きをされる。 ○女官日誌、 侍従職日誌、 内舎

人日誌

卜部亮吾侍従日記

御用 宮内 掛 十四四 0 拝謁をお受けになる。 火曜日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、 ○女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 英国にて修学する徳仁親王の首席随員中川 内舎人日誌、 典式録、 贈賜録、 入江相政日記 融

十五日 玉 尚 駐箚特命全権大使西方正直及び同夫人の拝謁をお受けになる。 田富美也及び同夫人、 水曜日 宮殿行事録、 午前、 パラグアイ国駐箚特命全権大使山口達男及び同夫人、 天皇と共に正殿竹の間において、 近く赴任のポルトガル国駐箚特命全権大使 ○女官日誌、 侍従日誌、 トリニダード 侍従職日誌、

十六日 之部量三始め四名の拝謁をお受けになる。 木曜 白 午前、 天皇と共に鳳凰の 女官日誌、 間におい て、 侍従日誌、 新任の東宮侍従長山 侍従職日誌、 内舎人日誌、 口 広 次 典式録 宮 内庁御 闬 掛 須

誌

拝謁録、

宮内庁庁報

る。 同妃華子と御夕餐を御会食になる。○女官日誌、 親王と御対面になる。ついで天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王、 女官日誌、 金曜日 火曜日 侍従日誌、 夕刻、 天皇と共に、 侍従職日誌、 天皇と共に吹上御所において、来る二十日に修学のため英国へ出発する徳仁 午後一時十二分御出門になり、 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 幸啓録 内舎人日誌、 須崎御用邸行幸啓録、 四時四十七分須崎御用邸に行啓され 贈賜録、 東宮録、 宮内庁庁報 宮内庁庁報 正仁親王・ 入江相政日

記

この 天皇お一方のみから御紋付銀製花瓶一対を賜うこととされる。 場合に天皇お一方のみからお写真を賜い、 皇后からお写真及び贈物を御贈進になり、 め、今後、国賓に関しては、 なされていたが、 単身・ Ħ 国賓・公賓に対する天皇・皇后からのお写真及び贈物の贈賜について改められる。 配偶者同伴の別なく全ての国賓・公賓に対して天皇・皇后からのお写真及び贈物の贈賜 昨五十七年より皇后が国賓来訪の際の宮中関係行事にお出ましにならなくなったた 独身・単身の場合には天皇お一方のみから、 公賓から天皇または天皇・皇后に献上品があ 公賓に関しては、 独身・単身・ ○例規録、 外事取決め・内規 配偶者同伴の場合には天皇 配偶者 同 伴の別なく全ての った場合には 独 が

御用邸御滞在中、 二十二日 内舎人供奉日誌、 水曜日 二十三日・二十五日にも天皇と共に散策され、 須崎御用邸行幸啓録、 午前、 天皇と共に御車寄からサクラ道入口まで散策され、 卜部亮吾侍従日記: 富田朝彦文書 植物を御調査になる。 植物を御 女官日誌、 調査になる。

として皇太子妃を差し遣わされる。 東京プリンスホテルにおいて開催の第二十九回フローレンス・ナイチンゲール記章授与式に、 元伊達赤十字病院看護部長上田スミレ財団法人琴似老人 元秋田赤十字 御名代

病院看護部長志田ちゑ森田赤十字看護、 元福井赤十字病院看護部長川田ちゑ乃護専門学校講師の三名にナイチン

ゲール章記及び記章を授与され、次のお言葉を賜う。

本日ここに、第二十九回フローレンス・ナイチンゲール記章の授与式が行われますことを、大

変うれしく思います。

とであります。 献身的努力のたまものであり、 して最高の名誉であるフローレンス・ナイチンゲール記章を贈られましたことは、 このたび、上田スミレ、 志田ちゑ、川田ちゑ乃の三名の方々が赤十字国際委員会から看護婦と 本人の栄誉はもとより、 我が国にとりましても、 誠に喜ばしいこ 長年にわたる

受章された方々を始め看護婦の皆さんは、 今後も健康に留意され、 博愛と人道のため、

道に力を尽くすよう切に希望いたします。

○幸啓録、宮内庁庁報、

官報、

,事業年報(日本赤十字社)、日本赤十字社社史稿

都文京区の東京カテドラル聖マリア大聖堂において行われる告別式には、 皇・皇后が弔問使として侍従安楽定信を東京都千代田区の同大使館に差し遣わされる。三十日に東京 月曜日 ローマ法王庁特命全権大使マリオ・ピオ・ガスパリ去る二十三日死去につき、天 天皇・皇后が花環をお供え

される。 二十九日 女官日誌、 水曜日 侍従日誌、 天皇と共に、午後零時三十一分須崎御用邸を御出門になり、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 須崎御用邸行幸啓録、 四時一分皇居に還啓 宮内庁庁報

治業務日誌、

入江相政日記

になる。

○侍従日誌、

侍従職日誌、

外交慶弔録、

外交贈答録、

恩賜録、

卜部亮吾侍従日記

ネパ し七月十八日、 皇・皇后が同国国王ビレンドラ・ビル・ビクラム・シャー・デーブに弔電をお送りになる。これに対 ール国太皇太后イシュワリ・ラジャ・ラクシュミ・デヴィ・シャー去る二十七日崩御につき、天 答電がある。 ○上奏モノ控簿、外交慶弔録、 宮内庁庁報、 官報

### 七月

四日

月曜日

午前、

天皇と共に宮殿御車寄前におい

て、

紅葉山御養蚕所主任神戸

礼

一郎及び助

手四

二日 内舎人日誌 土曜日 御養蚕録 午前、 紅葉山御養蚕所にお出ましになり、 斎藤誠治業務日誌 御養蚕納の儀を行われる。 〇女官日誌、

妃 • 午後、 部玄関に御着後、 名に御会釈を賜う。 正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子、 桃華楽堂にお出ましになり、 式部副長の先導により御休所にお入りになり、御休所前でお出迎えをした皇太子妃・ 女官目誌、 侍従日誌、 楽部職員による洋楽演奏会に御臨席になる。 侍従職日誌、 及び鷹司和子始め元皇族・御縁故者七名が出席する。 内舎人日誌、 御養蚕録 演奏会には、 皇太子

演者 て指揮者甲斐正雄・首席楽長上近正・楽長東儀博に御会釈を賜う。 シーニ作曲歌劇 同 の、 楽部玄関において皇太子妃・ 「セヴィリアの理髪師」序曲などをお聴きになる。 正仁親王妃· 故雍仁親王妃のお見送りを受けて御発 その後、 演奏終了後、 御休所前廊下におい 御休所前廊下に · て出 におい

正

|仁親王妃・故雍仁親王妃と御対面になる。ついでホールに進まれ御着席になる。

演奏会では、

口

七日 御所に還御される。〇女官日誌、 木曜 日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 幸啓録、 英国にて修学する徳仁親王に同行した首席 東宮録、 宮内庁庁報、 斎藤誠治業務日誌 随員

中 後、 ΙİŢ 融 吹 の拝謁をお受けになる。 上御所において皇太子妃と御対面になり、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 皇太子妃より七夕の笹飾りが贈られる。 内舎人日誌、 典式録、 卜部亮吾侍従日記 ○女官日誌、

内舎人日誌、卜部亮吾侍従日記、

斎藤誠治業務日誌

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、

宮内庁庁報

十四日 拝謁をお受けになり、 木曜日 夕刻、 同 人及び女官長、 天皇と共に吹上御所において、 上直の侍従・侍医・女官二名と御夕餐を共にされる。 去る五月十八日に退職した元女官松園英子の

十八日 石箱正倉院裂文を御贈進になる。 花束を御贈進になる。 皇后には絹布地が贈られる。 シャフィー 月曜日 ク・ジアと御会見になる。 午 前、 これに対し後日、 天皇が国賓パキスタン国大統領モハマッド・ジアウル・ これに対し、 なお、 この来訪に際し、 昨十七日に大統領夫妻が入京した際に、 同夫人より皇后に礼状<sub>十日付</sub>が送られる。 天皇・皇后より大統領に七宝花瓶クリームを、 大統領より天皇・皇后に御贈進 皇后より大統領夫人に ○女官日誌、 ハ ック及び同 夫人に七宝宝 0 品が 侍従日誌、 あ 夫人 侍

十九日 面になる。 火曜日 ○女官日誌、 午後、 侍従日誌、 天皇と共に吹上御所において、 侍従職日誌、 内舎人日誌 贈賜録、 この日誕生日を迎えた正仁親王妃華子と御! 卜部亮吾侍従日記

従職日誌、

内舎人日誌、外賓参内録、

接待書類、

外交贈答録、

恩賜録、

宮内庁庁報、

特命全権大使村上和夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。 使斎木千九郎及び同夫人、 二十日 水曜日 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 アラブ首長国連邦駐箚特命全権大使野見山修一及び同夫人、 ○女官日誌、 近く赴任のアルゼンチン国駐箚特命全権 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 ケニア国駐箚 大

庁庁報

球、 宮内庁庁報

奉日誌、 までの天皇の御理髪室が皇后専用の御美容室となる。 啓される。 二十一日 幸啓録、 なお、 木曜日 那須御用邸行幸啓録、 今回の行啓より、 天皇と共に、午前九時四十二分御出門になり、午後零時四十二分那須御用邸に行 那須御用邸管理事務所日誌、 天皇・皇后がお使いになる御用邸内の部屋が一 那須御用邸管理事務所事務官日誌、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 宮内庁庁報、 部変更され、 内舎人日誌、 斎藤誠治業務 内舎人供

日誌、卜部亮吾侍従日記

二十三日 土曜日 東久邇成子の祥月命日につき、お出ましをお控えになる。○女官日誌、

啓録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌

ていた天皇と共に、 二十四日 和子も伴って植物を御調査になる。 御用邸御滞在中、 日曜日 植物を御調査になった後、 午前、 概ね数日おきに、 皇后お一方にて自動車にて嚶鳴亭にお出ましになる。先にお出ましになっ ○女官日誌、 天皇と共に、 御昼餐を御会食になり、自動車にて御用邸に還御され 侍従日誌、 時には皇太子・同妃、 内舎人供奉日誌、 那須御用邸行幸啓録、 正仁親王・ 那須御用邸管理事 同妃華子、鷹

皇・皇后がお見舞金を賜う。 二十五日 月曜日 去る二十日から二十三日にかけての豪雨により甚大な被害を受けた島根県に、 ○災害お見舞い、宮内庁庁報 天

務所事務官日誌

忍を白根邸に差し遣わされ、 二十九日 金曜日 元宮内次官白根松介昨二十八日死去につき、 祭粢料及び菓子・切り花を賜う。 ○侍従日誌、 天皇・皇后が賜物使として侍従小林 侍従職日誌、 恩賜録、 贈賜録、

にお過ごしになる。 土曜日 午前、 ○女官日誌、 明治天皇例祭につき、 典式録、 恒例祭祀録、 祭典録、 御用邸において御遙拝になる。 宮内庁庁報 終日、 御用邸にて静か

### 八月

九日 火曜 日 長崎原爆の日につき、 お出ましをお控えになる。 ○女官日誌、 侍従日誌、 那須御用邸行幸啓録!

那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌

十 一 日 録 那須御用邸管理事務所日誌、 木曜日 北白川房子の祥月命日につき、 那須御用邸管理事務所事務官日誌 お出ましをお控えになる。 女官日誌、 那須御用邸行幸啓

十五日 天皇はお一方にて去る十三日に皇居に還幸され、 るに当たり、 月曜日 去る十二日、 全国戦没者追悼式のテレビ中継放送を御覧になり、 天皇・皇后が厚生省に生花を賜う。 十八日に再び御用邸に行幸される。 なお、 黙禱される。 同追悼式に御臨席になるため、 同追悼式が行われ 女官日誌、 · 侍従日

皇宮警察本部長橋本佑三の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、 二十四日 水曜日 午後、 天皇と共に謁見所において、 新任の皇宮警察本部長大波多三宜及び前 内舎人供奉日誌、 那須御用邸行幸啓録、 任 那 0

須御用邸管理事務所日誌

侍従職日誌、

内舎人供奉日誌、

幸啓録、

那須御用邸行幸啓録、

恩賜録、

発表綴、

宮内庁庁報

三十日 婚に対するその当時の皇后の御感想 の質問にお答えになる。 火曜 白 午前、 その際に、 天皇が嚶鳴亭にお 天皇 天皇 皇后の御健康状態、 いて宮内記者会会員二十三名とお会いになり、 ・皇后が来年御成婚六十年を迎えられるに当たっての御感 来年銀婚式を迎える皇太子・ 各記 同 妃 の成 Iから

おり、 侍従日誌、 に関しては、 想などについての質問をお受けになる。皇后の御健康状態に関しては、お元気で腰の痛みも安定して 御運動のために毎日三十分間ほど御散策になっている旨をお答えになり、 侍従職日誌、 家庭内のことであるため公にしない旨を笑いを交えられながらお答えになる。 内舎人供奉日誌、 那須御用邸行幸啓録、 那須御用邸管理事務所日誌、 那須御用邸管理事務所事務官日誌、 皇太子・同妃の成婚 女官日誌

皇記者会見、サンケイ、毎日新聞、読売新聞

### 九月

六日 選する。 備議員の互選が行われ、 ○侍従職日誌、 火曜日 皇后は、不在者投票を行う旨を八月二十五日に届け出られ、あらかじめ投票をお済ませになっ 午前、 内舎人日誌、 皇居宮殿の千鳥の間 議員に宣仁親王・崇仁親王が、予備議員に故雍仁親王妃勢津子・皇太子が当 皇室会議皇族議員互選録、 ・千草の間において、 宮殿行事録、 宮内庁庁報、 皇族たる皇室会議の議員及びその予 官報

七日 水曜日 寬仁親王妃信子着帯につき、天皇・皇后より寬仁親王・同妃に万那代料を御贈進にな

る。

○贈賜録

八日 事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、 啓される。 木曜日 ○女官日誌、 天皇と共に、 侍従日誌、 午前八時五十三分那須御用邸を御出門になり、 侍従職日誌、 宮内庁庁報、 内舎人日誌、 斎藤誠治業務日誌、 内舎人供奉日誌、 入江相政日記、 幸啓録、 那須御用邸行幸啓録、 富田朝彦文書 十一時四十七分皇居に還 那須御用邸管理

対面になる。 金曜日 ○女官日誌 午後、 天皇と共に吹上御所において、 侍従日誌 侍従職日誌 内舎人日誌 贈賜録 この日誕生日を迎えた故雍仁親王妃勢津子と御

際に、 タルボウルフォード製 手文庫ながを御贈進になる。これに対し、 メイヴと御会見になる。 皇后より大統領夫人に花束を御贈進になる。 月曜日 午前、 テーブルクロス、ナプキンが贈られる。 この来訪に際し、 天皇が国賓アイルランド国大統領パトリック・ジョン・ヒラリー及び同夫人 大統領より天皇・皇后に御贈進の 天皇・皇后より大統領に有田焼花瓶色鍋島を、 ○女官日誌、 なお、 侍従日誌、 昨十一日に大統領夫妻が入京した 侍従職日誌、 品があり、 内舎人日誌、外賓参内録 皇后にはクリス 同 夫人に蒔絵

接待書類、外交贈答録、恩賜録、宮内庁庁報、官報

贈賜録、 礼が記される。 七月付が送られ、 宮中午餐を催される。 二十月、 宮内庁庁報、 王妃に絹地養産所産繭により織立のものを御贈進になる。 金曜日 ○女官日誌、 皇后宛ての礼状には、 卜部亮吾侍従日記 正午より、 この来訪に際し、 侍従日誌、 天皇がヨルダン国国王フセイン一世及び同王妃ヌールと御会見になり、 侍従職日誌、 日本国滞在中のお礼及び皇后が御贈進になった絹地に対するお 王妃より皇后に金のネックレ 内舎人日誌、 上奏モノ控簿、 後日、 王妃より天皇・皇后それぞれに礼状 典式録、 スの御贈進がある。 外賓参内録、 外交贈答録、 これに対し 外交雑録

十九日 使越智啓介及び同夫人、 侍従日誌 月曜日 侍従職日誌、 午前、 内舎人日誌、 イラン国駐箚特命全権大使野村豊及び同夫人の拝謁をお受けになる。 天皇と共に正殿竹の間において、 拝謁録、 宮内庁庁報 近く赴任のスウェーデン国駐箚特命全権大

静かにお過ごしになる。 二十三日 金曜日 午前、 ○女官日誌、 秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、 典式録、 恒例祭祀録、 祭典録、 宮内庁庁報 吹上御所において御遙拝になる。午前中、

王. ○女官日誌、 のほか、 同妃百合子・寬仁親王・憲仁親王、 皇太子・ 侍従日誌、 月曜日 同妃、 侍従職日誌、 容子内親王来る十月十四日結婚につき、天皇と共に吹上御所において、 正仁親王・同妃華子、 内舎人日誌、 典式録、 鷹司和子、 東宮録、 故雍仁親王妃勢津子、 島津久永・同夫人貴子と御晩餐を御会食になる。 宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌、 宣仁親王・同妃喜久子、 卜部亮吾侍従日記 同内親 崇仁親 王.

侍従職日誌、 訪米に同行した元首席随員福田赳夫始め元随員・元随行員の拝謁をお受けになる。 内舎人日誌、 火曜日 典式録、 午後、 宮殿行事録、 天皇と共に正殿竹の間において、 斎藤誠治業務日誌、 真崎秀樹英文日記 昭和四十六年の御訪欧及び同五十年の御 ○女官日誌、侍従日誌

環をお供えになる。 し遣わされ、 がある。 に親電が寄せられ、 ル ギー 九月三十日には、 国前国王レ 十月一 ○侍従日誌、 この日、 オポルド三世去る二十五日崩御につき、 日に行われる葬儀には 天皇・皇后が弔問使として侍従小林忍を東京都千代田区の同国大使館に差 天皇・皇后が国王に弔電をお送りになる。これに対し十月十四日、 上奏モノ控簿、 外交慶弔録、 同国駐箚特命全権大使を通じて、 外交贈答録、 同国国王ボードワン一世より天皇 恩賜録、宮内庁庁報 天 皇 ・ 官報 皇后が柩 前 答電 皇后

親王 崇仁親王・同妃百合子と御対面になる。また、十月四日には、三笠宮に金員を、 朝見の儀に臨まれる。 二十八日 王がこれに倣う。 |に御盃をお授けになる。 水曜日 容子内親王に扇子代料・ 午後、 その後、 同内親王より謝恩の辞をお受けになり、これに対しお言葉を賜う。 天皇と共に正殿松の間において、 ついで天皇・皇后が御前に設けられた御台盤に御箸をお立てになり、 天皇と共に御退出になる。 白縮緬及びお品を天皇 儀終了後、 来る十月十四日に結婚する容子内親王 皇后が賜う。 天皇と共に鳳凰の間におい なお、 崇仁親王に清酒及び 翌二十九日に行わ 続いて同内

箸をまっすぐにお立てになれないなど御所作に滞りが生じていた皇后の御様子が話題に上る。 れた宮内庁次長の会見において、 侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、 儀式録、宮内庁庁報、 朝見の儀の際にお言葉を容易にお読みになることができず、 官報、斎藤誠治業務日誌、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記、 また御 ○女官日 昭和

天皇最後の侍従日記

実施する社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后が事業御奨励のため金一封を賜う。 三十日 金曜日 翌十月一日より十二月三十一日まで昭和五十八年度国民たすけあい共同募金運 ○社会事業、 動を

# 十月

日

土曜日

午前、

天皇と共に鳳凰の間において、

内庁庁報

日誌、 川光正・侍従職参与西野重孝前皇室医務主管兼侍始め三名の拝謁をお受けになる。○女官日誌、 内舎人日誌、 典式録、恩賜録、 宮内庁庁報、官報、入江相政日記、読売新聞 新任の皇室医務主管兼侍医長兼宮内庁病院長星 侍従日誌、 侍従職 天

る。 五日 四日 御休所におい 皇・皇后がお見舞金を賜う。 臨時祭祀録、幸啓録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌、卜部亮吾侍従日記 天皇の御拝礼が終わった後、続いて皇后が多摩陵、 水曜日 火曜日 て御昼餐の後、 天皇と共に、 昨三日三宅島において発生した火山の噴火により甚大な被害を受けた東京都に、 午前十時二分御出門になり、 ○災害お見舞い、宮内庁庁報、 午後一 一時七分還啓される。 東京都庁所蔵資料、 ついで多摩東陵を御拝礼になる。天皇と共に、 ○女官日誌、 多摩陵皇陵並びに多摩東陵貞畴と行啓され 侍従日誌、 卜部亮吾侍従日記 侍従職日誌 内舎人日誌、 行幸啓

にされる。 孝の拝謁をお受けになり、 木曜日 女官目誌、 夕刻、 侍従日誌、 天皇と共に吹上御所において、 同人及び女官長・侍従次長、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 贈賜録、 去る一日に侍医長を退職した侍従職参与西野重 上直の侍従・侍医長・女官二名と御夕餐を共 卜部亮吾侍従日記

水曜日 正午過ぎ、 天皇がタイ国王女シリントーンと御会見になり、 宮中午餐を催される。

館編集『ラーマーヤナ壁画集』が、 この来訪に際し、 王女より天皇・皇后に御贈進の品があり、 皇后にはタイ画が贈られる。 天皇・皇后にはエメラルド寺院附属図書 これに対し、 天皇 ・皇后より王

女に七宝宝石箱<sup>倉院文</sup>を御贈進になる。 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 典式録、 外賓参内録、 外交贈答

3、 恩賜録、宮内庁庁報

十七日 月曜日 午前、 神嘗祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 女官日誌、 典式録、 恒例祭祀録、

祭典録、宮内庁庁報

及び同夫人、ペ 侍従職日誌、 火曜日 内舎人日誌、 ルー国駐箚特命全権大使小杉照夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。 午後、 拝謁録、 天皇と共に正殿竹の間において、 宮内庁庁報 近く赴任のタイ国駐箚特命全権大使橘正 ○女官日誌、

十九日 皇后より国王に九谷焼飾皿☆構絵文様を御贈進になる。 国王より天皇・ 水曜日 外交贈答録、 皇后に御贈進の品があり、 午前、 恩賜録、 天皇が国賓ノルウェー国国王オラフ五世と御会見になる。 宮内庁庁報 皇后にはコー ○女官日誌、 <u>ا</u> セ ロットが 侍従日誌、 贈られる。 侍従職日誌、 これに対し、 内舎人日誌、 この来訪に際し、 天皇

日誌、 代の祝賀をお受けになる。 侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報、入江相政日記 木曜日 皇太子妃の誕生日につき、午前、天皇と共に鳳凰の間において、 ついで天皇と共に同所において、 皇太子妃と御対面になる。 宮内庁長官始め総 ○女官日誌、

なる。 二十一日 女官日誌、 金曜日 侍従日誌、 正午頃、 侍従職日誌、内舎人日誌、 天皇と共に正殿竹の間において、 典式録、 宮殿行事録、 斎藤誠治業務日誌、 松栄会会員二十余名の拝謁をお受けに 入江相政日記

二十二日 土曜日 午後、 宮殿御車寄前において紅葉山会会員約百名に御会釈を賜う。○女官日誌、 侍従

月曜日 昨二十三日に離日されたノルウェー国国王オラフ五世より、 天皇・皇后に、 日本

○上奏モノ控簿、外交慶弔録、

接待書類、

外賓接待録、

宮内庁庁報

国御滞在中の歓待に対する礼電が寄せられる。 二十四日

職日誌、内舎人日誌、

卜部亮吾侍従日記

瑶子女王に鮮鯛代料を御贈進になる。○侍従職日誌、 三十一日に瑶子と命名される。 れぞれ三種交魚代料を、また寬仁親王・同妃に三種交魚代料を御贈進になる。この日誕生した王女は、 二十五日 火曜日 寬仁親王妃信子第二王女出産につき、 命名の儀当日に、 贈賜録、 天皇・皇后より寬仁親王・同妃に鮮鯛代料を、 宮内庁庁報、 天皇・皇后より崇仁親王・同妃百合子にそ 官報 また

なる。 三十一日 なお、 月曜日 正辰は十一月三日であるが、都合によりこの日に繰り上げて執行された。○女官日誌 鳩彦王妃允子内親王五十年式年祭につき、 午後は吹上御所にて静かにお過ごしに 大統領夫人に花束を御贈進になる。

女官日誌、

侍従日誌、

侍従職日誌

内舎人日誌、

外賓参内録、

接待書類、

外交贈答

# 十一月

皇后には飾皿が献上される。 御引見になり、 日 火曜日 宮中午餐を催される。この来訪に際し、 午後、天皇が公賓ドイツ連邦共和国首相ヘルムート・コール及び同夫人ハネローレを 女官日誌、 侍従日誌、侍従職日誌、 同首相夫妻より天皇・皇后に献上の品があり、 内舎人日誌、 外賓参内録、外交贈答録、 宮内庁庁報、

Ť

宮内庁庁報 千夫妻にそれぞれ万那料及び菓子を天皇・皇后が賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録 子の拝謁をお受けになる。その際、千政之にお品を、 四 百 金曜日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、去る十月十四日に結婚した千政之及び同夫人容 同夫人容子に洋服地養養所産及びお品を、また、

九日 は貝の形をした銀製の小箱スメ゙ークჅが贈られる。 を御贈進になる。これに対し、 御会見になる。 掲をお受けになる。<br />
○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報 ク国駐箚特命全権大使賀陽治憲及び同夫人、イスラエル国駐箚特命全権大使門田省三及び同夫人の拝 天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のビルマ国駐箚特命全権大使塚本政雄及び同夫人、デンマー 水曜日 この来訪に際し、 午後、 天皇が国賓米国大統領ロナルド・ウイルソン・レーガン及び同夫人ナンシーと 大統領より天皇に、 天皇・皇后より大統領に有田焼飾Ⅲ草花文を、 なお、この日に大統領夫妻が入京した際に、 大統領夫妻より皇后に御贈進の品があり、 同夫人に銀製宝石箱棋車 皇后より 皇后に

録、恩賜録、宮内庁庁報、官報、読売新聞

助言を行う役職として新たに設けられた。 団藤重光元最高裁姶め四名の拝謁をお受けになる。 十七日 及び同夫人の拝謁をお受けになる。 入江相政日記 金曜日 木曜 Ė 午後、 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 天皇と共に鳳凰の間におい 女官日誌、 女官日誌、 侍従日誌、 なお、 て、 侍従日誌、 東宮職参与は、 新任の東宮職参与須之部 侍従職日誌、 近く赴任のチリ国駐箚特命全権大使小村康 侍従職日誌、 内舎人日誌、 皇太子一家の諸事全般につき 内舎人日誌、 拝謁録、 量三 典式録、 宮殿行事録、 元外務事務次官 宮内庁御用掛、 官報、 宮内庁庁 読売新聞 同

日誌、 時五十七分還啓される。 に赤坂御苑内を散策され、 天皇と共に、 入江相政日記、 午前十一時四十五分御出門になり、 卜部亮吾侍従日記 女官日誌、 紅葉を御覧になった後、 侍従日誌、 侍従職日誌、 東宮御所に行啓される。 東宮御所において御昼餐を御会食になる。 内舎人日誌、 行幸啓録、 幸啓録、 天皇及び皇太子・ 宮内庁庁報、 斎藤誠治業務 同妃と共 午後一

が献上される。 午餐を催される。 二十五日 金曜日 女官日誌、 この来訪に際し、 正午過ぎ、 侍従日誌、 天皇が公賓中国共産党中央委員会総書記胡耀 侍従職日誌、 総書記より天皇・皇后に献上の品があり、 内舎人日誌 外賓参内録、 外交贈答録、 宮内庁庁報 邦を御引見になり、 皇后には陶製飾皿図入り 宮中

なる。 二十八日 女官日誌、 月曜日 侍従日誌、 午後、 侍従職日誌、 天皇と共に吹上御所において、 内舎人日誌、 贈賜録 この日誕生日を迎えた正仁親王と御対面に

三十日 水曜日 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 近く赴任のインド国駐箚特命全権大使穂崎

綱及び同夫人の拝謁をお受けになる。 巧及び同夫人、キューバ国駐箚特命全権大使馬淵晴之及び同夫人、ボリビア国駐箚特命全権大使藪忠 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 拝謁録、 宮殿行事録、 宮内庁庁

# 十二月

斎藤誠治業務日誌

る。 三日 生涯と作品 御覧になるの 同展には日本画の御作品「枯露柿」「秋色―たちふうろ」を御出品になる。 土曜日 いは、 午前、宮内庁庁舎講堂にお出ましになり、 この年が最後となる。 ○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、 宮内庁職員組合文化祭の美術展を御覧にな 重要雑録、 文化祭目録、 なお、 皇后が同展を 香淳皇后のご

では、 五日 0 会会員十六名及び首席楽長上近正講師・楽長東儀博品の拝謁をお受けになる。 内和彦・式部官中島宝城・楽部事務長真砂昭夫が陪聴する。 糸竹会会長三条実春の先導により御休所にお入りになり、 お見送りを受け楽部玄関を御発、 黄鐘調音取、 月曜日 午後、宮内庁楽部にお出ましになり、糸竹会例会に御臨席になる。 拾翠楽、 越殿楽光寒、 吹上御所に還御される。 西王楽破、 貞明皇后御歌の演奏をお聴きになり、 ついで鏡の間に進まれ御着席になる。 ○女官日誌、 演奏終了後、 侍従職日誌、 御休所前廊下において糸竹 その後、 内舎人日誌、 楽部玄関に御着後、 糸竹会会員等 式部唱長山 幸啓録、 例会

なる。 六日 女官日誌、 火曜 Ħ 午前、 侍従日誌、 天皇と共に鳳凰 侍従職日誌、 内舎人日誌、 の間において、 典式録、 贈賜録、 京都在住堂上会総代冷泉為弘の拝謁をお受けに 入江相政日記

十日 土曜日 午後、 天皇と共に吹上御所において、 去る十一月三十日に誕生日を迎えた文仁親王と

御対面 になる。 ○女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 贈賜録、 東宮録、宮内庁庁報

本学及び 十二日 月曜日 同夫人の拝謁をお受けになる。 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 ○女官日誌、 侍従日誌、 近く赴任のセネガル国駐箚特命全権大使山 侍従職日誌、 内舎人日誌、 拝謁録 宮殿行事録、 宮内

庁庁報 火曜日 天皇と共に、午後一時十三分御出門になり、 四時四十七分須崎御用邸に行啓される。

○女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、内舎人供奉日誌、 幸啓録、 須崎御用邸行幸啓録、 宮内庁庁報、 斎藤誠治業務日誌

入江相政日記、 富田朝彦文書 十三日

十四四 百 水曜 日 午前、 天皇と共に御車寄から附属邸まで散策され、 植物を御調査になる。 御 ||用邸御

滞在中、 ほぼ毎日天皇と共に散策され、 植 物を御調査になる。 女官日誌 侍従日誌 内舎人供奉日誌

用邸行幸啓録、斎藤誠治業務日誌、 卜部亮吾侍従日記

二十日 火曜日 日本赤十字社に天皇・皇后が、 財団法人結核予防会に皇后が、 事業御奨励のためそ

**庁報、** 事業年報 (日本赤十字社 れぞれ

金

封を賜う。

また向陽会に皇后が、

歌道御奨励の

ため金

封を賜う。

○恩賜録、

社会事業

宮内庁

二十一日 水曜日 天皇と共に、 午後零時二十九分須崎御用邸を御出門になり、 四時皇居に還啓され

る。 ○女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌 幸啓録、 須崎御用邸行幸啓録、 宮内庁庁報

代 二十三日 続いて女官長始め女官、 金曜日 皇太子の誕生日につき、 元女官等の祝賀を順次お受けになる。 午前、 天皇と共に鳳凰 ついで天皇と共に同所において、 の間において、 宮内庁長官始め総

須崎御

皇太子と御対面になる。 ○女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 典式録、内廷皇族誕生日綴、 東宮録、宮内庁庁

報、入江相政日記

二十五日 日曜日 午前、 大正天皇祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 ○女官日誌、内舎人日誌

典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

同王妃アイシュワリヤと御会見になり、宮中午餐を催される。この来訪に際し、国王より天皇・皇后 二十六日 月曜日 正午、 天皇がネパール国国王ビレンドラ・ビル・ビクラム・シャー・デーブ及び

に御贈進の品があり、 皇后にはタラピンドゥー像が贈られる。これに対し、天皇・皇后より国王・王妃

に有田焼花瓶金襴手柱を御贈進になる。〇女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、

郊、宮殿行事録、宮内庁庁報<br/>

二十七日

火曜日

午前、

天皇と共に鳳凰の間において、

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、 内舎人日誌、 発表綴、 東宮録

官より歳末の祝詞言上を、 二十九日 木曜日 午前、 ついで皇太子・同妃始め皇族、 天皇と共に鳳凰の間において、 宮内庁長官始め総代、 元皇族、 御縁故者、さらに清子内親王より 続いて女官長始め女

朝彦文書

歳末の祝詞言上をお受けになる。

女官日誌、

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、

典式録、東宮録、

宮内庁庁報、

富田

文仁親王より歳末の祝詞言上をお受けにな

# 昭和五十九年(西暦一九八四年) 八十一歳

### 月

妃、 受けになる。 清子内親王、 賀をお受けになるのは、この年が最後となる。なお、新年祝賀の儀に先立ち、 所長官等、 仁親王・同妃信子・宜仁親王・憲仁親王、 日 正仁 日 川親王・ 曜日 各国外交使節団の長等の祝賀を順次お受けになる。 ○女官日誌、 元皇族・御縁故者等、 同妃華子、 午前九時四十五分より、天皇と共に宮殿において新年祝賀の儀に臨まれ、 侍従日誌、 故雍仁親王妃勢津子、 侍従職日誌、 宮内庁長官始め部局長等及び側近奉仕者等の祝賀を天皇と共にお 内舎人日誌、 続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判 宣仁親王・同妃喜久子、 典式録、 儀式録、 皇后が各国外交使節団の長等の新年祝 年末年始、 宮殿行事録、 崇仁親王・同妃百合子・ あるいは各祝賀の間に、 東宮録、 皇太子・ 宮内庁庁報 寬 同

良い 年末年始 新年を迎えるに当たり、 .日は御運動のために吹上御所の庭を三十分間ほど御散策になっていることなどが発表される。 サンケイ、 東京新聞、 宮内庁より皇后の御様子について、 日本経済新聞、 毎日新聞、 読売新聞 腰痛の状態は安定していること、天気の 官報、

入江相政日記、

卜部亮吾侍従日記、

斎藤誠治業務日誌

二日 月曜日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、 文仁親王師をまで葉山の祝賀をお受けになる。 〇女官

誌 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 東宮録

七回、 新年 長和殿ベランダにお出ましになり、 般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃、 宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。 正仁親王・同妃華子と共に、 午前三回・午後四 〇女官日誌: 口 Iの計

侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 典式録、 年末年始、 東宮録、 宮内庁庁報、 官報

三日 火曜日 午前、 元始祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 女官日誌、 内舎人日誌 典式録、 恒

例祭祀録、 祭典録、 宮内庁庁報

午後、 天皇と共に吹上御所において、 この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。 女官日誌、 侍従

六日 金曜日 午前、 日誌、

内舎人日誌

贈賜録

和夫の拝謁をお受けになる。 天皇と共に正殿竹の間において、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 近く赴任のモロ 内舎人日誌、 拝謁録、 ツコ国駐箚特命全権大使山下 宮殿行事録 宮内庁庁報、 入江相

政日記

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、 この年は概ね毎週金曜日に行われた定例の参殿を始め、 天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・文仁親王・清子内親王と御夕餐を御会食になる。以後、 内舎人日誌、東宮録 随時、 皇太子一家と御対面・御会食になる。

殿御 七日 友・御同級生七名の祝賀をお受けになる。 草寄内に 土曜日 おいて元女嬬等の祝賀をお受けになる。 午後、 天皇と共に鳳凰の間において、 女官日誌、 侍従日誌、 その後、 元女官・元皇太后宮女官等の祝賀を、 侍従職日誌、 皇后お一方にて、 内舎人日誌、 儀式録、 花の間におい 典式録 ついで宮 て御学

十二日 木曜 Ħ 午前、 歌会始の儀にお出ましにならず、 吹上御所においてそのテレビ中継放送を御

覧になる。この年のお題は「緑」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

やはらかき日ざし透りて若桂みどりゆたかに中壺に満つ

○女官日誌、儀式録、典式録、宮内庁庁報、官報、斎藤誠治業務日誌

十七日 この年は、 火曜日 月に一、二回程度吹上御所にて行われた御会食を始め、 天皇と共に吹上御所において、正仁親王・同妃華子と御夕餐を御会食になる。 随時、 正仁親王・同妃と御対面

御会食になる。〇女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

内舎人日誌 になる。 子、崇仁親王・ 二十二日 以後、 日曜日 この年も皇族・御親族と随時、 同妃百合子と御対面になり、 夕刻、 天皇と共に吹上御所において、 寒中 御対面 *(* 御機嫌伺いをお受けになった後、 御会食になる。〇女官日誌、 故雍仁親王妃勢津子、 宣仁親王 侍従日誌、 御夕餐を御会食 侍従職日誌 同 [妃喜久

に生花を賜う。 業所有明鉱殉職者単元十八日の坑合同社葬が執行されるに当たり、 二十三日 月曜日 ○賜与録、 来る二十五日、 発表綴、 宮内庁庁報 福岡県の大牟田市民体育館において三井石炭鉱業株式会社三池鉱 天皇・皇后が通商産業省を通じて同葬

でにおいても祭典が行われる。 当たり、吹上御所において御遙拝になる。 女官日誌、 臨時祭祀録、 なお、 この日神武天皇陵戦時に 祭典録、 宮内庁庁報 多摩陵皇陵及び多摩東陵皇后

二十六日

木曜日

午前、

賢所・皇霊殿

神殿において天皇皇后御結婚満六十年の祭典が行われるに

天皇と共に宮殿にお出ましになり、 御結婚満六十年の祝賀行事に臨まれる。 鳳凰の間において宮内庁

者の祝賀をお受けになる。 午後には正殿竹の間において内閣総理大臣 百合子・寬仁親王・ 皇太子・ 寄前において宮内庁職員 長官以下課長相当職 宮殿行事録、 同妃、 東宮録、宮内庁庁報、 正仁親王・ 同妃信子・宜仁親王・憲仁親王、及び元皇族・御縁故者等の祝賀をお受けになる。 以 、上の職員及び皇宮警察本部職員のうち部長、 ・皇宮警察本部職員の祝賀を順次お受けになる。 女官日誌、 同妃華子、 入江相政日記、卜部亮吾侍従日記、 侍従日誌、 故雍仁親王妃勢津子、 ・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官及びその配偶 侍従職日誌、 内舎人日誌、 斎藤誠治業務日誌、 宣仁親王・同妃喜久子、 臨時儀式録、 側近奉仕者等の祝賀を、 中曽根内閣史 ついで鳳凰の間において、 天皇皇后両陛下御結婚満六十年 崇仁親王・同妃 宮殿 御 車

夕刻、 お祝御膳を御会食になる。 天皇と共に吹上御所において、 女官日誌、 侍従日誌、 皇太子・同妃・文仁親王・清子内親王、 内舎人日誌、 臨時儀式録、 東宮録 正仁親王・ 同妃華子と

う。 ダント時計が贈られる。 長 御結婚満六十年に当たり、 ン国テルエル市より天皇・皇后に記念の金メダル及び盾が献上される。 また、 最高裁判所長官、 駐日外交使節 最高裁判所判事代行より天皇・皇后に献上の品があり、 これに対し天皇・皇后が内閣総理大臣始め献上者へ御紋付銀製スプーンを賜 団 内閣総理大臣始め国務大臣、 同より天皇・ 皇后へ花束の 就上が 衆議院議長・同 ?ある。 さらに二月二十日には、 ○恩賜録、 副議長、 皇后には銀製七宝付ペン 天皇皇后両陛下御結婚満六 参議院議長 スペイ 同 議

○恩賜録、 御結婚満六十年に当たり、 宮内庁庁報 朝日新聞 がん対策振興事業御奨励のため、 東京新聞 読売新聞 天皇・ 皇后が厚生大臣に金 封を賜う。

十年綴、

外交贈答録、

発表綴、

卜部亮吾侍従日記、

斎藤誠治業務日誌

御結婚満六十年に際し、 各国元首から天皇 ・皇后に祝電 親書が寄せられる。これに対し天皇が答電

副

答簡をお送りになる。〇上奏モノ控簿、外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

元帝室博物館鑑査官三条西公正チロメキ昨二十五日死去につき、 天皇・皇后が祭粢料を賜う。 また別に皇

后が切り花を賜う。○贈賜録、宮內庁庁報

正仁親王・同妃華子と御昼餐を御会食になり、午後一時五十八分還啓される。 二十八日 土曜日 天皇と共に、午前十一時四十二分御出門になり、 同五十分常陸宮邸に行啓される。 ○女官日誌、 侍従日誌、侍従

職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、発表綴、宮内庁庁報、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌

三十日 月曜日 午前、 孝明天皇例祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 また、 吹上御所にて

静かにお過ごしになる。○女官日誌、典式録、 恒例祭祀録、 祭典録、 宮内庁庁報

○女官日誌、 ア国及びシンガポ 三十一日 侍従日誌、 火曜日 侍従職日誌、 午前、 ル国を訪問する正仁親王・ 天皇と共に鳳凰の間において、 内舎人日誌、 典式録、 贈賜録、 同妃華子の首席随員斉藤鎮男の拝謁をお受けになる。 宮内庁庁報 来る二月十三日より二十一日までマレーシ

## 二月

外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報 の品があり、 夫人へイゼルを御引見になり、 木曜日 皇后にはクリスタル花瓶スシ鰤カドが献上される。 午後、天皇が公賓オーストラリア国首相ロバート・ジェ 宮中午餐を催される。 この来訪に際 女官日誌、 侍従日誌、 イムズ・リー・ホーク及び同 同夫妻より天皇 侍従職日誌、 皇后に献上 内舎人日誌

四日 土曜日 夕刻、 天皇と共に吹上御所において、来る十三日より二十一日までマレーシア国及び 治業務日誌

シンガポ ール国を訪問する正仁親王・同妃華子と御対面になり、 ついで御夕餐を御会食になる。

日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌 内舎人日誌、 外交雑録、 贈賜録、宮内庁庁報

七日 使太田正利及び同夫人の拝謁をお受けになる。 宮一及び同夫人、ドミニカ共和国駐箚特命全権大使井口武夫及び同夫人、ザンビア国駐箚特命全権大 火曜日 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 ○女官日誌、 近く赴任のエクアドル 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌 国 駐 箚特命全権 拝謁録、 宮殿行事 西

録 宮内庁庁報、入江相政日記

八日 本芳男及び同夫人、ベトナム国駐箚特命全権大使堤功一及び同夫人の拝謁をお受けになる。 水曜日 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 近く赴任のコロンビア国駐箚特命全権大使藤 女官日誌

侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 拝謁録、 宮殿行事録、 宮内庁庁報

天皇と共に、

午後一時十二分御出門になり、

四時四十六分須崎御用邸に行啓される。

誌 侍従職日誌、 内舎人日誌 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 須崎御用邸行幸啓録、 宮内庁庁報、 斎藤誠治業務日誌

十日 十五日に礼電がある。 大韓民国ソウル特別市にて入院療養中の李方子に対し、 中 しばしば天皇と共に植物を御調査になる。 金曜日 午前、 天皇と共に三井浜付近にお出ましになり、 女官日誌、 天皇・皇后が金一封を賜う。これに対し、二 侍従日誌、 須崎御用邸行幸啓録、斎藤誠治業務日誌 植物を御調査になる。 御用邸御 滞 在

○贈賜録、

重要雑録

十六日 される。 女官日誌、 木曜 自 天皇と共に、 侍従日誌、 侍従職日誌、 午後零時三十分須崎御用 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、 邸 を御出門になり、 幸啓録、 須崎御用邸行幸啓録、 一時五十八分皇居に還啓 宮内庁庁報

女官日誌、

侍従日

セネガル国を訪問する皇太子・同妃の首席随員須之部量三ᡑ宮職及び随員九名の拝謁をお受けになる。 月曜日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、来る二十五日より三月八日までザイール国・

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、贈賜録、宮内庁庁報

誌 花の間において、 日本赤十字社社長林敬三の拝謁をお受けになる。 女官日誌、 侍従職日誌、 内舎人日

大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・ 中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺

二十一日 火曜日 仁孝天皇例祭につき、終日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。〇女官日誌、

○贈賜録

恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

寺・霊鑑寺に、

恒例により乾海苔料を賜う。

川市役所所蔵資料、斎藤誠治業務日誌、グラフ鴨川、千葉日報 御覧になる。 戻りになった天皇と共に二階大広間において、 鴨川シーワールドを御視察のため御出発になる天皇を御座所前でお見送りになる。 る。午後二時三十三分御泊所の鴨川グランドホテルに御到着になる。七階御座所において御休憩の後、 御巡覧になったのち御少憩になる。その後の六・七号館艫ヶ八号館テンは天皇お一方にて御巡覧にな 四十四分御出門になり、原宿駅より安房鴨川駅を経て、鴨川市太海フラワーセンターに御到着になる。 二十二日 一号館で開催中の切花共進会を始め、二・三号館のバラ及び熱帯果樹、 水曜日 女官日誌、 この日より二十四日まで、天皇と共に千葉県南房総方面へ行啓される。 侍従日誌 侍従職日誌、 内舎人日誌 鴨川市民の演ずる郷土芸能 内舎人供奉日誌、 幸啓録 四・五号館の温室の花々まで 地方行幸啓、 「羯鼓舞」・「やんざ節」を 夕刻、 宮内庁庁報 御泊所にお 午前 九時

宮内庁庁報、

斎藤誠治業務日誌

使山戸徹及び同夫人の拝謁をお受けになる。 になる。 大統領及び同夫人に有田焼花瓶清華金襴手、 天皇と共に吹上御所において、 ○女官日誌、 め、この日午前に予定されていた千葉県栽培漁業センターへのお一方での御訪問をお取りやめになる。 駅より原宿駅を経て、午後二時二十二分皇居に還啓される。 ンホールにおいて、 御風気気味のため、 三日月に御到着になる。 アイランドに臨まれ、 ル国を訪問する皇太子、 二十九日 二十四日 内舎人日誌、 トロ 女官日誌、 ピカルバードセンター、 侍従日誌、 金曜日 木曜日 水曜日 内舎人供奉日誌、 侍従職日誌、 侍従日誌、 午前、 杉戸区拍子連が演じる郷土芸能「杉戸の獅子舞」を御覧になる。 お取りやめになり御座所にて御静養になる。 天皇と共に、 天皇と共に、 フラミンゴ園においてフラミンゴショーを御覧になる。 及び同妃に御対面になる。 なお、この後天皇はお一方にて勝浦海中公園にお出ましの予定であったが、 幸啓録、 天皇と共に正殿竹の間におい 侍従職日誌、 内舎人日誌、 翌二十五日より三月八日まで天皇の御名代としてザイー 午前十時御泊所鴨川グランドホテルを御出発になる。 午前十一時四十二分御泊所勝浦ホテル三日月を御出発になる。 宮内庁庁報、 モンキーハウスを御巡覧になり、 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、 セネガル国大統領及び同夫人に有田焼花瓶染錦金襴手を御 官報、 ○女官日誌、 恩賜録、 勝浦市役所所蔵資料、 なお、 幸啓録、 侍従日誌 贈賜録、 て、 皇太子を通じて天皇・皇后よりザイ 宮内庁庁報、 近く赴任の なお、天皇は昨二十三日来の御風気のた 外交贈答録 侍従職日誌 夕刻、 広報かつうら 十一時五十三分御泊所勝浦ホテル 官報、 天皇と共に二階コンベンショ ノルウェー 東宮録、 内舎人日誌 入江相政日記、 その後、 宮内庁庁報、 国駐箚特命全権大 拝謁録、 女官日誌、 斎藤誠治業務日誌 勝浦市 · ル 国 動物舎に移ら 入江相政日記 宮殿行事録 ・セネガ 0 贈 · ル 国 勝浦

行

病院 来る三月六日に満八十一歳のお誕生日を迎えられるに当たり、 救 助収容患者に手拭い三千八百本を賜う。 ○贈賜録、 事業年報 この日、 (日本赤十字社 思召しをもって日本赤十字社

### 三月

В 木曜 日 来る六日に満 八十一 歳 0 お誕生日を迎えられるに当たり、 この 日 思召しをもって恩

賜財団済生会病院の救助収容患者に手拭い三千二百本を賜う。○贈賜録

二日 お受けになる。 問 から帰国した正仁親王・ 金曜日 ○女官日誌、 天皇と共に吹上御所において、去る二月二十一日にマレ 侍従日誌、 同妃華子と御夕餐を御会食になる。 侍従職日誌、 内舎人日誌 宮内庁庁報 その際、 親王・ ] シア国・シンガポ 同 妃より 帰国 0 挨 ル 国 訪

**六日** 火曜日 満八十一歳のお誕生日を迎えられる。

御親 午前、 議 御 寄前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員の祝賀を、女官候所前廊下において女嬬・雑仕の祝賀を、 て元側近奉仕者の祝賀を、 て正仁親王 で花の 長 車 寄 最高裁判所長官等及びその配偶者の祝賀をお受けになる。 内にお 鳳凰の! 0 祝賀を順次お受けになる。 間において、 同妃華子始め皇族、 いて元女嬬等 間において、 参与宇佐美毅・森永貞一郎、 宮内庁長官始め各部局長等、 か祝賀を、 花の間において元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀を、 元皇族、 正午、 花の間において御学友・御同級生六名、 正殿梅 御縁故者の祝賀をお受けになる。 の間において、 侍従職参与西野重孝、 続い て側近奉仕者の祝賀をお受けになる。 内閣 総理大臣 東宮職参与団藤重光、 その後、 続いて東久邇文子始め 衆 議院議長 鳳 凰 0 間 御車 におい 続い

子・寬仁親王妃信子、 において、 女官日誌、 天皇と共に吹上御所において、清子内親王の祝賀をお受けになる。 正仁親王・同妃華子、 侍従日誌、 鷹司和子、 侍従職日誌、 故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、 池田隆政・同夫人厚子、島津久永・同夫人貴子と御晩餐を御会食に 内舎人日誌、 典式録、 儀式録、 宮殿行事録、 東宮録、 夕刻、 宮内庁庁報、 崇仁親王・同妃百合 天皇と共に吹上御 入江相政日記、 所

藤誠治業務日誌、 中曽根内閣史

毎日新聞 御団欒を楽しみにされていることなどが発表される。 ブデコルテ等の正装はできずローブモンタント點であればお召しになれること、 お誕生日に当たり、宮内庁より皇后の御様子について、 膝は時々痛みを訴えられるが軽い症状であること、 読売新聞 ○内廷皇族誕生日綴、 コルセットを着用されているため和服やロー 腰は欠損箇所も固まり安定した状態であるこ 朝日新聞、 サンケイ、 御家族との御会食や 日本経済新聞

ル 国 七日 |訪問から帰国した正仁親王・同妃華子の首席随員斉藤鎮男の拝謁をお受けになる。○女官日誌、 水曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、去る二月二十一日にマレーシア国及びシンガポー 内舎人日誌、 典式録、 贈賜録、 侍従

た皇太子・ 木曜日 同妃に御対面になる。 夕刻、 天皇と共に吹上御所において、この日ザイール国・セネガル国訪問より帰国し ○女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 宮内庁庁報、 入江相政日記 斎藤誠

治業務日誌

侍従職日誌、

宮内庁庁報、

入江相政日記、卜部亮吾侍従日記

○女官日誌、 金曜日 侍従日誌、 天皇と共に、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 午後一時十一分御出門になり、 内舎人供奉日誌 幸啓録、 須崎御用邸行幸啓録、 四時四十七分須崎御用邸に行啓される。 宮内庁庁報、 入江相政日記、

藤誠治業務日誌

邸御滯在中、 日 曜 十二日・十三日にも天皇と共に植物を御調査になる。 Ħ 午前、 天皇と共にサクラ道第一 大曲にお出ましになり、 女官目誌、 植 他物を御 侍従日誌、 調 内舎人供奉日 査になる。 誌、 御用

崎御用邸行幸啓録、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌

十四日 啓される。 皇后は式部官本多大介を差し遣わされ、 東が贈られる。 寄りに際し、 碑竣工並びに追悼式が行われるにつき、 皇后は御使として式部副長平岡千之を同空港へ差し遣わされ、 水曜日 金曜日 月 曜 ○女官日誌、 皇后より王妃へ花束を御贈進になる。 Ħ また二十七日には、 タイ国王妃シリキットが米国御訪問の途中新東京国際空港にお立ち寄りにつき、 来る十六日マーシャル 天皇と共に、 侍従日誌、 侍従職日誌、 午後零時三十一分須崎御用邸を御出門になり、 同王妃が米国よりの帰途再び同空港にお立ち寄りにつき、 天皇 お言葉を伝達させられる。 国 内舎人日誌、 [マジュ 皇后が同省に生花を賜う。 口 内舎人供奉日誌、 なお、 島において、 翌日にお礼として王妃より天皇・皇后へ花 幸啓録、 厚生省主催による東太平 外交雑録、 お言葉を伝達させられる。 須崎御用邸行幸啓録、 ○恩賜録、 外交贈答録、 三時五十九分皇居に還 発表綴、 贈賜録 宮内庁庁報 宮内庁庁報、 -洋戦 天皇 お立ち 没者 天 0

十九日 玉 共に雉子 セネガ 0 月曜 ル 間 玉 に Ė 訪問 おいて、 午前、 における首席随員須之部 随行員十名の拝謁をお受けになる。 天皇と共に鳳凰の間において、 量三及び随 員 去る八日に帰国した皇太子・ 九名の ○女官日誌、 拝謁 をお受けになる。 侍従日誌、 侍従職日誌、 同 ついで天皇と 妃のザ 内舎人日誌、 イー ル

内庁庁報

江相政日記、

斎藤誠治業務日誌

火曜日 午前、 春季皇霊祭及び同神殿祭につき、吹上御所において御遙拝になる。 女官日誌

典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

料及びお品料を御贈進になる。 業した文仁親王に御対面になり、 金曜日 夕刻、 天皇と共に吹上御所において、 女官日誌、 ついで御夕餐を御会食になる。 侍従日誌、 侍従職日誌、 皇太子・ 内舎人日誌、 なお、 同妃及びこの日学習院高等科を卒 吹上御所殿部日誌 天皇・皇后より同親王に万那 重要雑録

東宮録、斎藤誠治業務日誌

があり、

皇后は桑製象嵌入小簞笥を賜う。

○贈賜録

二十六日 月曜日 来る四月十一日の昭憲皇太后七十年祭に先立ち、 天皇・皇后から明治神宮 1へ賜品

曲 長上近正・楽長東儀博・楽長補東儀俊美の調べ」編曲者 を祈念して作られた奉祝曲 祝演奏会に御臨席になる。 べ」などをお聴きになる。 二十八日 ついでホールに進まれ御着席になる。 及び作曲を行った東儀楽長補と芝楽師に賜品がある。 水曜日 午後、 楽部玄関に御着後、式部官長安倍勲の先導により御休所にお入りになり、 演奏終了後、 天皇と共に桃華楽堂にお出ましになり、天皇皇后両陛下御結婚満六十年奉 「慶翔楽」、この演奏会のために新たに編曲されたメドレー 演奏会では、 天皇と共に御休所前廊下において、 天皇皇后両陛下の御結婚満六十年を奉祝し御長寿 楽師芝祐靖率児曲者に御会釈を賜う。 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌 指揮者甲斐正雄 内舎人日誌 「六十年の なお、 ・首席楽 行幸啓 編 調

御紋付銀製スプーンを賜う。 金曜日 桃華楽堂においてこの日行われた昭和五十八年度音楽大学卒業生演奏会の出演者十 ○恩賜録、

発表綴、

入江相政日記、

斎藤誠治業務日誌

職首席専門官辻村初来始め五名の拝謁をお受けになる。 三十一日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、 ○女官日誌、 この日退職の宮内庁御用掛岩瀬英子・侍従 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌

四月

恩賜録、

入江相政日記

日記 皇后 四方と御昼餐を御会食になる。 十年祝賀御内宴に御出席になる。 В 花束が贈呈される。 日 曜 日 天皇と共に花蔭亭にお出ましになり、皇太子・同妃主催の天皇皇后両陛下御結婚満六 ○女官日誌、 席上、 皇太子・同妃のお出迎えをお受けになった後、 侍従日誌、 皇太子の祝詞、 侍従職日誌、 宣仁親王の乾杯の発声があり、 内舎人日誌、 贈賜録、 東宮録、 宮内庁庁報、 皇族・元皇族等二十 清子内親王より 卜部亮吾侍従

二日 いて静養される。 月 曜 日 御 ○女官日誌、 風気のため、 侍従職日誌、 吹上御所において御静養になる。 皇太后陛下御健康、 発表綴 この日より十三日まで吹上御所にお

六日 妃に花束を御贈進になる。 ○女官日誌、侍従日誌、 る。 この来訪に際し、 また王妃から皇后へ宝石入置時計等が贈られる。 金曜日 午前、天皇が国賓ブルネイ国国王ハサナル・ボルキア及び王妃サレハと御会見になる。 天皇・皇后から国王へ九谷焼花瓶金襴手極彩を、 侍従職日誌、 なお、 内舎人日誌、 玉・・ 王妃へ銀製宝石箱嶼支機を御贈進にな 外賓参内録、 王妃が入京した際に、 外交贈答録、 恩賜録、宮内庁庁 皇后より王

八日 日 曜日 この度、 文仁親王が学習院大学に進学するに当たり、 天皇・皇后から皇太子・ 同妃に

〇女官日誌、

侍従日誌、

侍従職日誌

内舎人日誌、

幸啓録、

行幸啓録、

発表綴、

宮内庁庁報、

入江相政日記

五. 種交魚代料、 同親王に万那料・お品料をそれぞれ御贈進になる。 ○侍従職日誌、 重要雑録、 贈賜録、

報

この 日バザーを開催する常磐会に切り花カーネー三百本を賜う。 ○贈賜録

十日 火曜日 この日結婚満二十五年を迎えた皇太子・同妃に、 天皇・皇后からお祝 1 0 品及び 鮮鯛

を御贈進になる。 ○贈賜録

見になり、

宮中午餐を催される。

この来訪に際し、

同国首相夫妻より天皇・皇后に献上

0

品

金曜日 天皇が公賓ベルギー 国首相ウィルフリード・マルテンス及び同夫人リー ヴェを御引

皇后にはレー ス編みが献上される。〇女官日誌、侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 外賓参内録、 外交贈答録

十八日 栄木忠常・ 水曜 同密田博孝、 Ė 午後、 鷹司家経済顧問三谷信、 天皇と共に鳳凰の間におい 池田家経済顧問野津克己、 て、 常陸宮家経済顧問中 島津家経済顧問小笠原光 谷 雄、 久邇家経済 顧問

雄の拝謁をお受けになる。 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、内舎人日誌、 典式録

従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 贈賜録、 宮内庁庁報、 富田メモ

この日誕生日を迎えた清子内親王と御対面になる。

○女官日

侍

夕刻、

天皇と共に吹上御所において、

を御会食になり、 四分御出門になり、 二十二日 日曜日 お揃いで桜が満開の赤坂御用地内を御散策になる。 東宮御所に行啓される。天皇及び皇太子・同妃・文仁親王・清子内親王と御昼餐 去る十日に銀婚式を迎えた皇太子・同妃の招待により、 午後一時三十六分還啓される。 天皇と共に午前十時五十

指輪
宝石が献上される。 会見になる。 この来訪に際 曜日 午前、 ○女官日誌、 天皇が国賓カタール国首長ハリーファ・ビン・ハマド・アル・ 首長から天皇 侍従日誌、 侍従職日誌、 皇后に献上の品があり、 内舎人日誌、 吹上御所仕人日誌、 皇后には首 外賓参内録、 輪 腕 サー 首 - ニと御

贈答録、宮内庁庁報

日誌、 料 • 子と御対面になる。 二十七日 `三種交魚代料、 和 内舎人日誌、 服地産を御贈進になる。 金曜日 瑶子女王へ三種交魚代料・御台人形代料を御贈進になる。 午前、 初参内に際し、 贈賜録 天皇と共に鳳凰 またこの年、 天皇・皇后から寛仁親王・同妃へ三種交魚代料、 の間において、 瑶子女王初節句につき、 この日初参内の瑶子女王及び寛仁親 天 皇 ・ 皇后から寛仁親王 ○女官日誌、 瑶子女王 侍従日誌 一へ万那 王 侍従職 同 一妃信 妃

者の 舎人日誌、 て元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀をお受けになる。 において東久邇文子始め御親族の祝賀を順次お受けになる。 始め女官の祝賀をお受けになる。 二十九日 祝賀をお受けになる。 儀式録、 日曜日 典式録、 天皇誕生日につき、午前、 宮殿行事録、 その後、 東宮録、宮内庁庁報、 ついで正殿梅の間において皇太子・同妃始め皇族、 天皇と共に拝謁者控室前において女嬬・雑仕の祝賀を、 花の間において、宮内庁長官始め総代、 入江相政日記 さらに皇后お一方にて再び花の間 ○女官日誌、 侍従日誌 元皇族、 続いて女官長 侍従職日 鳳 御縁故 にお 凰 0 間

内

従職日誌、 殿ベランダに 天皇誕生日 内舎人日誌、典式録、 般参賀につき、 お出ましになり、 宮殿行事録、 天皇及び皇太子・同妃・正仁親王・ 宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。 宮内庁庁報、 官報、 入江相政日記 同妃華子と共に、 〇女官日誌: 午前中 应 侍従日 口 長 和

侍従日誌、 の御夕餐を御会食になる。 天皇と共に吹上御所において、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 なお、 天皇誕生日関係、 皇太子・同妃・文仁親王・清子内親王、 天皇誕生日に当たり、天皇にお祝いの品を御贈進になる。 卜部亮吾侍従日記、 朝日新聞、 毎日新聞 正仁親王・同妃華子とお祝い 女官日誌

### 五月

日 火曜日 この日より十月三十一日まで第二十九回ユニセフ学校募金運動を実施する財団法人日

本ユニセフ協会に、 金一封を賜う。 ○社会事業、 発表綴、 宮内庁庁報

八日 火曜日 午前、 紅葉山御養蚕所にお出ましになり、 御養蚕始の儀を行われる。

日誌、 内舎人日誌、 吹上御所殿部日誌、 吹上御所仕人日誌、 発表綴

十日 木曜日 午前、 天皇が 公賓欧州共同体C委員会委員長ガストン・エグモン・トル ン及び同 夫人

リリアンを御引見になり、 宮中午餐を催される。 この来訪に際し、 同委員長より天皇・ 皇后へ献上の

品があり、 皇后にはバラの苗木が献上される。 ○女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 外賓参内録、 外交

贈答録、 宮内庁庁報

十四日 子一夫及び同夫人、 月曜日 午前、 リベリア国駐箚特命全権大使吉川英男及び同夫人の拝謁をお受けになる。 天皇と共に正殿竹の間において、 近く赴任のネパール 国駐箚特命全権大使金

誌 侍従日誌、侍従職日誌、 内舎人日誌、 , 拝謁録、 宮殿行事録、 宮内庁庁報、 入江相政日記

十七日 木曜 日 午前、 貞明皇后例祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 ○女官日誌、 典式録、 恒

祭祀録、 祭典録、 宮内庁庁報

〇女官日誌、

侍従職

会展」に、 この日より二十二日まで日本橋高島屋において開催される財団法人日本ばら会主催の 吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。 ○贈賜録 「春の日本ばら

二十一日 月曜日 午前、 紅葉山御養蚕所にお出ましになる。 ○女官日誌、侍従職日誌、 内舎人日誌、 吹上御所

殿部日誌、吹上御所仕人日誌

われるに当たり、 二十三日 水曜日 天皇・皇后が同省に生花を賜う。 来る二十八日、 千鳥ヶ淵戦没者墓苑において厚生省主催 ○恩賜録、 発表綴、 宮内庁庁報 .. の 拝礼式並 立びに納 骨が行

六月十六日に同国王弟より答電がある。 及び同国王弟アルベール・同妃へそれぞれ祝電をお送りになる。これに対し、 、ルギー国王族アストリッド『ロエ弟アル婚約につき、 ○外交慶弔録、 天皇・皇后が同国国王ボ 重要雑録、宮内庁庁報、 官報 j 六月五日に同国王より、 ドワン一世 同 王妃、

皇后より大統領 フィゲイレード及び同夫人ドゥルセ・マリア・デ・カストロと御会見になる。この来訪に際し、天皇 二十四日 木曜 へ 九 谷 焼 飾 壺 極彩 色錦、 Ħ 午前、 天皇が国賓ブラジル国大統領ジョアン・バチスタ・デ・オリヴェ 大統領夫人へ銀製宝石箱を御贈進になる。 また大統領夫妻より イラ・

ンの 天 皇 · 贈られる。 植物に関する書籍が贈られる。 皇后に御贈進の品があり、 ○女官日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 皇后にはフラミンゴの置物が贈られる。 なお、 外賓参内録、 大統領夫妻が入京した際に、 接待書類、外交贈答録、 恩賜録、 皇后より大統領夫人に花束を また、 宮内庁庁報、 天皇・皇后へアマゾ 外国からのごあ

二十五日 金曜日 タイ国皇太后ラムバイ・バルニ去る二十二日崩御につき、 天 皇 ・ 皇后が同国国 王

いさつ

ラーマ九世ンヤデート へ弔電をお送りになる。これに対し六月八日、答電がある。 外交慶弔録、

三十日 水曜日 明治神宮会館において開催の昭和五十九年度全国赤十字大会に、御名代として皇太

子妃を差し遣わされ、次のお言葉を賜う。

赤十字は、人道的事業を推進し、広く世界の人々の平和と福祉増進のために大きな力となって 本日ここに、昭和五十九年度全国赤十字大会が盛大に開かれたことを大変うれしく思います。

おりますが、日本赤十字社が、 国際的な強いきずなのもとに、 国の内外において立派にその使命

を果たしていることは、皆さんの尽力によるものと心から満足に思います。

日本赤十字社の役割は、これからますます重要になっていくものと思いますので、皆さんが互

いに力を合わせて、一層力強い活動を進められるよう希望してやみません。

正午過ぎ、吹上御所において、皇太子妃と御対面になり、同妃より復命をお受けになる。○女官日誌、

従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、事業年報(日本赤十字社)

### 六月

日 金曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、李方子の拝謁をお受けになる。 その際、 先の病

気お見舞いに対するお礼と天皇・皇后の御結婚満六十年のお祝いの言上をお受けになる。○女官日誌、

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、発表綴、朝日新聞、サンケイ、毎日新聞、読売新聞

九日 土曜 日 去る四日、 ルクセンブルク国大公ジャン及び同妃ジョセフィン・シャルロ ッテより天

侍

皇 • 皇后に大公の孫フェリックスの第二王子。誕生を報じる親電が寄せられる。これに対し、この日天皇

皇后が祝電をお送りになる。〇外交慶弔録、重要雑録、宮内庁庁報、官報

十一日 月 曜 白 午前、 紅葉山御養蚕所にお出ましになり、 繭搔きをされる。 女官日誌、 侍従職日誌、 内

舎人日誌

后には天然真珠のイヤリングョョナッツのが献上される。 ギニア国代表カール・スタック 開発大臣から同国駐日大使を通じて、 加盟国及び域外加 去る四月二十日、 盟国 天皇は国連アジア太平洋経済社会委員会ARS第四十回総会に参加する加盟国 の首席代表等を招かれ茶会を催される。 〇吹上御所仕人日誌、 この日、 天皇 宮中茶会、 ・皇后に献上の品があり、 茶会に出席したパプアニュ 外交贈答録、 宮殿行事 録 皇 Ì 準

宮内庁庁報

十六日 餐を催される。 土曜日 御食後、 天皇と共に連翠北において、 連翠南においてお茶の席を設けられる。 皇太子・ 同妃始め菊栄親睦会会員をお招きになり、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日 午

典式録、菊栄親睦会録、宮殿行事録、東宮録

上の 十八 内録、 び同夫人マリアを御引見になり、 品があり、 日 外交贈答録、 月曜日 宮内庁庁報 皇后には銀製の木の置物が献上される。 正午過ぎ、 天皇が公賓ポルトガル国首 宮中午餐を催される。 女官日誌、 この来訪に際し、 相 マリオ 侍従日誌、 アルベ 同 ルト・ノブレ 侍従職日誌、 首相 から天皇 内舎人日誌 ソアレ 皇后へ献 外賓参 ス及

水曜日 天皇と共に、 午後一時十二分御出門になり、 四時四十六分須崎御用邸に行啓される。 事録、

宮内庁庁報

○女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、 須崎御用邸行幸啓録、 宮内庁庁報

る。 二十一日 御用邸御滞在中、 木曜日 午前、 しばしば天皇と共に散策され、 天皇と共にサクラ道第二大曲から附属邸まで散策され、 植物を御調査になる。 女官日誌、 植物を御調査にな 侍従日誌、 内舎人

啓される。 二十八日 女官日誌、 木曜日 天皇と共に、 侍従日誌、 侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、 午後零時三十分須崎御用邸を御出門になり、 幸啓録、 須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報、入 三時五十八分皇居に還

江相政日記

供奉日誌、

須崎御用邸行幸啓録

### 七月

大使川 三日 職日誌、 二日 高橋正太郎及び同夫人、エジプト国駐箚特命全権大使加藤吉弥及び同夫人、ブルネイ国駐箚特命全権 お、 る。 来訪に際し、 また大統領夫妻から天皇・皇后へ御贈進の品があり、 大統領夫妻が入京した際に、 月曜日 火曜日 村知也及び同夫人の拝謁をお受けになる。 内舎人日誌、 天皇・皇后より同大統領へ九谷焼花瓶金襴手瓢形更く 午前、 天皇が国賓ビルマ国大統領サン・ユ及び同夫人タン・シェインと御会見になる。この 幸啓録、 天皇と共に正殿竹の間において、 外賓参内録、 皇后より大統領夫人に花束を御贈進になる。 接待書類、 外交贈答録、 ○女官日誌、 恩賜録、 近く赴任のフィンランド国駐箚特命全権大使 皇后にはヒスイのブローチが贈られる。 侍従日誌、 宮内庁庁報、 同夫人へ七宝宝石箱唐草文を御贈進にな 侍従職日誌、 贈るこころ・受けとられた美、サンケイ 内舎人日誌 ○女官日誌、 拝謁録 侍従日誌、 宮殿行 な

参加するにつき、 来る二十八日より米国 天皇 ロサンゼルス市で開催される第二十三回オリンピック競技大会に日本選手団 ・皇后が御奨励 のため財団法 人日本体育協会に金 封を賜う。 ○恩賜録、

四 日 水曜 日 午前、 紅葉山御養蚕所におい て、 御養蚕納の儀を行われる。 女官日誌、 侍従職日誌、

人日誌

吹上御所殿部日誌

吹上御所仕人日誌、

宮内庁庁報

五日 会釈を賜う。 木曜日 ○女官日誌、 午前、 天皇と共に宮殿御車寄において、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌 紅葉山御養蚕所主任神戸礼次郎始め五名に御

賜う。 なる。 午後 ルに進まれ御着席になる。演奏会では、 部副長の先導により御休所にお入りになり、 王妃華子、 その後、 桃華楽堂にお出ましになり、 演奏終了後 故雍仁親王妃勢津子、 楽部玄関において正仁親王妃・故雍仁親王妃のお見送りを受けて御発、 御休所前廊下において指揮者甲斐正雄・首席楽長上近正・楽長東儀博に御会釈を 鷹司和子、 楽部職員による洋楽演奏会に御臨 ベートーヴェン作曲交響曲第五番 正仁親王妃・故雍仁親王妃と御対面になる。 東久邇文子、 東優子が出席する。 席になる。 「運命」 楽部玄関に御着後、 演奏会には、 <sup>楽章</sup>などをお聴きに 吹上御所に還 ついでホー 正仁親

六日 誌 出亮及び同夫人、フィジー国駐箚特命全権大使吉田喜久夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。 侍従日誌、 金曜 侍従職日誌 日 午前、 内舎人日誌、 天皇と共に正殿竹の間におい 、拝謁録、 宮殿行事録、 宮内庁庁報 て、 近く赴任のニカラグア国駐箚特命全権 大使川

御される。

○女官日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、

吹上御所殿部日誌、

吹上御所仕人日誌、

行幸啓録、

発表綴

十日 火曜日 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 近く赴任のシンガポ ール国駐箚特命全権大使

橋本恕及び同夫人、コートジボワール国駐箚特命全権大使市岡克博及び同夫人の拝謁をお受けになる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十一日 水曜日 天皇と共に、 午前九時四十一分御出門になり、 午後零時三十八分那須御用邸に行啓

日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、宮内庁庁報、栃木県庁所蔵資料

される。

○女官日誌、

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、

内舎人供奉日誌、

幸啓録、

那須御用邸行幸啓、

那須御用邸管理事務所

しばしば天皇と共に散策され、 木曜日 午前、天皇と共に移植地にお出ましになり、 植物を御調査になる。 女官日誌、 植物を御調査になる。 侍従日誌 那須御用邸行幸啓、 御用邸御滞在中、 那須御用邸管理

事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、栃木県庁所蔵資料

泰衛及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、 十六日 月曜日 午後、 天皇と共に謁見所において、 近く赴任のソビエト連邦駐箚特命全権大使鹿取 那須御用邸行幸啓、 那須御用邸管理

事務所日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

人供奉日誌、 二十三日 那須御用邸行幸啓、 月曜日 東久邇成子の祥月命日につき、 那須御用邸管理事務所日誌、 那須御用邸管理事務所事務官日誌、 お出ましをお控えになる。 典式録、 女官日誌、 栃木県庁所蔵資料 侍従日誌、

三十日 静かにお過ごしになる。 月曜日 午前、 女官日誌、 明治天皇例祭につき、 那須御用邸行幸啓 那須御用邸において御遙拝になる。 那須御用邸管理事務所日誌 那須御用邸管理事務所事務官日誌 終日、 御用邸にて

典式録、

恒例祭祀録

祭典録、

栃木県庁所蔵資料

### 八 月

三日 侍従日誌、 金曜日 那須御用邸行幸啓、 午前、 天皇と共に御車寄前において、 那須御用邸管理事務所日誌、 那須御用邸管理事務所事務官日誌、 栃木県教育委員八名に御会釈を賜う。 栃木県庁所蔵資料 〇女官日誌

月曜日 広島原爆の日につき、 お出ましをお控えになる。 女官日誌、 侍従日誌、 那須御用邸行幸啓

九日 那須御用邸管理事務所日誌、 木曜日 長崎原爆の日につき、 那須御用邸管理事務所事務官日誌、 お出ましをお控えになる。 栃木県庁所蔵資料、 女官日誌、 入江相政日記 侍従日誌、 那須御用邸行幸啓、 那

須御用邸管理事務所日誌、 那須御用邸管理事務所事務官日誌、 栃木県庁所蔵資料

土曜日 この日北白川房子十年祭につき、 お出ましをお控えになる。 女官日誌、 侍従日誌、

職日誌、 内舎人日誌 内舎人供奉日誌 那須御用邸行幸啓、 那須御用邸管理事務所日誌、 那須御用邸管理事務所事務官日誌 栃木県

庁所蔵資料

日誌、 される。 十四日 那須御用邸管理事務所事務官日誌、 ○女官日誌、 火曜日 天皇と共に、 侍従日誌、 侍従職日誌、 午前 宮内庁庁報、 九時十二分那須御用邸を御出門になり、 内舎人日誌、 入江相政日記 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 那須御用邸行幸啓、 午後零時九分皇居に還啓 那須御用邸管理事務所

なる。 と共に帰国した清子内親王より挨拶をお受けになる。 天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王と御夕餐を御会食に その際、 去る十二日に修学先の英国より一時帰国した徳仁親王、 女官日誌、 侍従日誌 同日に英国旅行から徳仁親王 侍従職日誌 内舎人日誌、 吹上御所

十五日 水曜日 全国戦没者追悼式につき、 正午、 吹上御所において黙禱される。 なお去る九日、 同

殿部日誌

吹上御所仕人日誌

東宮録、

宮内庁庁報

昭和五十九年九月

追悼式が行われるに当たり、 天皇・皇后が厚生省に生花を賜う。 ○女官日誌、 幸啓録、 恩賜録、 発表綴、宮内庁

十七日 日誌、 那須御用邸管理事務所事務官日誌、 ○女官日誌、 金曜 白 天皇と共に、 侍従日誌、 侍従職日誌、 午前 宮内庁庁報、 九時四十一分御出門になり、 内舎人日誌、 栃木県庁所蔵資料 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 午後零時三十八分那須御用邸に行啓 那須御用邸行幸啓、 那須御用邸管理事務所

二十一日 火曜日 午前、 天皇と共に御車寄前において、黒磯市遺族会会員二十六名に御会釈を賜う。

〇侍従日誌、

内舎人供奉日誌、

那須御用邸管理事務所日誌、

栃木県庁所蔵資料

御用邸行幸啓、天皇記者会見、 仁親王と一緒に磐梯山の登山を試みたことなどをお答えになる。 御して皇后を乗せたこと、モーターボートで湖水を一周したこと、ゴルフやテニスに興じたこと、 月再び旅行されることに関して、当時の想い出などについて質問がある。これに対し、自分で馬車を らの質問にお答えになる。その際に、大正十三年新婚の夏に皇后と旅行された福島県猪苗代湖を、 三十一日 金曜日 午前、 那須御用邸管理事務所日誌、 天皇が嚶鳴亭において宮内記者会会員二十三名とお会いになり、 那須御用邸管理事務所事務官日誌、 女官日誌、 卜部亮吾侍従日記、 侍従日誌、 内舎人供奉日誌、 昭和天皇と私達 各記者か 雍 来

#### 九 月

那須御用邸管理事務所日誌、 В 土曜日 関東大震災の日につき、 栃木県庁所蔵資料 お出ましをお控えになる。 女官日誌、 侍従日誌、 那須御用邸行幸啓、

四日 火曜 日 天皇と共に、 午前九時十二分那須御用邸を御出門になり、 午後零時八分皇居に還啓さ

誌 れ る。 那 須御用邸管理事務所事務官日誌、 〇女官日 侍従日誌、 侍従職日誌、 宮内庁庁報、 内舎人日誌、 栃木県庁所蔵資料、 内舎人供奉日誌、 卜部亮吾侍従日記 幸啓録、 那須御用邸行幸啓、 那須御用邸管理事務所

五日 内舎人日誌、 受けになるのみとなる。 け 拝謁をお受けになった後、 使枝村純郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。 藤義文及び同夫人、 になっていたが、 の次第が改められ、 水曜 拝謁録、 H 午 例規録、 前 今後は、 チュニジア国駐箚特命全権大使杉谷好一及び同夫人、 天皇と共に正殿竹の間において、 宮殿行事録、 。また、 この度より適用される。従来は、 正殿竹の間において天皇・皇后が配偶者同伴の大使又は公使の拝謁 正殿竹 その際の皇后のお言葉はないこととなる。 宮内庁庁報、 の間において天皇・ 入江相政日記、 なお、 これより先、 卜部亮吾侍従日記 近く赴任のジンバブエ 皇后が 正殿松の間において天皇が大使又は 配偶者同 特命全権大使及び特命全権 伴の ○女官日誌 スペ 大使又は公使の拝謁 イン 玉 駐箚特命全権 侍従日誌 国駐 箚特命全権大 侍従職日誌 をお受 公使 公使 大使 きをお 伊

日誌、 に際 六日 また大統領夫妻から天皇・ 石 菡 侍従日誌、 木曜日 が贈られる。 天皇 侍従職日誌 ・皇后から大統領へ 午後、 なお、 天皇が国賓大韓民国大統領全斗煥及び同夫人李順子と御会見になる。 内舎人日誌 皇后へ 大統領夫妻が入京した際に、 九谷焼花瓶金襴手瓢型割二 外賓参内録、 訪日記念メダル・訪日記念郵便切手冊、 接待書類、 外交贈答録 皇后より大統領夫人に花束を贈られる。 大統領夫人へ銀製宝石箱を御贈進になる。 恩賜録、 宮内庁庁報 大統領夫人より皇后へ七宝 この 来訪

九日 日 曜 H 久邇俔 子母の祥月命日につき、 お出ましをお控えになる。 ○女官日誌、 侍従日誌、 内舎人日誌

典式録

午後、 天皇と共に吹上御所において、 この 日誕生日を迎えた故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。 0

女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、贈賜録

幸及び 十日 同夫人、 月曜日 午前、 コスタリカ国駐箚特命全権大使江藤之久及び同夫人の拝謁をお受けになる。 天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のシリア国駐箚特命全権大使加藤千 〇女官日

侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

十七日 侍従職日誌、 開催された皇室会議において、 皇后から崇仁親王・同妃に三種交魚代料を、 儀が終了し参内した崇仁親王・同妃百合子・憲仁親王と御対面になる。また納采の儀につき、 月曜日 内舎人日誌、 この日、 贈賜録、 宮内庁庁報、 憲仁親王の納采の儀が行われる。 憲仁親王と鳥取久子との婚姻のことが可決された。 卜部亮吾侍従日記 憲仁親王に鮮鯛を御贈進になる。 午後、 天皇と共に鳳凰 なお、 女官日誌、 の間において、 去る八月一日に 、天皇 同

を御 に花束を贈られる。 ワが贈られる。 フィンヌと御会見になる。 十八日 **- 贈進になる。** 火曜日 腕輪及び指輪のセ この来訪に際し、 午後、 また大統領夫妻より天皇・ 〇女官日誌: 天皇が国賓ガボン国大統領エル・アジ・ その際、 ットが贈られる。 侍従日誌、 天皇・皇后より大統領へ七宝花瓶クリームヘ 相互儀: 侍従職日誌、 礼叙勲があり、 皇后へ御贈進 なお、 内舎人日誌、 大統領夫妻が入京した際に、 どの品が 皇后へ 外賓参内録、 なあり、 はメリト オマール 接待書類、 皇后には金製の首飾り・イヤ ・ボンゴ及び同夫人ジ 大統領夫人へ七宝宝石箱 ガボネ勲章グラン・クロ 外交贈答録、 皇后より大統領夫人 恩賜録、 宮内庁 3 セ

十九日 后が災害お見舞金を賜う。 水曜日 去る十四 ○災害お見舞い、 一日に発生した長野県西部地震により大きな被害を受けた同県に、 発表綴、 宮内庁庁報

国王より答電 ドワン一 二十二日 世 土 が 同王妃及び同国王弟アルベ たある。 日 ベルギー また、 同国王弟・ ·国王族アストリッド、-ルのH女結婚につき、 同妃よりお礼の書簡はが寄せられる。 ] ル • 同 妃へ祝電をお送りになる。 天皇・皇后より同国国王ボ これに対し十月二日 ○外交慶弔録、 iz 同

二十三日 日曜日 秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、 午前中、 吹上御所にて静かにお過ごしになる。

〇女官日誌、

典式録、

恒例祭祀録、

祭典録、

宮内庁庁報

庁庁報、

官報

三時 市 ウ 島駅を経て、 二十五日 小 圃場・リンゴ圃場を御巡覧になり、 鳥の '八分御泊所花水館に御到着になる。 宮内庁庁報、 森の 火曜日 午後二時二十分福島市の福島県果樹試験場に御到着になる。 御視察に向 官報、 入江相政日記、 天皇と共に福島県に行啓される。 カコ われる。 卜部亮吾侍従日記、 ○女官日誌、 場長原田良平の説明によりブドウ共を御手ずから収穫される。 この後、 侍従日誌、 陛下のふくしま、市政だより、福島民報、 皇后は御泊所にて休養され、 午前九時三十七分御出門になり、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 天皇と共にナシ圃場・ブド 内舎人供奉日誌、 天皇はお一方にて福島 福島民友 原宿駅より福 幸啓録 地方行

約一 覧になる。 を経て、 二十六日  $\widehat{\mathcal{O}}$ 後、 箇月間天皇と滞在された場所であり、 耶麻郡猪苗代町の天鏡閣国の重要文化財に御到着になる。 天皇はお一方にて会津若松市の赤井谷地へ向かわれる。 ついで当時 水曜日 天皇と共に、 のゴルフ奉仕者秋山政 午前九時三十一分御泊所花水館を御出発になり、 お入りの際、 財調査員 始め七名に御会釈を賜う。 福島市文化始め七名に御会釈を賜う。 玄関左脇において当時に使用された馬車を御 同所は結婚された大正十三年の八月に 皇后は天鏡閣に留まられ、 御休所にお 福島駅より翁島 庭を御散 て御昼

餐

策後、 四時十五分郡山市の御泊所一力旅館に御到着になる。 邸内の各室を御巡覧になる。 鈴木寅雄手記、 ト部亮吾侍従日記、 陛下のふくしま、広報いなわしろ、財界ふくしま、 その後、 お戻りになった天皇と共に天鏡閣を御出発になり、 女官日誌、 侍従日誌、内舎人供奉日誌、 昭和、 福島民友 宮内庁庁 午後

り原宿駅を経て、 二十七日 木曜日 午後四時二十分皇居に還啓される。 天皇と共に、午前十一時五十六分御泊所一 ○女官日誌、 力旅館を御出発になり、 侍従日誌 侍従職日誌、 内舎人日誌 磐梯熱海 駅よ

奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、陛下のふくしま

祉法人中央共同募金会に、 来る十月一日より十二月三十一日まで昭和五十九年度国民たすけあい共同募金運動を実施する社会福 御訪米に同行した元首席随員福田赳夫始め 二十八日 侍従職日誌、 金曜日 内舎人日誌、 午後、 典式録、 天 皇 · 天皇と共に正殿竹の間において、 宮殿行事録、真崎秀樹英文日記 皇后が事業御奨励のため金一 元随員・ 元随 行員の拝謁をお受けになる。 昭和四十六年の御訪欧及び昭和五十年 封を賜う。 ○社会事業、 宮内庁庁報 ○女官日誌、

### 十月

野裕造及び同夫人、モンゴル国駐箚特命全権大使大田泰彦及び同夫人の拝謁をお受けになる。 日 侍従日誌、 月曜日 侍従職日誌、 午前、 内舎人日誌、 天皇と共に正殿竹の間において、 拝謁録、 宮殿行事録、 宮内庁庁報、 近く赴任のカタール国駐箚特命全権大使波多 入江相政日記

開会式のテレビ中継放送を御覧になる。 金曜日 午後、 吹上御所において、奈良県にて開催される第三十九回国民体育大会秋季大会 なお、 天皇は昨十一日より十四日まで同県に行幸され

日 開会式に御臨場になる。 女官日誌、 侍従日誌、 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 宮内庁庁報、 官報、 第三九回国民体育大会:

第二〇回全国身体障害者スポーツ大会記念誌

上御所仕人日誌、

典式録、

恒例祭祀録、

祭典録、

宮内庁庁報

十七日 水曜日 午前、 神嘗祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 女官日誌、 吹上御所殿部日誌、 吹

十八日 を御引見になり、 木曜日 宮中午餐を催される。この来訪に際 正午過ぎ、 天皇が公賓チュニジア国首相 モ 同首相より天皇 ハメッド・ムザリ及び同夫人ファティア ・皇后へ献上 の品があり、

皇后には香水吹き等が献上される。 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌 内舎人日誌、 外賓参内録 外交贈答録 宮内庁

職日誌、典式録、贈賜録、入江相政日記

二十日

土曜

日

天皇の御風気のため、

皇太子妃の誕生日の

祝賀はお取りやめとなる。

○女官日誌、

侍従

## 十一月

ある。 四日 御結婚六十年、 た正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子に御対面になる。 ○女官日誌、 日 曜 日 及び皇太子・ 午後、 侍従日誌、 天皇と共に吹上御所におい 侍従職日誌、 同妃結婚二十五年にあたることから赤坂東邸において開催されたもので 内舎人日誌、 菊 栄親睦会録、 て、 **菊**栄親睦会大会天皇御臨席 サンケイ なお、 この度の大会は、 0 今年が天皇 お礼 0 ため参殿し ・皇后

野盛幸及び同夫人、 火曜日 午前、 サウジアラビア国駐箚特命全権大使岡崎久彦及び同夫人、 天皇と共に正殿竹の間において、 近く赴任のフランス国駐箚特命全権 パ キスタン国駐箚特命 大使本

全権大使柳健一及び同夫人の拝謁をお受けになる。 ○女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、

行事録、 宮内庁庁報

十五日 木曜日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、 新任の宮内庁御用掛黒木不二 黒木従達の夫人前東宮侍従長故 の拝

謁をお受けになる。 女官日誌、侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 典式録、 入江相政日記

千容子
第二
至女の第一子
命名に際し、

天皇・皇后より崇仁親王・同妃百合子へ三種交

魚代料を御贈進になる。 ○贈賜録 十六日

金曜日

二十七日 火曜日 元掌典次長小出英経党去る二十四日死去につき、天皇・皇后が祭粢料を賜い、 ま

小出は昭和七年より二十年まで侍従を、

その後二十一年まで掌典

次長を務めた。 ○ 恩賜録、 贈賜録

霊前に切り花及び菓子を賜う。

水曜日 午前、 天皇と共に正殿竹の間において、 近く赴任のカナダ国駐箚特命全権大使菊

地清明及び同夫人の拝謁をお受けになる。 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 拝謁録、 宮殿行事録、

内庁庁報

この日誕生日を迎えた正仁親王と御対面になる。

女官日誌、

日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 贈賜録

天皇と共に吹上御所において、

三十日 金曜日 夕刻、 天皇と共に吹上御所において、 この日誕生日を迎えた文仁親王と御対面にな

る。 ○女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 贈賜録、 東宮録、 卜部亮吾侍従日記

## 上月

職日誌、 三日 御休所脇廊下において糸竹会会員十六名及び首席楽長上近正

・楽長東儀博Lの拝謁 では、太食調調子、傾盃楽急、 糸竹会会長三条実春の先導により御休所にお入りになり、ついで鏡の間に進まれ御着席になる。例会 その後、 月曜日 内舎人日誌、 糸竹会会員等のお見送りを受け楽部玄関を御発、 午後、宮内庁楽部にお出ましになり、糸竹会例会に御臨席になる。 行幸啓録、 糸竹会 抜頭二返、長慶子、貞明皇后御歌の演奏をお聴きになる。 吹上御所に還御される。 楽部玄関に御着後、 をお受けにな ○女官日誌、 演奏終了後

五日 及び同夫人の拝謁をお受けになる。 尚及び同夫人、 入江相政日記 水曜日 メキシコ国駐箚特命全権大使内藤武及び同夫人、ラオス国駐箚特命全権大使多田敏孝 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任の大韓民国駐箚特命全権大使御巫清 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 拝謁録、 宮殿行事録、 宮内庁庁報

この 六日 この度の憲仁親王の結婚に際し、 の間において、 ららか 月 お品を、 贈賜録、 木曜日 (胡蝶蘭とスィートピー)」「御苑春雪」を御出品になる。 憲仁親王が鳥取久子と結婚の礼を行い、 宮内庁庁報、 崇仁親王へ鮮鯛代料・ この日より八日まで開催される宮内庁職員組合文化祭の美術展に、日本画の御作品 朝見の儀を終えた憲仁親王・同妃久子、 官報、 卜部亮吾侍従日記, 天皇・皇后より三笠宮へ金員及びお品を、 清酒を御贈進になる。 朝日新聞 高円宮の称号を下賜される。 東京新聞 及び崇仁親王・同妃百合子と御対面になる。 女官日誌、 毎日新聞、 ○重要雑録、 読売新聞 侍従日誌 発表綴、文化祭目録 憲仁親王へ金員・白羽二 侍従職日誌、 午後、 天皇と共に鳳凰 内舎人日誌、 <u>-</u>う

散策され、 ○女官日誌、 火曜日 火曜日 侍従日誌、 植物を御調査になる。 午前、 天皇と共に、午後一時十二分御出門になり、四時四十四分須崎御用邸に行啓される。 侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、 天皇と共に三井浜を散策され、 女官日誌、 侍従日誌、内舎人供奉日誌、 幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報、 植物を御調査になる。 須崎御用邸行幸啓録 翌十九日も天皇と共に 入江相政日記

二十日 十九日 憲仁親王・ 子と御対面になる。 啓される。 ○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、 木曜日 水曜日 同妃へ万那料・菓子をそれぞれ御贈進になる。 午前、 天皇と共に、 参内に際し、 天皇と共に鳳凰の間において、 午後零時三十四分須崎御用邸を御出門になり、 天皇・皇后より憲仁親王へお品を、 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、幸啓録、 婚儀終了後初めて参内した憲仁親王・同妃久 女官日誌、 侍従日誌、 同妃へお品・洋服地養産所産を、 須崎御用邸行幸啓録、 侍従職日誌、 三時五十九分皇居に還 内舎人日誌、 贈賜

う。 日本赤十字社に天皇・皇后が、 また向陽会に皇后が、 歌道御奨励のため金一封を賜う。 財団法人結核予防会に皇后が、 ○恩賜録、 事業御奨励のためそれぞれ金一 社会事業、 宮内庁庁報、 事業年報(日本赤 封 で影

皇太子と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、 代、続いて女官長始め女官、 二十三日 東宮録、 日曜日 宮内庁庁報、 皇太子の誕生日につき、午前、 卜部亮吾侍従日記 元女官等の祝賀を順次お受けになる。 侍従職日誌、 天皇と共に吹上御所において、 内舎人日誌、吹上御所殿部日誌、 ついで天皇と共に同所において、 吹上御所仕人日誌、 宮内庁長官始め総

火曜日 午前、 大正天皇祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 ○女官日誌、 典式録、 内舎

人日誌、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

仁親王・清子内親王より歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式 官より歳末の祝詞言上をお受けになる。ついで皇太子・同妃始め皇族、元皇族、 二十九日 土曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官始め総代、 続いて女官長始め女 御縁故者、さらに文

東宮録、宮内庁庁報、富田メモ、ト部亮吾侍従日記

190

## 一月

者等、 誌 長官等の祝賀を順次お受けになる。この年から皇后は各国外交使節団の長等の祝賀をお受けにならな 信子・宜仁親王、憲仁親王・同妃久子、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所 妃、正仁親王・同妃華子、 いこととなる。 日 侍従職日誌、内舎人日誌、 宮内庁長官始め部局長等及び側近奉仕者等の祝賀を天皇と共にお受けになる。 火曜日 なお、新年祝賀の儀に先立ち、 午前九時四十五分より、 典式録、儀式録、 故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王、 宮殿行事録、 天皇と共に宮殿において新年祝賀の儀に臨まれ、 あるいは各祝賀の間に、清子内親王、 年末年始、 東宮録、宮内庁庁報、官報、 崇仁親王・同妃百合子・寬仁親王・同妃 入江相政日記、卜部亮吾侍従 女官日誌、 元皇族・御縁故 皇太子・同 侍従日

昭和天皇最後の侍従日記、 中曽根内閣史

吹上御所で御散策になっていることなどが発表される。 新年を迎えるに当たり、 宮内庁より皇后の御様子について、 〇年末年始、 腰や膝の状態は安定していること、 朝日新聞、 サンケイ、東京新聞、 日本経済新 毎日

二日 同親王は昨 水曜日 日まで葉山御用邸に滞在した。 午前、 天皇と共に鳳凰 の間において、 ○女官日誌 文仁親王 侍従日誌 の新年の祝賀をお受けになる。 侍従職日誌、 内舎人日誌 東宮録、

日記

聞

毎日新聞、読売新聞

より、 七回、 新年一 ○女官日誌、 お出ましの際に、皇后がお手振りを途中でおやめになり拍手をされる。夕刻、この件に関して宮内庁 皇后には特にお疲れの御様子はないという侍従職事務主管ト部亮吾と侍医の所見が発表される。 般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子と共に、午前三回・午後四回の計 長和殿ベランダにお出ましになり、宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 儀式録、 宮殿行事録、 年末年始、 東宮録、 宮内庁庁報、 官報、 入江相政日記、 七回 目

部亮吾侍従日記

例祭祀録、

祭典録、

宮内庁庁報

三日 木曜日 午前、 元始祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 女官日誌、 内舎人日誌、 典式録、 恒

迎えるに当たり、天皇・皇后よりお品料を御贈進になる。〇女官日誌、侍従日誌、 天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。 内舎人日誌、 親王が傘寿を

政日記、 にて、 七日 女官等の祝賀を、 卜部亮吾侍従日記 花の間において御同級生五名の祝賀をお受けになる。 月曜日 新年につき、午後、 ついで宮殿御車寄内において元女嬬等の祝賀をお受けになる。 天皇と共に鳳凰の間において元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮 女官日誌、 侍従日誌、 内舎人日誌、 その後、 典式録、 皇后お一方 入江相

十日 になる。 木曜日 この年のお題 午前、 には 歌会始の儀にお出ましにならず、 旅」 であり、 皇后宮御歌は次のとおり。 吹上御所においてそのテレビ中継放送を御覧

呈后宮御歌

つくしなる旅路の空に新月のかかるを見たり冴えわたりつつ

○女官日誌、儀式録、昭和六十年講書始め・歌会始めの儀、年末年始、宮内庁庁報、官型

面・御会食になる。 会食になる。 金曜日 以後、 天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・文仁親王・清子内親王と御夕餐を御 女官日誌、 この年は概ね毎週金曜日に行われた定例の参殿を始め、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 東宮録 随時、 皇太子一家と御

十四日 退職した。 前に菓子・ 后が葬場使として侍従安楽定信を学習院創立百周年記念会館に差し遣わされる。 従卜部亮吾を三谷邸に差し遣わされ、 が最後となる。 大使黒河内康の拝謁をお受けになる。 及び同夫人、オーストラリア国駐箚特命全権大使中島敏次郎及び同夫人、タンザニア国駐箚特命全権 二十一日 月曜日 ○侍従日誌、 果物を、 月曜日 女官日誌、 午前、 皇后が切り花を賜う。 元侍従長三谷隆信去る十三日死去につき、天皇・皇后が賜物使・柩前使として侍 侍従職日誌、 天皇と共に正殿竹の間において、 侍従日誌、 恩賜録、 侍従職日誌、 祭粢料及び生花を賜う。二十二日の葬儀に際しては なお、 贈賜録、 三谷は昭和二十三年六月に侍従長となり、 内舎人日誌、 宮内庁庁報、 特命全権大使等の赴任に際しての皇后への拝謁は、 拝謁録、 回顧録侍従長の昭和史、 近く赴任の英国駐箚特命全権大使山崎敏夫 宮殿行事録、 宮内庁庁報、 卜部亮吾侍従日記 また天皇 卜部亮吾侍従日記 同四十年三月に 皇后が霊 天皇・皇

## 二月

五日 内舎人日誌 火曜 日 吹上御所殿部日誌、 午後、 吹上御所に 吹上御所仕人日誌、 おいて、 新任の侍従樋口英昭の拝謁をお受けになる。 宮内庁庁報、 卜部亮吾侍従日記 ○女官日誌、

六日 水曜 白 正午前、 天皇と共に吹上御所において、 この度英国から帰国した壬生基博 同夫人幸

子の拝謁をお受けになる。〇女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

誌 天皇と共に、 侍従職日誌、 内舎人日誌 午後一時十一分御出門になり、 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 須崎御用邸行幸啓、宮内庁庁報、 四時四十六分須崎御用邸に行啓される。 入江相政日記、 卜部亮吾侍従日記 ○女官日誌、 侍従日

を御 十日 調 日曜日 査になる。 午前、 御用邸御滞在中、 天皇と共に御料車にてサクラ道までお出ましになり、 十三日まで毎日天皇と共に植物を御調査になる。 それより御徒歩にて植 ○女官日誌、 侍従日

十二日 内舎人供奉日誌、 火曜日 須崎御用邸行幸啓、 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・ 入江相政日記、 卜部亮吾侍従日記 円照寺 中 宮寺 法華寺 一時

知恩

寺・長福寺・善光寺・霊鑑寺に、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

啓される。 十四日 木曜 〇女官日誌: 日 天皇と共に、 侍従日誌、 侍従職日誌、 午後零時三十一分須崎御用邸を御出門になり、 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 須崎御用邸行幸啓、 三時五十九分皇居に還 宮内庁庁報

亮吾侍従日記

月曜日 午後、 天皇と共に吹上御所において、 東久邇文子の拝謁をお受けになり、 同 人の婚

約についての報告をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

天皇と共に吹上御所において、正仁親王・同妃華子と御夕餐を御会食になる。 二回程度吹上御所にて行われた御会食を始め、 随時、 正仁親王・同妃と御対面・ 以後、 この年は、 御会食になる。 月に

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十九日 訪問する故雍仁親王妃勢津子の首席随員広岡欣之助皇帝の拝謁をお受けになる。 火曜日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、 来る三月四日から十一日までネパ ○女官日誌、 侍従日誌、 ] ル国等を

職日誌、内舎人日誌、皇親録、贈賜録、宮内庁庁報、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記

天皇と共に鳳凰の間において、 来る二十三日から三月九日までスペイン国及びアイルランド国を訪問

する皇太子・同妃の首席随員団藤重光<br />
鯵与<br />
及び随員の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、

侍従職

日誌、内舎人日誌、東宮職日誌、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

夕刻、 の侍従・侍医・女官二名と御夕餐を御会食になる。 天皇と共に吹上御所において、 元侍従森猛の拝謁をお受けになった後、 ○女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 同人及び女官長、 内舎人日誌、 上直

亮吾侍従日記

二十一日 木曜日 午前、 仁孝天皇例祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 女官日誌、 典式録、

恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

びアイルランド国を訪問する皇太子、 午後、天皇と共に吹上御所において、 大波多三宜の拝謁をお受けになる。 二十二日 金曜日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、 女官日誌、 翌二十三日から三月九日まで天皇の御名代としてスペイン国及 及び同妃と御対面になり、 侍従日誌、 侍従職日誌、 新任の皇宮警察本部長宮脇磊介及び前 内舎人日誌、 挨拶をお受けになる。 典式録、 卜部亮吾侍従日記 訪問に際し、 任  $\mathcal{O}$ 

皇后には置物人りが贈られる。 七宝宝石箱クリームを御贈進になる。 蒔絵手箱花を、 アイルランド国大統領パトリック・ジョン・ヒラリーに有田焼飾鉢屬葺花を、 またアイルランド国大統領夫妻より天皇 後日、 スペイン国王・ 同妃より天皇 皇后に御贈進 皇后に御贈 進 の品があり、 の 品があり、 同夫人に

天皇・皇后より皇太子を通じて、スペイン国王ホァン・カルロス一

世に九谷焼飾皿花鳥絵文様を、

同妃に

皇后には壁飾が贈られる。 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 東宮職日誌、 外交贈答録、 恩賜録、 贈賜録、

東宮録、 宮内庁庁報、 卜部亮吾侍従日記

庁庁報

侍従日誌、

東宮職日誌、

空港行事録、

贈賜録、

入江相政日記

行する文仁親王と御対面になる。 土曜日 午後、 天皇と共に吹上御所において、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 来る二十五日から三月十一日まで英国へ旅 内舎人日誌、 東宮職日誌、 贈賜録、

空港に侍従長入江相政を差し遣わされ、 この日の夜、皇太子・同妃がスペイン国及びアイルランド国訪問に出発するに際し、 天皇・皇后のお言葉を皇太子・同妃にお伝えになる。 天皇が東京国際

訪問する故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。 二十五日 月曜日 夕刻、 天皇と共に吹上御所において、 女官日誌、 侍従日誌、 来る三月四日から十一日までネパー 侍従職日誌、 内舎人日誌、 宮内庁庁報 -ル国を

## 三月

五日

火曜日

夕刻、 皇后が御使として式部官武田竜夫を同空港に差し遣わされ、 また、 タイ国王妃シリキットが米国訪問の途次新東京国際空港にお立ち寄りになるのに際し、 皇后が王妃に花束をお贈りになる。 東久邇聡子の祥月命日につき、 お出ましをお控えになる。 外交雑録、 贈賜録 王妃へ天皇・皇后のお言葉を伝達させら 天皇・

○女官日誌

恩賜財団済生会病院の救助収容患者に合わせて手拭い七千本を賜う。 ○恩賜録、 事業年報 (日本赤十字社)、

思召しをもって日本赤十字社病院

翌六日に満八十二歳のお誕生日を迎えられるに当たり、この日、

# 生会この十年

六日 水曜日 満八十二歳のお誕生日を迎えられる。

午前、 裁判所長官等及びその配偶者の祝賀をお受けになる。 賀を順次お受けになる。 おいて元女嬬等の祝賀を、 宮内庁職員・皇宮警察本部職員の祝賀を、女官候所前廊下において女嬬・雑仕の祝賀を、 で花の 鳳凰 凰 の間において元側近奉仕者の祝賀を、 間において、正仁親王・同妃華子始め皇族、 の間におい て、 正午、 花の間において御学友・御同級生六名、 宮内庁長官以下各部局長等、 正殿梅の間において、 花の間において元女官等の祝賀を、 内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長 元皇族、 続いて側近奉仕者の祝賀をお受けになる。 御縁故者の祝賀をお受けになる。その 続いて東久邇文子始め御親族 御車寄前におい 御車寄内に 最高 0

事録、 午後、 島津貴子と御晩餐を御会食になる。 において、 天皇と共に吹上御所において、 正仁親王・ 同妃華子、宣仁親王、 入江相政日記、 卜部亮吾侍従日記、中曽根内閣史 女官日誌、 清子内親王の祝賀をお受けになる。夕刻、 崇仁親王・同妃百合子・宜仁親王、 侍従日誌、 侍従職日誌 内舎人日誌、 儀式録、 鷹司和子、 天皇と共に吹上御所 典式録、 例規録 池 田厚子、 宮殿行

東宮録、宮内庁庁報、

長安倍勲を通じて謝意をお伝えになる。 玉 お誕生日に当たり、 |特命全権大使マイケル・ジョセフ・マンスフィールドより祝意が寄せられ、 タイ国国王ラーマ九世及び王妃シリキットより花器付生花が贈られる。また、 外交贈答録、 外交慶弔録 これに対し翌日式部官 米

時 お誕生日に当たり、 、軽い 炎症があること、 宮内庁より皇后の御様子について、 絵は描かれなくなったこと、 腰の異常は全くなく安定していること、 御料車に工夫をして御負担を軽減したことな 膝は

どが発表される。 ○内廷皇族誕生日綴、 朝日新聞、サンケイ、 東京新聞、 日本経済新聞、 毎日新聞、 読売新聞

七日 吾侍従日記 を行うこととされる。 任に際しての拝謁に皇后はお出ましにならず、 らないこととされる。 ギリシャ国駐箚特命全権大使田中常雄及び同夫人の拝謁をお受けになる。 木曜日 午前、 女官日誌、 なお、 天皇が正殿竹の間において、 四月一 侍従日誌、 日より拝謁の次第が改められ、 侍従職日誌、 大使・公使は天皇に拝謁した後、 内舎人日誌、 近く赴任の米国駐箚特命全権 拝謁録、 特命全権大使· 例規録、 宮殿行事録、 皇后は 大使松 皇后の記帳簿に記帳 特命全権公使の赴 宮内庁庁報 お出ましにな 永信雄及び同 -部亮

銀製たばこ入れ・宝石入れ・裂地が贈られる。 に際し、大臣を通じて、 天皇が外務省賓客シリア国外務大臣ファルー 同国大統領ハーフェズ・アル・アサド及び同夫人から天皇・皇后に銀製花瓶 ク・エ これに対し、 ル・シャラ及び同夫人を御引見になる。 天皇が大臣に大統領夫妻へ謝意を伝える この 来訪

よう依頼される。

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、

謁見録、外交贈答録、宮内庁庁報

日誌、 九日 八日 国した皇太子・ 東宮職日誌 土曜日 金曜日 贈賜録、 同妃と御対面になり、 夕刻、 祐子内親王の祥月命日につき、 天皇と共に吹上御所において、 入江相政日記 帰国の挨拶をお受けになる。○女官日誌、 終日、 この日スペイン国・アイルランド国訪問 吹上御所にて静かにお過ごしになる。 侍従日誌、侍従職日誌: 女官日誌 ごから帰

日 曜 日 島 津久永・ 同夫人貴子の結婚満二十五年に当たり、 天皇 皇后がお悦びとして鮮鯛代

宮内庁庁報、

お品を賜う。 ○贈賜録

火曜 Ė 午前、 天皇と共に吹上御所において、 昨十一 日英国旅行から帰国した文仁親王と御

対面になり、 帰国の挨拶をお受けになる。 ○女官日誌、侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 東宮職日誌、 東宮録、 宮

内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

天皇と共に、 侍従職日誌、 午後一時十一分御出門になり、 内舎人日誌 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 須崎御用邸行幸啓、 四時四十七分須崎御用邸に行啓される。 宮内庁庁報、 卜部亮吾侍従日記 〇女官日誌、 侍従日

御徒歩にて植物を御調査になる。○女官日誌、 月曜日 午前、 天皇と共に御料車にてイノデ沢口までお出ましになり、 侍従日誌、内舎人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓、卜部亮吾侍従日記 それより附属邸まで

○女官日誌、 二十日 水曜日 侍従日誌、 天皇と共に、午後零時三十二分須崎御用邸を御出門になり、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 須崎御用邸行幸啓、 宮内庁庁報、 四時皇居に還啓される。 入江相政日記、 卜部

二十一日 恒例祭祀録、 木曜日 祭典録、 午前、 春季皇霊祭及び同神殿祭につき、 宮内庁庁報 吹上御所において御遙拝になる。 ○女官日

亮吾侍従日記

二十六日 火曜日 午前、 後西天皇三百年式年祭につき、吹上御所において御遙拝になる。 〇女官日誌

典式録、臨時祭祀録、

祭典録、宮内庁庁報

た故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。 二十七日 水曜日 午後、 天皇と共に吹上御所において、 ○女官日誌、 侍従日誌、 去る十一日ネパール国等の訪問から帰国し 侍従職日誌、 内舎人日誌、 宮内庁庁報

る。 清子内親王と御対面になる。 二十九日 〇女官日誌、 金曜日 侍従日誌、 午前、 侍従職日誌、 天皇と共に吹上御所において、 卒業に当たり、 内舎人日誌、 東宮職日誌、 天皇・皇后より内親王に万那料及びお品料を御贈進にな 東宮録、 去る二十二日学習院女子中等科を卒業した 重要雑録 贈賜録

## 四月

任の京都事務所長宇土条治始め七名の拝謁をお受けになる。 日 月 曜 Ħ 午前、 天皇と共に鳳凰 の間において、 新任の京都事務所長長門保明始め四名、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 及び前

7録、恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

製スプーンを賜う。

○恩賜録、

宮内庁庁報

桃華楽堂においてこの日行われた昭和五十九年度音楽大学卒業生演奏会の出演者十三名に、 御 紋付記 銀

三日 水曜日 午前、 神武天皇祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 終日、 吹上御所にて静

カコ

にお過ごしになる。 女官日誌、 典式録、 恒例祭祀録、 祭典録、 宮内庁庁報

竣工 追悼式が行われるに当たり、 月曜日 来る十二日、 パラオ国ペリリュー島において、 天皇・皇后が同省に生花を賜う。 厚生省主催による西太平洋戦没者の ○恩賜録、 宮内庁庁報 碑

その 十五日 九日 皇后と共に欧米諸国を訪問したことなどを挙げられる。 の質問にお答えになる。 同妃に五種交魚代料を、 康状態に関して、 火曜日 かは御健康であることをお答えになる。 月曜日 この日、清子内親王が学習院女子高等科へ進学するに当たり、 午後、 緒に御散策になる時には道の良い その際に、 内親王に万那料・お品料を御贈進になる。 天皇が林鳥亭において宮内記者会会員二十四名とお会いになり、 戦後四十年という節目に当たり印象に残っていることに関して、 〇女官日誌: また、 所を選んでいること、 侍従日誌、 皇后の日常生活への気配りや皇后の御 侍従職日誌、 ○重要雑録、 内舎人日誌 天皇・皇后より皇太子 贈賜録、 腰や膝の 宮内庁庁報 天皇記者会見、 痛みは 各記者から あるが

木曜日 夕刻、 天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた清子内親王と御対面に

なる。 〇女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、内舎人日誌、 贈賜録、宮内庁庁報

繡入テーブルクロスが献上される。 張潔清を御引見になる。この来訪に際し、 火曜日 午前、 天皇が中華人民共和国全国人民代表大会常務委員会委員長彭真及び同 ○女官日誌、侍従日誌、 委員長夫妻から天皇・皇后に献上の品があり、 侍従職日誌、 内舎人日誌、謁見録、 外交贈答録、 皇后には刺 夫人

卜部亮吾侍従日記

太后陛下御健康、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記、朝日新聞、サンケイ、日本経済新聞、毎日新聞、 誕生日に当たり、 皇誕生日祝賀行事の御欠席は、 月曜日 天皇にお祝いの品をお贈りになる。 昨夜よりの御風気のため、天皇誕生日の祝賀行事を全て御欠席になる。 初めてのこととなる。 女官日誌、 皇后は五月七日まで御静養になる。 侍従職日誌、 内舎人日誌、 読売新聞 典式録、 なお、 皇后の天

人日本ユニセフ協会に、 火曜日 翌五月一日より十月三十一日まで第三十回ユニセフ学校募金運動を実施する財団法 金一封を賜う。 ○内賜(社会事業関係)、宮内庁庁報

## 五月

木曜日 午前、 安徳天皇八百年式年祭につき、 吹上御所にてお慎みになる。 女官日誌、典式録、

祭典録、 宮内庁庁報

八日 ととされる。 水曜日 ○女官日誌、 午前、 御養蚕始の儀が行われる。 侍従職日誌、 内舎人日誌、 儀式、 皇太后陛下御健康、 御風気御用心のため、 卜部亮吾侍従日記、 皇后はお出ましにならないこ

天皇

来訪に際し、 Ħ 正午前、 王妹から天皇・皇后に書籍 天皇がデンマーク国王妹ベネディクトと御会見になり、 『デンマー ク植物史』・枕が贈られる。 宮中午餐を催され ○女官日誌、

従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 外賓参内録、 外交贈答録、 宮内庁庁報

金曜日 午前、 貞明皇后例祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 女官日誌、

祭祀録、

祭典録、

宮内庁庁報

ヮ゙を賜う。 料 • 御昼餐を御会食になる。二十一日には、 白縮緬・金員を賜う。二十四日には、 土曜日 天皇と共に吹上御所において、来る二十四日に結婚する東久邇文子、 天皇・皇后が東久邇信彦に清酒・鮮鯛代料を、 お悦びとして天皇・皇后が東久邇稔彦に洋菓子・切り花吹上 文子に扇子代 及び東優子と

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、

贈賜録

ザールを御引見になり、宮中午餐を催される。この来訪に際し、 二十日 ○女官日誌、 月曜日 侍従日誌、 正午前、 侍従職日誌、 天皇が公賓トルコ国首相トゥルグット・オザール及び同夫人セムラ・オ 内舎人日誌、 外賓参内録、 外交贈答録、 同首相より天皇・皇后に絨繵が献上 宮内庁庁報

皇・皇后が同省に生花を賜う。 来る二十七日、 千鳥ヶ淵戦没者墓苑において厚生省主催の拝礼式並びに納骨が行われるに当たり、 ○恩賜録、 宮内庁庁報 天

皇 二十二日 一・皇后にはサンパウロ市長夫妻から鳥の置物二個gk.紫が、 水曜日 茶会を催される。 午前、 天皇が世界大都市サミット会議に出席の外国 茶会に際し、 主要都市代表等から天皇・皇 皇后には、 ソウル市長より螺鈿宝石箱が、 [主要都市代表等三十一名をお |后に御贈進の品があ ŋ́,

またウィーン市長よりハンドバッグが贈られる。○女官日誌、侍従日誌、 侍従職日誌、内舎人日誌、

贈答録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

明治神宮会館において開催の昭和六十年度全国赤十字大会に、御名代として皇太子妃を差し遣わされ、

次のお言葉を賜う。

赤十字は、人道的事業を推進し、広く世界の人々の平和と福祉増進のために大きな力となつて 昭和六十年度の全国赤十字大会が盛大に開かれたことを大変うれしく思います。

果たしていることは、皆さんの尽力によるものと心から満足に思います。

いますが、日本赤十字社が、国際的な強いきずなのもとに、国の内外において立派にその使命を

力を合わせて、一層力強い活動が進められるよう希望してやみません。 日本赤十字社の任務は、今後ますます重要になつていくものと思いますので、皆さんが互いに

正午過ぎ、吹上御所において、 皇太子妃と御対面になり、 同妃より復命をお受けになる。○女官□ 内

舎人日誌、 重要雑録、宮内庁庁報、 官報、事業年報(日本赤十字社)、朝日新聞、サンケイ、毎日新聞、

多数の死傷者を出す。翌二十三日に営まれる三菱石炭鉱業株式会社南大夕張礦業所殉職者合同葬に対 去る十七日、三菱石炭鉱業株式会社南大夕張礦業所の南大夕張坑内においてガス爆発事故が発生し、

し、この日、 天皇・皇后が通商産業省を通じて生花を賜う。 ○災害お見舞い、宮内庁庁報

の日本ばら会展」に、吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。二十五日にも御出品 この日、翌二十三日より二十八日まで日本橋高島屋において開催される財団法人日本ばら会主催の「春

侍従日記

所主任神戸礼二 木曜日 郎の報告をお聞きになり、 午前、 紅葉山御養蚕所にお出ましになり、 御給桑になる。 ○女官日誌、 四齢 の蚕を御覧になる。 侍従職日誌、 内舎人日誌、 また、 儀式、 御養蚕

う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、 夫人文子の拝謁をお受けになる。 二十五日 土曜日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、 内舎人日誌、 両人は結婚後初参内につき、 贈賜録、 卜部亮吾侍従日記 昨二十四日結婚式を挙げた高木代々吉 天皇 ・皇后が両人にそれぞれお品を賜 同

バラの香水が贈られる。 フコフ及び孫と御会見になる。 二十七日 月曜日 午後、 ○女官日誌、 天皇が国際科学技術博覧会賓客ブルガリア国国家評議会議長トード この来訪に際し、 侍従日誌、 侍従職日誌、 議長より天皇・ 内舎人日誌、外賓参内録 皇后に御贈 外交贈答録、 進の 品 説があ 宮内庁庁報 ŋ 皇后 ル・ にはは

の広 様の広蓋師皿立を、 と御対面になる。 としてスウェーデン国・デンマーク国・ノルウェー国・フィンランド国を訪問する皇太子、 三十一日 「蓋<sub>町皿立</sub>を御贈進になる。 金曜日 デンマーク国女王・王配に草花折枝模様の広蓋gmundを、 訪問に際し、 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、 女官日誌、 天皇・皇后より皇太子を通じ、 侍従日誌、 侍従職日誌、 来る六月一日から十五日まで天皇の御名代 内舎人日誌、 スウェーデン国国王・王妃に扇面 外交贈答録、 ノルウェー 恩賜録、 -国国王 贈賜! 及び 一に鶴 散模 同妃 0 义

## 六月

内庁庁報、

卜部亮吾侍従日記

三日 月曜日 元管理部長高尾亮一去る五月二十一日死去につき、天皇・皇后が祭粢料を賜い、また、

霊前に菓子を賜う。高尾は昭和三十八年から臨時皇居造営部長として宮殿の造営に尽力した。

贈賜録、

四 火曜日 夕刻、 天皇と共に吹上御所において、 この 日誕生日を迎えた崇仁親王妃百合子と御

面になる。 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 贈賜録、 卜部亮吾侍従日記

上御所仕人日誌、卜部亮吾侍従日記

火曜日

午前、

吹上御所において、

繭搔きをされる。

女官日誌、

内舎人日誌、

吹上御所殿部日

吹

木曜日 夕刻、 天皇と共に吹上御所において、 来る十五日から二十六日まで官約移民百年

宮内庁庁報

念式典に出席するため米国ハワイ州を訪問する正仁親王・同妃華子と御対面になる。

ついで御夕餐を

御会食になる。 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、内舎人日誌、 贈賜録、 皇親録、

十五日 土曜日 夕刻、 天皇と共に吹上御所において、 この日フィンランド国等訪問から帰国した皇

太子・ 同妃と御対面になり、 帰国の報告をお受けになる。 ○女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、

宮内庁庁報、 入江相政日記

十七日 月曜日 午後、 皇居東御苑二の丸庭園にお出ましになり、 今般整備が完了した武蔵野 の雑

菖蒲園周辺を徒歩にて散策される。

女官日誌、

木

従職日誌 内舎人日誌、 卜部亮吾侍従日記、 昭和天皇最後の侍従日記、 読売新聞

林を再現した樹木庭園をお車より御覧になられた後、

十九日 水曜日 午後、 天皇が国賓バングラデシュ国大統領フセイン・モハマ ッド エ ル シャド及び

同夫人口 ーシャン・エルシャドと御会見になる。この来訪に際し、大統領夫妻より天皇 皇后に御贈

進の

養蚕所産を御贈進になる。 紅葉山御を御贈進になる。 田 .焼花瓶ฐを、同夫人に佐賀錦ハンドバッグを御贈進になる。 なお、大統領夫妻が入京した際に、 皇后より大統領夫人に花束を贈られる。 また翌日、皇后より同夫人に洋服地

女官日誌、 侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、接待書類、 外交贈答録、 恩賜録、 贈賜録、 情報公開資料、宮内庁庁

報、官報、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記

護婦長真玉橋ノブの三名にナイチンゲール章記及び記章を授与され、 岸井キミコ看護婦同方会常務理事 ル記章授与式に、 金曜日 御名代として皇太子妃を差し遣わされる。 午前、 東京プリンスホテルにおいて開催の第三十回フローレンス・ナイチンゲー 元名古屋第一赤十字病院看護部長立松朠子+字病院顧問 元財団法人日本赤十字社衛生部看護課長 次のお言葉を賜う。 那覇市立病院総看

本日ここに、第三十回フローレンス・ナイチンゲール記章の授与式が行われますことを、 大変

うれしく思います。

献身的努力のたまものであり、誠に喜ばしいことであります。 して最高の名誉であるフローレンス・ナイチンゲール記章を贈られましたことは、長年にわたる このたび、岸井キミコ、 立松朠子、真玉橋ノブの三名の方々が赤十字国際委員会から看護婦と

受章された方々を始め看護婦の皆さんは、 今後も健康に留意され、 博愛と人道のため、 看 護 0

道に力を尽くされるよう希望してやみません。

日誌、 午後、 内舎人日誌、 吹上御所において、皇太子妃と御対面になり、 、幸啓録、 重要雑録、情報公開資料、宮内庁庁報、 官報、 同妃より復命をお受けになる。 事業年報 (日本赤十字社)、日本赤十字社社史稿 女官日誌、

た正仁親王・同妃華子と御対面になり、 土曜日 夕刻、 天皇と共に吹上御所において、去る二十六日米国ハワイ州訪問から帰国し 帰国の挨拶をお受けになった後、 御夕餐を御会食になる。

## 七月

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、宮内庁庁報

四日 木曜日 午前、 紅葉山御養蚕所にお出ましになり、 御養蚕納の儀を行われる。 女官日誌、

内舎人日誌、 儀式、卜部亮吾侍従日記

五日

午前、

天皇と共に宮殿御車寄前において、

土曜日

金曜日 紅葉山御養蚕所主任神戸礼二郎及び助手四

名に御会釈を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、 賜与録、 儀式、卜部亮吾侍従日記

子、壬生基博・同夫人幸子、 東久邇真彦・同夫人賀鶴子、 東作興・同夫人優子と御対面になり、 中元

夕刻、天皇と共に吹上御所において、東久邇信彦・同夫人吉子・同子息征彦、

の挨拶をお受けになる。 以後、この年も皇族・御親族と随時、 御対面・御会食になる。 女官日誌、

侍従職日誌、 内舎人日誌

八日 宮中午餐を催される。この来訪に際し、首相から天皇・皇后に献上の品があり、 月曜日 正午前、天皇が公賓パプアニューギニア国首相マイケル・T・ソマレを御引見になり、 皇后にはブローチが

献上される。 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 外賓参内録、 外交贈答録、 宮内庁庁報

になり、宮中午餐を催される。この来訪に際し、国王・王妃から天皇・皇后に書籍 LIVRE DES SIMPLES 正午前、 天皇がベルギー国国王ボードワン一世及び王子フィリップルの王子 と御会見

高木文

MEDECINES が贈られる。 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報

と並ばれる。 も天皇と共に一同と御昼餐を御会食になる。 金曜日 翌十三日、 この日、 天皇が侍従長始め侍従・女官・侍医等より鰻重の献上をお受けになり、 天皇の御誕生よりの日数が三万七百五十六日となり、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 第百八代後水尾天皇 典式録、 入江相政日記 皇后

理事務所事務官日誌、 される。 女官日誌、 木曜日 宮内庁庁報、 天皇と共に、 侍従日誌、 入江相政日記、 侍従職日誌、 午前九時三十七分御出門になり、 内舎人日誌、 卜部亮吾侍従日記 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 午後零時三十八分那須御用邸に行啓 那須御用邸管理事務所日誌、

卜部亮吾侍従日記

二十八日も天皇と共に植物を御調査になる。 日曜日 午前、 天皇と共に御料車にて嚶鳴亭にお出ましになり、 ○女官日誌、 侍従日誌、 内舎人供奉日誌、 周辺の植物を御調査 須崎御用邸行幸啓、 にな

相政日記、卜部亮吾侍従日記

催され、 おいて、 二十五日 二十三日 株式会社フジテレビジョン主催による天皇の御長寿記念特別展 皇后ゆかりのお品として桃苑画集及び錦芳集が展示される。 火曜日 木曜日 東久邇成子の祥月命日につき、 この日から九月二十四日まで高島屋日本橋店・ お出ましをお控えになる。 同京都店・ ○重要雑録、 「天皇八十四年の素顔」 女官日誌 同大阪店 同横浜 が開 に店に

天皇・八十四年の素顔、

出たため、 この 月曜日 月 同県に、 去る二十六日、 天皇 皇后がお見舞金を賜う。 長野県長野市地附山において発生した地滑りにより大きな被害が ○災害お見舞い、 宮内庁庁報 卜部亮吾侍従日記

## 八月

六日 火曜日 広島原爆の 日につき、 お出ましをお控えになる。 女官日誌、 侍従日誌、 那須御用邸管理事務所

事務官日誌

レバノン国特命全権大使サミーラ・ハナ・エル・ダヘルより、天皇・皇后にワイン二箱が献上される。

○外交贈答録、 外務省公表集

九日 金曜日 長崎原爆の日につき、お出ましをお控えになる。○女官□誌、 那須御用邸管理事務所日誌、 那須

御用邸管理事務所事務官日誌

日曜日 北白川房子の祥月命日につき、 御用邸にて静かにお過ごしになる。

誌、内舎人供奉日誌、 那須御用邸管理事務所日誌、 那須御用邸管理事務所事務官日誌

十三日

火曜日

天皇と共に、

される。 ○女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 那須御用邸管理事務所日誌、 那須御用邸管

午前九時十分那須御用邸を御出門になり、

理事務所事務官日誌、 宮内庁庁報、 入江相政日記、 卜部亮吾侍従日記

十五日 木曜日 全国戦没者追悼式が行われるに当たり、 去る十四日、 天 皇 ・ 皇后が厚生省に生花を

賜う。 ○幸啓録、 行幸啓録、 恩賜録、宮内庁庁報

金曜日 天皇と共に、 午前九時三十八分御出門になり、 午後零時三十八分那須御用邸に行啓

される。 ○女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 那須御用邸管理事務所日誌、

理事務所事務官日誌、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

午後零時十一分皇居に還啓

女官日誌、

侍従日

#### 九 月

日 日 [曜日 関東大震災の日につき、 お出ましをお控えになる。 女官日誌、 侍従日誌、 那須御用邸管理事務

所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌

八日 と御昼餐を御会食になる。 日曜日 天皇と共に嚶鳴亭において、 女官日誌、 侍従日誌、 昨七日参邸の元侍従諏訪部信・同杉原正純 侍従職日誌、 内舎人供奉日誌、 那須御用邸管理事務所日誌、 同斎藤誠治 那須御用邸

管理事務所事務官日誌

九日 月曜日 久邇俔子母の祥月命日につき、 お出ましをお控えになる。 女官日誌、 侍従日誌、 内舎人供奉

日誌、 那須御用邸管理事務所日誌、 那須御用邸管理事務所事務官日誌、 典式録、卜部亮吾侍従日記

啓される。 十一日 水曜日 女官日誌、 天皇と共に、 侍従日誌、 侍従職日誌、 午前九時十一分那須御用邸を御出門になり、午後零時十一分皇居に還 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 那須御用邸管理事務所日誌、 那須御用

邸管理事務所事務官日誌、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

宮中午餐を催される。この来訪に際し、 ム・シャー・デーブ及び同妃アイシュワリヤ、並びに王姉シャラダ及び同夫君カドガと御会見になり、 十三日 金曜日 正午前、 天皇が国際科学技術博覧会賓客ネパール国王ビレンドラ・ビル・ビクラ 国王・同妃から天皇・皇后にそれぞれ銀製飾皿が贈られる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報

十六日 月曜日 午前、 敏達天皇千四百年式年祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、

典式録、臨時祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

月曜日 午前、 秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 〇女官日

恒例祭祀録、 祭典録、 宮内庁庁報

二十四日 ン・アブドゥル・アジーズと御会見になる。この来訪に際し、 皇后には金銀製扇子が贈られる。 火曜日 午前、 天皇が外務省賓客サウジアラビア国王子ファイサル・ビン・ファハド・ 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 王子から天皇・ 内舎人日誌、 外賓参内録、 皇后に御贈進の品があ 外交贈答録、 ピ

二十五日 水曜日 御所離宮懇談会委員村田治郎業高等専門学校名誉教授、去る二十二日死去につき、 天皇

庁庁報

皇后が祭粢料を賜う。 二十七日 金曜日

○宮内庁庁報

を行う社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后が事業御奨励のため金一封を賜う。 来る十月一日より十二月三十一日まで昭和六十年度国民たすけあい共同募金運 〇内賜 (社会事業 動

関係)、宮内庁庁報

賜う。 り花をお供えになり、葬場使として侍従小林忍を差し遣わされる。 中直を侍従長公邸に差し遣わされ、 一十八日に千日谷会堂にて行われる葬儀・告別式葬儀委員長宮内庁長官 なお、入江は十月一日付けにて退職する予定で、その際の賜品郷kk版もこの日伝達される。 宮内庁庁報、 月曜日 卜部亮吾侍従日記、 侍従長入江相政昨二十九日死去につき、天皇・皇后が賜物使・柩前使として侍従田 朝日新聞、 祭粢料及び生花を賜う。 サンケイ、東京新聞、 日本経済新聞 また、 に際しては、 ○侍従日誌、侍従職日誌、 天皇・皇后が霊前に菓子・果物を 毎日新聞、 読売新聞 天皇・ 皇后が霊 重要雑録、 前に切 同月

## 十月

0 拝謁をお受けになる。 日 火曜 Ħ 正午過ぎ、 ○女官日誌、侍従日誌、 天皇と共に鳳凰 侍従職日誌、 の間において、 内舎人日誌、典式録、 新任の侍従長徳川義寛・侍従次長安楽定信 宮内庁庁報、 卜部亮吾侍従日記

五日 0 秋 土曜日 の日本ばら会展」に、 この日、 翌六日に青森県青森市松木屋デパートで開催される財団法人日本ばら会主催 吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。 ○贈賜録

活躍し、 四日には天皇・ 十一日 金曜日 皇后をはじめ皇族方に音楽を教授した。 皇后が祭粢料を賜う。 去る九日元女子学習院教授松島彝死去につき、 松島は大正から昭和初期にかけて日本最初の女流作曲家として ○恩賜録、 贈賜録、 宮内庁庁報 霊前に菓子・切り花を賜う。 また十

十四日 月曜日 この日、 憲仁親王妃久子の内着帯が行われるにつき、天皇・皇后より憲仁親王・同

妃に万那料を御贈進になる。

○贈賜録

十六日 花を賜う。○災害お見舞い、 まれるにつき、 に大阪市東区の大阪城ホールにおいて、 水曜日 この日、 去る八月十二日の日本航空機墜落事故における遭難者追悼慰霊祭が、 慰霊祭を主催する日本航空株式会社に対し、 また二十四日に千代田区の日比谷公会堂においてそれぞれ営 天皇 ・皇后が両会場に宛てて生 来る二十二日

十七日 木曜日 午前、 神嘗祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 ○女官日誌、 典式録、

宮内庁庁報

祭典録、

宮内庁庁報

二十四日

日曜日

# 十一月

月三十一日帰国した徳仁親王と御対面になる。 日 卜部亮吾侍従日記 金曜日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、 ○女官日誌、侍従日誌、 英国における修学を終え、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 米国訪問を経て昨十 贈賜録、

二日 分を御献進になる。 わたって、天皇・皇后から神宮にその資として金一封を御献進になることとなり、この日、 神社本庁四十五年誌 土曜日 来る昭和六十八年に第六十一回神宮式年遷宮が行われるにつき、この年より九箇年に 以後、 昭和六十三年まで毎年御献進になる。 ○神宮式年遷宮、宮内庁庁報、 神社本庁四十年 その初年

なる。 八日 があり、 この来訪に際し、 金曜日 天皇・皇后にはパパイヤ、 午前、 天皇が第十九回日米知事会議に出席するために来日中の米国知事団を御引見に 皇后にはガラス化粧ケースの模様入りが献上される。 女官日誌、 0

侍従職日誌、

内舎人日誌、

謁見録、外交贈答録、宮内庁庁報

お出ましになる。 編』の御完成記念祝賀の茶会が、皇后主催により開かれる。 植物学者が出席する。 水曜日 宮内庁長官、 午後、林鳥亭において、去る三日に刊行された生物学御研究所編 元式部副長松平潔浜備雄・元侍去る二十二日死去につき、天皇・皇后が霊前に菓子及 女官日誌、 侍従長以下侍従、 侍従日誌、 侍従職日誌、 女官長以下女官、 内舎人日誌、那須の植物誌続編、 皇后は御臨席にならず、 並びに東北大学名誉教授木村有香 卜部亮吾侍従日記 『那須の植物誌続 天皇お 一方にて

び切り花を賜う。 翌二十五日には、 天皇・皇后が祭粢料を賜う。 ○恩賜録、 贈賜録、 宮内庁庁報

太子・同妃始め皇族、元皇族等をお招きになり、 二十五日 月曜日 この度徳仁親王が英国における修学を終えて帰国するに当たり、 連翠において御晩餐を催される。 皇后は御欠席にな 天 皇 • 皇后 が皇

女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 東宮職日誌、 典式録、 宮殿行事録、 東宮録、 卜部亮吾侍従日記

二十八日 「夏の山道 木曜日 (葛の花)」・「春光 この日より三十日まで開催される宮内庁職員組合文化祭の美術展に、 (花・桃)」を御出品になる。 ○重要雑録、 文化祭目録、 日 本画 0 御

臂

日誌、 午後、 侍従職日誌、 天皇と共に吹上御 内舎人日誌、 贈賜録 所において、 この日誕生日を迎えた正仁親王と御対面になる。 女官日誌、 侍従

上を、 で女官長始め女官の祝賀をお受けになる。 出ましになった朝見の儀終了後、 三十日 献上される。 ジーを御引見になり、 二十九日 続いて勲章を佩用した文仁親王のお礼言上をお受けになる。 土曜 金曜 ○女官日誌、 自 日 この日、 正午前、 宮中午餐を催される。この来訪に際し、 侍従日誌、 満二十歳の誕生日を迎えた文仁親王の成年式が行われる。 天皇が公賓インド国首相ラジーブ・ガンジー及び同夫人ソニア・ガン 侍従職日誌、 天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官始め総代の祝賀を、つい 内舎人日誌、 その後、 天皇と共に同所において、 外賓参内録、 外交贈答録、 首相から天皇・皇后に象牙の飾り 宮内庁庁報、 皇太子・同妃のお礼言 卜部亮吾侍従日記 午後、 天皇がお 壺

那料 文仁親王成年につき、 ・金員等を御贈進になる。 天皇・皇后より皇太子・同妃に鮮鯛代料を、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 文仁親王に白羽二重 臨時儀式録、 重要雑録、 贈賜録 洋服 地 宮殿行 万

宮内庁庁報、 官報、卜部亮吾侍従日記、 朝日新聞、サンケイ、日本経済新聞、 読売新聞

# 十二月

\_ 月曜日 崇仁親王がこの日古希を迎えるにつき、天皇・皇后よりお祝いの品等を御贈進になる。

○贈賜録

九日

月曜日

夕刻、

四日 水曜日 雍仁親王例祭につき、午前中吹上御所にて静かにお過ごしになる。○≠盲□誌

おいて行われ、 天皇と共に御臨席になる。 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 東宮録、 昭和天皇最後の

皇太子・同妃が主催する島津久永・貴子夫妻の銀婚式を祝う晩餐が吹上御所に

侍従日記

十日 火曜日 天皇と共に、 午後一時十二分御出門になり、 四時四十四分須崎御用邸に行啓される。

○女官日誌、侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、内舎人供奉日誌、 幸啓録、 宮内庁庁報、

卜部亮吾侍従日記

五月、 十七日にも天皇と共に散策され、 植物を御調査になる。 ○女官日誌、 侍従日誌、 内舎人供奉日誌、 ト部亮

天皇と共にイノデ沢から附属邸にかけて散策され、

植物を御調査になる。十

吾侍従日記

木曜日

午前、

十六日 月曜日 賢所御神楽につき、 終日御用邸にて静かにお過ごしになる。 女官日誌、 典式録、 恒例祭

祀録、 祭典録、 宮内庁庁報

十七日 日に当たり、 火曜日 同国王に対し、 去る十五日のベルギー国国王ボードワン一世と王妃ファビオラの結婚二十五年記念 天皇・皇后が祝電をお送りになる。これに対し二十四日、 答電がある。

○外交慶弔録、 宮内庁庁報、

十八日 水曜日 天皇と共に、午後零時三十一分須崎御用邸を御出門になり、 兀 1時皇居に還啓される。

○女官日誌、侍従日誌、 侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、 幸啓録、 卜部亮吾侍従日記

十九日 れぞれ金一 木曜日 封を賜う。 日本赤十字社に天皇・皇后が、 また向陽会に皇后が、 歌道御奨励のため金一封を賜う。 財団法人結核予防会に皇后が、 ○恩賜録、 事業御奨励のためそ 内賜

係)、宮内庁庁報、事業年報(日本赤十字社)

○女官日誌、 代、続いて女官の祝賀を順次お受けになる。ついで天皇と共に同所において、 二十三日 侍従日誌、 月曜日 侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、 皇太子の誕生日につき、午前、 贈賜録、 天皇と共に鳳凰の間において、 東宮録、 宮内庁庁報、 卜部亮吾侍従日記 皇太子と御対面になる。 宮内庁長官始め総

官より歳末の祝詞言上をお受けになる。 かにお過ごしになる。〇女官日誌、内舎人日誌、典式録、 二十九日 日曜日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、 大正天皇祭につき、 ついで、 吹上御所において御遙拝になる。 恒例祭祀録、祭典録、 皇太子・同妃始め皇族、 宮内庁長官始め総代、 宮内庁庁報 元皇族、 続いて女官長始め女 御縁故者、 さらに

二十五日

水曜日

午前、

宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記、 清子内親王より歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、東宮録 富田メモ

終日吹上御所にて静

# 昭和六十一年(西暦一九八六年) 八十三歳

### 月

日誌、 の御負担を考慮して、 天皇と共にお受けになる。この年より、 は各祝賀の間に、 仁親王・宜仁親王、憲仁親王・同妃久子の祝賀をお受けになる。 親王・文仁親王、 В 侍従職日誌、 水曜 Ħ 内舎人日誌、 午前十時より、 清子内親王、 正仁親王・同妃華子、 皇后は内閣総理大臣等の祝賀をお受けにならないこととされる。 典式録、 元皇族• 天皇と共に宮殿において新年祝賀の儀に臨まれ、 儀式録、年末年始、宮殿行事録、東宮録、 故雍仁親王妃勢津子、 新年祝賀の儀の開始時間が十五分繰り下げられ、 御縁故者、 宮内庁長官以下部局長等及び側近奉仕者の祝賀を 宣仁親王、 宮内庁庁報、 なお新年祝賀の儀に先立ち、 崇仁親王・同妃百合子・寛 官報、卜部亮吾侍従日記 皇太子 ○女官日誌、 同 妃 • ある 皇后 徳仁

痛みが起きること、 新年を迎えるに当たり、宮内庁より皇后の御様子について、腰の状態は安定しているが膝の状態は時 サンケイ、東京新聞、日本経済新聞、 吹上御所内での生活は平常と変わりないことなどが発表される。 毎日新聞、読売新聞 〇年末年始 朝日新

華子と共に、 二日 般参賀者に御会釈を賜う。 木曜日 七 回目 午前三回 新年一 のお出ましの際に、 般参賀につき、 ・午後四 この年は、 回の計七回、 皇后がお手振りをされる。 天皇及び皇太子・同妃・ お出ましに当たりお手振りをするのは天皇のみとされたが、 長和殿ベランダにお出ましになり、 ○女官日誌、 徳仁親王・文仁親王、 侍従日誌、 侍従職日誌、 宮殿東庭に参集した 正仁親王・同妃

典式録、 年末年始、 宮殿行事録、 東宮録、 宮内庁庁報、 官報、 サンケイ、ト部亮吾侍従日記、 昭和天皇最後の侍従日記

三日 罐日 午前、 元始祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 ○女官日誌、 内舎人日誌 典式録、 恒

例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

日誌、

内舎人日誌

贈賜録

天皇と共に吹上御所において、 この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。 ○女官日誌、

十日 七日 になる。 賀をお受けになる。 火曜日 金曜日 この年のお題は 午前、 午前、 ○女官日誌、 歌会始の儀にお出ましにならず、 天皇と共に鳳凰 「水」であり、 侍従日誌、 侍従職日誌、内舎人日誌、 の間において、 皇后宮御歌は次のとおり。 元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の祝 吹上御所においてそのテレビ中継放送を御覧 典式録、儀式録、 宮殿行事録、 卜部亮吾侍従日記

## 皇后宮御歌

さしのべて手にうくる水のつめたきに心やすらふ泉のほとり

○女官日誌、儀式録、昭和六十一年講書始め・歌会始めの儀、宮内庁庁報、官報

対面・御会食になる。 この年は、十月・十二月を除き概ね毎週金曜日に行われた定例の参殿を始め、 天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王・清子内親王と御夕餐を御会食になる。 ○女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、東宮録 随時、 皇太子一家と御 以後、

十四日 官制 一廃止まで同職を務めた。 また霊前に菓子・切り花を賜う。 火曜日 元学習院教授桜井和市顧問・名誉院長去る十二日死去につき、 学習院が同年私立大学に移行した後は、 桜井は昭和十四年に学習院教授に任じられ、 同大学教授・学習院長などを歴 天 皇 ・ 皇后が祭粢料を賜 二十二年の学習院

任した。 ○恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報、ト部亮吾侍従日記

十八日 土曜 Ħ 憲仁親王妃久子着帯につき、天皇・皇后より憲仁親王・ 同妃に万那料を御贈進にな

る。○贈賜録

二十日 合は、 の記帳のみが行われていたが、この改正により、皇后が御都合により御引見になることができない場 皇后による外国大使等の御引見は昭和五十七年六月を最後に行われておらず、 宮殿での記帳をもって代替することが定められる。 月曜日 この日、 外国大使の信任状捧呈後の御引見に関する宮内庁の内規の一部が改正され ○皇族関係録、外交雑録、 例規録、 それ以後は大使等 斎藤誠治業務日誌

卜部亮吾侍従日記

上の品があり、 二十一日 . ド . П 火曜日 ル 皇后には十七世紀頃の印刷絵画を描くが献上される。 を御引見になり、 午前、 天皇が公賓欧州共同体c委員会委員長ジャック・ドロール及び同夫人マ 宮中午餐を催される。 この来訪に際し、 ○女官日誌、侍従日誌、 委員長より天皇・皇后に献 侍従職日誌、 内舎

人日誌、外賓参内録、外交贈答録、外事・儀式、宮内庁庁報

寺・霊鑑寺に、 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・ 恒例により乾海苔料を賜う。 ○贈賜録 中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺・

善光

妃ソフィアより親電が寄せられる。 日曜日 天皇・皇后の御結婚記念日に際し、 これに対し、三十一日に天皇・皇后より答電をお送りになる。 スペイン国国王ホァン・ カル 口 ス 世及び同 0

外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

月曜日 天皇と共に吹上御所において、 故雍仁親王妃勢津子、 宣仁親王・同妃喜久子、 崇

になる。 仁親王・ ○女官日誌、侍従日誌、 同妃百合子と御夕餐を御会食になる。 侍従職日誌、 以後、 この年も皇族・御親族と随時、 御対面 御会食

内舎人日誌

三十日 木曜日 午前、 孝明天皇例祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 ○女官日誌、 典式録、 恒例

祭典録、 宮内庁庁報

### 二月

日 土曜 日 東久邇盛厚の祥月命日につき、 午前中、 吹上御所にて静かにお過ごしになる。

誌 侍従日誌、 侍従職日誌、 典式録、 贈賜録

天皇と共に吹上御所において、 十二月を除き月に一、二回程度吹上御所にて行われた御会食を始め、随時、 正仁親王・同妃華子と御夕餐を御会食になる。以後、この年は、 正仁親王・同妃と御会食 十月

御対面になる。 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌

五日

水曜日

天皇と共に、

○女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 東宮録、 宮内庁庁報、 卜部亮吾侍従日記

午後一時十一分御出門になり、

四時四十四分須崎御用邸に行啓される。

皇より先に御用邸へお戻りになる。 水曜日 午前、 天皇と共にサクラ道付近にお出ましになり、 十四日にも天皇と共に植物の御調査を行われる。 植物を御調査になる。 ○女官日誌 皇后は天

内舎人供奉日誌、 卜部亮吾侍従日記

される。 十四日 ○女官日誌、 金曜 Ħ 天皇と共に、 侍従日誌、 侍従職日誌、 午後零時三十分須崎 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、 御用邸を御出門になり、 幸啓録、 宮内庁庁報、 三時五十九分皇居に 卜部亮吾侍従日記 |還啓

を迎えた文仁親王へ、天皇・皇后よりお品及び万那料を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌 この日、 天皇と共に吹上御所において皇太子一家と御夕餐を御会食になる。昨六十年十一月に成年式

内舎人日誌、東宮録、

風船は、 十五日 は十八日付で同校に送られる。 手紙が付されていた。よって天皇・皇后は返事の手紙を書くよう侍従卜部亮吾に仰せ付けられ、 土曜日 世田谷区立旭小学校の創立百五周年を記念して同校児童が飛ばしたものであり、 午後、吹上御所において、天皇・皇后が木にかかった白い風船を発見される。この ○重要雑録、 人事・雑件、卜部亮吾侍従日記、サンケイ、 東京新聞、 日本経済新聞 児童による 毎日新 手紙

十七日 二十一日 月曜日 金曜日 祈年祭につき、終日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官□誌 午前、 仁孝天皇例祭につき、吹上御所において御遙拝になる。 女官日誌、

恒例祭祀録、

祭典録、

宮内庁庁報

二十六日 なる。 〇女官日誌、 水曜日 日曜日 侍従日誌、 二・二六事件の日に当たり、 午後、 侍従職日誌、 天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた徳仁親王と御対面に 内舎人日誌、東宮職日誌、 午前中、 贈賜録、 吹上御所にて静かにお過ごしになる。 東宮録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

### 三月

三日 月曜 日 来る六日に満八十三歳のお誕生日を迎えられるに当たり、 この日、 思召しをもって日

典式録、

本赤十字社病院 恩賜財団済生会病院の救助収容患者に合わせて手拭い七千本を賜う。 ○贈賜録、

(日本赤十字社

五日 水曜日 東久邇聡子の祥月命日につき、 お出ましをお控えになる。 女官日誌、 侍従日誌、

卜部亮吾侍従日記

六日 木曜日 満八十三歳の お誕生日を迎えられる。

午前、 元皇族、 清子内親王の祝賀をお受けになる。 花の間において、 御縁故者、 元女官・元皇太后宮女官等の祝賀をお受けになる。ついで、同じく花の間にお 宮内庁長官始め総代、及び女官長始め女官、 正午、 正殿竹の間において、 内閣総理大臣・衆議院議 続いて皇太子・同妃始め皇族、 長・

来は二時間であった祝賀行事が、 この年から簡素化され一時間に短縮される。 議院議長・最高裁判所長官及びその配偶者の祝賀をお受けになる。

なお、

皇后の御負担を考慮し、

午後、 になる。 皇太子・同妃、 吹上御所において、 ○女官日誌、 正仁親王・ 侍従日誌、 女嬬· 同妃華子、 侍従職日誌、 雑仕の祝賀をお受けになる。 内舎人日誌、 鷹司和子、 東宮職日誌、 池田隆政・ 典式録、 同夫人厚子、 夕刻、天皇と共に吹上御 儀式録、 東宮録、 島津貴子と御晩餐を御会食 宮内庁庁報、 所にお て、

記 昭和天皇最後の侍従日記

八日

土曜日

祐子内親王の祥月命日につき、

午前中、

お出ましをお控えになる。

女官日誌、

される。 時 お 誕生日に当たり、 痛 みが起こるが大事はないこと、 〇内廷皇族誕生日綴 宮内庁より皇后の御様子について、 朝日新聞、 サンケイ、東京新聞、 日常の大半は吹上御所でお過ごしになっていることなどが発表 日本経済新聞、 腰の状態は安定していること、 毎日新聞、 読売新聞 膝につい ては

名される。 憲仁親王妃久子第一王女出産につき、天皇・皇后より崇仁親王・同妃百合子にそれぞれ三種交魚代料 また憲仁親王 命名の儀当日に、 ・同妃に三種交魚代料を御贈進になる。 天皇・皇后より憲仁親王・同妃に鮮鯛代料を、また承子女王に鮮鯛代料 この日誕生した王女は、十四日に承子と命

を御贈進になる。 侍従職日誌、 皇親録、 贈賜録、宮内庁庁報、

火曜日 天皇と共に、午後一時十二分御出門になり、 四時四十四分須崎御用邸に行啓される。

○女官日誌、 より先に御用邸へとお戻りになる。 木曜日 侍従日誌、 午前、 侍従職日誌、 天皇と共に三井浜付近にお出ましになり、 内舎人日誌、内舎人供奉日誌、 御用邸御滞在中、 幸啓録、宮内庁庁報、 しばしば御用邸敷地内及びその周辺を天皇と共 植物を御調査になる。 卜部亮吾侍従日記

楽長を、五十年まで楽部顧問を務めた。昭和三十八年・三十九年には皇后への琴の指導にも奉仕した。 して知られ、 に御調査になる。 水曜日 大正十年に宮内省式部職楽部楽師に任じられ、 女官日誌、 元楽長安倍季巌去る十八日死去につき、 侍従日誌、 内舎人供奉日誌 霊前に菓子を賜う。 以降昭和二十九年より四十五年まで同部 安倍は雅楽の演奏者と

○恩賜録、 贈賜録、 宮内庁庁報、

啓される。 木曜日 ○女官日誌、 天皇と共に、午前十時八分須崎御用邸を御出門になり、午後一 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 宮内庁庁報、 時三十一分皇居に環 卜部亮吾侍従日記

二十一日 典式録、 恒例祭祀録 金曜日 午前、 祭典録 春季皇霊祭及び同神殿祭につき、 宮内庁庁報 吹上御所において御遙拝になる。○女官目

皇后は天皇

日 曜日 午前、 孝霊天皇二千二百年式年祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。

日誌、典式録、臨時祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

日手術を受ける 侍従日誌、 えの洋ランを、 二十四日 内舎人日誌、 月曜日 0 術後の経過についてお聞きになる。 同妃が退院する四月八日には切り花を、それぞれ同妃の許にお届けになる。 東宮職日誌、 御夕餐後、 報道関係録、 天皇と共に吹上御所において皇太子と御対面になり、 贈賜録、 東宮録、 翌二十五日には、 人事・雑件、 卜部亮吾侍従日記 天皇・皇后がお見舞いとして鉢植 同妃不例のため去る二 女官日誌

### 四月

録

人事・雑件、

宮内庁庁報、

続吹上の季節

職する女官市村菊重の拝謁をお受けになる。 日 火曜日 午前、 天皇と共に鳳凰 0 間におい 女官日誌、 て、 新任の侍従中村賢二郎始め二名、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 贈賜録、 及びこの 恩賜録、 度退

二日 生演奏会の出演者九名へ、御紋付銀製スプーンを賜う。 水曜日 桃華楽堂において行われた昭和六十年度都内音楽大学楽大学、国立音楽大学、上野学園大学卒業 ○恩賜録、 人事・雑件、 卜部亮吾侍従日記

三日 にお過ごしになる。 木曜日 午前、 女官日誌、 神 武天皇祭につき、 典式録、 恒例祭祀録、 吹上御所において御遙拝になる。 祭典録、 宮内庁庁報 終日、 吹上御所にて静

この日バザーを開催する常磐会に切り花ンニ፲ロ本 を賜う。○贈賜録

五日 土曜日 御夕餐後、 天皇と共に吹上御所において、 清子内親王が立方を演じた日本舞踊篇宿梅

若樹会発表会の模様を撮影したものである。○女官日誌、 舞台を収録したビデオを御覧になる。これは去る三月十九日に国立劇場小劇場にて行われた花柳流 侍従日誌、 内舎人日誌、 行啓・お成り、 卜部亮吾侍従日記:

朝日新聞、毎日新聞、読売新聞

金曜日 昭憲皇太后の祥月命日につき、午前中、 吹上御所にて静かにお過ごしになる。

日誌、侍従日誌、内舎人日誌、卜部亮吾侍従日記

土曜日 朝香鳩彦ダ五年式年祭につき、吹上御所にてお慎みになる。 ○女官日誌、 侍従日誌、

侍従

職日誌、内舎人日誌、贈賜録、卜部亮吾侍従日記

十五日 東宮侍従長山口広次始め二名の拝謁をお受けになる。 火曜日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、 女官日誌、 新任の東宮侍従長重田保夫始め四名、 侍従日誌 侍従職日誌、 内舎人日誌 前任の

恩賜録、宮内庁庁報

その中で、 午後、天皇が林鳥亭において宮内記者会会員二十六名とお会いになり、各記者の質問にお答えになる。 していること、 在位六十年を振り返り皇后との思い出について、子供の養育に尽力してくれたことを感謝 最近は足が悪くなったことを気の毒に思っていることなどをお答えになる。○女官日誌

侍従日誌

侍従職日誌、

内舎人日誌、天皇記者会見、卜部亮吾侍従日記、

読売新聞

十六日 を豊島岡墓地参集所に差し遣わされ、 には天皇・皇后が霊前に盛花を賜う。 水曜日 この日、 賀陽邦寿元賀陽宮邦寿王、昭和二十二年皇が旅行先の台北市にて死去する。 二十三日には天皇・皇后が賜物使・柩前使として侍従卜部亮吾 天皇が神饌を、 皇后が果物を、 天皇 ・皇后が白羽二重 二十一日 榊

勅使として侍従田中直を、 子をそれぞれ賜う。 ○侍従日誌、 また天皇・皇后が賀陽治憲郎寿に祭資を賜う。二十四日 侍従職日誌、 皇后が皇后宮使として侍従中村賢二 贈賜録、 人事・雑件、卜部亮吾侍従日記、 一郎を葬場の豊島岡墓地参集所へ 読売新聞 0 葬儀に際しては、 差し遣 天皇が

なる。 侍従日誌、 続いて天皇及び皇太子・徳仁親王・文仁親王・清子内親王と御夕餐を御会食になる。○女官□誌 侍従職日誌、 金曜日 夕刻、 内舎人日誌、 天皇と共に吹上御所において、 東宮職日誌、 贈賜録、 東宮録、 宮内庁庁報 この日誕生日を迎えた清子内親王と御 対面に

市村及び女官長始め女官と御昼餐を御会食になる。 二十一日 吹上御所仕人日誌、 上直の侍従・侍医と御夕餐を御会食になる。 月曜日 夕刻、 卜部亮吾侍従日記 天皇と共に吹上御所において、 女官日誌、 五月十二日には、 先般退職した元女官市村菊重及び女官長 侍従日誌、 皇后お一方にて同所において、 侍従職日誌、 内舎人日誌、吹上御所殿部

子内 天皇最後の侍従日記 いられる。 けになる。 同妃始め皇族、 官以下総代、 二十九日 !親王の祝賀をお受けになる。 なお、 〇女官日誌、 火曜日 女官長始め女官の祝賀をお受けになる。 元皇族、 今回より天皇誕生日の祝賀及び一般参賀における宮殿内の御移動 天皇誕生日及び御在位六十年祝賀の儀につき、 侍従日誌、 御縁故者の祝賀をお受けになる。その後、 侍従職日誌、 午後には、天皇と共に吹上御所において、 内舎人日誌 儀式録、 ついで天皇と共に松風 典式録、 東宮録、 午前、 天皇と共に鳳 宮内庁庁報、 石橋の間において宮内庁長 女嬬 気の間 凰 卜部亮吾侍従日記 定は 雑仕 の間において、 おいて、 の祝賀をお受 車椅子を用 皇太子 昭和 清

天皇誕生日及び御在位六十年の一 般参賀につき、 天皇及び皇太子・ 同妃・徳仁親王・文仁親王、 正仁

賀者に御会釈を賜う。○女官日誌 親王・同妃華子と共に、午前中四回、 侍従日誌、 長和殿ベランダにお出ましになり、 侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、 典式録、 宮殿東庭に参集した一 東宮録、 宮内庁庁報、 官報、 一般参

亮吾侍従日記、昭和天皇最後の侍従日記

池より採集とカラスガイ三個大池より採集を御覧になる。地内の心字とカラスガイ三個赤坂御用地内のを御覧になる。 の御夕餐を御会食になる。 天皇と共に吹上御所において、皇太子・徳仁親王・文仁親王・清子内親王、 御会食に先立ち天皇と共に、皇太子が持参したニッポンバラタナゴ五尾郷州 ○女官日誌、侍従日誌、 侍従職日誌、 正仁親王・同妃とお祝い 内舎人日誌、

が皇族・元皇族等にボンボニエ 天皇誕生日に当たり、天皇にお祝いの品を贈られる。 ] ルを賜う。 ○典式録、 天皇誕生日関係、 また天皇の御在位六十年に当たり、 卜部亮吾侍従日記 天皇・皇后

### 五月

本ユニセフ協会に、 В 木曜日 この日より十月三十一日まで第三十一回ユニセフ学校募金運動を実施する財団法人日 金一封を賜う。 〇内賜(社会事業関係)、宮内庁庁報

七日 つ四月には、 水曜日 紅葉山御養蚕所内にスロー 午前、 紅葉山御養蚕所にお出ましになり、 プ・手摺が設置される。 御養蚕始の儀を行われる。 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 なお、 儀に先立 内舎人日

芯、外事・儀式、各小整備雑役、卜部亮吾侍従日記

九日 金曜日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、 この日初参内の承子女王トーロ誕生及び憲仁親王

承子女王に万那料 同妃久子と御対面になる。女王の初参内に当たり、天皇・皇后より憲仁親王・同妃に三種交魚代料を、 ・友禅を御贈進になる。 また皇后より憲仁親王妃久子に万那料 白縮緬を御贈進に

なる。 〇女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、内舎人日誌、 贈賜録、 卜部亮吾侍従日記

同妃に洋服地を用いる、白地に菊花を御贈進になる。 餐を催される。 火曜日 この来訪に際 午後、 天皇が公賓英国皇太子チャールズ及び同妃ダイアナと御会見になり、 天皇・皇后より英国皇太子・同妃に御贈進の ○女官日誌、 侍従日誌 侍従職日誌、 内舎人日誌、 品があり、 外賓参内録 皇后 宮中晩 からは

答録、 贈賜録、

十四日 子妃を差し遣わされ 水曜日 明治神宮会館において開催の昭和六十一年度全国赤十字大会に、御名代として皇太 次のお言葉を賜う。

本日、 昭和六十一年度の全国赤十字大会が盛大に開かれたことを大変うれしく思います。

国際的な強いきずなのもとに、

人道的事業を推進し、広く世界の人々の平和と福祉

使命を果たしていることは、 増進のために大きな力となっておりますが、 皆さんの尽力によるものと心から満足に思います。 日本赤十字社が国際赤十字の一員として立派にその

:本赤十字社の役割は、これからもますます重要になっていくものと思いますので、皆さんが

互いに力を合わせて、 一層力強い活動を進められるよう希望してやみません。

吹上御所において、大会への臨席を終えた皇太子妃の復命をお受けになる。○女官日誌、

侍従職日誌、 内舎人日誌、幸啓録、 東宮録、 重要雑録、 行啓・お成り、 宮内庁庁報、 官報、 事業年報 (日本赤十字社)

土曜 Ħ 貞明皇后例祭につき、 吹上御所にてお慎みになる。 女官日誌、 典式録、 恒例祭祀録、

郵、宮内庁庁報

問する崇仁親王・同妃百合子と御対面になる。 十九日 月曜日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、来る二十七日より六月八日までトルコ国を訪 ○女官日誌、侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 皇親録、

宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

来る二十六日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑において厚生省主催の拝礼式並びに納骨が行われるに当たり、 天

水曜日 午前、 紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御給桑になる。また、

成長中の蚕の様

皇・皇后が同省に生花を賜う。○恩賜録、宮内庁庁報

子を御覧になる。

女官日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、卜部亮吾侍従日記

ばら会展」に、吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。二十四日にも御出品になる。 翌二十二日から二十七日まで日本橋高島屋において開催される財団法人日本ばら会主催の 「春の日本

○人事・雑件、贈賜録

さらに六月二十七日には御紋付銀花瓶を賜う。森永は昭和五十四年より死去まで参与の任にあった。 賜う。また天皇・皇后が賜物使として侍従卜部亮吾を森永邸に差し遣わされ、祭粢料及び生花を賜い、 土曜日 恩賜録、 贈賜録、 参与森永貞一郎元日本銀昨三十日死去につき、天皇・皇后が霊前に菓子・切り花を 宮内庁庁報、 卜部亮吾侍従日記

### 六月

二日 月曜日 午後、 天皇と共に鳳凰の間において、 新任の管理部長宮尾盤・書陵部長勝山亮・皇室

経済主管井関英男始め八名、 前任の管理部長福留守始め二名の拝謁をお受けになる。 女官日誌、 侍従日

爫、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恩賜録、宮内庁庁報、官報、卜部亮吾侍従日記

十 一 日 水曜日 午前、 吹上御所において、初繭搔きを行われる。○女官日誌、内舎人日誌、吹上御所殿部日誌、

吹上御所仕人日誌、卜部亮吾侍従日記

同妃百合子と御対面になる。○女官日誌、 木曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、去る八日トルコ国訪問より帰国した崇仁親王 侍従日誌、 侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報、 卜部亮吾侍従日記

十八日 水曜日 天皇と共に、午後一時十二分御出門になり、 四時四十四分須崎御用邸に行啓される。

○女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 東宮録、 宮内庁庁報、 卜部亮吾侍従日記

展に、 二十五日 御画集『桃苑画集』・『錦芳集』を御出品になる。 水曜日 この日より七月一日まで皇宮警察本部で開催される皇宮警察創立百周年記念文化 ○行啓・お成り

二十七日 金曜日 ○女官日誌、 天皇と共に、 侍従日誌、 侍従職日誌 午前十時九分須崎御用邸を御出門になり、 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 宮内庁庁報、 午後一 卜部亮吾侍従日記 時三十一分皇居に

### 七月

官報、 前任の皇宮警察本部長宮脇磊介の拝謁をお受けになる。 卜部亮吾侍従日記、 火曜日 午前、 済寧 天皇と共に鳳凰の間において、 新任の皇宮警察本部長大高時男始め二名、 ○女官日誌、侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、典式録

三日 木曜日 午前、 紅葉山御養蚕所にお出ましになり、 御養蚕納の儀を行われる。 〇女官日誌、 侍従日

誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外事・儀式、卜部亮吾侍従日記、続吹上の季節

四 В 金曜日 午前、 天皇と共に宮殿御車寄前において、 紅葉山御養蚕所主任神戸礼二郎及び助手四

名に御会釈を賜う。

○女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、卜部亮吾侍従日記

見になる。 月曜日 この来訪に際し、 午前、 天皇が国賓アルゼンチン国大統領ラウル・リカルド・アルフォンシンと御会 大統領より天皇・皇后に御贈進の品があり、 皇后には陶器二点が贈られ

る。○女官日誌、侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、幸啓録、 接待書類、外賓参内録、 外交贈答録、 宮内庁庁報、

去る十日の大雨により甚大な被害を受けた鹿児島県に、 天皇・皇后がお見舞金を賜う。 ○内賜 (災害お見

舞い)、宮内庁庁報

御夕餐を御会食になる。

金曜日 天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王と

ラ・ファー ガソンの結婚式に参列するため英国を訪問する。 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌

なお徳仁親王は来る二十日より二十七日まで、

東宮職日誌、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報

び同妃コマルと御会見になる。この来訪に際し、 二十二日 火曜日 午前、 天皇がネパール国王弟ギャネンドラ・ビル・ビクラム・シャー・デーブ及 王弟・同妃より天皇・皇后に御贈進の品があり、 皇

幹

后には仏具が贈られる。

女官日誌、

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、

外賓参内録、

外交雑録、

外交贈答録、

宮内庁庁

水曜日 東久邇成子の祥月命日につき、 お出ましをお控えになる。 女官日誌、 侍従日誌、

卜部亮吾侍従日記

典式録、

英国王子アンドリューとセー

この日、 ス二世に祝電をお送りになる。これに対し八月二十二日、 英国王子アンドリューとセーラ・ファーガソンの結婚につき、天皇・皇后が同国女王エリザ 女王より答電がある。 ○外交慶弔録 宮内庁

れる。 邸管理事務所日誌、 差の除去などの改修が行われる。 二十五日 各中保守、 なお、この年より那須御用邸内にエレベーターが新設されたほか、 金曜日 宮内庁庁報、 那須御用邸管理事務所事務官日誌、 天皇と共に、 卜部亮吾侍従日記、 午後二時四十二分御出門になり、五時三十九分那須御用邸に行啓さ ○女官日誌、 毎日新聞、 計画通知、 侍従日誌、 読売新聞 那須御用邸本邸エレベーター計画通知、各小施設宮内、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、 邸内各所で手摺の設置・段 幸啓録、 那須御用

その後は書陵部長・管理部長等を務めた。 霊前に菓子・切り花を賜う。三井は昭和十四年に皇后宮事務官兼侍従となり二十一年まで侍従を務め 二十九日 火曜日 元管理部長三井安弥産昨二十八日死去につき、天皇・皇后が祭粢料を賜い、 ○恩賜録、 贈賜録、 人事·雑件、宮内庁庁報

三十日 にお過ごしになる。 水曜日 午前、 女官日誌、 明治天皇例祭につき、 典式録、恒例祭祀録、 祭典録、 御用邸において御遙拝になる。 宮内庁庁報 また、 御用邸にて静か

### 八月

六日 水曜日 広島原爆の日につき、 御用邸にて静かにお過ごしになる。〇女官日誌、那須御用邸管理事務所

日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌

金曜日 この度の台風十号に伴う大雨により甚大な被害を受けた宮城県・ 福島県・ 栃木県・茨

天皇・皇后がお見舞金を賜う。 ○内賜 (災害お見舞い)、宮内庁庁報

九日 土曜日 長崎原爆の日につき、 御用邸にて静かにお過ごしになる。 女官日誌、 那須御用邸管理事務所

日誌、 那須御用邸管理事務所事務官日誌

月曜日 北白川房子の祥月命日につき、終日、 御用邸にて静かにお過ごしになる。

侍従日誌、 内舎人供奉日誌、 那須御用邸管理事務所日誌、 那須御用邸管理事務所事務官日誌

来る十三日より二十三日までマレーシア国・シンガポール国・タイ国を旅行する文仁親王に、

天皇

皇后より万那料・お品料を御贈進になる。 ○贈賜録、宮内庁庁報

ルクセンブルク国大公ジャン及び同妃ジョセフィン・シャルロッテより去る四日に

発せられた、大公の孫ルイ誕生を報じる電報を天皇・皇后がお受けになる。これに対しこの日、天皇・ 火曜日

皇后が祝意を表する答電をお送りになる。○上奏モノ控簿、外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

十五日 同 国戦没者追悼式が行われるに当たり、 追悼式に御臨席になるため、 金曜日 終戦記念日につき、 去る十三日に皇居に還幸され、二十日に再び御用邸に行幸される。 終日、 去る十三日、 御用邸にて静かにお過ごしになる。 天皇・皇后が厚生省に生花を賜う。 この日政府主催の全 なお、 天皇は

### 九月

女官日誌、

恩賜録、

宮内庁庁報

事務所日誌、 日 月曜日 那須御用邸管理事務所事務官日誌 関東大震災の日に当たり、 お出ましをお控えになる。〇女官日誌、侍従日誌、 那須御用邸管理

につき、 四日 木曜日 天皇 ・皇后が御奨励のため財団法人日本体育協会に金一 来る二十日から開催される第十回アジア競技大会別市を中心に開催に日本選手団が参加する 封を賜う。 ○恩賜録、 宮内庁庁報

七日 日曜日 陽光太上天皇院と号せられ太上天皇の尊号を贈られる四百年式年祭につき、陽光太上天皇正親町天皇の第一皇子誠仁親王、甍後陽光四百年式年祭につき、 終日、 御用邸にて静

かにお過ごしになる。○女官日誌、続吹上の季節

十日 この 九日 される。 侍従日誌、 久邇邸の霊舎及び豊島岡墓地の墓所への御代拝を仰せ付けられる。また、天皇・皇后が菓子・榊を霊 他、 那須御用邸管理事務所事務官日誌、 榊を墓所にお供えになる。さらに、皇后が切り花・菓子を写真に、果物を墓所にお供えになる。 火曜日 水曜日 侍従職日誌、 女官日誌、 天皇・皇后が久邇邦昭卿・大谷智子舞・東伏見慈治卿にお尋ねとして菓子を賜う。 久邇俔子母三十年式年祭につき、 天皇と共に、 内舎人供奉日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 午前九時十二分那須御用邸を御出門になり、 宮内庁庁報 那須御用邸管理事務所日誌、 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、 お出ましをお控えになり、 那須御用邸管理事務所事務官日誌、 幸啓録、 那須御用邸行幸啓、 午後零時十一分皇居に還啓 皇后宮使として女官長に 贈賜録、 那須御用邸管理事務所 続吹上の季節 女官日誌

勢津子と御対面になる。 木曜 日 午前、 また同妃へ、 天皇と共に吹上御所において、 天皇・皇后より万那料 昨九日喜寿 洋服地養産所産等を御贈進になる。 0 誕生日を迎えた故 雍仁親王妃

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌

贈賜録

餐を催される。 金曜日 この来訪に際し、首相から天皇・皇后へ献上の品があり、 午前、 天皇が公賓ビルマ国首相マウン・マウン・カを御引見になり、ついで宮中午 皇后へはネックレスとブロ

チが献上される。 ○女官日誌、侍従日誌、 侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、 宮内庁庁報、

記

十六日 方自治体の銀製紋章||=+が贈られる。 この来訪に際し、 火曜日 午前、 議長から天皇・皇后へ御贈進の品があり、 天皇が国賓ニジェール国最高軍事評議会議長セイニ・クンチェと御会見にな 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 皇后にはニジェー 幸啓録、 外賓参内録、 -ル 国 の地方の各地 接待書類

ニジェール/フィンランド、恩賜録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報

職付を、 日記 の天皇・皇后御訪欧の際には、 后が菓子を、 元侍従職御用掛武者小路不二子去る十四日死去につき、 その後五十二年まで侍従職御用掛を務め、 皇后が切り花を霊前に賜う。武者小路は、 皇后のフランス語通訳を務めた。 皇后のフランス語通訳・指導に奉仕した。 昭和三十七年から四十九年まで宮内庁御用掛 天皇・皇后が祭粢料を賜う。 ○贈賜録、 恩賜録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従 また、 四十六年 天皇・皇

二十三日 火曜日 午前、 秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 ○女官日

動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后が事業御奨励のため金一封を賜う。 二十九日 月曜日 来る十月一日より十二月三十一日まで昭和六十一年度国民たすけあい共同募金運

会事業関係)、宮内庁庁報

典式録、

恒例祭祀録、

祭典録、

宮内庁庁報

### 十月

より大統領夫人に花束を御贈進になる。 に有田焼飾 画 を 動島薄墨を、 贈進の品があり、 人タイミ・テッレルヴォ・コイヴィストと御会見になる。この来訪に際し、 ンランド、外賓参内録、 В 水曜 日 午前、 皇后へは縞文ガラス花瓶ヴァ・トイッカデザインが贈られる。また、 恩賜録、 天皇が国賓フィンランド国大統領マウノ・ヘンリック・コイヴィスト及び 外交贈答録、 同夫人に銀製宝石箱を御贈進になる。 宮内庁庁報、 ○女官日誌、 官報、 外国からのごあいさつ 侍従日誌、 侍従職日誌、 なお大統領夫妻の入京に際し、 内舎人日誌、 夫妻より天皇・ 天皇・皇后より大統領 幸啓録、 ニジェール 皇后に御 /フィ 皇后 同

后の 昭和天皇最後の侍従日記 になる。 表される。 ないことが、二十四日及び十二月十八日には、 この日より十一月十三日まで、 御様子について、十六日には、 女官日誌、 なお、この年は十一月十四日以降もお出ましをお控えになり、 吹上御所殿部日誌、 腰・膝の痛みのため、 吹上御所仕人日誌、 大事ではないが腰痛 引き続き御静養中であるが経過は順調であることが発 報道関係発表資料、年末年始、 吹上御所において御静養になる。 のためしばらく御散策や行事 卜部亮吾侍従日記、 概ね吹上御所内でお過ごし 0) 宮内庁より皇 続吹上の季節 お出ましは

開会式のテレビ中継放送を御覧になる。 女官日誌、 日曜日 午後、 侍従日誌、 吹上御所において、 内舎人供奉日誌、 なお、 幸啓録、 山梨県にて開催される第四十一回国民体育大会秋季大会 天皇は前日より同県に行幸井四日され、 宮内庁庁報、 官報 開会式に御臨場

十五日 水曜日 午前、 天皇が公賓シンガポール国首相リー・クァン・ユー及び同夫人を御引見にな

会主催の 二十三日 はランの切り花が献上される。○女官日誌、 続いて宮中午餐を催される。この来訪に際し、首相夫妻から天皇・皇后へ書が献上され、 「秋の日本ばら会展」に、 木曜日 翌二十四日から二十七日まで山口県宇部市において開催される財団法人日本ばら 吹上御所前庭で御栽培のバラを御出品になる。 侍従日誌、 侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報 ○贈賜録 皇后へ

## 十一月

十日 日誌、侍従日誌、侍従職日誌、 製食器・貝製櫃を貼るが贈られる。また、 この来訪に際し、 月曜日 午後、天皇が国賓フィリピン国大統領コラソン・コファンコ・アキノと御会見になる。 大統領より天皇・皇后に御贈進の品があり、 内舎人日誌、幸啓録、外賓参内録、接待書類、恩賜録、外交贈答録、宮内庁庁報、 大統領の入京に際し、 皇后にはテーブルクロスの葉の繊維製・貝 皇后より花束を御贈進になる。

れる。 この行幸に際し、 水曜日 午前、 天皇・皇后より親王にお品を、 病気療養中の宣仁親王をお見舞いのため、 親王・同妃喜久子に菓子を御贈進になる。 天皇お一方にて高松宮邸へ行幸さ

二十八日 金曜日 去る十月二十八日に喜寿の誕生日を迎えた桃山虔一 一 李鍵公 と、 天 皇 • 皇 后がお品 及

び万那料を賜う。○贈賜録

女官日誌、

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、

幸啓録、

行幸啓録、

高松宮宣仁親王

花束を御贈進になる。 夫人へ沈金宝石箱素をそれぞれ御贈進になる。 品があり、 マ・コルデロ・デラマドリと御会見になる。この来訪に際し、大統領夫妻より天皇・皇后へ御 日 宮内庁庁報 月曜日 皇后へは銀製物入れが贈られる。 午前、 天皇が国賓メキシコ国大統領ミゲル・デラマドリ・ウルタード及び ○女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 また、天皇・皇后から大統領へ九谷焼飾皿セ症絵文様を、 なお大統領夫妻の入京に際し、 内舎人日誌、 幸啓録、 外賓参内録、 皇后より大統領夫人へ 接待書類、 外交贈答録、 同夫人パ 進 恩賜 口 同 0

子を賜う。 元皇室経済主管塚越虎男去る十一月二十八日死去につき、 皇室経済法などの制定に関わった。 塚越は、 昭和二十年九月より二十三年まで内蔵頭、 ○恩賜録、 贈賜録、 天皇・皇后が祭粢料を賜い、 宮内庁庁報 同年より二十五年までは皇室経済主管 また霊前 に東

三十日落成式を行うに移転するにつき、より起工、去る十月に移転するにつき、 二日 火曜日 この日、 憲仁親王・同妃久子及び承子女王が赤坂御用地内に新営される高円宮邸昨六+ 天皇・皇后よりお品を御贈進になる。 ○贈賜録、 皇親録、 高円宮邸新築工事

恩賜録、

三日 京都に、 水曜日 天皇 ・皇后がお見舞金を賜う。 去る十一月二十一日、三原山片島における大規模な噴火によって甚大な被害が生じた東 ○内賜 (災害お見舞い)、宮内庁庁報

四日

天皇・皇后がお品及び万那料を賜う。

○贈賜録

この日白寿の誕生日を迎えた東久邇稔彦に、

木曜 日 雍仁親王例祭につき、 終日、 吹上御所にて静かにお過ごしになる。 ○女官日誌、

238

侍従職日誌、内舎人日誌、皇親録、典式録

ぎそう」・「高原の夏―えぞあじさい」を御出品になる。なお、 この日より六日まで開催される宮内庁職員組合文化祭の美術展に、 人事·雑件、文化祭目録、読売新聞、 香淳皇后のご生涯と作品、香淳皇后の御絵と画伯たち 同展への御出品はこの 日本画の御作品 年が最後となる。 那 須の湿地―さ

七日 日曜日 久邇朝融<sup>組</sup>の祥月命日につき、 午前中、 吹上御所にてお慎みになる。 女官日誌、

i

九日 外交慶弔録、外交贈答録、 二日に東京カテドラル聖マリア大聖堂において行われる告別式には、天皇・皇后が花環をお供えにな ホヴィツは、 天皇・皇后が弔問使として侍従鈴木武を同国大使館に差し遣わされ、弔意をお伝えになる。十 火曜日 駐日デンマーク国特命全権大使フランツ・ボナヴェントュラ・ホヴィツ昨八日死去に この年五月より同国特命全権大使として本邦へ赴任していた。 ○侍従日誌、 侍従職日誌

和九年から十三年まで侍従武官を務めたほか、二十年九月から二十一年一月まで禁衛府長官の任に 十三日 土曜日 元禁衛府長官後藤光蔵昨十二日死去につき、天皇・皇后が祭粢料を賜う。 後藤は昭

十五日 月曜日 賢所御神楽につき、 終日、 吹上御所にて静かにお過ごしになる。 女官日誌、

恒例祭祀録、

祭典録、

宮内庁庁報

○侍従職日誌、

恩賜録、

贈賜録、宮内庁庁報

れぞれ金 水曜日 封を賜う。 日本赤十字社に天皇 また向陽会に皇后が、 皇后が、 歌道御奨励のため金一封を賜う。 財団法人結核予防会に皇后が、 ○恩賜録、 事業御奨励のためそ 内賜

係)、宮内庁庁報、事業年報(日本赤十字社)

静かにお過ごしになる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十五日 木曜日 午前、大正天皇祭につき、吹上御所において御遙拝になる。終日、吹上御所にて

# 昭和六十二年(西暦一九八七年) 八十四歳

### 月

なる。 祝賀をお受けにならないこととされる。また、 部局長等及び側近奉仕者の祝賀を天皇と共にお受けになる。 仁親王・同妃久子の祝賀をお受けになる。なお新年祝賀の儀に先立ち、清子内親王、宮内庁長官始め 親王・文仁親王、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、 宮内庁庁報、 ○女官日誌、侍従日誌、 木曜日 官報、 午前十時より、 ト部亮吾侍従日記、昭和天皇最後の侍従日記、続吹上の季節 侍従職日誌、 天皇と共に宮殿において新年祝賀の儀に臨まれ、 内舎人日誌、 典式録、 皇后の新年祝賀の儀へのお出ましは、 儀式録、 年末年始、 この年以降、 崇仁親王・同妃百合子・宜仁親王、 新年祝賀の儀・一般参賀、 皇后は元皇族・ 皇太子 この年が最後と 宮殿行事録、 御縁故者 同妃・徳仁 憲

中であるが、 新年を迎えるに当たり、宮内庁より皇后の御様子について、 ことはお控えになっていることなどが発表される。○年末年始、皇太后陛下御健康、 経過は良く歩行練習は順調に進んでいること、 昨六十一年十月に腰の筋を痛められ療養 車の乗り降りの 朝日新聞、サンケイ、東京新聞 訓練 以 外戸 へ 出

日本経済新聞、毎日新聞、

読売新聞

金曜日 宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。なお、 午前三回 新年一 般参賀につき、 ・午後二回の計五回のうち、二回目・三回目のみ、 天皇及び皇太子・ 同妃・徳仁親王・文仁親王、 皇后の新年一般参賀へのお出まし 長和殿ベランダにお出まし 正仁親王 同妃

この年が最後となる。 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 典式録、 儀式録、 年末年始、新年祝賀の儀・一般参

宮殿行事録、 東宮録、宮内庁庁報、官報、 卜部亮吾侍従日記、 続吹上の季節

三日 土曜日 午前、 元始祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 女官日誌、 内舎人日誌、 典式録、 恒

例祭祀録、 儀式録、 祭典録、 宮内庁庁報

九日 家と御対面・御会食になる。 夕餐を御会食になる。以後、 金曜日 天皇と共に吹上御所において、 ○女官日誌、 この年は概ね毎週金曜日に行われた定例の参殿を始め、 侍従日誌、 侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録 皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・ 随時、 清子内親王と御 皇太子一

火曜日 午前、 歌会始の儀が行われる。 皇后は御欠席になる。 この年のお題は「木」であり、

皇后宮御歌

皇后宮御歌は次のとおり。

あたたかき光さしそふ伊豆の丘木々の梢は萌えそめにけり

○儀式録、 昭和六十二年講書始め・歌会始めの儀、 年末年始、 宮内庁庁報、 官報、 卜部亮吾侍従日記、 続吹上の季節

十四日 この年は、月に二、三回程度吹上御所にて行われた御会食を始め、 水曜日 天皇と共に吹上御所において、 正仁親王・同妃華子と御夕餐を御会食になる。 随時、 正仁親王・同妃と御対面

御会食になる。 女官日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌

日

十九日 寺・長福寺・善光寺・霊鑑寺に、 月 曜 大聖寺・ 宝鏡寺 恒例により乾海苔料を賜う。 ・曇華院・ 光照院 林丘寺・ ○贈賜録 円照寺 中 法華寺 一時 知恩

宮寺

• =

二十日 火曜日 午後、 天皇と共に吹上御所において、 故雍仁親王妃勢津子、 崇仁親王 同妃百合子

になる。 〇女官日誌、 と御対面になり、寒中の挨拶をお受けになる。以後、この年も皇族・御親族と随時、 侍従日誌、 侍従職日誌、内舎人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌 御対面·御会食

二十二日 木曜日 正倉院懇談会会員岸俊男な常教授昨二十一日死去につき、天皇・皇后が祭粢料を賜

う。○賜与録、宮内庁庁報

の行幸に際し、天皇・皇后より親王に膝掛を、 侍従職日誌、 金曜日 内舎人日誌、幸啓録、 天皇が病気療養中の宣仁親王をお見舞いになるため、高松宮邸に行幸される。こ 行幸啓録、宮内庁庁報、 親王・同妃喜久子に果物を御贈進になる。 富田メモ、 卜部亮吾侍従日記、 吹上の季節

### 二月

二日 天皇・皇后が来る四日より予定されていた須崎御用邸への行幸啓をお取りやめになる。 月曜日 宣仁親王が去る一月二十七日より日本赤十字社医療センターに入院中のため、この日、 ○侍従日誌、

録、須崎御用邸行幸啓録、卜部亮吾侍従日記

去につき、天皇・皇后が霊前に果物・菓子・盛花を賜う。また、この日より三月四日まで三十日第一期 火曜日 午後一時十分、宣仁親王が日本赤十字社医療センターにおいて薨去する。 宣仁親王薨

二十旦 服喪される。

と称する。大正二年七月、勅旨により高松宮の称号を下賜され、 宣仁親王は、大正天皇の第三皇子で、 御母は貞明皇后である。明治三十八年一月三日に誕生し、光宮 有栖川宮の祭祀を継承する。十三年

売新聞 亮吾侍従日記 宣仁親王喪儀関係綴、 0 胸部に疾患が発見されたのは昨六十一年のことであり、 8 海 国 ため薨去する。 軍兵学校を卒業、 ]際親善に尽力したほか、 続吹上の季節 行事録 享年八十二。 少尉候補生となり、 高松宮宣仁親王、 恒例祭祀録 医療福祉やスポ 女官日誌、 庁規例規朝儀諸綴**、** 菊と葵のものがたり、 以後累進して海軍大佐に至る。 侍従日誌、 イーツの 墓誌銘録、 侍従職日誌、 発展にも力を注ぎ、 高松宮宣仁親王殿下をお偲びして、 以後療養に努めたが、 贈賜録、 内舎人日誌、 重要雑録、 臨時儀式録、 各種団体 戦後は日仏協会総裁などを務 宮内庁庁報、 この 宣仁親王殿下御葬儀関係 の役職に就任する。 朝日新聞、 Ę 官報、 右肺上葉肺癌 富田メモ、 毎日新聞、 卜部 読

誌 子、 長より職員総代としての拝謁をお受けになる。 四 В 富田メモ、ト部亮吾侍従日記 続いて皇太子・同妃 水曜 日 宣仁親王 0) 徳仁親王・文仁親王と御対面になる。 薨去を承け、 午 前 その後、 天皇と共に吹上御所におい 天皇と共に同所におい ○女官日誌 . て、 侍従日誌 宮内庁長官 正仁親王 侍従職日誌 宮 内舎人日 同 l内庁: 妃 次

行事録、 切り花を賜う。 の日、五時過ぎより高松宮邸において御舟入の儀が行われる。 にて寝室に進 天皇と共に、 重要雑録 にまれ、 午後三時御出門になり、 宮内庁庁報、 〇女官日誌: 同室に安置された宣仁親王の遺骸と御対面になる。 卜部亮吾侍従日記、 侍従日誌、 侍従職日誌、 高松宮邸に行啓される。 昭和天皇最後の侍従日記、 内舎人日誌、 幸啓録、 高松宮宣仁親王 行幸啓録、 同儀に際し、 御到着後、 臨時儀式録、 三時四十五分還啓される。 天 皇 ・ 故宣仁親王妃喜久子の先導 宣仁親王殿下御葬儀関係 皇后が霊前に菓子・

五日 曜 Ħ 天皇 皇 后が故宣仁親王の霊前に盛花を賜う。 また翌六日には果物を、 七日には盛花

を賜う。

○重要雑録

皇后が 八日 霊 日 曜日 |前に切り花を賜う。 午後二時より高松宮邸において、故宣仁親王の正寝移柩の儀が行われる。 ○侍従日誌、 内舎人日誌 臨時儀式録、 行事録、 重要雑録、 ト部<br />
亮<br />
吾<br />
侍<br />
従<br />
日<br />
記、 同 高松宮宣仁親 儀に際し、

王

天皇・ 九日 同儀に際し、 妃喜久子に祭資等を賜う。 皇后が霊前に菓子を、 月曜日 行事録、 皇后が侍従中村賢二郎を差し遣わされ、 午前、 天皇・皇后が賜物使として侍従田中直を高松宮邸に差し遣わされ、 この日、 皇后が切り花を賜う。 午後五時三十分より高松宮邸において霊代安置の儀が行われる。 ○侍従日誌、 高松宮宣仁親王 霊前に榊・果物・ 侍従職日誌、 内舎人日誌、 白羽二重を賜う。 臨時儀式録、 故宣仁 また別に、 親王

下御葬儀関係、

重要雑録、

宮内庁庁報、

卜部亮吾侍従日記、

従日誌、 記 る。 侍従樋口英昭を同邸に差し遣わされる。 昭和天皇最後の侍従日記、 また天皇 皇后が侍従次長安楽定信を同所に差し遣わされる。 火曜日 侍従職日誌、 ・皇后が霊前に菓子を賜う。 午前、 内舎人日誌、 高松宮邸において故宣仁親王の斂葬当日柩前祭の儀が行われるに際し、 高松宮宣仁親王 臨時儀式録、 宣仁親王殿下御葬儀関係、 続いて豊島岡墓地において斂葬の儀葬場の儀が行われるにつ この日、 吹上御所にて静かにお過ごしになる。 両儀に際し、 行事録、 重要雑録、 天皇・皇后が 宮内庁庁報、 官報、 玉串をお供えにな 卜部亮吾侍従日 女官日誌、 皇后

+ 儀式録、 宣仁親王殿下御葬儀関係、 后が権舎に菓子をお供えになる。 水曜日 午前、 高松宮邸において故宣仁親王の斂葬後一 重要雑録、 宮内庁庁報、高松宮宣仁親王 この日、 吹上御所にて静かにお過ごしになる。 日権舎祭の儀が行われるに際し、 ○侍従日誌、 臨時 天

十二日 木曜 白 午前、 高 .松宮邸において故宣仁親王の権舎十日祭の儀が行われるに際 天皇

后が権舎に榊・菓子をお供えになる。 女官日誌、 侍従日誌、 臨時儀式録、 宣仁親王殿下御葬儀関係、 行事録、 重要雑

宮内庁庁報、高松宮宣仁親王

寛を差し遣わされ、 侍従日誌、 金曜日 侍従職日誌、 午前、 天皇・皇后より故雍仁親王妃・崇仁親王にそれぞれ洋服地を御贈進になる。 内舎人日誌、 天皇が故雍仁親王妃勢津子、 富田メモ、続吹上の季節 及び崇仁親王・同妃百合子の許に侍従長徳川義

岡墓地において墓所二十日祭の儀が行われるにつき、 月にわたって務めるなど多大の尽力があったため、 正倉院懇談会会員を二十九年十箇月会員の期間を含む 二十二日 侍従職日誌、 火曜日 日曜日 東京大学名誉教授坂本太郎昨十六日死去につき、天皇・皇后が祭粢料を賜う。また、 内舎人日誌、 午前、 高松宮邸において故宣仁親王の権舎二十日祭の儀が、 臨時儀式録、 宣仁親王殿下御葬儀関係、 書陵部委員を三十八年、 特に天皇・皇后がお品を賜う。 吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌 行事録、 宮内庁庁報 陵墓管理委員を九年十箇 また午後には、 ○賜与録、 宮内庁庁報 豊島

### 三月

五日 日誌、 地 四 に В におい 侍従職日誌、 木曜 水曜日 · て 墓 Ħ 所三十日祭の儀が行われるにつき、 内舎人日誌、 午前、 午前、 宣仁親王薨去に伴う天皇・皇后の御喪明けにつき、 高松宮邸において故宣仁親王の権舎三十日祭の儀が、 臨時儀式録、 宣仁親王殿下御葬儀関係、 吹上御所にて静かにお過ごしになる。 行事録、宮内庁庁報、 卜部亮吾侍従日記 吹上御所にお また午後には、 ○女官日誌、 V 豊島岡墓 除

儀が行われる。

〇女官日誌、

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、

吹上御所殿部日誌、

吹上御所仕人日誌

恩賜財団済生会病院の救助収容患者に合わせて手拭い七千七十本を賜う。○侍従職日誌、 翌六日に満八十四歳のお誕生日を迎えられるに当たり、この日、思召しをもって日本赤十字社病院 贈賜録、

本赤十字社)

六日 金曜日 満八十四歳のお誕生日を迎えられる。

元皇族、 花の間において、 御縁故者の祝賀をお受けになる。ついで、同じく花の間において、 宮内庁長官始め総代、 及び女官長始め女官、 続いて皇太子・ 清子内親王の祝賀をお受 同妃始め皇族、

けになる。 その後、 吹上御所において、 女嬬・雑仕の祝賀をお受けになる。

天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃、 正仁親王・同妃華子、 鷹司和子、 池 田隆 政・

女官日誌、

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、

吹上御所殿部日誌

同

夫人厚子、島津貴子と御晩餐を御会食になる。

吹上御所仕人日誌、 典式録、 儀式録、 宮殿行事録、東宮録、宮内庁庁報、 富田メモ、 卜部亮吾侍従日記

お誕生日に当たり、 宮内庁より皇后の御様子について、 昨六十一年十月に痛められた腰 の筋は

回復されたこと、 御所内では以前の御生活に戻られたこと、 右膝の状態が悪く足を引きずられる感じ

であることなどが発表される。 ○雑件・人事、朝日新聞、サンケイ、 東京新聞、 日本経済新聞、 毎日新聞、

七日 ン 国 インド国を訪問する徳仁親王と御対面になる。 土曜日 午前、 天皇と共に吹上御所において、 来る十日より二十五日までネパール国・ブータ ○女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌

恩賜録 東宮録、 宮内庁庁報 卜部亮吾侍従日記

八日 誌 侍従職日誌 日 曜日 内舎人日誌 祐子内親王の祥月命日につき、 卜部亮吾侍従日記 吹上御所にて静かにお過ごしになる。 女官日誌、 侍従日

順

九日 宮内庁庁報、 贈られる。 催される。 月曜日 卜部亮吾侍従日記 この ○女官日誌、 夕刻、 来訪に際し、 侍従日誌、 天皇が公賓モロ 同国 侍従職日誌、 [皇太子より天皇・皇后に御贈進 ッコ国皇太子シディ・モ 内舎人日誌、 外賓参内録、 モロッコ/ポーランド、 ハメッドと御会見になり、 の品 があり、 皇后には 宮殿行事録、 宮中晩 鹿 外交贈答録 置 餐を

承子女王の初節句につき、 天皇・皇后より憲仁親 主 同妃久子に三種交魚代料を、

承子女王に三

種

交

公

魚代料・

御台人形代料を御贈進になる。

○贈賜録

この日、 宮内庁より、 皇后が将来車椅子をお使いになる場合に備えて造られた特別仕様 0 御料 車 が

○女官日誌、 開される。 水曜日 侍従日誌、 ○雑件・人事、 午前、 天皇と共に、午後一 侍従職日誌、 卜部亮吾侍従日記、 高松宮邸において故宣仁親王の権舎四十日祭の儀が行われるにつき、 内舎人日誌、 時十四分御出門になり、 朝日新聞、 内舎人供奉日誌、 サンケイ、 幸啓録、 東京新聞、 須崎御用邸行幸啓録、 四時四十六分須崎御用邸に行啓される。 日本経済新聞 毎日新聞、 宮内庁庁報、 卜部亮吾侍従日記

内舎人供奉日誌、 行われる。 皇后が権舎に菓子・切り花をお供えになる。 両儀が行われるにつき、 須崎御用邸行幸啓録、 臨時儀式録、 御用邸にてお慎みになる。 宣仁親王殿下御葬儀関係、 また午後には、 行事録 豊島岡墓地において墓所四十日祭の ○女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌

十四日

土曜日

十六日 皇と共に植物を御調査になる。 月 曜 Ė 午前、 天皇と共に三井浜にお出ましになり、 ○女官日誌、 侍従日誌、 内舎人供奉日誌、 植物を御調査になる。 須崎御用邸行幸啓録、 続吹上の季節 二十三日にも天

差し遣わされる。 二十四日 火曜日 また天皇 午前、 故宣仁親王の権舎五十日祭の儀につき、 皇后が権舎に榊 ・菓子をお供えになる。 皇后が侍従樋 午後には、 墓所五 口英昭を高松宮邸に 十日祭の儀に

天皇

卜部亮吾侍従日記

○女官日誌、侍従日誌、 つき、皇后が侍従鈴木武を豊島岡墓地に差し遣わされる。また天皇・皇后が墓所に榊をお供えになる。 侍従職日誌、 内舍人日誌、内舎人供奉日誌、臨時儀式録、宣仁親王殿下御葬儀関係、行事録、宮内庁庁報

卜部亮吾侍従日記

に還啓される。 水曜日 女官日誌、 天皇と共に、 侍従日誌、 午前十時十二分須崎御用邸を御出門になり、午後一時三十一分皇居 侍従職日誌、 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録、 幸啓録、宮内庁庁報

### 四月

富田メモ、卜部亮吾侍従日記

二日 御紋付銀製スプーンを賜う。○恩賜録 木曜日 桃華楽堂においてこの日行われた昭和六十一年度音楽大学卒業生演奏会の出演者十名

ごしになる。 女官日誌、 典式録、 恒例祭祀録、 祭典録、 宮内庁庁報

神武天皇祭につき、吹上御所において御遙拝になる。

終日、

吹上御所にて静かにお過

金曜日

十 一 日 五日 日曜日 土曜日 この日バザーを開催する常磐会に切り花シニロボを賜う。 昭憲皇太后の祥月命日並びに賀陽邦寿の一周年祭につき、吹上御所にてお慎みにな ○贈賜録

る。○女官日誌、

侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、

贈賜録

る三月十三日に日本赤十字社医療センターに入院し、 十五日 水曜日 病気療養中の閑院純仁に対し、天皇・皇后よりお尋ねとして果物を賜う。 一昨十三日に退院した。 ○侍従日誌、 贈賜録、 旧皇族

土曜日 夕刻、 天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた清子内親王と御対面に

なる。 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、内舎人日誌、 贈賜録、 東宮録、宮内庁庁報

日本経済新聞、 は少しずつ外へ出られるようになったこと、 らの質問にお答えになる。 二十一日 女官日誌、 火曜日 一緒にいる時はなるべく皇后のペースに合わせるよう心掛けていることなどをお答えにな 毎日新聞、 侍従日誌、 午後、 読売新聞 侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、 その際に、 天皇が林鳥亭において宮内記者会会員二十七名とお会いになり、 皇后の最近の御様子についての質問に関して、 腰や膝の具合が良くないので車の乗り降りに苦労されて 天皇記者会見、昭和天皇と私達、 朝日新聞、サンケイ、東京新聞 天気の良い 各記者か . 日に

誕生日祝賀の儀・ 会釈を賜う。 太子・同妃・徳仁親王・文仁親王、 般参賀については、 東京新聞 天皇にお祝い 水曜日 天皇誕生日一般参賀への皇后のお出ましは、この年が最後となる。 一般参賀、 日本経済新聞、 天皇誕生日祝賀の儀について、 天皇誕生日、東宮録、宮内庁庁報、 午前十時四十分の二回目のみ、 の品をお贈りになる。 毎日新聞 読売新聞 正仁親王・同妃華子と共に、 〇女官日誌、 官報、 皇后のお出ましはお取りやめとなる。 長和殿ベランダにお出ましになり、 侍従日誌、 ト部亮吾侍従日記、昭和天皇最後の侍従日記、 侍従職日誌、 宮殿東庭に参集した一般参賀者に御 内舎人日誌、 また、 典式録、 天皇誕生日に 天皇誕 天皇及び皇 朝日新聞、 生

### 五月

В 金曜 日 この日より十月三十一 日まで第三十二回 ユニセフ学校募金運動を実施する財団法人日

日

本ユニセフ協会に、金一封を賜う。〇内賜(社会事業関係)、宮内庁庁報

七日 木曜日 午前、 紅葉山御養蚕所にお出ましになり、 御養蚕始の儀を行われる。 ○女官日 誌 侍従職

日誌、内舎人日誌、儀式、卜部亮吾侍従日記、東京新聞

八日 金曜日 午後、 吹上御所において、この日勲二等に叙された侍医長星川光正の拝謁をお受けに

なる。○女官日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報、読売新聞

十三日 地に差し遣わされる。 に差し遣わされる。 水曜日 午前、 また午後には、 女官日誌、 故宣仁親王の権舎百日祭の儀につき、 侍従日誌、 墓所百日祭の儀につき、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 皇后宮使として侍従樋口英昭を豊島岡墓 臨時儀式録、 皇后宮使として侍従鈴木武を高松宮邸 宣仁親王殿下御葬儀関係、 行事録、

十五日 天皇 金曜日 皇后が同国王に祝電をお送りになる。 昨十四日スペイン国国王ホアン・ これに対し六月五日、 カル 口 ス一世の結婚二十五年記念日につき、この 答電がある。 ○外交慶弔録、

庁庁報、官報

内庁庁報、

卜部亮吾侍従日記

日曜日 午前、 貞明皇后例祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 終日、 吹上御所にて

静かにお過ごしになる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

水曜日 この日、 翌二十一 日から二十六日まで日本橋高島屋において開催される財団法人日

本ばら会主催の 「春の日本ばら会展」 に、 吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。

二十三日にも御出品になる。○贈賜録

二十一日 木曜日 午前、 紅葉山御養蚕所にお出ましになる。 御養蚕所主任神戸礼一 郎 の説明をお受

来る二十五日、 けになり、 御給桑になる。ついで野蚕を御覧になる。○女官日誌、侍従職日誌、 千鳥ヶ淵戦没者墓苑において厚生省主催の拝礼式並びに納骨が行われるに当たり、 内舎人日誌、卜部亮吾侍従日記 天

皇・皇后が同省に生花を賜う。○恩賜録、宮内庁庁報

二十二日 金曜日 書陵部委員山岸徳平
東京教育大
この日死去につき、天皇・皇后が祭粢料を賜う。 〇賜

与録、宮内庁庁報

二十三日 土曜日 用明天皇千四百年式年祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 女官日誌、

臨時祭祀録、 祭典録、 宮内庁庁報

二十七日 水曜日 明治神宮会館において開催の昭和六十二年度全国赤十字大会に、御名代として皇

太子妃を差し遣わされ、 次のお言葉を賜う。

本日、

迎えたことを、大変うれしく思います。

昭和六十二年度の全国赤十字大会が盛大に開かれ、

また、

日本赤十字社が創立百十年を

使命を果たしていることは、皆さんの尽力によるものと心から満足に思います。 増進のために大きな力となっておりますが、 赤十字は、国際的な強いきずなのもとに、 人道的事業を推進し、広く世界の人々の平和と福祉 日本赤十字社が国際赤十字の一員として立派にその

日本赤十字社の任務は、 今後ますます重要になっていくものと思いますので、 皆さんが互いに

力を合わせて、 一層力強い活動を進められるよう希望してやみません。

○幸啓録、宮内庁庁報、

官報、

事業年報 (日本赤十字社)

252

#### 六月

侍医長を退職した星川光正の拝謁をお受けになる。 日 月曜日 午後、天皇と共に鳳凰の間において、この日新たに侍医長に任じられた高木顕、 退職につき天皇・皇后から星川に賜品がある。 及び

女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 贈賜録、 賜与録、 宮内庁庁報、 官報、卜部亮吾侍従日記

三日 顕宗天皇千五百年式年祭につき、 吹上御所にて静かにお過ごしになる。 ○女官日誌、

典式

九日 臨時祭祀録、 祭典録、宮内庁庁報

崇仁親王・ 火曜日 同妃百合子と御対面になる。 午前、 天皇と共に吹上御所において、 女官日誌、 侍従日誌、 翌十日より二十日までブルガリア国を訪問する 侍従職日誌、 内舎人日誌、 吹上御所殿部日誌

所仕人日誌、皇親録、贈賜録、宮内庁庁報

十一日 木曜日 午前、 吹上御所において、 初繭搔きをされる。 女官日誌、 内舎人日誌 吹上御所殿部日誌:

吹上御所仕人日誌

職日誌、 同人及び侍従長・侍従・侍医長・女官長・女官と御夕餐を御会食になる。 内舎人日誌、 天皇と共に吹上御所において、去る一日に退職した前侍医長星川光正の拝謁をお受けになった 贈賜録、 · 卜部亮吾侍従日記 ○女官日誌、 侍従日誌、

に還啓される。 ○女官日誌、 水曜日 侍従日誌、 木曜日 女官日誌、 天皇と共に、午後一時十一分御出門になり、四時四十四分須崎御用邸に行啓される。 侍従職日誌、 天皇と共に、 侍従日誌 内舎人日誌、 午前十時十二分須崎御用邸を御出門になり、 侍従職日誌、 内舎人供奉日誌、 内舎人日誌、 幸啓録、 内舎人供奉日誌、幸啓録、 須崎御用邸行幸啓録、 須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報 宮内庁庁報、 午後一 時三十五分皇居 卜部亮吾侍従日記

卜部亮吾侍従日記

院総看護婦長作本シズヰ、元大阪赤十字病院看護副部長早川かつ野院理事の三名にナイチンゲール章記 として皇太子妃を差し遣わされる。元武蔵野赤十字病院看護部長大嶽康子ムトムムホサトータス蔵野ト 東京プリンスホテルにおいて開催の第三十一回フローレンス・ナイチンゲール記章授与式に、 元稲城市立病 御名代

及び記章を授与され、次のお言葉を賜う。

本日ここに、第三十一回フローレンス・ナイチンゲール記章の授与式が行われますことを、大

変うれしく思います。

る献身的努力のたまものであり、誠に喜ばしいことであります。 として最高の名誉であるフローレンス・ナイチンゲール記章を贈られましたことは、長年にわた このたび、大嶽康子、作本シズヰ、早川かつの三名の方々が、赤十字国際委員会から、 看護婦

道に力を尽くされるよう希望してやみません。 受章された方々を始め看護婦の皆さんは、今後も健康に留意され、 博愛と人道のため、

○幸啓録、宮内庁庁報、官報、事業年報(日本赤十字社)、日本赤十字社社史稿

に菓子を賜う。〇女官日誌、侍従日誌、 子に仰せ付けられる。また、霊舎に切り花をお供えになり、さらに、 二十八日 日曜日 朝融王妃知子女王四十年式年祭につき、 侍従職日誌、内舎人日誌、 贈賜録 豊島岡墓地の墓所の御代拝を女官小野慰 お尋ねとして久邇邦昭県、皇后の甥

二十九日 月曜日 午前、 天皇が国賓ポーランド国国家評議会議長ヴォイチェフ・ヤルゼルスキ及び

夫人に花束を御贈進になる。 にはクリスタルガラスのディナーセットが贈られる。 同夫人バルバラ・ヤルゼルスカと御会見になる。この来訪に際し、天皇・皇后より議長に七宝花瓶紫網 外交贈答録、 議長夫人に七宝宝石箱正常を御贈進になる。 、思賜録、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 また議長より天皇 なお、 内舎人日誌、 議長夫妻が入京した際に、 ・皇后に御贈進の品 接待書類、 外賓参内録、 モロッコ/ポーラ 皇后より議長 が あ ŋ, 皇后

の碑竣工・追悼式が行われるに当たり、 来る七月一日、 米国アラスカ州アリューシャン列島アッツ島において、 天皇・皇后が同省に生花を賜う。 厚生省主催の北太平洋戦没者 ○恩賜録、宮内庁庁報

宮内庁庁報、

官報

#### 七月

二日 内舎人日誌、 木曜日 儀式、 午前、 卜部亮吾侍従日記、 紅葉山御養蚕所へお出ましになり、 東京新聞 御養蚕納の儀を行われる。 女官日誌、 侍従職

三日 名に御会釈を賜う。○女官日誌、 金曜日 午前、 天皇と共に宮殿御車寄前において、 侍従日誌、侍従職日誌、 内舎人日誌、 紅葉山御養蚕所主任神戸 賜与録、 卜部亮吾侍従日記 礼二郎及び助

なり、 洋服地織物• 宮中午餐を催される。 月曜日 民芸風の織物が献上される。 この日、 天皇が公賓パキスタン国首相モハマッド・カーン・ジュネジョを御引見に この来訪に際し、 ○女官日誌、 同国首相から天皇 侍従日誌、 侍従職日誌、 皇后へ 内舎人日誌、 献上の品があり、 外賓参内録、 外交贈答録 皇后には

十五日 水曜日 天皇と共に、 午前九時三十九分御出門になり、 午後零時三十八分那須御用邸に行啓 宮殿行事録、外事

(電報含)、宮内庁庁報、

卜部亮吾侍従日記

手四

理事務所事務官日誌、 女官日誌、 宮内庁庁報、 侍従日誌、 富田メモ、 侍従職日誌、 卜部亮吾侍従日記 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 那須御用邸管理事務所日誌、 那須御用邸管

侍従職日誌 木曜日 内舎人日誌 東久邇 内舎人供奉日誌、 成子の祥月命日につき、 那須御用邸管理事務所日誌 御用邸にて静かにお過ごしになる。 那須御用邸管理事務所事務官日誌 女官日誌、

#### 八月

をお受けになる。 日 土曜日 午後、 ○女官日誌 天皇と共に謁見所において、 侍従日誌、 内舎人供奉日誌、 賜与録、 新任の侍従井原好英及び前任の侍従鈴木武 贈賜録、 宮内庁庁報、 卜部亮吾侍従日記 0 拝

天皇 十日 卜部亮吾侍従日記、 総理大臣 従田中直を差し遣わされる。 日には、 皇后が 月曜 .中曽根康弘に生花目録を賜う。 天皇 日 賜物使・ 故岸信介内閣・自由民主党合同葬儀記録、 皇后が日本武道館において執り行われる内閣・自由民主党合同葬儀に葬場使として侍 元内閣総理大臣岸信介去る七日死去につき、 柩前使として侍従卜部亮吾を差し遣わされ、 なお合同葬儀に先立ち、 ○侍従日誌、 サンケイ、 侍従職日誌、 同月十四日に天皇・皇后が合同葬儀委員長内閣 東京新聞、 この日港区の増上寺にて行われる通 恩賜録、 日本経済新聞、 祭粢料及び生花を賜う。 贈賜録、 岸信介葬儀関係綴、 毎日新聞、 宮内庁庁報 九月十七 夜に

を賜い、 通夜に天皇・皇后が賜物使・ を差し遣わされる。また天皇・皇后が柩前に盛花を賜う。 火曜日 別に皇后が果物を賜う。 山階武彦
第一王子
昨十日
死去につき、 柩前使として侍従樋口英昭を差し遣わされ、 また天皇・皇后が山階芳麿の弟に祭資を賜う。 山階邸に天皇・皇后が弔問使として侍従小林忍 十六日には、 豊島岡墓地参集所で行われる 霊前に白羽二重 十七日には、 豊島 岡 菓子

地参集所で行われる葬儀に皇后が葬場使として侍従卜部亮吾を差し遣わされる。 ○侍従日誌、 侍従職日誌

皇親録、贈賜録、墓誌銘録、雑件・人事、卜部亮吾侍従日記、昭和天皇最後の侍従日記

十五日 宮内庁庁報、 天皇はお一方にて昨十四日に皇居に還幸され、 るに当たり、 侍従職日誌、 土曜 卜部亮吾侍従日記 内舎人日誌、内舎人供奉日誌、 日 去る十二日、 全国戦没者追悼式のテレビ中継放送を御覧になり、 天皇・皇后が厚生省に生花を賜う。 幸啓録、 恩賜録、 十八日には再び御用邸に行幸される。 那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌: なお、 黙禱される。 同追悼式に御臨席になるため、 同追悼式が行われ ○女官日誌、 侍従日

#### 九月

日

火曜日

関東大震災の日に当たり、

午前中、

お出ましをお控えになる。〇女官日誌

八日 従職日誌、 用邸では内庭を二、三十分程度散策されることなどが、 と変わらないことをお答えになる。 者からの質問にお答えになる。 火曜日 内舎人供奉日誌、 午前、 那須御用邸管理事務所日誌、天皇記者会見、 天皇が御用邸御車寄前において宮内記者会会員二十七名とお会いになり、 その際に、 なお、 昨七日には、 皇后の御様子について、四月二十一日の記者会への御回答 宮内庁より発表される。 皇后について、 卜部亮吾侍従日記、 体調は安定していること、 朝日新聞、 サンケイ、 女官日誌、 東京新聞、 侍従日誌、 各記 日本 御

議員に崇仁親王と皇太子が、 皇居宮殿の千鳥の間・千種の間において、皇族たる皇室会議の議員及びその予備議員の互選が行われ、 予備議員に正仁親王と故雍仁親王妃勢津子が当選する。 皇后は不在者投

経済新聞、

毎日新聞、

読売新聞

御用邸において、 票を行う旨を八月三十一日に届け出られ、 侍従より互選の結果についての報告をお受けになる。 あらかじめ投票をお済ませになった。 〇内舎人日誌、 正午前、 重要雑録、 天皇と共に

族議員互選録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報、 卜部亮吾侍従日記

九日 舎人日誌、 水曜日 内舎人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、 久邇俔子母の祥月命日につき、 那須御用邸管理事務所事務官日誌、卜部亮吾侍従日記 終日、 御用邸にて静かにお過ごしになる。 女官日誌、

される。 十一日 ○女官日誌、 金曜日 天皇と共に、 侍従日誌、 侍従職日誌、 午前九時十分那須御用邸を御出門になり、 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、 幸啓録、 那須御用邸管理事務所日誌、 午後零時十二分皇居に還啓 那須御用邸管

十四日 月曜日 書陵部委員陵墓管理委員宝月圭吾昨十三日死去につき、天皇・皇后が祭粢料を賜う。

宝月は、 昭和四十八年より書陵部委員を務め、 加えて五十二年より陵墓管理委員を務めた。

理事務所事務官日誌、

宮内庁庁報、

卜部亮吾侍従日記、

吹上の季節

二十一日 月曜日 午前、 光孝天皇千百年式年祭につき、吹上御所において御遙拝になる。 〇女官日誌:

二十三日 水曜日 午前、 秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。

典式録、 恒例祭祀録、 祭典録、 宮内庁庁報 典式録、臨時祭祀録、

祭典録、宮内庁庁報

宮内庁庁報

午後、 なった花の絵が飾り付けられる。 侍従長・女官長により、 昨二十二日より手術のため御入院中の天皇の御病室に皇后がお描きに ○侍従日誌、 卜部亮吾侍従日記、 朝日新聞、 毎日新聞

二十四日 木曜日 この日、皇太子が天皇に代わり、公賓タイ国皇太子ワチラロンコーンと会見を行い、

○賜与録

Royal Highness Crown Prince Maha Vajiralongkorn of Thailand が贈られる。 宮中午餐を催す。この来訪に際し、 東宮職日誌、 典式録、外賓参内録、外交贈答録、恩賜録、 同国皇太子から天皇・皇后に、 宮殿行事録、 東宮録、 宮内庁庁報 陶製壺・同国皇太子の写真集 His ○侍従日誌、 侍従職日誌、

三十日 実施する社会福祉法人中央共同募金会に、 水曜日 翌十月一日より十二月三十一日まで昭和六十二年度国民たすけあい共同募金運 天皇・皇后が事業御奨励のため金 一封を賜う。

#### 十月

業関係)、宮内庁庁報

京新聞、 七日 昭和天皇大喪儀記録、 その際、 二日 日本経済新聞、 水曜日 金曜日 出発の挨拶をお受けになる。○女官日誌、 天皇が皇后の御手を握られる。 午後、 午後、吹上御所において、翌三日より十日まで米国を訪問する皇太子・同妃と御対面 新聞記事、 毎日新聞、 宮内庁病院を退院された天皇を、 報道関係録、 読売新聞 富田メモ、 ○女官日誌、 卜部亮吾侍従日記、 侍従職日誌、内舎人日誌、東宮職日誌、 侍従日誌、 吹上御所御居間前においてお出迎えになる。 続吹上の季節、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 回想の昭和、 贈賜録、 昭和天皇御病情発表記録 朝日新聞 宮内庁庁報

になる。 ○女官日誌、 月曜日 午前、 内舎人日誌、 吹上御所において、 東宮職日誌、 昭和天皇御病情発表記録、 去る十日に米国訪問から帰国した皇太子・同妃と御対 恩賜録 贈賜録

めに宮中午餐を催す。 火曜日 正午前、 この来訪に際し、 皇太子が天皇に代わり、 同国皇太子・同妃より天皇・皇后に御贈進の ノルウェー国皇太子ハラルド及び同妃ソニアのた 品があり、 皇后

には花瓶が贈られる。 ○侍従職日誌、 内舎人日誌、東宮職日誌、外賓参内録、外交贈答録、東宮録、宮内庁庁報、

従日記

十五日 日本ばら会主催の 木曜日 この日、 「秋の日本ばら会展」に、吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。 翌十六日より二十一日まで大阪市阪急百貨店において開催される財団法人

○贈賜録

土曜日 午前、 神嘗祭につき、吹上御所において御遙拝になる。 女官日誌、 典式録、 恒例祭祀録、

祭典録、宮内庁庁報

女官日誌、 火曜日 侍従日誌、 午前、 侍従職日誌、 天皇と共に吹上御所において、 内舎人日誌、 東宮職日誌、 昭和天皇御病情発表記録、 この日誕生日を迎えた皇太子妃と御対面にな 贈賜録、 東宮録、

部亮吾侍従日記

宮職日誌、 が国立沖縄戦没者墓苑を拝礼するに際し、 が翌二十五日まで御名代として皇太子を同妃同伴にて沖縄県に差し遣わされる。 二十四日 幸啓録、 土曜日 宮内庁庁報、 第四十二回国民体育大会秋季大会に御臨場、 官報 天皇 ・皇后が沖縄県に生花を賜う。 併せて地方事情御視察のため、 侍従日誌、 この日午後、 侍従職日誌、 皇太子 天皇

## 十一月

四日 問する徳仁親王と御対面になる。 水曜日 夕刻、 天皇と共に吹上御所において、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 来る六日より十三日までドイツ連邦共和国 内舎人日誌、 恩賜録、 贈賜録、 [を訪

太子・同妃と御対面になり、 水曜日 午前、 天皇と共に吹上御所において、翌十二日より十五日まで沖縄県に行啓する皇 挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、宮内庁庁報

十四日 土曜日 午前、 帰国の挨拶をお受けになる。〇女官日誌、侍従日誌、 天皇と共に吹上御所において、 昨十三日にドイツ連邦共和国から帰国し た徳

内舎人日誌、

恩賜録、

天皇・

・皇后が

関係録、 宮内庁庁報、 続吹上の季節 仁親王と御対面になり、

水曜日 去る二日に東京都済生会中央病院に入院し療養中の鷹司和子に対し、

菓子及びバラ<sup>乾産</sup>を賜う。 ○贈賜録、 富田メモ、卜部亮吾侍従日記、 朝日新聞

## 十二月

三日 木曜日 この日満百歳の誕生日を迎えた東久邇稔彦に対し、 天皇・皇后がお品・万那料・菓子

を賜う。 ○贈賜録、 卜部亮吾侍従日記

ないことが発表される。 翌六十三年一月二十三日の毎日新聞ほか各紙に掲載される。 十一日 金曜日 正午過ぎ、 ○新聞記事、 軽い心臓発作を起こされるも、 富田メモ、ト部亮吾侍従日記、続吹上の季節、 これに対し宮内庁より、 短時間で回復される。なお、このことが 朝日新聞、サンケイ、東京新聞、 現在は御異常の 日本

毎日新聞、 読売新聞

昭和六十二年十二月

十四日 月曜日 夕刻、 天皇と共に吹上御所において、 去る八月に転出した元侍従鈴木武の拝謁をお

受けになる。〇女官日誌、内舎人日誌、贈賜録、卜部亮吾侍従日記

十五日 火曜日 賢所御神楽につき、 終日、 吹上御所にて静かにお過ごしになる。 ○女官日誌、

恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

日常の御生活はきちんとなされていることなどを答弁する。 いろいろな状況がある場合がよくおありになること、日によってはお体が動かない場合があること、 道などについて質問がなされる。 水曜日 この日、 参議院決算委員会において、 これに対し、宮内庁次長山本悟が、 佐藤三吾議員から皇后の健康状態に関する報 ○重要雑録、 皇后は御高齢 国会会議録、 卜部亮吾侍従日記、 このため老人特有の 朝日新

聞、日本経済新聞、毎日新聞

十八日 れぞれ金 金曜日 封を賜う。 日本赤十字社に天皇・皇后が、 また向陽会に皇后が、 歌道御奨励の 財団法人結核予防会に皇后が、 ため金 一封を賜う。 ○恩賜録、 事業御奨励のためそ 内賜

係)、宮内庁庁報、事業年報(日本赤十字社)

二十五日 女官日誌、 金曜日 水曜日 侍従日誌、 午前、 午前、 侍従職日誌、 大正天皇祭につき、吹上御所において御遙拝になる。終日、吹上御所にて 天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた皇太子と御対面にな 内舎人日誌、 東宮職日誌、 典式録、 贈賜録、 東宮録、 宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

静かにお過ごしになる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十九日 火曜日 午前、 吹上御所において、 皇太子・ 同妃より歳末の祝詞言上をお受けになる。

女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

# 昭和六十三年(西暦一九八八年) 八十五歳

#### 月

受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、新年祝賀の儀・一般参 正午前、 日 金曜日 吹上御所において、新年祝賀の儀への参列を終えた皇太子・同妃と御対面になり、祝賀をお この年、皇后は新年祝賀の儀にお出ましにならず、吹上御所においてお過ごしになる。

賀、宮内庁庁報、官報、中村賢二郎関係資料、卜部亮吾侍従日記

いこと、行事にはお出ましになっていないことなどが発表される。○年末年始、朝日新聞、 行等の御動作が難しく女官の介添えが必要であること、最近は御散策はなく吹上御所内の御移動が多 新年を迎えるに当たり、宮内庁より皇后の御様子について、腰・膝の状態が以前よりも悪いため、歩 東京新聞、

新聞、<br />
毎日新聞

王にそれぞれ金員を賜う。○宜仁親王殿下桂宮御創立、宮内庁庁報、 この日、 二十八日に崇仁親王に鮮鯛代料・清酒を、宜仁親王に万那料等を、また翌二十九日に三笠宮・宜仁親 天皇が宜仁親王に、桂、宮の称号を賜う。新宮家創立につき天皇・皇后が、 官報 昨六十二年十二月

侍従日誌、 皇后はこの日の新年一般参賀にはお出ましにならず、吹上御所においてお過ごしになる。 土曜日 侍従職日誌 午前、吹上御所において、 内舎人日誌、 儀式録、宮内庁庁報、官報、 侍従長徳川義寛・侍従次長安楽定信の祝賀をお受けになる。 昭和天皇最後の百十一日、朝日新聞、 サンケイ、読売新聞

例祭祀録、

宮内庁庁報

三日 日 曜 Ħ 午前、 元始祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 女官日誌、 内舎人日誌、 恒

王. 六日 同 水曜日 午前、 天皇と共に吹上御所におい て、 翌七日より十四 内舎人日誌、 日までタイ国を訪問する正仁親

妃華子と御対面になる。 ○女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 吹上御所殿部日誌 吹上御所仕人日誌

皇親録、贈賜録、宮内庁庁報

資を賜う。 十日に岡 十 一 日 山市 月 曜 ○贈賜録、 にお 日 池田宣政党会を表る九日死去につき、 1 新聞記事、 て行われる葬儀に際しては、 卜部亮吾侍従日記 天皇 天皇・ 皇后が 皇后が霊前に果物 霊前に榊 菓子を賜 切り 1 花を賜う。 池 旧隆政 に祭

○女官日誌、 に先立ち昨六十二年十二月に、 十二日 のテレビ中継放送を御覧になる。 火曜 侍従日誌、 白 午 儀式録、 前 歌会始の儀にお出ましにならず、 年末年始、 宮内庁より皇后は同儀に御歌をお出しにならないことが発表される。 この年より、 宮内庁庁報、 官報、 皇 昭和天皇最後の侍従日記 后 の 同 儀 天皇で儀を御欠席し の御歌詠進は行われなくなる。 と共に吹上御 所に なお、 おい てそ 儀

十六日 同妃華子と御対面 土曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、 になる。 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 去る十四日タイ国訪問より帰国した正仁親王・ 内舎人日誌 吹上御所殿部日誌、 吹上御所仕人日誌、 宮内

庁庁報、

毎日新聞

受けになる。 人事・雑件、 月曜 宮内庁庁報、 ○女官日誌 Ħ 午前、 官報、 侍従日誌、 吹上御所において、 卜部亮吾侍従日記 侍従職日誌 内 [舎人日 新任 誌 0 侍従菅原直紀及び前任 吹 上御所殿部日誌、 吹上御所仕人日誌、 の侍従樋 口 典式録、 英昭  $\mathcal{O}$ )拝謁 をお 贈賜

た銀製品や、 り死去まで正倉院懇談会会員を務めた。また、 霊前に切り花を賜う。 正倉院懇談会会員内藤四郎専京芸術大去る十二日死去につき、天皇・皇后が祭粢料を賜う。また、 贈賜録、 皇后の満八十歳のお誕生日に際して宮内庁職員の有志が献上した銀筆筒を制作した。 宮内庁庁報、 内藤は、 卜部亮吾侍従日記 彫金家として御物の修理調査や宮殿造営等に尽力し、 天皇・皇后が皇太子等の銀婚式に際して御贈進にな 昭 和五十三年よ 皇后が

随時、 崇仁親王・同妃百合子と御対面になり、 二十九日 御対面・御会食になる。〇女官日誌、侍従日誌、 金曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、故雍仁親王妃勢津子、故宣仁親王妃喜久子、 寒中の挨拶をお受けになる。 侍従職日誌、内舎人日誌、 以後、 吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌 この年も皇族 御親族と

卜部亮吾侍従日記

なる。 この年は、 天皇と共に吹上御所において、 新聞記事 女官日誌、 九月まで毎週金曜日に行われた定例の参殿を始め、 侍従日誌、 侍従職日誌、 皇太子・同妃・徳仁親王・清子内親王と御夕餐を御会食になる。 内舎人日誌、 吹上御所殿部日誌、 吹上御所仕人日誌、 随時、 皇太子一家と御対面 東宮職日誌 東宮録、 御会食に 行啓・お 以後

三十日 静かにお過ごしになる。 土曜日 午前、 ○女官日誌、 孝明天皇例祭につき、 典式録、 恒例祭祀録、 吹上御所において御遙拝になる。 祭典録、 終日、 吹上御所にて

#### 二月

三日 水曜 日 故宣仁親 王の権舎 周年祭の儀及び墓所 周年祭の儀につき、 天皇が権舎に侍従卜部

れ、 亮吾、 親王の写真に切り花・果物をお供えになる。 拝礼させられる。 墓所に侍従田中直を、 また天皇・皇后が権舎に榊・菓子を、 皇后が権舎に侍従中村賢二郎、 女官日誌、 侍従日誌、侍従職日誌、 墓所に榊をお供えになり、 墓所に侍従小林忍をそれぞれ差し遣わさ 内舎人日誌、 臨時儀式録、 別に皇后が故 宣仁親王

殿下御葬儀関係、新聞記事、宮内庁庁報、続吹上の季節

長福寺・善光寺・霊鑑寺に、 四 В 木曜 日 大聖寺・宝鏡寺 恒例により乾海苔料を賜う。 ・曇華院・ 光照院· 林丘 寺 ○贈賜録 円照寺 中 宮寺 法華寺 = 時 知恩寺

対面 五日 0 年は、 御会食になる。 金曜日 九月まで月に一、二回 午後、 ○女官日誌、 吹上御所において、天皇と共に正仁親王・同妃華子と御対面になる。 程度吹上御所にて行われた御会食を始め、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 吹上御所殿部日誌、 随時、 吹上御所仕人日誌 正仁親王・ 以後、 同 記と御

十九日 侍従日誌、 受けになる。 侍従職日誌、 金曜日 和子は昨六十二年十一月に東京都済生会中央病院に入院し手術を受けていた。 午後、 内舎人日誌、 天皇と共に吹上御所において鷹司和子と御対面になり、 吹上御所殿部日誌、 吹上御所仕人日誌、 新聞記事 お見舞い のお礼をお 女官日誌

二十一日 日 曜 日 午前、 仁孝天皇例祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 ○女官日誌、 典式録、

恒例祭祀録、

祭典録、

宮内庁庁報

なる。 二十三日 女官日誌、 火曜日 侍従日誌、 午前、 侍従職日誌、 天皇と共に吹上御所において、 内舎人日誌、 吹上御所殿部日誌、 この 吹上御所仕人日誌、 日誕生日を迎えた徳仁親 東宮職日誌 贈賜録、 王と御 対面に 宮内庁庁

二十五日 木曜日 憲仁親王妃久子の内着帯につき、 天 皇 ・ 皇后より憲仁親王 同妃に万那料を御贈

進になる。○贈賜録、重要雑録

お受けになる。 二十九日 月曜日 ○女官日誌、 午前、 侍従日誌、 天皇と共に吹上御所において、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 吹上御所殿部日誌、 渡英の挨拶のため参殿した東優子の拝謁を 吹上御所仕人日誌

に切り花及び菓子を賜う。 ○賜与録、 贈賜録、 宮内庁庁報、 卜部亮吾侍従日記

天皇・皇后が祭粢料を賜う。

また別に、

天皇・皇后が霊前

元侍医富家崇雄去る二十七日死去につき、

#### 三月

大学医学部助手内田俊也の拝謁をお受けになる。 — 火曜日 午前、 吹上御所において、 新たに侍従職の技官併任となった。母医長の日勤化に伴い侍医の 女官日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 吹上御所殿部日誌 京

所仕人日誌、人事・雑件、新聞記事、卜部亮吾侍従日記、朝日新聞

宮殿 三日 のお出ましの際にも同様の練習を行われる。 木曜日 午後、 吹上御所御車寄において、車椅子での御移動の練習を行われる。 〇内舎人日誌、吹上御所殿部日誌、 吹上御所仕人日誌 また、 中村賢二 七日の

郎関係資料、卜部亮吾侍従日記

四日 本赤十字社病院・恩賜財団済生会病院の救助収容患者に合わせて手拭い六千六百三本を賜う。 金曜日 この日、 来る六日に満八十五歳のお誕生日を迎えられるに当たり、思召しをもって日 ○贈賜録

事業年報 (日本赤十字社)

五日 に仰せ付けられる。 土曜日 東久邇聡子十年式年祭につき、 また、 天皇・皇后がお尋ねとして東久邇稔彦戦子の 霊舎及び豊島岡墓地の墓所の御代拝を女官久保喜美子 同信彦飛子に菓子を賜う。終日

吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

**六日** 日曜日 満八十五歳のお誕生日を迎えられる。

午前、 御親族の祝賀をお受けになる。 吹上御所において、宮内庁長官始め総代、及び女官長始め女官、 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 続いて皇太子・ 吹上御所殿部日誌、 同妃始め皇族 吹上御所仕人日誌

東宮職日誌、 典式録、 儀式録、 宮殿行事録 東宮録、 宮内庁庁報、 卜部亮吾侍従日記、 昭和天皇最後の侍従日記

○人事・雑件、 歩行が困難であり、 お誕生日に当たり、 いること、皇太子一家や正仁親王・同妃華子との御会食を楽しみにされていることなどが発表される。 新聞記事、 朝日新聞、 女官の介添えが必要であること、大半を吹上御所内で女官をお相手に過ごされて 宮内庁より皇后の御様子について、 サンケイ、 東京新聞、 日本経済新聞、 腰の具合は安定しているが、 毎日新聞、 読売新聞 膝の故障により

七日 皇后が霊前に切り花・菓子を賜う。 月曜日 元侍医小田正暁去る五日死去につき、 ○賜与録、 贈賜録、宮内庁庁報、 天皇 卜部亮吾侍従日記 皇后が祭粢料を賜う。 また別に、 天皇

十日 過ごしになっていることが発表される。 散策されていること、 御様子もなく楽しまれていたことが発表される。 行啓に先立ち宮内庁より、 様子についての発表が毎日行われ、 駅にも皇后はお立ちにならないことが発表される。 木曜日 天皇と共に、 御用邸内では車椅子をお使いになっていないこと、 今回から御移動には車椅子を御使用になり、 午後一 時十二分御出門になり、 皇后に関しては、 女官日誌、 なお、 侍従日誌、 今回の御滞在では、 女官の介添えにより御内庭をお歩きになって また御到着後には、 侍従職日誌、 四時四十四分須崎御用邸に行啓され 内舎人日誌 御料 御散策以外は御用邸内でお 軍にワ 宮内庁より天皇・皇后 御移動に際してお疲れ 内舎人供奉日誌 ゴ ン車を用い ・るこ

吹上御所殿部日誌、 吹上御所仕人日誌、行幸啓・含御名代、 新聞記事、 宮内庁庁報、 中村賢二郎関係資料、 卜部亮吾侍従日記

別に、 宮内庁御用掛として、 天皇・ 月曜 皇后が霊前に切り花・菓子を賜い、 日 宮内庁御用掛斉藤文次郎去る十一日死去につき、 宮中招宴の料理及び天皇・皇后のお食事に関わった。 さらに御紋付銀盃を賜う。 天皇・皇后が祭粢料を賜う。 ○賜与録、 斉藤は昭和五十一年より 贈賜録、 また

新聞記事、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

花・菓子を賜う。

○賜与録、

贈賜録、

人事・雑件、

新聞記事、

宮内庁庁報

元侍医西川一郎この日死去につき、 天皇・皇后が祭粢料を賜う。 また別に、 天皇・皇后が霊前

啓される。 金曜日 女官日誌、 天皇と共に、 侍従日誌、 侍従職日誌、 午前十時九分須崎御用邸を御出門になり、 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、幸啓録、 吹上御所殿部日誌 午後一 時二十七分皇居に還 吹上御所仕人日誌

行幸啓・含御名代、

新聞記事、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

の御訪米の際に随員を務めた。 遣わされ、 元式部官長湯川盛夫去る十六日死去につき、 祭粢料を賜う。 また別に、 ○侍従日誌、 天皇・皇后が霊前に切り花 、賜与録、 天皇・皇后が賜物使として侍従菅原直紀を湯川 贈賜録、 人事・雑件、 新聞記事、宮内庁庁報 菓子を賜う。 湯川は、 昭和五十年 , 邸に差し

二十日 恒例祭祀録、 日 曜日 祭典録、 午前、 宮内庁庁報 春季皇霊祭及び同神殿祭につき、吹上御所において御遙拝になる。 女官日誌

この れ御贈進になる。 天皇・皇后より皇太子・同妃に五種交魚代料を、 日徳仁親王が学習院大学大学院博士前期課程を修了、 ○東宮職日誌: 贈賜録、 東宮録、 行啓・お成り 徳仁親王・文仁親王に万那料・お品料をそれぞ 及び文仁親王が学習院大学を卒業するにつ

に万那料 火曜日 お品料を御贈進になる。 この日清子内親王が学習院女子高等科を卒業するにつき、 ○東宮職日誌、 贈賜録、 東宮録、 行啓・お成り 天皇・皇后より内親王

を賜う。 二十八日 佐々木は 月曜日 昭和二十年代より正倉院裂の調査に従事し、 元正倉院懇談会会員佐々木信三郎去る二十四日死去につき、 五十年より六十一年まで正倉院懇談 天 皇 • 皇后が祭粢料

会会員を務めた。

○賜与録、

宮内庁庁報

修了した徳仁親王、 三十一日 卜部亮吾侍従日記 面になる。 女官日誌: 木曜日 学習院大学を卒業した文仁親王、学習院女子高等科を卒業した清子内親王と御対 正午前、 侍従日誌、 天皇と共に吹上御所において、この度学習院大学大学院博士前期課程を 侍従職日誌、 内舎人日誌、 吹上御所殿部日誌、 吹上御所仕人日誌、 東宮職日誌、 宮内庁庁報

#### 四月

三日 祭典録、 日 曜日 宮内庁庁報、 午前、 続吹上の季節 神武天皇祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 女官日誌、 典式録、 恒例祭祀

八日 五. <sub>大学</sub> 卒業生演奏会の出演者十六名 <sup>野学園</sup>卒業生演奏会の出演者十六名 四 В 種交魚代料を、 月曜日 罐日 この 桃華楽堂においてこの日行われた昭和六十二年度都内音楽大学蔵野音楽大学、桃華楽堂においてこの日行われた昭和六十二年度都内音楽大学東京芸術大学、 清子内親王に万那料 É 清子内親王の学習院大学文学部進学につき、 御紋付銀製スプーンを賜う。 お品料をそれぞれ御贈進になる。 ○賜与録 天皇 • ○贈賜録、 情報公開資料、 皇后より皇太子・ 東宮録、 、国立音楽大学、桐朋学園大学、 卜部亮吾侍従日記 行啓・お成り 同妃に 上武

九日 土曜日 この日バザーを開催する常磐会に切り花ンニ듑ギを賜う。 ○贈賜録

十三日 水曜日 午前、 天皇と共に鳳凰の間において、 新任の侍従長山本悟前宮内 前任 の侍従長徳

義寛、 新任の宮内庁次長藤森昭一の拝謁をお受けになる。 またこの日退職する徳川四月二十六日侍に 天

宮内庁庁報、 官報、中村賢二郎関係資料、 ト部亮吾侍従日記

皇・皇后が御紋付銀花瓶等を賜う。

女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、賜与録、

贈賜録、

人事・

Ш

十五日 夫人ソニアと御接見になる。この接見に際し、首相夫妻より天皇・皇后に細密画が献上される。 金曜日 午後、 東宮御所において、皇太子・同妃がインド国首相ラジーブ・ガンジー 及び同

御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、東宮職日誌、 外交贈答録、 宮内庁庁報

水曜日 午前、 天皇が公賓ヨルダン国皇太子ハッサン・ビン・タラール及び同妃サルワトと

で一対が贈られる。小二枚が贈られる。 御会見になる。 この来訪に際し、 同国皇太子より天皇・皇后に御贈進の品があり、 皇后には丸鏡銀模様

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、外賓参内録、ベ

ネズエラ/ヨルダン、外交贈答録、 宮内庁庁報、 ト部亮吾侍従日記、続吹上の季節

内舎人日誌、天皇記者会見、卜部亮吾侍従日記、 があるため、 にお答えになる。 二十五日 月曜日 歩くには女官の介添えが必要であることをお答えになる。 その際、 午後、 皇后の御体調についての質問があり、 天皇が林鳥亭において宮内記者会会員とお会いになり、 吹上の季節、 昭和天皇と私達 腰の痛みは安定したがまだ膝の故障 ○女官日誌、 侍従日誌、 各記者からの質問 侍従職日誌

二十九日 金曜日 天皇誕生日につき、 天皇と共に吹上御所において、 御昼餐のお祝御膳をお召し上

お、 がりになる。 天皇誕生日に当たり、 この年、 皇后は天皇誕生日祝賀の儀及び一般参賀へのお出ましをお取りやめになる。 天皇にお祝いの品をお贈りになる。 ○女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 な

典式録、儀式録、天皇誕生日、卜部亮吾侍従日記、サンケイ、読売新聞

お受けになる。 土曜日 女官日誌、 午前、 吹上御所において、 侍従日誌、 内舎人日誌、 吹上御所殿部日誌、 侍従長・侍従次長より昨二十九日の天皇誕生日の祝賀を 吹上御所仕人日誌、 卜部亮吾侍従日記

#### 五月

月曜日 去る一日より十月三十一日まで第三十三回ユニセフ学校募金運動を実施する財団 法人人

日本ユニセフ協会に、金一封を賜う。〇内賜録、宮内庁庁報

日誌、 六日 内舎人日誌、 金曜日 吹上御所殿部日誌、 午前、 紅葉山御養蚕所にお出ましになり、 吹上御所仕人日誌、 情報公開資料、 新聞記事、 御養蚕始の儀を行われる。 富田メモ、 卜部亮吾侍従日記 女官日誌、 侍従職

九日 月曜日 去る三日から四日にかけての九州地方における集中豪雨により甚大な被害を受けた熊

本県に対し、天皇・皇后がお見舞金を賜う。〇内賜録、宮内庁庁報

火曜日

午前、

貞明皇后例祭につき、吹上御所において御遙拝になる。終日、吹上御所にて

静かにお過ごしになる。 ○女官日誌、典式録、 恒例祭祀録、 祭典録、 宮内庁庁報

れるに当たり、天皇・皇后が同省に生花を賜う。 水曜日 来る二十三日、 千鳥ヶ淵戦没者墓苑において厚生省主催の拝礼式並びに納骨が行わ 賜与録、 宮内庁庁報

この日、 翌十九日から二十四日まで日本橋高島屋において開催される財団法人日本ばら会主催の 春

の日本ばら会展」に、吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。二十一日・二十三日

二十日 金曜日 午前、 紅葉山御養蚕所にお出ましになり、 御給桑になる。〇女官日誌、 侍従職日誌、 内舎

人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、卜部亮吾侍従日記

にも御出品になる。○贈賜録、情報公開資料

火曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、侍従職参与前侍徳川義寛の拝謁をお受けにな

る。その際天皇・皇后それぞれから賜品がある。○侍従日誌、内舎人日誌、吹上御所殿部日誌

吹上御所仕人日誌

贈賜録、卜部亮吾侍従日記

水曜日 明治神宮会館において開催の昭和六十三年度全国赤十字大会に、御名代として皇

太子妃を差し遣わされ、次のお言葉を賜う。 本日ここに、昭和六十三年度全国赤十字大会が盛大に開かれたことを大変うれしく思います。

おりますが、日本赤十字社が、国際的な強いきずなのもとに、国の内外において立派にその使命 赤十字は、人道的事業を推進し、広く世界の人々の平和と福祉増進のために大きな力となって

を果たしていることは、皆さんの尽力によるものと心から満足に思います。

互いに力を合わせて、一層力強い活動を進められるよう希望してやみません。 日本赤十字社の役割は、これからもますます重要になっていくものと思いますので、皆さんが

侍従職日誌、 なお、皇太子妃は大会への臨席を終えた後、吹上御所において女官長を通じて復命を行う。 内舎人日誌、 吹上御所殿部日誌、 吹上御所仕人日誌、幸啓録、行幸啓・含御名代、宮内庁庁報、官報、事業年報(日本 女官日誌

日誌、 知県主催の高知学芸高校上海列車事故セの教諭・生徒九十余人が死傷する合同慰霊式が営まれるに当たり、天皇知県主催の高知学芸高校上海列車事故歩る三月二十四日上海にて発生、同合同慰霊式が営まれるに当たり、天皇 来る二十九日、 より天皇・ 及び同夫人ライカを御引見になり、 二十七日 内舎人日誌、 金曜日 皇后に献上の品があり、 吹上御所殿部日誌、 高知県民体育館において、学校法人高知学芸高等学校・同校後援会・同校同窓会・高 正午前、 天皇が公賓ユーゴスラビア国連邦執行評議会議長ブランコ・ミクリッチ 吹上御所仕人日誌、東宮職日誌、 続いて宮中午餐を催される宮中午餐は天皇に代。 皇后にはテーブルクロスが献上される。 外賓参内録、外交贈答録、 賜与録、 女官日誌、 この来訪に際 宮内庁庁報 侍従日誌 侍従職 議長

日誌、 三十一日 菓子を賜い、 六月二日には天皇・皇后が正田英三郎に祭資を賜う。四日の葬儀に際しては、 二十九日 東宮職日誌、 日曜日 火曜日 また葬場使として侍従卜部亮吾を港区の青山葬儀所に差し遣わされる。 贈賜録、 正田富美子皇太子昨二十八日死去につき、天皇・皇后が霊前に切り花・果物を賜う。 憲仁親王妃久子の着帯につき、天皇・皇后より憲仁親王・同妃に万那料を御贈進 外事取決め・内規、 皇族御身分録、宮内庁庁報、 富田朝彦文書、卜部亮吾侍従日記 天皇・皇后が霊前に榊・ ○侍従日誌、 侍従職

皇后が生花を賜う。

○内賜録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

#### 六 月

になる。

○贈賜録

重要雑録

八日 幸に際して、 水曜日 天皇・皇后が宣仁親王墓に盛花・菓子をお供えになる。○女官日誌、 午前、 天皇お一方にて豊島岡墓地へ行幸され、 同所の宣仁親王墓を御拝礼になる。 侍従日誌、 侍従職日誌、 行 内

舎人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、臨時祭祀録、行幸啓録、贈賜録、宮内庁庁報

十日 金曜日 午前、 吹上御所において初繭搔きを行われる。 〇内舎人日誌、 吹上御所殿部日誌、 吹上御所仕人

日誌、

卜部亮吾侍従日記

十四四 内庁長官を務めた。 田七月八日参と、 内庁長官富田朝彦、 百 火曜日 宮内庁庁報、 天皇・皇后より賜品がある。 午後、 ○女官日誌、 並びに新任の宮内庁次長宮尾盤の拝謁をお受けになる。 官報、 天皇と共に鳳凰の間において、 卜部亮吾侍従日記 侍従日誌、 侍従職日誌、 富田は、 内舎人日誌、 昭和四十九年より宮内庁次長を、 新任の宮内庁長官藤森昭 吹上御所殿部日誌、 吹上御所仕人日誌、典式録、 なお、 庁次長及び前 この日退職する富 五十三年より宮 任 0 宮

十六日 名代、 女官日誌、 新聞記事、 木曜 侍従日誌、 宮内庁庁報、 日 天皇と共に、 侍従職日誌、 中村賢二郎関係資料、 内舎人日誌、 午後一時四分御出門になり、 内舎人供奉日誌、吹上御所殿部日誌、 卜部亮吾侍従日記 四時四十二分須崎御用邸に行啓される。 吹上御所仕人日誌、幸啓録、行幸啓・含御

十八日 が戸 墓地参集所に差し遣わされる。 が神饌を、 日には天皇 ,田華子 m妹に祭資を賜う。 翌十九日には弔問使として侍従菅原直紀を神奈川県小田原市の閑院邸に差し遣わされる。二十四 土曜 皇后が果物を、 Ħ 皇后が賜物使・ 界院純仁 二年皇籍離脱して閑院姓を名乗る この日死去につき、 閑院純仁 元関院宮当主、旧名春仁、昭和二十この日死去につき、 また天皇・皇后が白羽二重・榊 柩前使として侍従中村賢二郎を豊島岡墓地参集所に差し遣わされ、 二十五日の葬儀に際しては、 ○侍従日誌、 侍従職日誌、 墓誌銘録、 皇后が葬場使として侍従卜部亮吾を豊島岡 ・菓子をお供えになる。 贈賜録、 人事・雑件、 天皇・ 中村賢二郎関係資料、 皇后が霊前に盛花 また、 天皇・皇后 天皇 を賜

侍従日記

庁庁報

還啓される。 二十三日 木曜日 ○女官日誌、侍従日誌、 天皇と共に、 侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、 午前十時九分須崎御用邸を御出門になり、 幸啓録、行幸啓・含御名代、新聞記事、 午後一時二十五分皇居に

侍従日誌、 進になる。 輪が贈られる。 と御会見になる。この来訪に際し、 侍従日誌、内舎人日誌、吹上御所殿部日誌、 る。その際、 二十八日 侍従職日誌、 火曜日 なお、 水曜日 富田に天皇・皇后より金員の、天皇及び皇后それぞれよりお品の下賜がある。 また、天皇・皇后より大統領に九谷焼飾皿五彩小紋文様を、 大統領夫妻の入京に際し、 内舎人日誌、 午前、 午後、 天皇と共に吹上御所において、 天皇が国賓セネガル国大統領アブドゥ・ディウフ及び同夫人エリザベート 吹上御所殿部日誌、 吹上御所仕人日誌、贈賜録、中村賢二郎関係資料、卜部亮吾侍従日記、富田朝彦文書 大統領夫妻より天皇・皇后に御贈進の品があり、 吹上御所仕人日誌、 皇后より大統領夫人に花束を御贈進になる。 前宮内庁長官富田朝彦の拝謁をお受けにな 接待書類、 セネガル/ジンバブエ、外賓参内録、 同夫人に銀製宝石箱花を御贈 皇后には金製腕 ○女官日誌: ○女官日誌:

贈答録、賜与録、宮内庁庁報、官報

#### 七月

四日 内舎人日誌 月曜日 吹上御所殿部日誌、 午前、 紅葉山御養蚕所にお出ましになり、 吹上御所仕人日誌、 儀式録、 卜部亮吾侍従日記 御養蚕納の儀を行われる。 女官日誌、 侍従職

五日 火曜日 午前、 天皇と共に宮殿御車寄前において、 紅葉山御養蚕所主任神戸礼二郎及び助手四

名に御会釈を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、卜部亮吾侍従

日記、 紅葉山御養蚕所八十年記念誌

十九日 火曜日 去る七月十三日から十五日にかけての大雨により甚大な被害を受けた島根県に対

し、天皇・皇后がお見舞金を賜う。 ○内賜録、宮内庁庁報

二十日 水曜日 天皇と共に、 午前九時三十七分御出門になり、午後零時三十七分那須御用邸に行啓

される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、吹上御所殿部日誌、 吹上御所仕人日誌、幸啓録、

須御用邸管理事務所日誌、 那須御用邸管理事務所事務官日誌、地方行幸啓、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

二十二日 金曜日 憲仁親王妃久子第二王女出産につき、天皇・皇后より崇仁親王・同妃百合子にそ

れぞれ三種交魚代料を、また憲仁親王・同妃に三種交魚代料を御贈進になる。この日誕生した王女は 二十八日に典子と命名される。命名の儀当日に、天皇・皇后より憲仁親王・同妃に鮮鯛代料を、また

典子女王に鮮鯛代料を御贈進になる。 ○贈賜録、重要雑録、宮内庁庁報、

二十三日 土曜日 東久邇成子の祥月命日につき、御用邸にてお慎みになる。

女官目誌、侍従日誌、

職日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、 那須御用邸管理事務所事務官日誌、典式録、卜部亮吾侍従日記

三十日 土曜日 午前、 明治天皇例祭につき、御用邸において御遙拝になる。○女官□誌、典式録、 恒例祭

宮内庁庁報

## 八月

六日 土曜日 広島原爆の日につき、 御用邸において静かにお過ごしになる。 女官日誌、

事務所日誌、 那須御用邸管理事務所事務官日誌

この度英国オックスフォード大学大学院動物学科において修学するため翌七日に出発する文仁親王に

対し、 天皇・皇后より万那料等を御贈進になる。 ○贈賜録、 賢所諸件

九日 火曜 Ħ 長崎原爆の日につき、 御用邸において静かにお過ごしになる。 女官日誌、 那須御用邸管理

事務所日誌、 那須御用邸管理事務所事務官日誌

十日 水曜日 山階武彦の一周年祭につき、 午後、 祭典の時刻に合わせてお慎みになる。 ○女官日誌、 侍

従日誌、 侍従職日誌 贈賜録 卜部亮吾侍従日記

木曜 日 北白川 房子の祥月命日につき、 御用邸において静かにお過ごしになる。 ○女官日 誌

須御用邸管理事務所事務官日誌, 卜部亮吾侍従日記

午後、 宮内庁より御用邸での天皇・皇后の御様子について、 皇后は数回内庭を散歩されたこと、 屋内

では廊下を行き来する御運動を行われていることなどが発表される。 ○地方行幸啓

十五日 再び御用邸に行幸される。 月曜日 同 **.追悼式に御臨席になるため、** 全国戦没者追悼式が行われるに当たり、 天皇はお一方にて去る十三日に皇居に還幸され、 去る五日、 天皇・皇后が厚生省に生花を賜 幸啓録、 十八日に

含御名代、 那須御用邸管理事務所日誌、 那須御用邸管理事務所事務官日誌、 宮内庁庁報、 官報、 卜部亮吾侍従日記

○女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、

内舎人日誌、内舎人供奉日誌、

賜与録、

十九日 に賜う。 松平は皇后の従兄御母の姉先に当たり、 金曜 Ħ 元東宮職出仕松平直国去る十七日死去につき、 また天皇の御学友にも選ばれ、 天皇が菓子を、 大正三年から十年までは 皇后が 2切り花 を霊

東宮職出仕を務めた。 ○贈賜録、 卜部亮吾侍従日記

那

社主催により営まれるに当たり、 水艦なだしおと釣船第一富士丸の衝突事故による犠牲者の合同慰霊式が、 二十三日 火曜日 翌二十四日に青山葬儀所において、去る七月二十三日に発生した海上自衛隊の潜 天皇・皇后が生花を賜う。 ○内賜録、祭粢料・宣旨・宮家御動静、 政府及び伊藤忠商事株式会 宮内庁庁報

菓子を賜う。 元侍従岡本愛祐この日死去につき、天皇・皇后が祭粢料を賜う。また別に天皇・皇后が霊前に切り花・ 岡本は、 昭和元年に侍従に任じられ、 同二年から九年まで皇后宮事務官兼侍従を務めた。

○賜与録、

贈賜録、祭粢料・宣旨・宮家御動静、

宮内庁庁報、

卜部亮吾侍従日記

卜部亮吾侍従日記

賜う。 ピック競技大会に日本選手団が参加するに当たり、 三十一日 ○賜与録、 水曜日 宮内庁庁報 来る九月十七日より大韓民国ソウル特別市を中心に開催される第二十四回 天皇・皇后が財団法人日本体育協会に御奨励金を [オリン

#### 九月

中村賢一 御車寄前で宮内記者会会員の質問に応じられた際にも、 皇后は滞在中しばしば御散策され様子もお変わりないことなどが発表される。 日 一郎関係資料、 木曜日 この日、 卜部亮吾侍従日記、 宮内庁より那須御用邸滞在中の天皇・皇后の御様子についての発表があり、 産経新聞、 読売新聞 同趣旨の御回答がある。 翌二日に天皇が御用邸 ○侍従日誌、 、天皇記者会見

れる。 八日 女官日誌、 木曜日 天皇と共に、午前九時八分那須御用邸を御出門になり、 侍従日誌、 侍従職日誌、 内舎人日誌、 内舎人供奉日誌、 吹上御所殿部日誌 午後零時十一分皇居に還啓さ 吹上御所仕人日誌、 那須

御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、地方行幸啓、宮内庁庁報

九日 金曜日 久邇俔子母の祥月命日につき、 終日、 吹上御所にて静かにお過ごしになる。 女官日誌

侍従日誌、侍従職日誌、吹上御所仕人日誌、典式録

親王・ の間において憲仁親王・同妃久子・典子女王と御対面になる。 同妃に三種交魚代料を、典子女王に万那料・友禅を御贈進になる。 金曜日 午前、 去る七月二十二日に誕生した典子女王の初参内につき、 初参内に当たり、 ○女官日誌、 天皇お一方にて鳳凰 天皇・皇后より憲仁 侍従日誌、侍従職日誌

十九日 降天皇は同所で医療処置をお受けになる。 いになる。 月曜日 ○侍従日誌、 この日の午後十時前、 内舎人日誌、 当直日誌、 吹上御所の御床に就かれていた天皇に大量の吐血がある。 昭和天皇御病情発表記録、 皇后は二十一日以降、 昭和天皇大喪儀記録、 頻繁に同所の御寝室に天皇をお見舞 卜部亮吾侍従日記、 続吹上の 以

二十三日 金曜日 午前、 秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 ○女官日

季節、

朝日新聞、

毎日新聞、

読売新聞

典式録、

恒例祭祀録、

祭典録、

宮内庁庁報

内舎人日誌、

贈賜録

厚子、 御親族等としばしば御対面になる。 二十五日 島津久永 日 曜日 同 午前、 上夫人貴子・同子息禎久と御対面になる。 吹上御所において、 女官日誌、 侍従日誌、 天皇のお見舞いを終えた鷹司和子、 侍従職日誌、 以後、 内舎人日誌、 天皇のお見舞い 吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人 に参殿した皇族・ 池田隆政・ 同夫人

水曜日 天皇の御平癒祈願のため、 皇后・皇太子が御使として侍従職御用掛兼東宮職 御用

卜部亮吾侍従日記

昭和六十三年十月

掛香川朝男が異を皇大神宮並びに豊受大神宮に差し遣わされる。 ○侍従職日誌、内舎人日誌、 東宮職日誌、

録、朝日新聞、東京新聞、毎日新聞、読売新聞、瑞垣

実施する社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后が事業御奨励のため金一封を賜う。 金曜日 翌十月一日より十二月三十一日まで昭和六十三年度国民たすけあい共同募金運 ○内賜録、 動を

### 十月

料・宣旨・宮家御動静、宮内庁庁報

十七日 月曜日 午前 神嘗祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録

宗典録、宮内庁庁報

職御用掛岩波輝俊典を皇大神宮並びに豊受大神宮に差し遣わされる。 火曜日 天皇の御平癒祈願のため、 皇后及び皇太子・同妃が御使として侍従職御 ○侍従職日誌、 内舎人日誌、 用掛 兼東宮

件、贈賜録、卜部亮吾侍従日記、瑞垣

対面になり、この日誕生日を迎えた皇太子妃より挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、 木曜日 午前、 吹上御所において、天皇のお見舞いを終えた皇太子・同妃・清子内親王と御 侍従職日誌

内舎人日誌、吹上御所殿部日誌、 吹上御所仕人日誌、東宮職日誌、中村賢二郎関係資料、卜部亮吾侍従日記

侍従日記、昭和天皇最後の百十一日、産経新聞、東京新聞、読売新聞 設けられた十三夜のお供えを御覧になる。 日曜日 この日十三夜につき、 夜間、 〇内舎人日誌: 天皇と共に吹上御所の御寝室において、ベランダに 吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、 富田メモ、

する書簡を発せられる。また別に、十一月二十七日にも国王・同妃より花束の 御病気につき皇后を慰労する旨の書簡ニト型並びに盛花に対し、この日、 二十九日 日に同じく謝意を表する書簡を発せられる。 土曜日 先般タイ国王ラーマ九世ンヤデート 外交贈答録、 及び同妃シリキットより寄せられた、 東京新聞 皇后が国王・ 御贈進があり、 同妃に謝意を表 十二月 天皇

# 十一月

録

贈賜録、

人事·雑件、宮内庁庁報、

卜部亮吾侍従日記

八日 火曜日 昨七日高木邦子百合子の母死去につき、 天皇・皇后が霊前に切り花・菓子を賜う。 ○皇親

十七日 合同葬儀関係、 十九年から五十一年までは内閣総理大臣を務めた。 霊前に生花を賜う。三木は昭和十二年の衆議院議員総選挙において初当選後、 て行われる衆議院 て侍従小林忍を港区の増上寺に差し遣わされ、 卜部亮吾侍従日記 木曜日 祭粢料· 元内閣総理大臣三木武夫去る十四日死去につき、天皇・皇后が賜物使兼柩前 ・内閣合同葬儀には、 宣旨・宮家御動静、 贈賜録、 天皇・皇后が葬場使として侍従中村賢二郎を差し遣わされ、 宮内庁庁報、 祭粢料・生花を賜う。十二月五日に日本武道館におい 官報、 ○侍従日誌、侍従職日誌、 中村賢二郎関係資料、 内舎人日誌、故三木武夫衆議院・内閣 故三木武夫衆議院・内閣合同葬儀記 国務大臣を歴任し、 使とし 兀

二十日 天皇・皇后が崇仁親王・同妃百合子、宜仁親王に菓子を御贈進になる。また翌二十一日には、天皇 日曜日 この日、 去る五月より都立広尾病院に入院していた宜仁親王が退院するに当たり、

皇后が宜仁親王に金員を御贈進になる。○皇親録、贈賜録、人事・嫌

五十八年より死去まで御所離宮懇談会委員を務めた。 藤岡は、 二十一日 建築史の研究者として知られ、 月曜日 御所離宮懇談会委員藤岡通夫去る十九日死去につき、天皇・皇后が祭粢料を賜う。 昭和五十年より五十六年まで桂離宮整備懇談会委員を、 ○賜与録、宮内庁庁報、建築史学

になる。その際、 二十八日 吹上御所殿部日誌 月曜日 この日誕生日の正仁親王よりお礼をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、 午前、 吹上御所仕人日誌、 吹上御所において、天皇のお見舞いを終えた正仁親王・同妃華子と御 贈賜録、 卜部亮吾侍従日記 侍従職日誌、

## 十二月

七日 御用掛園池美作⇔を皇大神宮並びに豊受大神宮に差し遣わされる。○侍従職日誌、内舎人日誌、 水曜日 天皇の御平癒祈願のため、 皇后及び皇太子・同妃が御使として侍従職御用掛兼東宮職 東宮職日誌、

宮及神社諸件、贈賜録、瑞垣、東京新聞

報、事業年報(日本赤十字社)

月曜日 封を賜う。 日本赤十字社に天皇・皇后が、 また向陽会に皇后が、 歌道御奨励のため金一封を賜う。 財団法人結核予防会に皇后が、 ○内賜録、 事業御奨励のためそ 賜与録、 宮内庁庁

昭和五十八年より死去まで御所離宮懇談会委員を務めた。 は、庭園史の研究者及び作庭家として知られ、昭和五十年より五十六年まで桂離宮整備懇談会委員を、 金曜日 御所離宮懇談会委員森蘊去る十四日死去につき、天皇・皇后より祭粢料を賜う。 ○賜与録、 宮内庁庁報、 建築史学、 昭和の作庭記

その際、 になる。 皇太子よりお礼をお受けになる。〇女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、吹上御所殿部日誌、 その後同所において、 金曜日 午前、 皇太子誕生日につき、吹上御所において総代として侍従長の祝賀をお受け 天皇のお見舞いを終えた皇太子・同妃・清子内親王と御対面になる。

御所仕人日誌、東宮職日誌、贈賜録、中村賢二郎関係資料、卜部亮吾侍従日記

二十五日 日曜日 午前、 大正天皇祭につき、 吹上御所において御遙拝になる。 ○女官日誌、

祭祀録、

祭典録、

宮内庁庁報

等を御贈進になる。 二十六日 月曜日 ○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、 この日喜寿を迎えた故宣仁親王妃喜久子に、 天皇・皇后が洋服地養産所産 贈賜録、 万那料

二十八日 記 水曜日 今月より東京都済生会中央病院に入院中の鷹司和子に、 天皇・皇后がお見舞

して盛花を賜う。

○贈賜録、

新聞記事、

産経新聞、

東京新聞

日誌、 政 けになる。 二十九日 同夫人厚子と御対面になり、 歳末の祝詞言上をお受けになる。 吹上御所殿部日誌、 その後、 木曜日 吹上御所仕人日誌、 天皇のお見舞いを終えた故雍仁親王妃勢津子・故宣仁親王妃喜久子と御対面にな 午前、 吹上御所において、侍従長・侍従次長・女官長より歳末の祝詞言上をお受 歳末の祝詞言上をお受けになる。 典式録、卜部亮吾侍従日記 午後にも同所において、 同じく天皇のお見舞いを終えた池田隆 女官日誌、 侍従日誌、 侍従職日誌

仁親王・清子内親王と御対面になり、 三十一日 土曜日 午前、 吹上御所において、天皇のお見舞いを終えた皇太子・ 歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官日誌 · 同妃· 侍従日誌、 徳仁親王・文